

Ⅱ. 「SIH 道場～アクティブ・ラーニング 入門～」の取組

1. 令和元年度「SIH 道場～アクティブ・ラーニング入門～」の実施

1) SIH 道場の概要

SIH 道場は、徳島大学の1年次学生全員が前期に受講する初年次教育科目であり、各学部・学科で設計したアクティブ・ラーニングの手法を導入した授業において、学生は(1)専門分野の早期体験、(2)ラーニングスキルの習得、(3)学習の振り返りを行う。教員は本授業の担当を通して、アクティブ・ラーニングの手法を学び、授業実践の省察を行う。令和元年度 SIH 道場においては、学部1年生1320名が受講し、256名の教員が授業を担当した。

SIH 道場の授業設計は各学部・学科単位で行い、「授業設計コーディネーター」が責任を担う。授業設計コーディネーターは、(1)専門分野の早期体験、(2)ラーニングスキル(文章力・プレゼンテーション力・協働力)の習得、(3)学習の振り返りのSIH 道場の三つの必須要素を組み込んだ授業を設計する。

授業の概要

SIH道場

～アクティブ・ラーニング型初年次科目～

SIH道場とは、**徳島大学の1年次**全員が前期に受講する初年次教育科目で、**①専門分野の早期体験、②ラーニングスキルの習得、③学習の振り返り等の主体的な学習習慣を身につける**ことを主な目的としています。授業内容は、各学部の事情に合わせて授業を設計し、学部教員が授業を担当します。

キーワード：専門分野の早期体験、アクティブ・ラーニングスキルの獲得、eポートフォリオによる学習の振り返り

◆授業の設計手順

授業は、**各学部・学科の事情に合わせて、個別に設計**を行います。授業設計の責任者は、「授業設計コーディネーター」であり、その選出や当該学部の状況把握等は専門委員会委員が行います。また、授業設計においては、**総合教育センター教育改革推進部門教員とコンテンツ作成ワーキンググループ**のメンバーが、**設計のための支援**を行います。

授業内容は、各学部・学科の専門に即して個別に計画されますが、上記の目的を踏まえること、学生がアクティブ・ラーニング型授業を体験し、自らの学習経験を振り返ることを通じて、学習の計画や実施をしていくための能動的学習の基礎を身につけるような要素を盛り込みます。そのために、**下記の内容を必須項目として実施します。**

- ①**専門分野の早期体験**
→先端研究、現場体験、臨床体験、先輩からのメッセージ等
- ②**ラーニングスキルの習得(反転授業・グループワーク等の実施)**
→文章力・プレゼンテーション力・協働力
- ③**学習の振り返り(eポートフォリオによる省察)**
→学習内容の省察・記録、学生、教員間での共有等

※①～③をそれぞれが関連し、スキルの習得と体験が同じフィールドで習得できるように体系的に組み立てます。

◆授業のひな形(1つの例) ※より詳細なひな形は別紙

(1) 導入：大学での学び・動機づけ

①先輩の声「テーマ：○○学科における大学での学びと○○技師」(講演or映像)
→その内容について、レポートとして文章にまとめる。
グループでコンテンツを作り、プレゼンテーションを行う。
→授業外：学んだことをe-ポートフォリオに記入。教員はコメントをフィードバックする。

(2) ラーニングスキル入門：学習を行う上で共通する基本技能の習得

①文章の書き方
→反転授業事前学習：レポートの書き方入門
→対面授業：(1)で作成したレポートについて、ルーブリックを用いたピア評価、ポイント確認、フラッシュアップ
→授業外：学んだことをe-ポートフォリオに記入。教員はコメントをフィードバックする。

②プレゼンテーションの仕方
→反転授業事前学習：効果的なプレゼンテーションの仕方
→対面授業：(1)で実施したプレゼンテーションについて、ルーブリックを用いたピア評価、ポイント確認、フラッシュアップ
→授業外：学んだことをe-ポートフォリオに記入。教員はコメントをフィードバックする。

③グループワーク(他者との協働)
→反転授業事前学習：アイデアの発想・収束(KJ法)
→対面授業：KJ法ワークを実施し、ルーブリックを用いたピア評価を行う。
→授業外：学んだことをe-ポートフォリオに記入。教員はコメントをフィードバックする。

(3) 早期体験：○○分野の先端研究・現場体験

①○○現場体験
→その内容について、レポートとして文章にまとめる。
グループでコンテンツを作り、プレゼンテーションを行う。
ルーブリックを用いたピア評価を行う。
→授業外：学んだことをe-ポートフォリオに記入。教員はコメントをフィードバックする。

2) SIH 道場の各アクターの役割

SIH 道場の実施にあたっては、大学教育再生加速プログラム（AP）実施専門委員会、各学部・学科の授業設計コーディネーター、各学部・学科の授業担当者、総合教育センター教育改革推進部門、SIH 道場コンテンツ作成ワーキンググループが、授業計画から準備、実施、振り返りまでの過程において、以下のようなそれぞれの役割を果たしている。

令和元年度 SIH 道場各アクターの役割

	授業計画 10月～2月	準備 2月～3月	実施 4月～9月	振り返り 10月～12月
大学教育再生 加速プログラム 実施専門委員会	<ul style="list-style-type: none"> ◆AP事業全体像の把握 ◆コーディネーターの選出 	<ul style="list-style-type: none"> ◆SIH道場の準備状況の把握 	<ul style="list-style-type: none"> ◆SIH道場の実施状況の把握 (特に自学部) 	<ul style="list-style-type: none"> ◆SIH道場の振り返り (全体運営) ◆シンポジウムの開催 ◆報告書の作成
授業設計 コーディネーター	<ul style="list-style-type: none"> ◆SIH道場の授業概要の把握 ◆授業設計(目的・目標・スケジュール・教材・評価等のシラバスの作成) 	<ul style="list-style-type: none"> ◆授業担当者の選出 ◆SIH道場担当者FDに参加 ◆授業準備・スケジュール等の最終確認など、実施するために必要なことすべて 	<ul style="list-style-type: none"> ◆授業担当者の支援 ◆授業実施状況の把握 ◆自身の授業を振り返り、eポートフォリオを活用した省察 	<ul style="list-style-type: none"> ◆SIH道場の振り返り ◆自己評価シートの作成 (自部局) ◆シンポジウムでの報告
授業担当者		<ul style="list-style-type: none"> ◆授業準備・スケジュール等の最終確認など、授業を担当するために必要なことすべて ◆SIH道場担当者FDに参加 	<ul style="list-style-type: none"> ◆授業の実施 ◆学生のポートフォリオに対するコメント等のフィードバック ◆自身の授業を振り返り、eポートフォリオを活用した省察 	<ul style="list-style-type: none"> ◆SIH道場の振り返り (自クラス) ◆授業設計コーディネーターへの報告
総合教育センター 教育改革推進部門	<ul style="list-style-type: none"> ◆授業設計の支援 	<ul style="list-style-type: none"> ◆FD・説明会の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ◆随時相談対応 	<ul style="list-style-type: none"> ◆SIH道場の振り返り(全体) ◆シンポジウムでの報告 ◆報告書の作成 (運営・支援)
コンテンツ作成WG	<ul style="list-style-type: none"> ◆授業設計の支援 ◆反転授業コンテンツ、教材、ワークシート、eポートフォリオ、評価ツール等の作成 	<ul style="list-style-type: none"> ◆反転授業コンテンツ、教材、ワークシート、eポートフォリオ、評価ツール等の作成 ◆担当者へ使い方等の説明 	<ul style="list-style-type: none"> ◆随時相談対応 	<ul style="list-style-type: none"> ◆SIH道場の振り返り (コンテンツ) ◆報告書の作成(コンテンツ)

3) 授業設計コーディネーターの役割

各学部・学科の授業設計コーディネーターは、プログラム単位で授業設計を行い、目的・目標の設定、スケジュール、教材、評価方法の設定等を行うという中心的な役割を担う。その際には、「授業設計概要」、「授業設計詳細」をフォーマットに従い作成し提出する。加えて、授業担当者を選出し取りまとめを行いながら、連携して授業運営を行う。授業の実施後には学生アンケートを行い、教育改革推進部門による集計結果等を参考にしながら、「プログラム設計評価シート」のフォーマットに従い、実施したプログラムを振り返り自己評価を行い、課題を明確化し次年度の改善点を具体的に記述する。全プログラムの実施内容やその成果と課題については、SIH 道場の全てのプログラムが終了した11月中旬に開催する「SIH 道場振り返りシンポジウム」において共有を行う。

4) 令和元年度のSIH道場プログラム

令和元年度のSIH道場については、①総合科学部（国際教養コース・心身健康コース・公共政策コース・地域創生コースの4コース合同）、②医学部医学科、③医学部医科栄養学科、④医学部保健学科看護学専攻、⑤医学部保健学科放射線技術科学専攻、⑥医学部保健学科検査技術科学専攻、⑦歯学部（歯学科・口腔保健学科の2学科合同）、⑧薬学部、⑨理工学部社会基盤デザインコース、⑩理工学部機械科学コース、⑪理工学部応用化学システムコース、⑫理工学部電気電子システムコース、⑬理工学部情報光システムコース、⑭理工学部応用理数コース、⑮生物資源産業学部（応用生命コース、食料科学コース、生物生産システムコースの3コース合同）の15プログラムが展開されると共に、⑯医療教育開発センターによる医・歯・薬学部合同の「チーム医療入門」ワークショップが実施された。このうち、各学部・学科・専攻・コースにおいて実施されたプログラムのSIH道場必須項目の内容については、表のとおりである。

令和元年度SIH道場プログラムにおける必須項目一覧表

学部	学科	①体験学習	②ラーニングスキル			③振り返り
			文章力	プレゼン力	協働力	
総合科学部	国際教養コース 心身健康コース 公共政策コース 地域創生コース	大塚美術館見学	・読書レポートの作成 ・体験学習レポートの作成	課題発見ゼミナールにおいて共同でプレゼン作成・実施		プロダクトへ教員がコメントし、学生が振り返りを行う
医学部	医学科	・診療現場体験 ・振り返りWS	振り返りWS終了後にレポート作成	振り返りWSでKJ法を用いて班単位でプレゼン・討議		学生が振り返りを行い教員がコメント
	医科栄養学科	先輩の講演の聴講（「チーム医療入門」）	WS時にKJ法で出した意見をまとめる	作成したプロダクトに基づきプレゼン	班単位でWSを行いプロダクト作成	学生が学んだことを書き、教員がコメント
	保健学科（看護）	「先輩からのメッセージ」の聴講	講義および書かせたもののピア評価	「先輩からのメッセージ」でのプレゼン	仕事に対する将来像についてKJ法ワーク	学生が振り返りを行い教員がコメント
	保健学科（放射）	先端研究の体験	体験学習のレポート作成	報告会でのプレゼン	短期研究室配属での協働作業	学生が振り返りを行い教員がコメント
歯学部	保健学科（検査）	「先輩からのメッセージ」聴講	レポートを書かせピア評価	「チーム医療入門」でのプレゼンのピア評価	「チーム医療入門」でのKJ法ワーク	学生が振り返りを行い教員がコメント
	歯学科 口腔保健学科	・「気づきの体験学習」 ・「相互歯磨き学習」	・「アカデミック・ライティング入門」聴講 ・読書レポート作成	グループでのプレゼン	「新入生研修」でのコンセンサスゲーム、ワールドカフェ	学生が振り返りを行い教員がコメント
薬学部	薬学共通	先輩の講演（「チーム医療入門」）	・WS時にKJ法で出した意見をまとめる ・最終レポート作成	作成したプロダクトに基づきプレゼン	班単位でWSを行いプロダクト作成	学生が振り返りを行い教員がコメント
理工学部	社会基盤デザインコース	現場見学	レポートに対するコメントと学生による議論	体験学習に関するプレゼンと質疑応答	ポスター作成	学生が振り返りを行い教員がコメント
	機械科学コース	「機械科学実験Ⅰ」での技術体験	「集中研修」での書き方指導	「集中研修」で、グループ作業でディベートを準備・実施		学生が振り返りを行い教員がコメント
	応用化学システムコース	研修旅行	自分が興味のある科学技術について発表要旨を作成・発表			ルーブリックでの自己評価に教員がコメント
	電気電子システムコース	「STEM演習」における電気電子工学の演習	論理的文章の書き方についての講義	STEM演習におけるポスター発表	STEM演習におけるポスター発表	学生が振り返りを行い教員がコメント
	情報光システムコース	研究室見学	論理的文章の書き方についての講義	プレゼンテーションについての講義	専門分野のトピックについてのKJ法	学生が振り返りを行い教員がコメント
生物資源産業学部	応用理数コース	研究室見学	体験学習のレポート作成・ピア評価	報告会におけるプレゼンテーション	報告会にむけての資料作成	学生が振り返りを行い教員がコメント
	応用生命コース 食料科学コース 生物生産システムコース	学外研修とレポート作成	「体験学習Ⅰ」のレポート作成・ピア評価	「体験学習Ⅱ」でのグループ製作を行い、プレゼン・ピア評価		学生が振り返りを行い教員がコメント
医療教育開発センター		専門家の講演の聴講とグループワーク	ワークショップについての振り返りレポート	グループでの討議とプレゼンテーション		学生が振り返りを行い教員がコメント

令和元年度 SIH道場プログラム資料

- ◆ SIH道場 必須項目設計表（概要）
- ◆ SIH道場 プログラム設計評価シート
- ◆ SIH道場 授業詳細

プログラム実施単位

1. 総合科学部
2. 医学部医学科
3. 医学部医科栄養学科
4. 医学部保健学科看護学専攻
5. 医学部保健学科放射線技術科学専攻
6. 医学部保健学科検査技術科学専攻
7. 歯学部
8. 薬学部
9. 理工学部社会基盤デザインコース
10. 理工学部機械科学コース
11. 理工学部応用化学システムコース
12. 理工学部電気電子システムコース
13. 理工学部情報光システムコース
14. 理工学部応用理数コース
15. 生物資源産業学部
16. 医療教育開発センター

SIH道場必須項目設計表(概要のみ)

1.総合科学部

	到達目標	評価方法・基準	内容		授業実施枠
			事前学習	授業	
① 早期体験	事前学習で学ぶ「デスクリプション」手法による芸術鑑賞法を身につける。具体的には、実際に美術館に赴き、鑑賞した芸術作品に対する情報を体系的に記述することができることを目標とする。	学習後にレポートを提出させ、事前学習における教示に合致した記述であるかをチェックする。	美術史を専門とする教員による、絵画の基本的な鑑賞法と評価法、デスクリプションに関する講義を聴講する。	事前学習後に、大塚美術館を訪問し、学生が自ら選択した絵画や芸術作品に対して「デスクリプション」手法に沿ったレポートを作成する。	SIH道場
文章力	1. 学術的文章の基本的なルールや方法を説明することができる。 2. 読書レポートを作成し、担当教員からもらうコメント・指摘を認識し、レポート(論理的文章)のよりよい書き方を身に付ける。	担当教員は、自分が推薦した本を選んだ学生の読書レポートにコメントする。さらにルールブックに基づいて評価する。	総合科学入門講座において「学術的発想と書き方」を受講する。	1. 学術的文章の書き方に関する講義を実施する。2. 学生は推薦図書の中から選択して読破し「読書レポート」を作成する。3. 提出された「読書レポート」に対しては、担当教員がコメントとルールブックに基づき評価を行ない返却する。	SIH道場(読書レポート) 総合科学入門講座
② プレゼンカ	1. プレゼンテーションの基本スキルを習得し、自身の意見・考えを効果的に他者に伝えることができる。 2. 他者による評価を通じて、自己の現状を認識し、改善に着手できる。	教員はコメントによる評価をフィードバックする。	グループワークの内容や、ルールに関する事前資料・説明の内容を理解する。	担当教員は学生の事前学習の程度を確認し、必要に応じてプレゼンテーションの方法の要点を説明する。学生は一定範囲のテーマについてプレゼンテーションの資料を作成し、実践する。ルールブックを用いて評価する。	SIH道場(学友コミュニケーション) 課題見ゼミナール(1年後期)
協働カ	1. 協働力養成のための基本的な手法を知る。2. 実践とその評価を通じて、自己の現状を把握する。 (上記のプレゼンカ養成プログラムをグループで行なり、同一の授業で二つの力を養成するものがある。)	ルールブック評価表に基づいて評価する。	グループワークに用いる手法に関する事前資料の内容を理解する。	1. 学生は、グループごとにひとつのテーマを選び、共同でプレゼンテーションの資料を作成し、発表する。 2. または、個人でプレゼン資料・原稿の作成、発表を遂行し、グループ内でルールブックによる相互評価をおこなう。	SIH道場(学友コミュニケーション) 課題見ゼミナール(1年後期)
注意点	学生が授業を通して何ができるようになるのかについて具体的に明記する。明記の仕方として「〇〇できる」と表現すると良い。	反転授業の形式で設計し、コンテンツを使用することを推奨する。		「①早期体験」のように既存の授業で置き換えることも可能です。	
				③学習の振り返り mahara飛ぶノートのリフレクションシートを用いて振り返りレポートを作成する。講義担当教員とコーディネーターはレポートをチェックのち、必要に応じてコメントや改良点をフィードバックする。	

SIH道場プログラム設計評価シート

1.総合科学部

要素	項目	チェック	学生の学修効果・成果	改善したい点	次年度に向けた対応
早期体験	①設計した到達目標を学生は達成することができた	はい	例年通り、教務委員・学生委員への事前学習、Webを基盤としたレポート返却により、効果的な学修が継続された。また、昨年度までの反省点を活かし、早期体験実施日の予定に余裕を持たせ、課題提出を早める旨を講じたことに加え、事前講義と大塚美穂館見学のイベント進行に内容的・時間的連続性を持たせたことで、より効果的な学修が実施できたと考えられる。	例年と異なるタイムスケジュールで事前学習、大塚美穂館見学を実施したため、学生のグループ分けや昼食時間に手間取った点があった点が挙げられる。	前項に挙げたように、スケジュールの事前調整を徹底したい。その際、4月初頭に実施されるSIH道場関連のイベント・日程の改善も考慮することとする。
	②設計した内容は、専門分野の学修に対して学生を動機づけるという点で効果的だった	はい	総合科学入門講義で、合理的な結論を出す技術を身につけさせる「論理的思考力の養成」を目標とした講義と実践練習を行った。eラーニングシステムを活用した点の改善が奏功し、単位取得した学生の平均点が85点(昨年度は84点)という非常に高得点となった。作文の評価は、教科書「ナビ」と言われたレポートの書き方教室」に従って行った。また、おおむね毎回の講義終了時に、内容を復習するマーカーシート式の学生がSIH道場で学修した「文章・レポートの書き方」は役に立っていると回答している。	読書レポートに関して、ルーブリックを用いているものの複数の教員の評価が統一化されているか不明であり評価側の問題点として挙げられる。また、字内のシステム上の契約通り等により現在までの制度で実施できるかどうか疑問である。	他の教員の講義への参加率を高め、教員間の連携や読書レポートの在り方を検討し、現在の形式を継続するか否かを検討したい。
	③学生に課した事前学習は、学生の早期体験を意義あるものにするために効果的だった	はい	SIH道場にて、グループでのワークを基盤とし(例えば上記の早期体験にて)、自己の考えなどを発表し、教員や他の学生からのフィードバックを通して、プレゼンテーションにおける自己評価を行う機会となった。関連する授業は現在、開講中の「課題発見ゼミナール」であるが、昨年度(H30)は、「プレゼンテーション」を含む複数要素で構成された内容で、幾つかのクラス合同での発表会が実施され、プレゼンテーション力の向上につながったと考えられる。	左に示すように、一部のクラスでは合同で発表会が実施されたい、統一した基準での評価が必要と想定されるが、クラスごとに発表が実施されている場合もあり、評価基準や到達度がクラス間で異なる可能性がある。	課題発見ゼミナールでは、クラス間での発表を明らかにし、差異が存在する場合にはそれを埋める必要がある。また、1年次後期以降の講義等において、プレゼンテーションを取り入れた授業を増やし、学修成果をさらさらには発展させる必要がある。
ラーニングスキル 文章力	④設計した到達目標を学生は達成することができた	はい (後期授業でも実施)	SIH道場にて、グループでのワークを基盤とし(例えば上記の早期体験にて)、自己の考えなどを発表し、教員や他の学生からのフィードバックを通して、プレゼンテーションにおける自己評価を行う機会となった。関連する授業は現在、開講中の「課題発見ゼミナール」であるが、昨年度(H30)は、「プレゼンテーション」を含む複数要素で構成された内容で、幾つかのクラス合同での発表会が実施され、プレゼンテーション力の向上につながったと考えられる。	上記と同様に、クラス間で協働力の育成に差異がある可能性がある(本年度アンケートで61%が振り返りを実施している)と回答。	SIH道場や課題発見ゼミナールで養われた力を活用させるために、授業内において協働作業の場を設けるなど、身につけた実践力をさらさらには伸ばす取組が望まれる。
	⑤設計したアクティビティ、ラーニング型授業は、学生の学修にとって効果的であった	はい (後期授業でも実施)	Webを利用して学生へのコメント等を返却しているため、学生は容易に学修内容を振り返ることができたと考えられる。また、総合科学入門講義では、受講生全員が返却のコメントを閲覧できるようにしたため、振り返りの動機付けの向上につながったと思われる。また講義最終回では、学生からの問題提起・質問を受けて、担当教員がパネルディスカッションを行い、総話を図った。	Web利用した振り返りの他の授業への応用を図り、日頃の授業における振り返りを実施する学生の増加を図る必要がある(本年度アンケートで61%が振り返りを実施している)と回答。	飛ぶノート、Moodle、eラーニングシステムなどの利用は高まりつつあると実感できるが、より効果的・主体的な利用のため、SIH道場以外の授業でも活用し、多くの教員が多くの授業で用いることでより効果的な振り返りが実施できると考えられる。
	⑥学生に課した授業外学修(事前、または事後)は、学生の学修にとって効果的であった	はい (後期授業でも実施)	Webを利用して学生へのコメント等を返却しているため、学生は容易に学修内容を振り返ることができたと考えられる。また、総合科学入門講義では、受講生全員が返却のコメントを閲覧できるようにしたため、振り返りの動機付けの向上につながったと思われる。また講義最終回では、学生からの問題提起・質問を受けて、担当教員がパネルディスカッションを行い、総話を図った。	Web利用した振り返りの他の授業への応用を図り、日頃の授業における振り返りを実施する学生の増加を図る必要がある(本年度アンケートで61%が振り返りを実施している)と回答。	飛ぶノート、Moodle、eラーニングシステムなどの利用は高まりつつあると実感できるが、より効果的・主体的な利用のため、SIH道場以外の授業でも活用し、多くの教員が多くの授業で用いることでより効果的な振り返りが実施できると考えられる。
ラーニングスキル プレゼン力	⑦設計した到達目標を学生は達成することができた	はい (後期授業でも実施)	SIH道場にて、グループでのワークを基盤とし(例えば上記の早期体験にて)、自己の考えなどを発表し、教員や他の学生からのフィードバックを通して、プレゼンテーションにおける自己評価を行う機会となった。関連する授業は現在、開講中の「課題発見ゼミナール」であるが、昨年度(H30)は、「プレゼンテーション」を含む複数要素で構成された内容で、幾つかのクラス合同での発表会が実施され、プレゼンテーション力の向上につながったと考えられる。	上記と同様に、クラス間で協働力の育成に差異がある可能性がある(本年度アンケートで61%が振り返りを実施している)と回答。	SIH道場や課題発見ゼミナールで養われた力を活用させるために、授業内において協働作業の場を設けるなど、身につけた実践力をさらさらには伸ばす取組が望まれる。
	⑧設計したアクティビティ、ラーニング型授業は、学生の学修にとって効果的であった	はい (後期授業でも実施)	Webを利用して学生へのコメント等を返却しているため、学生は容易に学修内容を振り返ることができたと考えられる。また、総合科学入門講義では、受講生全員が返却のコメントを閲覧できるようにしたため、振り返りの動機付けの向上につながったと思われる。また講義最終回では、学生からの問題提起・質問を受けて、担当教員がパネルディスカッションを行い、総話を図った。	Web利用した振り返りの他の授業への応用を図り、日頃の授業における振り返りを実施する学生の増加を図る必要がある(本年度アンケートで61%が振り返りを実施している)と回答。	飛ぶノート、Moodle、eラーニングシステムなどの利用は高まりつつあると実感できるが、より効果的・主体的な利用のため、SIH道場以外の授業でも活用し、多くの教員が多くの授業で用いることでより効果的な振り返りが実施できると考えられる。
	⑨学生に課した授業外学修(事前、または事後)は、学生の学修にとって効果的であった	はい (後期授業でも実施)	Webを利用して学生へのコメント等を返却しているため、学生は容易に学修内容を振り返ることができたと考えられる。また、総合科学入門講義では、受講生全員が返却のコメントを閲覧できるようにしたため、振り返りの動機付けの向上につながったと思われる。また講義最終回では、学生からの問題提起・質問を受けて、担当教員がパネルディスカッションを行い、総話を図った。	Web利用した振り返りの他の授業への応用を図り、日頃の授業における振り返りを実施する学生の増加を図る必要がある(本年度アンケートで61%が振り返りを実施している)と回答。	飛ぶノート、Moodle、eラーニングシステムなどの利用は高まりつつあると実感できるが、より効果的・主体的な利用のため、SIH道場以外の授業でも活用し、多くの教員が多くの授業で用いることでより効果的な振り返りが実施できると考えられる。
協働力	⑩振り返りの意義や方法について、学生に説明する、またはテキストの利用などで理解を促した	はい	Webを利用して学生へのコメント等を返却しているため、学生は容易に学修内容を振り返ることができたと考えられる。また、総合科学入門講義では、受講生全員が返却のコメントを閲覧できるようにしたため、振り返りの動機付けの向上につながったと思われる。また講義最終回では、学生からの問題提起・質問を受けて、担当教員がパネルディスカッションを行い、総話を図った。	Web利用した振り返りの他の授業への応用を図り、日頃の授業における振り返りを実施する学生の増加を図る必要がある(本年度アンケートで61%が振り返りを実施している)と回答。	飛ぶノート、Moodle、eラーニングシステムなどの利用は高まりつつあると実感できるが、より効果的・主体的な利用のため、SIH道場以外の授業でも活用し、多くの教員が多くの授業で用いることでより効果的な振り返りが実施できると考えられる。
	⑪各授業(体験を含む)の最後やSIH道場の終了時に学生が振り返る時間を設けた	はい	Webを利用して学生へのコメント等を返却しているため、学生は容易に学修内容を振り返ることができたと考えられる。また、総合科学入門講義では、受講生全員が返却のコメントを閲覧できるようにしたため、振り返りの動機付けの向上につながったと思われる。また講義最終回では、学生からの問題提起・質問を受けて、担当教員がパネルディスカッションを行い、総話を図った。	Web利用した振り返りの他の授業への応用を図り、日頃の授業における振り返りを実施する学生の増加を図る必要がある(本年度アンケートで61%が振り返りを実施している)と回答。	飛ぶノート、Moodle、eラーニングシステムなどの利用は高まりつつあると実感できるが、より効果的・主体的な利用のため、SIH道場以外の授業でも活用し、多くの教員が多くの授業で用いることでより効果的な振り返りが実施できると考えられる。
振り返り	⑫振り返りの意義や方法について、学生に説明する、またはテキストの利用などで理解を促した	はい	Webを利用して学生へのコメント等を返却しているため、学生は容易に学修内容を振り返ることができたと考えられる。また、総合科学入門講義では、受講生全員が返却のコメントを閲覧できるようにしたため、振り返りの動機付けの向上につながったと思われる。また講義最終回では、学生からの問題提起・質問を受けて、担当教員がパネルディスカッションを行い、総話を図った。	Web利用した振り返りの他の授業への応用を図り、日頃の授業における振り返りを実施する学生の増加を図る必要がある(本年度アンケートで61%が振り返りを実施している)と回答。	飛ぶノート、Moodle、eラーニングシステムなどの利用は高まりつつあると実感できるが、より効果的・主体的な利用のため、SIH道場以外の授業でも活用し、多くの教員が多くの授業で用いることでより効果的な振り返りが実施できると考えられる。
	⑬各授業(体験を含む)の最後やSIH道場の終了時に学生が振り返る時間を設けた	はい	Webを利用して学生へのコメント等を返却しているため、学生は容易に学修内容を振り返ることができたと考えられる。また、総合科学入門講義では、受講生全員が返却のコメントを閲覧できるようにしたため、振り返りの動機付けの向上につながったと思われる。また講義最終回では、学生からの問題提起・質問を受けて、担当教員がパネルディスカッションを行い、総話を図った。	Web利用した振り返りの他の授業への応用を図り、日頃の授業における振り返りを実施する学生の増加を図る必要がある(本年度アンケートで61%が振り返りを実施している)と回答。	飛ぶノート、Moodle、eラーニングシステムなどの利用は高まりつつあると実感できるが、より効果的・主体的な利用のため、SIH道場以外の授業でも活用し、多くの教員が多くの授業で用いることでより効果的な振り返りが実施できると考えられる。
振り返り	⑭振り返りの意義や方法について、学生に説明する、またはテキストの利用などで理解を促した	はい	Webを利用して学生へのコメント等を返却しているため、学生は容易に学修内容を振り返ることができたと考えられる。また、総合科学入門講義では、受講生全員が返却のコメントを閲覧できるようにしたため、振り返りの動機付けの向上につながったと思われる。また講義最終回では、学生からの問題提起・質問を受けて、担当教員がパネルディスカッションを行い、総話を図った。	Web利用した振り返りの他の授業への応用を図り、日頃の授業における振り返りを実施する学生の増加を図る必要がある(本年度アンケートで61%が振り返りを実施している)と回答。	飛ぶノート、Moodle、eラーニングシステムなどの利用は高まりつつあると実感できるが、より効果的・主体的な利用のため、SIH道場以外の授業でも活用し、多くの教員が多くの授業で用いることでより効果的な振り返りが実施できると考えられる。
	⑮各授業(体験を含む)の最後やSIH道場の終了時に学生が振り返る時間を設けた	はい	Webを利用して学生へのコメント等を返却しているため、学生は容易に学修内容を振り返ることができたと考えられる。また、総合科学入門講義では、受講生全員が返却のコメントを閲覧できるようにしたため、振り返りの動機付けの向上につながったと思われる。また講義最終回では、学生からの問題提起・質問を受けて、担当教員がパネルディスカッションを行い、総話を図った。	Web利用した振り返りの他の授業への応用を図り、日頃の授業における振り返りを実施する学生の増加を図る必要がある(本年度アンケートで61%が振り返りを実施している)と回答。	飛ぶノート、Moodle、eラーニングシステムなどの利用は高まりつつあると実感できるが、より効果的・主体的な利用のため、SIH道場以外の授業でも活用し、多くの教員が多くの授業で用いることでより効果的な振り返りが実施できると考えられる。
総合	⑯実施したSIH道場のプログラムを総合的に見て、今年度の授業設計は、学生が到達目標を達成するために、(5.十分であった、4.概十分であった、3.かた、2.やや不十分であった、1.不十分であった)。	4	学生アンケートにて、文章力の力が上がったこと、コメントが多く寄せられ、SIH道場の中で成果があった学修内容の一つとして文章力が挙げられた。プレゼン力や協働力に関しては、SIH道場の一環と位置付けている課題発見ゼミナールが現在開講中であり、その履修後にさらなる力が上がったと、主体的にも各課的にも評価が上がると推察される。	早期体験をはじめ、4月1週目に集中講義として実施される内容の修得において、スケジュールがタイトであるため、学生の学修に影響している可能性がある。また、各学修内容の評価方法について、複数の評価者がいる場合に客観性が保たれているか疑問であるため評価法を改善する必要性が示唆される。	スケジュールの緩和に向けて、内容を今一度吟味し、必要な内容を厳選する予定である。また、評価方法に関してはルーブリック評価の完全導入等、可能な範囲で統一化を図る方法を検討している。
	※その他、他の授業の最終・発展内容・授業運営等の課題が明らかになった				

【様式③】
平成 31 年度 総合科学部社会総合科学科 SIH 道場 < 授業詳細表 >

SIH 道場 (早期体験)

■目的：西洋絵画の見方についての講義を受講し、それをふまえて大塚国際美術館を訪問し、事前に学んだ「デスクリプション」の方法によりひとつの作品を文章により記述する。大塚美術館は西洋の名画の模写を多数展示しているが、精確な写真撮影をもとに制作した実物大の胸板が使用されるところにも、作品を含む教会堂などの内部空間が再現されているのが特徴である。

学生は、数多くの作品を鑑賞することで、美的感性を触発されるだけでなく、専門家による事前指導を通じて、芸術だけでなくその背景にある歴史、文学、宗教などの文化的諸要素との総合的関連性について考える端緒となる。デスクリプションの方法は、主観的解釈あるいは予備知識を排し客観的態度で対象に向かい、視覚的イメージを文章化することを目指すものである。これを体験することで、学生は客観的な観察と正確な記述という汎用技能を学ぶことになる。

■到達目標：

- (1) 芸術作品を鑑賞し、事前に学んだ「デスクリプション」という方法により、絵画の情報を客観的に記述することができる。
- (2) 芸術とその背景にある歴史、文学、宗教などの文化的諸要素との総合的関連性について考えるきっかけとする。

■成績評価：レポートをチェックし、事前学習の指示に従った客観的な記述ができていているかなどについて、コメントしフィードバックする。

■授業内容 (講義+体験学習)

講義

- ・「SIH 道場 4-1」西洋絵画の見方についての講義 (担当：田中佳)
- 絵画の鑑賞と理解のひとつの方法として、絵についての文章による客観的記述 (デスクリプション) の仕方を紹介し、資料、記入用紙を配付する。

↓

体験学習

- ・「SIH 道場 4-2」大塚国際美術館見学
- 大塚国際美術館を訪れ、絵画を鑑賞し、文章による客観的記述を行なう。その後、作成した文章を提出する。

■体験授業後に担当教員が行うこと

- ・学生が提出したレポートをチェックし、事前学習に合致した記述であるかを評価。グループワークの後にフィードバックを返す。

■SIH 道場終了後に担当教員が行うこと

- ・講義担当教員とコーディネーターは学生が書いた振り返りレポートをチェックしたのち、必要に応じ

【様式③】

てコメントや改良点をフィードバックする。

●詳しい授業内容

○事前学習

大塚国際美術館事前指導 (SIH 道場 4-1)

時間：9:00～9:30 場所：301 講義室

内容：田中佳先生による講義 (絵画の見方、スケッチ、デスクリプション)

その後学生はグループに分かれ、美術館で行うデスクリプションの作品を決定

○体験学習

経過時間	内容	注意点・教材
10分	A, B 両チームでまずは両方の作品を探し、見ておく。 (10分程度) ※相手チームの担当作品もよく見ておくこと。	
15分	各人で担当作品のスケッチとデスクリプションを行う。	
15分	A, B 両チームがそれぞれで集まり、個人のデスクリプションを突き合わせながら、全員で協力して一つのデスクリプションを完成させる。	
15分	まずは A チームが、担当作品の前で B チームに対してデスクリプションを披露する。B チームは、絵を見ながら、不足している点や改善したほうが良い表現などを指摘する。A チームはそれをメモする (→ 大学で修正版を作成)。	
15分	今度は B チームが同じことを行う。	
15分	A と B の作品を比較し、同じ点や異なる点をグループ全員で話し合う。	
20分	互いの指摘を反映させた修正版デスクリプションを完成させ、代表者がプレゼンテーションを行う。	
10分	教員からのフィードバック・コメント	

【様式③】

SIH 道場 (文章力)

■目的：レポートの書き方、メディア・リテラシーに関する内容を「SIH 道場」および「総合科学入門講座」を通じて学ぶ。具体的には、授業内容のレポート、読書レポートなどの課題を通して、担当教員によるコメント、ループリリックによる評価を行なう。具体的な目的は、以下の4点である。

- (1) 学生の読書離れが進む中、本を手にしたリ図書館を利用したりするきっかけを与える。
- (2) 大学で必要とされるレポート、論理的な文章の書き方について理解させる。
- (3) レポート課題に取り組むことで、学生に自己の能力や課題を認識させる。
- (4) 学生のレポートを添削指導する教員が、今後継続的に行なうべきアカデミック・ライティングの指導の参考にする。

■到達目標：

1. 学術的文章の基本的なルールや方法を説明することができる。
2. 読書レポートの作成とそれに対する教員のコメントや評価により、レポート（論理的文章）の書き方に関する自己の現状を認識し、今後に生かす。

■成績評価：担当教員は、自分の推薦図書について作成された読書レポートにコメントするとともに、ループリリックに基づいて評価する。

■授業内容 (講義+実習)

- 「SIH 道場 3-1」読書レポートについての講義 (担当：矢部)
読書レポート企画の概要を説明し、推薦図書リスト、ループリリックなどを学生に提供する。

続いて、学生は推薦図書の中から一冊を選択したのち「読書レポート」をワードファイル (A4で2,3枚) で作成し、学内システムの Moodle にて提出する。

※提出されたレポートは、原則として推薦図書を選んだ教員がコメントとループリリックによる評価を行ない、Moodle を通じて学生に送付する。

- 「SIH 道場 8」, 「総合科学入門講座」学術的発想と書き方についての講義 (担当：山口裕之)
SIH 道場では、最初にレポートの書き方とメディア・リテラシーに関して講義する。2 回目以降は、総合科学入門講座にて継続的に関連の講義を行なうとともに、他の教員によるレポート課題と、その評価を行なう。

■担当教員が行うこと

- ・学生が提出した読書レポートに対するコメント・評価を行う。
- SIH 道場終了後に担当教員が行うこと
 - ・講義担当教員とコーディネーターは学生が書いた振り返りレポートをチェックしたのち、必要に応じてコメントや改良点をフィードバックし、双方のやり取りを実施する。

【様式③】

平成 31 年度 総合科学部社会総合科学科 SIH 道場 <授業詳細表>

SIH 道場 (学友コミュニケーション)・課題発見ゼミナール (プレゼンテーション力・協働力)

■目的：学友コミュニケーション (SIH 道場) においては、まず自己のプレゼンテーション力や協働力に関してアセスメントを行なうことを目的とする。アセスメント結果に基づき、個人のテーマや目標を明確にした上で「課題発見ゼミナール」に臨ませる。

この講義は必修であり、学生の希望調査に基づいて所属クラスが決定される。各クラスの扱うテーマや具体的な内容は、担当教員の裁量により設計されるため、文章力養成、体験学習なども取り入れられる場合がある。

■到達目標：

- 1) プレゼンテーション力・協働力における自己の現状を把握する。
- 2) 効果的なプレゼンテーションを行なうための基本的な手法・ツールを身に付ける。
- 3) 他者と協同して課題に取り組むことができる。
- 4) 自身の学習活動を振り返る習慣を身につける。

■成績評価：ループリリック評価表を用いる。

■授業内容

- ・学友コミュニケーション (単発型)

1 例を示す。【コンセンサスゲーム (砂漠遭難ゲーム)】

クラス (45 名程度) を 5 グループに分け、コンセンサスゲームを実施。

- ①まずは 1 クラスの学生を 9~10 人程度のグループ 5 つに分け、教員からゲームの説明。
- ②それから暫く時間をとり (個人で考えるー10 分、グループで考えるー20 分)、各グループとしての解答を代表者に発表してもらう。
- ③その後、教員から正解を示す。正解とグループの解答とを比較させる。
- ④ディスカッション

- ・課題発見ゼミナール (90 分) × 16 回

クラスによって異なるが、以下の要素から複数のものの組み合わせとなる。

1. ディスカッション
2. プレゼンテーション
3. レポート作成
4. 体験学習
5. 講読
6. その他

【様式③】

<授業スケジュール例>

- ① 学生による夏休みの学習成果の発表
- ② 学生による夏休みの学習成果の発表
- ③ プレゼンテーションの評価基準、文献検索法等について講義
- ④ 研究テーマの設定 (1) : 書籍を読み、内容を報告する
- ⑤ 研究テーマの設定 (2) : 書籍を読み、内容を報告する
- ⑥ 研究テーマの設定 (3) : 各人の設定したテーマをすり合わせてグループ分けを行う
- ⑦ グループワーク (1) : テーマに即した論文を読み、内容を報告する
- ⑧ グループワーク (2) : テーマに即した論文を読み、内容を報告する
- ⑨ グループワーク (3) : 発表原稿の構成を考える
- ⑩ グループワーク (4) : 発表原稿の構成に即して、自分の担当部分に関連する論文を読み、原稿を作成する
- ⑪ グループワーク (5) : 自分の担当部分に関連する論文を読み、原稿を作成し、発表原稿の構成を再考する
- ⑫ 途中経過発表会
- ⑬ 発表原稿の作成 (1) : 発表原稿を完成させる
- ⑭ 発表原稿の作成 (2) : パワーポイントファイルを作成し、出来栄を確認する
- ⑮・⑯ 発表会
- 毎回の授業後に担当教員が行うこと
 - ・担当クラスの学生が提出したレポートの評価・コメントのフィードバック。
- SIH 道場終了後に担当教員が行うこと
 - ・何らかの成果発表会でのプレゼンカの評価
- 最終回の授業後 (SIH 道場終了後) にコーディネーターが行うこと
 - ・各クラス間での到達度のばらつきの確認

SIH道場必須項目設計表(概要のみ)

	到達目標	評価方法・基準	内容		授業実施枠	
			事前学習	授業		
① 早期体験	医師の役割・業務内容や必要とされる能力を理解し、それらと関連づけて大学における学習について説明することができる。	病院ルールについて試験を行う。 リフレクションシートと振り返りレポートで評価する。	身だしなみ、診療現場でのルール、個人情報保護、感染制御等に関する資料を予習する。	1)カリキュラム、キャリア形成、診療現場でのルール、プロフェッショナルリズム等に関する授業。省察をテーマとしたワークショップ。 2) 診療現場体験 3) 振り返りワークショップ	・ワークショップ形式で診療現場体験の振り返りを行う。 ・リフレクションシートと振り返りレポートに学んだことを記入し、それに対する教員コメントおよび評価をeポートフォリオで確認する。 ・教員はコメントをフィードバックする。	準備学習:4月1日 13:35~15:00, 4月2日8:45~9:45, 4月3日13:00~17:00, 4月6日8:30~11:00、5月10日13:00~16:00 診療現場体験:5月17、24日13:00-17:00 振り返りWS:5月31日13:00-16:30
	自らの経験をもとにこれからの大学での学習について自分自身が考えたことを論理的に文章で表現することができる。	振り返りレポートをルーブリック評価表で評価する	文章力のビデオ教材(4つの観点)「主張の根拠付け」、「構成の明快さ」、「文章表現の適切さ」、「出典表示など」の視聴	1) 文章力の授業 2) 振り返りワークショップとチーム医療入門ワークショップ終了後に自分の意見をレポートとしてまとめ、提出する。	・教員はコメントをフィードバックする。 ・レポートの評価結果と教員コメントをeポートフォリオで確認する。	準備学習:5月10日 13:00-16:00 振り返りWS:5月31日13:00-16:30 チーム医療入門:9月30日13:00-17:00
② プレゼンカ	自分自身の考えを他者が理解できるように効果的にプレゼンテーションすることができる。	ルーブリック評価表を用いて評価する(教員による班集体の評価と学生相互評価)。	プレゼンテーションのビデオ教材(3つの観点)「内容の構成」、「姿勢」、「視覚資料」の視聴	1) プレゼンテーションの授業 2) 振り返りワークショップとチーム医療入門ワークショップで、各テーマについてKJ法で作成したプログラムを各班が発表し討議を行う。	・リフレクションシートや振り返りレポートに学んだことを記載する。 ・eポートフォリオで教員と学生相互による評価を確認する。 ・教員はワークショップの中でフィードバックする。	準備学習:5月10日 13:00-16:00 振り返りWS:5月31日13:00-16:30 チーム医療入門:9月30日13:00-17:00
	他者と協同して1つの課題に取り組むことができる。	ルーブリック評価表を用いて評価する(教員による班集体の評価と学生相互評価)。	協働力のビデオ教材(3つの観点)「協働のため相手のスキル」、「アイデアの発想と収束」の視聴	振り返りワークショップとチーム医療入門ワークショップで、各テーマについてKJ法により班単位でプログラムを作成する。各班の発表と討議の際には追加発現等により発表者をサポートする。	・リフレクションシートや振り返りレポートに学んだことを記載する。 ・eポートフォリオで教員による評価を確認する。 ・教員はワークショップの中でフィードバックする。	振り返りWS:5月31日13:00-16:30 チーム医療入門:9月30日13:00-17:00
注意点	学生が授業を通して何ができるようになるのかについて具体的に明記する。明記の仕方として「〇〇できる」と表現すると良い。	反転授業の形式で設計し、コンテンツを使用することを推奨する。	アクティブ・ラーニング型授業で実施する。	eポートフォリオを活用し、学生と教員間のコメントのやり取りを行う。	①「早期体験」のよ うに既存の授業で置き換えることも可能 です。	

2.医学部医学科

SIH道場プログラム設計評価シート

2.医学部医学科

要素	項目	チェック	学生の学修効果・成果	改善したい点	次年度に向けた対応
早期体験	①設計した到達目標を学生は達成することができた	<input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> どちらともいえない <input type="checkbox"/> いいえ 設計していない	実施後アンケートでは、学生の満足度は非常に高かった。	・診療科間で学生への対応に、その時間や内容に格差がある。 ・診察現場の指導教員の負担感が大きい。 ・アウトルームを基盤とした振り返りや評価が不十分である。	・担当教員間での意見交換を行い、情報共有を進める。 ・アウトルームについての達成度評価表を作成し、学生による自己評価を行う。
	②設計した内容は、専門分野の学修に対して学生を動機づけるという点で効果的だった	<input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> どちらともいえない <input type="checkbox"/> いいえ 設計していない	経験と客観的に振り返ることを目的とした文章の作成を行うことができた。文章力に大きな個人差がある。	・文章に関する系統的な教育がない。 ・評価側の意見交換などが必要と思われる。	・科学的文章作成について、他の関連した教養科目などとの連携を有機的に図る。 ・評価担当委員の意見交換を実施する。
	③学生に課した事前学習は、学生の早期体験を意義あるものにするために効果的だった	<input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> どちらともいえない <input type="checkbox"/> いいえ 課していない	グループワークで作成したプログラクドを基に発表する手法を参加者全員が体験できた。	・プレゼンテーションに関する形成的評価も必要であるが、そのための担当教員数が不十分である。	・学生による自己評価と学生間のピア評価を実施する。
	④設計した到達目標を学生は達成することができた	<input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> どちらともいえない <input type="checkbox"/> いいえ 設計していない	KJ法を用いたグループワークの手法を学んだ。	・自分たちが行ったグループワークそのものを振り返ることが必要である。 ・担当教員数が不十分のため、学生個々の協働力を評価することが困難である。	・学生による自己評価と学生間のピア評価を実施する。
	⑤設計したアクティブ・ラーニング型授業は、学生の学修にとって効果的であった	<input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> どちらともいえない <input type="checkbox"/> いいえ 設計していない	振り返りワークショップおよび振り返りレポートの作成により、経験を振り返って一般化・概念化し、次の学修に活かしていくサイクルを学ぶことができた。	振り返りワークショップおよび振り返りレポートの作成により、経験を振り返って一般化・概念化し、次の学修に活かしていくサイクルを学ぶことができた。	・振り返りの重要性について、他の教養科目においても同様に振り返りを強化しながら、科目間で有機的に連携を図る。
	⑥学生に課した授業外学修（事前、または事後）は、学生の学修にとって効果的であった	<input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> どちらともいえない <input type="checkbox"/> いいえ 課していない	早期体験講座実習とアクティブ・ラーニングを有機的に組み合わせさせたプログラムによって、経験から学ぶ力を修得する第一歩となった。	開始時に設定した目標に対して、どれだけ達成できたかという評価が必要である。	開始時の目標設定と終了時の自己評価・相互評価を行わせる。
	⑦学生の評価は、ルーブリック等で基準を明確に行っていた	<input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> どちらともいえない <input type="checkbox"/> いいえ			
ラーニングスキル	⑧設計したアクティブ・ラーニング型授業は、学生の学修にとって効果的であった	<input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> どちらともいえない <input type="checkbox"/> いいえ 設計していない			
文章力	⑨学生に課した授業外学修（事前、または事後）は、学生の学修にとって効果的であった	<input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> どちらともいえない <input type="checkbox"/> いいえ 課していない			
	⑩学生の評価は、ルーブリック等で基準を明確に行っていた	<input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> どちらともいえない <input type="checkbox"/> いいえ			
ラーニングスキル	⑪設計した到達目標を学生は達成することができた	<input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> どちらともいえない <input type="checkbox"/> いいえ 設計していない			
	⑫設計したアクティブ・ラーニング型授業は、学生の学修にとって効果的であった	<input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> どちらともいえない <input type="checkbox"/> いいえ 設計していない			
プレゼンカ	⑬学生に課した授業外学修（事前、または事後）は、学生の学修にとって効果的であった	<input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> どちらともいえない <input type="checkbox"/> いいえ 課していない			
	⑭学生の評価は、ルーブリック等で基準を明確に行っていた	<input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> どちらともいえない <input type="checkbox"/> いいえ			
ラーニングスキル	⑮設計した到達目標を学生は達成することができた	<input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> どちらともいえない <input type="checkbox"/> いいえ 設計していない			
	⑯学生に課した授業外学修（事前、または事後）は、学生の学修にとって効果的であった	<input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> どちらともいえない <input type="checkbox"/> いいえ 課していない			
協働カ	⑰学生の評価は、ルーブリック等で基準を明確に行っていた	<input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> どちらともいえない <input type="checkbox"/> いいえ			
	⑱振り返りの意義や方法について、学生に説明する、またはテキストの利用などで理解を促した	<input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> どちらともいえない <input type="checkbox"/> いいえ			
振り返り	⑲各授業（体験を含む）の最後やSIH道場の終了時に学生が振り返る時間を設けた	<input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> どちらともいえない <input type="checkbox"/> いいえ			
	⑳学生が振り返った内容について教員がフィードバックを行った	<input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> どちらともいえない <input type="checkbox"/> いいえ			
総合	㉑実施したSIH道場プログラムを総合的に見て、今年度の授業設計は、学生が到達目標を達成するために、45.10分であった。4.期は十分であった。3.ふつ。2.やや不十分であった。1.不十分であった。	5 <input type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1			
	※その他、他の授業との連携・充実内容・授業運営等の課題がありましたらお書きください。				

平成31年度 医学部医学科 SIH 道場 <授業詳細表> (教員版実施要項)

作成：医学部教育支援センター

1. 授業の目的

学修の動機付けをはかりながら、医療チームの一員としての医師の役割・業務内容、必要とされる能力、およびそれらと関連づけた大学における学修の方法について理解し、今後の学修に活かしていくことを目指します。

2. 授業の概要

オリエンテーションと連携した準備学習、診療現場体験、振り返りワークショップの3つで構成される早期臨床体験実習、ならびに蔵本地区1年次合同チーム医療入門ワークショップを行います。ワークショップでは協働力およびブレインテナーの向上、振り返りレポート作成では文章力の向上をはかり、これら一連の学習によって学修振り返りの方法を学びます。

3. 到達目標 (アウトカム)

- 1) 医師の役割・業務内容、必要とされる能力について説明することができる。
- 2) 医学科における学修目標について説明することができる。
- 3) 大学での学修および生活におけるルールを理解し、それを遵守することができる。
- 4) グループで協働して意見をまとめ、それをブレインテナーに説明することができる。
- 5) 自らの学修経験に基づいて、自分の考えを文章にまとめることができる。
- 6) 学修経験に基づいて振り返りを行い、今後の学修計画を立てることができる。

4. 対象者 医学部医学科1年次 114名

5. 授業担当

- 1) 早期臨床体験実習準備学習のうち、4月1日、2日、3日、6日の内容は、新入生オリエンテーションや医学部合同新入生研修と連携しながら、医学部教育支援センター教員および医学科教務委員が主に担当する。5月10日は医療教育学分野および医学部教育支援センター教員が実施する。
- 2) 5月に実施する早期臨床体験実習の診療現場体験(学内)は、臨床実習担当分野と卒後臨床研修センターが分担して担当する。実施にあたっては、各担当分野において実務担当者、診療現場体験担当者、振り返りレポート評価担当者を決め、実務担当者が第一教務係、医学部教育支援センターと相談しながら、企画・実施をコーディネートする。
- *下記「7. 早期臨床体験実習実施にあたり各分野の担当教員が行うこと」を参照
- 3) 5月に実施する早期臨床体験実習振り返りワークショップは医学部教育支援センターが企画し、そのチューターは主に医学部教育支援センター、医療教育学分野、医療教育開発センター、教養教育院医療基礎教育学分野の教員が担当する。

- 4) 9月末に実施するチーム医療入門ワークショップ(蔵本地区1年次合同)は医療教育開発センターが企画し、そのチューターは、あらかじめ医学部教務委員会・教授会議で決定している担当順番に従って各分野から担当者を出す(第一教務係より各分野の教授・教育主任に別途依頼あり)。チーム医療入門振り返りレポートの評価は、教務委員が分担して実施する。チューターへの説明は医療教育開発センターが実施する。

6. 授業実施予定

日時	内容	担当
4月1日(月) 13:35~15:00	【早期臨床体験実習】準備学習 医学科教育課程の概略、教養教育と専門教育との関わり、不正行為・不正行為とは、単位認定、担任制、アンケートの意義	西村明儒医学部教務委員長
4月2日(火) 8:45~9:45	【早期臨床体験実習】準備学習 教養教育科目に関する説明	
4月3日(水) 13:00~17:00	【早期臨床体験実習】準備学習 キャリア形成(海外留学プログラム、Doctor plus one)、研究倫理 省察ワークショップ	勢井宏義教授 赤池雅史教授、山田佳子技術員
4月6日(土) 8:30~11:00	【早期臨床体験実習】準備学習 (医学部合同新入生研修の一部として実施) 違法ドラッグについて アルコール、感染対策・病院での行動規範 禁煙について	西村明儒教授 赤池医療教育開発センター長 調整中
5月10日(金) 13:00~16:00	【早期臨床体験実習】準備学習 文章力&プレゼンテーション 試験&診療現場体験オリエンテーション	赤池雅史教授
5月17日(金) 13:00~17:00	【早期臨床体験実習】診療現場体験(学内) (各班5~6名に分かれて実施)	臨床実習担当分野、卒後臨床研修センター
5月24日(金) 13:00~17:00	【早期臨床体験実習】診療現場体験(学内) (各班5~6名に分かれて実施)	臨床実習担当分野、卒後臨床研修センター
5月31日(金) 13:00~16:30	【早期臨床体験実習】振り返りワークショップ「医師に必要な能力・資質、医療プロフェSSIONナリズム」	医学部教育支援センター、医療教育開発センター、教養教育院医療基礎教育学分野
6月7日(金)	臓器移植シンポジウム	消化器・移植外科分野

15:00～17:00		
9月30日 (月)	チーム医療入門ワークショップ (蔵本地区1年次合同)	医療教育開発センター(各分野教員がチューター担当)
13:00～17:00		

7. 成績評価方法・基準

下記すべてに合格することを必要とする。

- 1) 診療現場体験における基本的ルールについてマークシート方式の試験を実施する(5月10日)。
合格基準：正答率80%以上
- 2) 診療現場体験すべてに出席し、診療現場において適切な態度・行動をとる。
- 3) 臓器移植シミュレーションへの参加後に、レポートを提出し、担当教員がそれにフィードバックコメントを記載して学生に返却する。

合格基準：フィードバックコメントで修正再提出を指示されていない者が合格とする。

- 4) 診療現場体験(学内)の終了後に学生が「リフレクションシート」を提出し、各分野の診療現場担当教員がそれにフィードバックコメントを記載して学生に返却する。

合格基準：フィードバックコメントで修正再提出を指示されていない者が合格とする。

- 5) 早期臨床体験実習振り返りワークショップでは、ワークショップ担当教員が、協働力、プレゼンテーションについて、所定のルーブリック評価表によりグループ単位で評価する。

合格基準：ルーブリック評価尺度すべてが(A)あるいは(B)であること。

- 6) 早期臨床体験実習振り返りワークショップ終了後に、学生が「早期臨床体験実習振り返りレポート」を提出し、それに対して診療現場体験担当分野の振り返りレポート評価担当者が、所定のルーブリック評価表により文章力の評価を行い、フィードバックコメントを記載して学生に返却する。

合格基準：ルーブリック評価尺度すべてが(A)あるいは(B)であること。

- 7) チーム医療入門ワークショップに参加し、アンケートおよびチーム医療入門振り返りレポートを提出する。振り返りレポートについては、医学科教務委員が分担して、所定のルーブリック評価表により文章力の評価を行い、フィードバックコメントを記載して学生に返却する。

合格基準：チーム医療入門ワークショップに参加し、アンケートに回答している。

振り返りレポートのルーブリック評価尺度すべてが(A)あるいは(B)であること。

と。

8. 早期臨床体験実習(学内)実施にあたり各分野の担当教員が行うこと

早期臨床体験実習(学内)では、担当する各分野・卒後臨床研修センターにおいて、実務担当者、診療現場体験(学内)担当者、振り返りレポート評価担当者を定める。これらの担当は複数で分担、一人ですべて担当いづれも可とする。診療現場体験担当者は、大学教育に

生加速プログラム「SIH道場～アクティブ・ラーニング入門～」の実践型FDへの参加実績として登録するため、前年度までに担当していない教員が含まれていることが望ましい。

1) 実務担当者が行うこと

- (1) 診療現場体験(学内)担当者氏名・連絡先、振り返りレポート評価担当者氏名・連絡先、診療現場体験の内容(中央診療部門の見学が集中することを避けるため他分野との調整が必要であり、その場所・時間を必ず明記)、学生への連絡事項について、「早期臨床体験実習分野担当者・連絡事項記入ファイル(OO分野)」に記入し、学務課第一教務係(isygakumulk@tokushima-u.ac.jp)へ、電子メールで提出する(締切：4月18日)。

* 入力用ファイルは電子メール添付で実務担当者に送信します。

- (2) 診療現場体験担当者、振り返りレポート評価担当者に早期臨床体験実習を含めたSIH道場の概要・実施方法を説明する。その実施報告を「SIH道場FD・説明会に参加できない教員の対応報告書(OO分野)」に記入し、学務課第一教務係(isygakumulk@tokushima-u.ac.jp)へ電子メールで提出する(締切：5月9日)。

* 説明用資料、対応報告書は電子メール添付で実務担当者に送信します。

2) 診療現場体験(学内)担当者が行うこと

- (1) 診療現場体験当日の学生指導(当日の身だしなみや健康状態のチェックを含む)

* 原則として見学型実習スタイルとする。一方的なレクチャースタイルのみとしない。

* 学生への事前説明の内容は「診療エリアとしての蔵本キャンパスでの行動規範(病院内ル)」参照。

* 身だしなみをチェックし不適切な場合は実習参加不可とする。

* 37.5度以上の発熱等、感染症状がある場合は実習参加不可とする。

- (2) 学生が提出する「診療現場体験リフレクションシート」(紙媒体)へフィードバックコメントを記載し、学務課第一教務係に提出(締切：6月17日)。

* 学生とのシートのやり取りは学務課第一教務係が担当。

* 担当教員にはリフレクションシートが6月5日頃に届く予定。

- (3) eポートフォリオ(Maharaシステム)に授業実践の振り返りを入力する(締切：6月17日)。

* この入力をもって大学教育再生加速プログラム「SIH道場～アクティブ・ラーニング入門～」の実践型FDへの参加・受講完了となります。

* 「Maharaで振り返る方法(SIH道場授業担当者用)」、「Mahara操作マニュアル補足

資

料(診療現場体験担当教員用)」を参照

- (4) 早期臨床体験実習診療現場担当者対象アンケートに回答し、第一教務係へ提出する(締切：6月17日)。

* 担当教員にはリフレクションシートと一緒にアンケート用紙が6月5日頃に届く予定。

- (5) SIH道場についての教員対象アンケート(web)に回答する(総合教育センターから電子メールで依頼があります)。

3) 振り返りレポート評価担当者が行うこと

(1) 学生が提出する「早期臨床体験実習振り返りレポート」(紙媒体)に対して、「ルーブリック評価シート(文章力)」(紙媒体)にフィードバックコメントと評価を記載し、学務課第一教務係に提出(締切:6月24日)。

* 学生とのレポートおよび評価表のやり取りは学務課第一教務係が担当。

* 担当教員にはレポートが6月12日頃に届く予定。

添付資料:

- ・SIH道場の概要(ボンチ絵)
- ・早期臨床体験実習分野担当者・連絡事項記入ファイル(〇〇分野)
- ・SIH道場FD・説明会に参加できない教員の対応報告書(〇〇分野)
- ・診療エリアとしての蔵本キャンパスでの行動規範(病院ルール)
- ・診療現場体験リフレクションシート
- ・Maharaで振り返り方法(SIH道場授業担当者用)
- ・Mahara操作マニュアル補足資料(診療現場体験担当教員用)
- ・早期臨床体験実習振り返りレポート
- ・早期臨床体験実習ルーブリック評価表(文章力)A4縦

SIH道場必須項目設計表（概要のみ）

	到達目標	評価方法・基準	内容		授業実施枠	
			事前学習	授業		
① 早期体験	<p>早期体験として医科栄養学科の8研究室のいずれかかを訪問し、研究室の見学や先生・先輩の話を聞く。</p> <p>SIH道場（チーム医療入門WS）における講演を聴講しワークショップに参加する。</p> <p>以上を通じて、医科栄養学科における各自の学習目標を考えることができるようになる。</p>	<p>リフレクションシートと振り返りレポートで評価する。</p>	<p>研究室訪問前に研究室のHPなどを閲覧する。</p> <p>WSテーマに関する資料を閲覧する。</p>	<p>eポートフォリオに学んだことを記入する。</p> <p>チーム医療入門WSの講演の聴講ならびにWSに参加する。</p>	<p>早期体験2019年9月27日9:00-12:00</p> <p>SIH道場「チーム医療入門WS」2019年9月27日13:00-14:20</p>	
文章力	<p>プロダクトの作成において、他の班員と協力して作成する。KJ法で出た意見をまとめて論理的に因果関係を説明することができる。</p>	<p>レポートおよびeポートフォリオ（振り返りレポート）で評価する。</p>	<p>文章力のビデオ教材（4つの観点）「主張の根拠付け」・「構成の明快さ」・「文章表現の適切さ」・「出典表示など」の視聴。</p>	<p>・WS終了後に今回のテーマについて自分の意見をレポートとしてまとめ、eポートフォリオに登録する。</p>	<p>SIH道場「チーム医療入門WS」2019年9月27日14:30-17:00</p>	
② プレゼンカ	<p>効果的なプロダクトのプレゼンテーションを行うためににツールを用いて説明することができる。また、他の班のプレゼンテーションを聞いて討議に参加することができる。</p>	<p>グループワーク評価表を用いる（班全体の評価とする）。</p>	<p>プレゼンテーション力のビデオ教材（3つの観点）「内容の構成」・「姿勢」・「視覚資料」の視聴。</p>	<p>3～4班合同でプロダクトをもとに各班の発表と討議を行う。</p>	<p>eポートフォリオに学んだことを記入する。</p> <p>チーム医療入門WSの講演ならびにWSに参加する。</p>	<p>SIH道場「チーム医療入門WS」2019年9月28日14:30-17:00</p>
協働カ	<p>WSを能動的に進めることができる。WSに積極的に参加することができる。他学部・学科の学生とコミュニケーションを取ることができる、また協力してプロダクトを作成することができる。</p>	<p>グループワーク評価表を用いる（班全体の評価とする）。</p>	<p>KJ法のビデオを視聴する。</p>	<p>講演内容を参考にしてWSのテーマについて班単位でWSを行い、プロダクトを作成する。</p>	<p>eポートフォリオに学んだことを記入する。</p> <p>チーム医療入門WSの講演ならびにWSに参加する。</p>	<p>SIH道場「チーム医療入門WS」2019年9月28日14:30-17:00</p>

3. 医学部医科栄養学科

SIH道場プログラム設計評価シート

要素	項目	チェック	学生の学修効果・成果	改善したい点	次年度に向けた対応
早期体験	① 設計した到達目標を学生は達成することができた	<input checked="" type="checkbox"/> はい、どちらでもない、いいえ、設計していない	専門学習への興味関心がとても高まった、どちらかといえば高まったがそれぞれ19%、74%で合わせて93%であり、専門分野の学修に対してどう感じるのかという点では非常に効果が高かったと考えられる。また早期体験のための事前学習に積極的に取り組んだ者どどちらかといえは積極的に取り組んだ者がそれぞれ10%と38%であり、このことから早期体験を意義あるものにするために事前学習は一定の効果があったと考えられる。	指導にあたった教員からは、どうすればよいかかわからないという意見が一部にあった。	指導教員にこのプログラムの趣旨を十分に事前説明する必要がある。
	② 設計した内容は、専門分野の学修に対して学生を動機づけるという点で効果的だった	<input checked="" type="checkbox"/> はい、どちらでもない、いいえ、設計していない	レポート等の学術的意義を教員に必要を準備や基本的なルールをよく理解できた者、どちらかといえは理解できた者が、それぞれ17%、55%であった。	ある程度の理解はできたと考えられるが、より一層の理解のためにはさらなる訓練または到達目標の再設定が必要と考えられる。	より一層の学修効果を上げるために、到達目標の設定と共に、明確な基準説明が必要である。
	③ 学生に課した事前学習は、学生の早期体験を意義あるものにするために効果的だった	<input checked="" type="checkbox"/> はい、どちらでもない、いいえ、設計していない	グループを代表して各グループ数名ずつ発表を行った。準備・発表態度等が良かった。丁寧に説明できたので、理解できた者および理解できた者がそれぞれ10%、64%であった。	今後は、より多くの者がよく理解できるようにするため、より多くの者が複数回発表を行える体制が必要だと考えられる。	発表の学習方法には、より深く回数を減らして発表することと、ある程度の準備で回数を多く発表する方法がある。まず、回数はおさなくてよい。発表者が発表する機会を作る方向で検討が必要であると考えられる。
ラーニングスキル 文章力	④ 設計した到達目標を学生は達成することができた	<input checked="" type="checkbox"/> はい、どちらでもない、いいえ、設計していない	他者と協力して取り組む際の留意点をよく理解した者、理解した者がそれぞれ38%、60%であった。特に他者と協力してまた意見を交わしながら発表資料を作成していく上で、コミュニケーション能力の重要性を再認識している者が非常に多かった。	長く達成できたと考えられる。	今回よく達成できた理由として、今回のテーマが学生や社会の興味にマッチしていたことも考えられる。次年度も学生や社会にマッチしたテーマ設定が必要であると考えられる。
	⑤ 設計したアクティビティ・ラーニング型授業は、学生の学修にとって効果的であった	<input checked="" type="checkbox"/> はい、どちらでもない、いいえ、設計していない	振り返りの意義について、よく理解した者と理解した者が、それぞれ24%、54%であった。またアクティビティ・ラーニングの重要性を非常によく理解した者と理解した者が、それぞれ24%、64%であった。このことから、振り返りに関する学生の理解は十分であったと考えられる。	学生の振り返りレポートに対する教員のフィードバックは、それぞれ担当の教員が個別に行った。そのため教員のフィードバック状況がお互いによりわかりやすい点も問題点として挙げられる。	学生の振り返りレポートに対する教員のフィードバックを全体で共有できるように検討する。
	⑥ 学生に課した授業外学修（事前、または事後）は、学生の学修にとって効果的であった	<input checked="" type="checkbox"/> はい、どちらでもない、いいえ、設計していない	全体として、91%の者が今回のSIH道場の教育プログラムに一定の満足感を得ている。一方で文章力とプレゼン力を向上させるプログラムに関する、より一層の理解が必要であると考えられる。	文書力とプレゼン力に関して、より多くの機会を提供する必要があると考えられる。学生のSIH道場に対する理解と共に教員の理解が深れている感がある。教員に対しての教育・研修も必要であると考えられる。	今回得られた結果で良い点をさらに継続する必要がある。テーマ設定が面白いとすべての成果が得られにくいことから、今後テーマ設定の検討は非常に重要であると考えられる。教員に対してのアクティビティ・ラーニングに対する理解促進のために、SIH道場の担当コーディネーターを固定せずに、できるだけ多くの異なる教員が携わるように体制を整備していきたい。
ラーニングスキル プレゼン力	⑦ 学生の評価は、ルーブリック等で基準を明確にして行った	<input checked="" type="checkbox"/> はい、どちらでもない、いいえ、設計していない			
	⑧ 設計した到達目標を学生は達成することができた	<input checked="" type="checkbox"/> はい、どちらでもない、いいえ、設計していない			
	⑨ 設計したアクティビティ・ラーニング型授業は、学生の学修にとって効果的であった	<input checked="" type="checkbox"/> はい、どちらでもない、いいえ、設計していない			
ラーニングスキル 協働能力	⑩ 学生に課した到達目標を学生は達成することができた	<input checked="" type="checkbox"/> はい、どちらでもない、いいえ、設計していない			
	⑪ 設計したアクティビティ・ラーニング型授業は、学生の学修にとって効果的であった	<input checked="" type="checkbox"/> はい、どちらでもない、いいえ、設計していない			
	⑫ 学生に課した授業外学修（事前、または事後）は、学生の学修にとって効果的であった	<input checked="" type="checkbox"/> はい、どちらでもない、いいえ、設計していない			
振り返り	⑬ 振り返りの意義や方法について、学生に説明する、またはテキストの利用などで理解を促した	<input checked="" type="checkbox"/> はい、どちらでもない、いいえ、設計していない			
	⑭ 各授業（体験を含む）の最後やSIH道場の終了時に学生が振り返る時間を取付けた	<input checked="" type="checkbox"/> はい、どちらでもない、いいえ、設計していない			
	⑮ 学生が振り返った内容について教員がフィードバックを行った	<input checked="" type="checkbox"/> はい、どちらでもない、いいえ、設計していない			
総合	⑯ 実施したSIH道場プログラムを総合的に見て、今年度の授業設計は、学生が到達目標を達成するために、{5.十分であった、4.概ね十分であった、3.ふつ、2.やや不十分であった、1.不十分であった}。	5 (4)・3・1			

3.医学部医科栄養学科

平成31年度 医学部医学科栄養学科 SIH 道場 授業詳細

- 目的：1) 医療現場で働く各専門職種を目指す学生同士の相互理解を深めることで、将来、共に円滑なチーム医療推進に必要な基盤を形成するための動機付けとする。
- 2) 医療人を目指す学生として準備すべき課題、今後の学生生活で学ぶべき課題、修得すべき課題を、他学部・他学科の学生と共に考え、お互いから学ぶことで、医療人としてのプロフェッショナルナリズムの醸成を図る。

■到達目標：

- ① チーム医療の基盤を形成することができる。
- ② 研究室体験やチーム医療入門ワークショップを通じて、大学における各自の学習課題を発見する。
- ③ ノンテクニカルスキル（コミュニケーション力）を育成することができる。
- ④ プロダクトの作成を通じて、協働力を養う。KJ 法を用いて意見をまとめ、論理的に因果関係を説明することができる。
- ⑤ 効果的なプロダクトのプレゼンテーションを行うために、ツールを用いて説明することができる。
- ⑥ また、他の班のプレゼンテーションを聞いて討議に参加することができる。
- ⑦ ワークショップに積極的に参加し、他学部・他学科学生とコミュニケーションを取りながら、能動的に参加し、協力してプロダクトを作成することができる。
- ⑧ 研究室体験やチーム医療入門ワークショップで得た体験や気づきを振り返り、「SIH 道場振り返りレポート」としてeポートフォリオシステムへ入力することができる。
- ⑨ 自身の学習活動を振り返る習慣を身につけることができる。
- ⑩ 将来の進路やビジョンについて考えることができる。

■成績評価：「SIH 道場最終レポート」を以下の合格基準をもとに評価する。

【SIH 道場最終レポートの内容】

- 以下の1)～4)を含む「SIH 道場最終レポート」を作成すること。
- 以下の1)～4)を含むこと。レポートは手書きでも構わないが、電子媒体での作成・提出を推奨する。
- 1) 研究室体験やチーム医療入門ワークショップを通じて学んだことと、大学における今後の各自の学習課題についてレポートを作成する。（文章力・早期体験の目標に対応）
 - ・体験学習で学びたいと考えたこと（事前）、実際に学んだこと（事後）、今後の目標（大学の各自の学習課題）の3点についてA4判1枚程度のレポートを作成する。
 - ・ルーブリックの「文章力」に該当するすべての項目について、自己評価する。
 - 2) チーム医療入門ワークショップにおけるプロダクトの作成（協働力の目標に対応）
 - ・ルーブリックの「協働力」に該当するすべての項目について、自己評価する。
 - 3) チーム医療入門ワークショップにおける学習成果発表（プレゼン力の目標に対応）
 - ・ルーブリックの「プレゼン力」に該当するすべての項目について、自己評価する。

【SIH 道場レポートの合格基準】

以下の評価基準のうち、「必須」と書いてある項目をすべて満たすこと。

- ・ 大学入門講座、研究室体験、チーム医療入門ワークショップの全てに出席すること。（必須）
- ・ 体験学習で学びたいと考えたこと（事前）、実際に学んだこと（事後）、今後の目標（大学で各自の学習課題）の3点が記載されていること。（必須）
- ・ eポートフォリオにワークショップにおける学習の成果としてのプロダクトの写真が提出されていること（必須）
- ・ 「自己評価」と「チームメンバーからの評価（平均点）」が記入された「協働力」、「プレゼン力」、「文章力」のルーブリックが添付されていること。（必須）
- ・ 上記ルーブリックの「協働力」「プレゼン力」「文章力」それぞれの総合点が60以上であること。（必須）
- ・ その他、レポートに必要なと思う内容（任意）

■授業内容

(1) SIH 道場（新入生オリエンテーション）

①学科別オリエンテーション・SIH 道場

2019年4月2日（火）8時30分～12時

(目的) 大学における学習・生活について学ぶ

(概要)

- ・ 学科長挨拶
- ・ 教務委員挨拶
- ・ 医科栄養学科教員挨拶
- ・ 教養教育科目の履修について
- ・ 学生生活に関する諸注意

②医学部合同オリエンテーション

2019年4月5日（木）13時30分～16時

(目的・概要) 大学における学習・生活について学ぶ

③学科別オリエンテーション

2019年4月3日（水）13時～15時30分

(目的・概要) ・大学における単位履修登録について

④医学科・医科栄養学科合同オリエンテーション

2019年4月4日（木）8時45分～12時

(目的) 大学における情報・研究倫理に関する基本ルールを学ぶ

(概要)

- ・ 8時45分～9時15分 情報セキュリティについて
- ・ 9時15分～9時45分 Student Lab について
- ・ 10時～11時 動物実験講習会

・11時～12時 遺伝子操作講習会

⑤医学部合同新入生研修 (SIH 道場)

2019年4月6日(土) 8時30分～13時

(目的・概要) 大学生活における諸注意と医学部新入生、上級生、教員相互の親睦を図る。

(2) SIH道場・早期体験学習 (研究室体験)

日時：2019年9月27日(金) 9時～12時30分

場所：栄養学棟 各分野研究室

目的・概要：医科栄養学科1年次のグループ担任が所属する研究室において、研究内容の説明、卒業研究や大学院での研究室生活について卒論生・大学院生より説明を受けると共に、実際の研究現場を見学する。栄養学の最先端の研究活動に触れることで、学部の間で学ぶべきこと、自身の学習目標、将来のビジョンを考える。

①事前学習

各分野のホームページで研究室の概要・活動内容などについて調べる。

②研究室体験

各分野所定のプログラムによる。

- ・分野の研究概要説明
 - ・卒論生・大学院生による研究生活の説明
 - ・研究室見学
 - ・懇談会(振り返りワークショップ)
- ③事後学習
- ・振り返りレポート (SIH道場・チーム医療入門ワークショップのレポートに含めること)

(3) SIH道場・チーム医療入門ワークショップ

日時：2019年9月27日(金) 13時00分～17時

場所：蔵本キャンパス内

対象：蔵本地区1年生 約450名

目的：医療現場で働く各専門職種を目指す学生が相互理解し、将来、共に円滑なチーム医療を行うための基盤を形成する動機付けとなる。医療人を目指す学生として、今後の学生生活で学ぶこと、修得することを、他学部・学科の学生と共に考え、お互いに学ぶことで、医療人としてのプロフェッショナルリズムの醸成を図る。

概要：医療安全、コミュニケーション、災害医療などのテーマで講演を拝聴し、テーマに沿ったグループワーク(ディスカッション)を行い、プロダクトを作成・発表・討議する。

テーマ：未定

タイムスケジュール：未定

※詳細は、医療教育開発センターによる授業詳細参照すること。

SIH道場必須項目設計表（概要のみ）

	到達目標	評価方法・基準	内容		授業実施枠
			事前学習	授業	
① 早期体験	看護学の分野で活躍する看護職の活動の現場を知るとともに、大学における学習方法について学び、専門職への意欲を持つことができる	レポートの提出	反転授業コンテンツ「SIH道場とは」の視聴	・「大学での学び（論文の書き方・プレゼンテーション）」の講義を行う。 ・「先輩からのメッセージ」として、現場で活躍している看護師・保健師・助産師・養護教諭および大学院生をゲスト・ティーチャーに招き、新入生に対して講演及びディスカッションを行う。	保健学科大学入門科目群「大学入門講座」の中で実施
文章力	大学におけるレポート作成の方法を知るとともに、論理的な文章を構成することができる	提出物は、ルーブリックを用いて行う	反転授業コンテンツ「文章力」の視聴	・レポートの書き方についての講義を行う。 ・ルーブリックを用いたピア評価を行う。	保健学科大学入門科目群「大学入門講座」の中で実施
② プレゼンカ	効果的なプレゼンテーションを行うための基本的な手法・ツール等を1つ以上説明することができる。また、プレゼンテーションの評価ができる	プレゼンテーションに対する学生間の相互評価	反転授業コンテンツ「プレゼンテーション力」の視聴	全体でテーマを設定し、コンテンツ、テックニク、ツールの3要素を活用したプレゼンテーションを実施する。また、学生同士が相互に評価を行う。	保健学科大学入門科目群「大学入門講座」の中で実施
協働カ	他者と共同して1つの課題に取り組むことができる	e-ポートフォリオに記入した内容の中で、他者と共同した成果を1つ以上説明している。	反転授業コンテンツ「協働カ」の視聴	医療・保健分野のトピックスについてKJ法ワークを実施し、ルーブリックを用いたピア評価を行う。	保健学科大学入門科目群「大学入門講座」の中で実施
				③ 学習の振り返り レポートをe-ポートフォリオに記入する。教員はコメントをフィードバックする。	保健学科大学入門科目群「大学入門講座」の中で実施

4. 医学部保健学看護学専攻

SIH道場プログラム設計評価シート

3.医学部保健学科看護学専攻

要素	項目	チェック	学生の学修効果・成果	改善したい点	次年度に向けた対応
早期体験	①設計した到達目標を学生は達成することができた	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> どちらともいえない <input type="checkbox"/> いいえ 設計していない	授業「先輩からのメッセージ」で看護師、助産師、保健師、養護教諭、大学院生として活躍している先輩が仕事内容や実践の様子を聞くことにより、学生が将来のイメージを持てるように試みている。聴講後、資格取得の方法など、学生から各教員に質問に行くなど、学生の意欲の向上、早期の動機づけにつながったと考える。	特になし。	同様の授業の継続を行う。
	②設計した内容は、専門分野の学修に対して学生を動機づけるという点で効果的だった	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> どちらともいえない <input type="checkbox"/> いいえ 設計していない			
	③学生に課した事前学習は、学生の早期体験を豊かめるものにするために効果的だった	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> どちらともいえない <input type="checkbox"/> いいえ 設計していない			
ラーニングスキル 文章力	④設計した到達目標を学生は達成することができた	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> どちらともいえない <input type="checkbox"/> いいえ 設計していない	テキストと教員が作成したレポート作成の要点について解説し、更に事前課題としてコンテンツの複読を課した。結果、レポート作成における形式や文章の記述力に関して、一定の効果はあったと考える。	学生へのリプレクシジョンのため、レポートの添削内容、評価基準を飛ぶノートに返却したが、返却までに時間を要したため学生がどの程度活用できたかは不明である(返却までに時間を要する場合は、直接返した方が手元に渡る分、学生がきちんと目を通す率は高いかもしれない)。この点については十分な成果が得られるとはいえない。	教員からのフィードバックの工夫について検討する。
	⑤設計したアクティビティ・ラーニング型授業は、学生の学修にとって効果的であった	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> どちらともいえない <input type="checkbox"/> いいえ 設計していない			
	⑥学生に課した授業外学修(事前、または事後)は、学生の学修にとって効果的であった	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> どちらともいえない <input type="checkbox"/> いいえ 設計していない			
ラーニングスキル プレゼン力	⑦学生の評価は、ルーブリック等で基準を明確に行っていた	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> どちらともいえない <input type="checkbox"/> いいえ			
	⑧設計した到達目標を学生は達成することができた	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> どちらともいえない <input type="checkbox"/> いいえ 設計していない	いずれのグループの発表も手元の原稿を読むだけでなく、講義手帳が引き込まれるような工夫が随所にみられるプレゼンを行うことができた(PPTのアニメーションの工夫、劇やロールプレイングを行う、聴講者参加型のプレゼンを行うなど)。また、プレゼンの時間管理や質疑応答も適切に対応できていた。学生からは、プレゼンに関する学びや充実感が向えるコメントがあり、十分な学修効果があったと考える。	特になし。	特になし。
	⑨設計したアクティビティ・ラーニング型授業は、学生の学修にとって効果的であった	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> どちらともいえない <input type="checkbox"/> いいえ 設計していない			
協働力	⑩学生に課した授業外学修(事前、または事後)は、学生の学修にとって効果的であった	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> どちらともいえない <input type="checkbox"/> いいえ 設計していない			
	⑪学生の評価は、ルーブリック等で基準を明確に行っていた	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> どちらともいえない <input type="checkbox"/> いいえ			
	⑫設計した到達目標を学生は達成することができた	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> どちらともいえない <input type="checkbox"/> いいえ 設計していない	6名程度のグループを作成し、大学生活で起こりうる生活上の困難事例をもとに、問題点の抽出、対応にについて文脈を用いながら意見交換を行った。事例検討において話し合うポイントと役割についてオリエンテーションを行い、事前にコンテンツの視聴を指示した結果、各自が自分の役割を認識し、進行、時間管理など行うことができていた。また、お互いへの配慮や意旨の集約といったワーク上必要な行動も随所に見受けられ、協働力について十分な学修成果が得られたと考える。	特になし。	特になし。
振り返り	⑬振り返りの意義や方法について、学生に説明する、またはテキストの利用などで理解を促した	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> どちらともいえない <input type="checkbox"/> いいえ 設計していない			
	⑭各授業(体験を含む)の最後やSIH道場の終了時に学生が振り返る時間を設けた	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> どちらともいえない <input type="checkbox"/> いいえ 設計していない			
	⑮学生が振り返った内容について教員がフィードバックを行った	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> どちらともいえない <input type="checkbox"/> いいえ			
総合	⑯実施したSIH道場プログラムを総合的に見て、今年度の授業設計は、学生が到達目標を達成するために、(5、10分であった、4、概ね10分であった、3、5分、2、やや10分であった、1、10分であった)。	5 (4) 3・2・1			
	※その他、他の授業との接続・発展内容・授業運営等の課題がありましたらお書きください。				

平成31年度 医学部保健学科看護学専攻 SIH 道場 < 授業詳細表単発・イベント型 >

■ 目的： 徳島大学医学部保健学科看護学専攻の新生が、大学における学習について理解するとともに、自身の専門分野における先輩からの仕事や研究に関する講演を通して、興味関心を喚起し、徳島大学における学習・研究に対する動機づけを行う。また、学習の基本となる文章の書き方、プレゼンテーションの仕方、振り返りの仕方を学び、それらを自分自身で実践することで、大学における能動的な学習の基本となる知識、技能、態度を身につける。

■ 到達目標：

- (1) 自身の専門分野における現場と大学における学習について、関連させて説明することができる。
- (2-1) 論理的文章の作成・レポートの作成において、注意すべき点について1つ以上説明することができる。
- (2-2) 効果的なプレゼンテーションを行うための基本的な手法・ツール等を1つ以上説明することができる。
- (2-3) 他者と協同して1つの課題に取り組むことができる。
- (3) 自身の学習活動を振り返る習慣を身につけることができる。

■ 成績評価：

「医療人を目指す学生としての基本的マナーについて考える」を主題としたテーマでレポートを以下の合格基準をもとに評価する。

レポートは原則として、電子媒体での作成を推奨する。

個人レポート（文章力の目標に対応）

・体験学習で学んだことを踏まえて、「医療人を目指す学生としての基本的マナーについて考える」を主題にして A4判1枚程度のレポートを作成する。

・ルーブリックの「文章力」に該当するすべての項目について、自己評価する。

・提出日は、5月9日16時30分とする。

■ グループ分け

4月25日（木）からグループワークとする。グループは学生番号順で7名程度の人数

■ SIH 道場 個人レポートの合格基準

以下の評価基準のうち、「必須」と書いてある項目をすべて満たすこと。

・レポートの書き方に従い、「序論（はじめ）」、「本論」「終論（終わりに）」が書かれていること。

・引用・参考文献の表記が適切にされていること。

・「自己評価」と「文章力」のルーブリックが添付されていること。（必須）

・上記ルーブリックの「文章力」の総合点が6割以上であること。（必須）

・提出期限の遵守（必須）

・その他、レポートに必要だと考えられる内容（任意）

・教員のレポート採点は7月前半まで提出とする

■ 授業実施方法

日時	授業名	内容	担当者
4月1日 (月) 10:00～	● 学科別オリエンテーション ● 専攻別オリエンテーション①	大学で学ぶ意味 SIH 道場とは 学修設計とは	保健学科長 教務委員長 学生委員長 1年担当教員（友竹、岸田、田中、高橋（亜））
4月2日 (火) 9:00～	● 専攻別オリエンテーション②	ラーニングスキル（文章力） レポートの書き方についての講義 反転授業（文章力、協働、プレゼン）のコンテンツの見方の説明	教務委員 1年担当教員（友竹、岸田、田中、高橋（亜））
4月3日 (水) 9:00～	● 専攻別オリエンテーション③	SIH 道場について DVD視聴 事前課題やテーマの提示	教務委員 1年担当教員（友竹、岸田、田中、高橋（亜））
4月4日 (木) 9:00～	● 学科別オリエンテーション③ 先輩からのメッセージ 1～将来像のイメージ化～	体験学習 大学院に進学した先輩からのメッセージを聞いて質疑応答。	教務委員 1年担当教員（友竹、岸田、田中、高橋（亜））
13:00～	● 図書館ツアー	体験学習 3 班に分かれて、図書館の利用の仕方について学修する。	1年担当教員（友竹、岸田、田中、高橋（亜））
4月6日 (土) 8:40～	● 新入生研修	体験学習、ラーニングスキル（文章力、協働力、プレゼンテーション力）	教務委員 1年担当教員（友竹、岸田、田中、高橋（亜））
4月11日 (木) 15:30～ 16:30 C-23 教室	● 先輩からのメッセージ II ～将来像のイメージ～	大学病院で働いている看護師や助産師からのメッセージを聞き、自身の将来像を描く。質疑応答あり。	教務委員 1年担当教員（友竹、岸田、田中、高橋（亜））
4月18日 (木) 15:30～ 16:30 C-23 教室	● 先輩からのメッセージ III ～将来像のイメージ～	保健師、養護教諭からのメッセージを聞き、自分自身の将来像を描く。質疑応答あり。	教務委員 1年担当教員（友竹、岸田、田中、高橋（亜））

4月25日 (木) 15:30- 16:30 C-23 教室	● 医療人を目指す学生としての基本的マナーについて考える I	グループワーク① 身近な事例をグループで検討し、医療人を目指す学生としてのマナーや姿勢についてディスカッションする。	1 年担当教員 (友竹、岸田、田中、高橋 (亜))
5月9日 (木) 15:30- 16:30 C-23 教室	● 医療人を目指す学生としての基本的マナーについて考える II	グループワーク② グループワーク①をもとに、プレゼンテーションし、質疑応答を行う。 レポートの最終提出は、全員 5月9日の発表終了時とする。	1 年担当教員 (友竹、岸田、田中、高橋 (亜))

■ 授業実施計画

1) SIH 道場とは

【概要】保健学科大入学入門講座として行われている学科別ならびに専攻別オリエンテーションにおいて、SIH 道場についての概要を説明する。その際、事前学習に関する内容 (反転授業コンテンツ) についても説明する。

2) ラーニングスキル (レポートの書き方) (4月2日 (火) 実施)

【概要】体験学習などの際に提出するレポートの書き方について早期に指導する。

【準備】ビデオ教材「文章力を身につけよう」の視聴を指示

【事前学習】ビデオ教材「文章力を身につけよう」を視聴する

3) 体験学習 (先輩からのメッセージならびに図書館ツアー) (4月4日 (木) 実施)

【概要】保健学科の大入学入門講座である「先輩からのメッセージ」では、卒業学生が大学生生活の実態について説明する。学生は自分の今後の大学生生活について具体的にイメージし、目標を考える。また、図書館ツアーでは、自分たちが学習できる環境についても学ぶ。

【準備】新入生は各自が本学看護学専攻に進学した動機を文章化しておく。

【事前学習】大学生生活で自分が身につけたい能力を明らかにし、そのためにはどのような授業に最も関心を持っているか、シラバスを読み確認する。

4) 新入生研修 (4月6日 (土) 8:40~16:30 実施)

【概要】新入生研修の午後の部を利用して、ワークショップを行う。ワークショップでは、医療 (SNS)・情報モラルに関する身近なテーマについてグループワークを行い、グループごとにプレゼンテーションする。他のグループのプレゼンテーションを見て、各自がルーブリック表に従って評価する。本ワークショップを通して、医療に関する早期体験学習とともに、文章力、協働力、プレゼンテーション力といったラーニングスキルを獲得することを目的とする。

【準備】ビデオ教材「協働力」「プレゼンテーション力」の視聴を指示

【事前学習】ビデオ教材「協働力」「プレゼンテーション力」を視聴

【授業後】学生アンケートを実施して、来年度以降の参考とする

5) 「医療人を目指す学生としての基本的マナーについて考える」を主題としたグループワーク。協働・プレゼンテーション能力の育成 (4月25日~5月9日まで)

【概要】看護職を目指す学生が、体験学習「先輩からのメッセージ」などを参考に、自らの「医療人を目指す学生としての基本的マナーについて考える」についてまず個人で文献を用いて調べた後、グループでディスカッションをすることにより、他の学生の価値観を共有しながら、自分自身の考えを深める機会とする。併せて、ディスカッションの結果を、効果的に伝えるためのプレゼンテーション能力を養う機会とする。プレゼンテーションの相互評価及び、グループワークにおける自己評価を行う。

【準備】

①4月3日のSIH道場で概要、グループ分けを説明する。ビデオ教材の「文章力」「協働力」「プレゼン力」をみる。

②各グループで「医療人を目指す学生としての基本的マナーについて考える」のテーマ決定を伝える。③図書館ツアーでの文献の選び方を活用するように指導する。④レポートは5月9日 (木) 16時30分を期限とし、7月前半までにコメントを入れたレポートを「飛ぶノート」で学生のポートフォリオに返却する。

【事前学習】4月3日 (水) のSIH道場で概要、グループ分けを説明する。4月25日までにビデオコンテンツの

「文章力」「協働力」「プレゼン力」「プレゼン力」をみて自分の活動に生かす。「先輩からのメッセージ」を参考に看護職が行っていること、看護職に求められていることを明らかにしてプレゼンテーションに生かす。

【授業後】次年度の参考のため事後アンケートを実施する。プレゼンテーションや自己評価の結果を学生にフィードバックする。

■ 毎回の授業後に担当教員が行うこと

・担当クラスの学生が提出した「振り返りシート」へ一言コメントし、飛ぶノートでポートフォリオに飛ばす。

■ レポート提出終了後に担当教員が行うこと

1) 担当クラスの学生が提出したレポートの添削

・不合格者には「再提出要求」を出す。

・合格者には点数をつける。(100点満点)

2) 「グループディスカッション実施報告書」の提出

・所定のフォーマットに沿って作成・提出する。(フォーマット版、Word版、eポートフォリオ版の2つがある)

・提出先はeポートフォリオシステムとする。

3) 他の担当教員の「実施報告書」の閲覧と相互コメント

■ 終了後にコーディネーターが行うこと

・授業担当教員の「SIH 道場実施報告書」の提出状況のチェック。未提出者への催促。

5. 医学部保健学科放射線技術科学専攻

SIH道場必須項目設計表(概要のみ)

	到達目標	評価方法・基準	内容		授業実施枠
			事前学習	授業	
① 早期体験	専門分野における先端研究を体験し、大学における基礎学修の重要性を理解する。医療における放射線技術師の重要性や今後の役割を理解する。	講演プログラムを聴講し、そのレポートを提出する。早期体験の報告書、報告会でのプレゼンテーションを教員が評価する。	診療放射線技術師について事前学習を行う。研究室で実施している先端研究の内容を調査する。	診療放射線技術師の各専門分野の認定技術および専門技師の方々と演者の先生との間で議論を交わす。研究室(または教員グループ)に複数の学生を短期間研究室配属させて早期体験を行ったのち、発表会を実施する	担当教員の指定する時間帯に実施する。
	論理的文章を作成する際に注意すべきことを一つ以上説明することができる。	早期体験の内容をまとめられたレポートを提出させ、教員が評価する。	反転授業コンテンツ「レポートの書き方入門」の視聴。	短期研究室体験における指導を通して文章方向上を図る。	SIH道場の授業枠内で実施する。
② プレゼンカ	効果的なプレゼンテーションを行うための基本的な技法を一つ以上説明することができる。	報告会でのプレゼンテーションを教員が評価する。	反転授業コンテンツ「効果的なプレゼンテーションの仕方」の視聴	短期研究室体験における指導を通してプレゼンテーション能力向上を図る。	SIH道場の授業枠内で実施する。
	他者と協働して課題に取り組むことができる。	早期体験期間中の学習状況を配属先の教員が評価する。チーム医療入門ワークショップの取り組みを評価する。	反転授業コンテンツ「アイデアの発想・収束(KJ法)」の視聴。	短期研究室配属で協働作業を体験させ、課題解決のための協働力の重要性を認識させる。	SIH道場の授業枠内およびチーム医療入門(IPE)ワークショップで実施する。
注意点	学生が授業を通して何ができるようになるのかについて具体的に明記する。明記の仕方として「〇〇できる」と表現すると良い。	反転授業の形式で設計し、コンテンツを使用することを推奨する。	eポートフォリオを活用し、学生と教員間のコメントのやり取りを行う。	「①早期体験のように既存の授業で置き換えることも可能です。」	

SIH道場プログラム設計評価シート

5. 医学部保健学科放射線技術科学専攻

要素	項目	チェック	学生の学修効果・成果	改善したい点	次年度に向けた対応
早期体験	①設計した到達目標を学生は達成することができた	はい	研究室の早期体験・短期訪問を通じて基礎学問と臨床応用の関係に触れることができ、今後の学習意欲が増したと感じている。基礎学修の大事さを実感してもらった点は大きな成果である。	小グループに分けることにより、短期研究室訪問の体験内容の差が生じている点は改善する必要があると感じている。	短期研究室訪問の際の担当教員間の到達目標をある程度足並みを揃えるための事前の打ち合わせを行うと良い。
	②設計した内容は、専門分野の学修に対して学生を動機づけるという点で効果的だった	はい			
	③学生に課した事前学習は、学生の早期体験を意欲あらしめるために効果的だった	どちらともいえない			
ラーニングスキル 文章力	④設計した到達目標を学生は達成することができた	どちらともいえない	早期体験の報告書及び感想を通じて、文章の書き方についての指導が個別に与えられることができたため、学生の文章力の向上に役立ったのではないと思う。	特になし。	学生へのフィードバックが短期研究室訪問の担当教員によって異なるため、これも足並みを揃える検討が必要。
	⑤設計したアクティビティ・ラーニング型授業は、学生の学修にとって効果的であった	はい			
	⑥学生に課した授業外学修（事前、または事後）は、学生の学修にとって効果的であった	課していない			
ラーニングスキル プレゼン力	⑦学生の評価は、ルーブリック等で基準を明確にして行った	いいえ	グループ毎に行った早期体験の内容を、他の学生に対してプレゼンテーションすることをより、聴衆に受け取り方を意識した発表の体験ができたことは成果の1つである。また、多くの質問がなされるように仕向けたことにより、実際に多くの質問が活発に行われたこともまた、大きな成果の1つであった。	特になし。	わからないことがあれば積極的に質問することとを当たり前になる環境づくりを常に心がける。
	⑧設計した到達目標を学生は達成することができた	はい			
	⑨設計したアクティビティ・ラーニング型授業は、学生の学修にとって効果的であった	はい			
ラーニングスキル 協働能力	⑩学生に課した授業外学修（事前、または事後）は、学生の学修にとって効果的であった	課していない	短期研究室訪問において小グループに分けて協働する機会を与えたことで、課題に対して協働する体験をすることができた。	特になし。	特になし。
	⑪学生の評価は、ルーブリック等で基準を明確にして行った	いいえ			
	⑫設計した到達目標を学生は達成することができた	はい			
ラーニングスキル 協働能力	⑬設計したアクティビティ・ラーニング型授業は、学生の学修にとって効果的であった	はい	報告書の提出により、SIH道場で自らの活動について整理できたものと思う。	特になし。	特になし。
	⑭学生に課した授業外学修（事前、または事後）は、学生の学修にとって効果的であった	課していない			
	⑮学生の評価は、ルーブリック等で基準を明確にして行った	いいえ			
振り返り	⑯振り返りの意義や方法について、学生に説明する、またはテキストの利用などで理解を促した	どちらともいえない	6-9月の期間に訪問先に応じてフレキシブルに短期研究室訪問を行うことにしたために、研究室と学生との調整により時間が確保できるようになった。	短期研究室訪問の際の担当教員間の考えのばらつきが残っており、学生に対して均てん化できるように改善が必要と思われる。	短期研究室訪問の際の担当教員間の事前打ち合わせは今後検討すると良い。
	⑰各授業（体験を含む）の最後やSIH道場の終了時に学生が振り返る時間を設けた	はい			
総合	⑱学生が振り返った内容について教員がフィードバックを行った	いいえ	4		
	⑲実施したSIH道場プログラムを総合的に見て、今年度の授業設計は、学生が到達目標を達成するために、(5、10分であった。4.概ね十分であった。3.ふつう。2.やや不十分であった。1.不十分であった。)				

(案) 平成 31 年度 SIH 道場 授業詳細
～放射線技術科学専攻「短期研究室体験」～

■ **目的**： 本学放射線技術科学専攻新入生が大学における学修について理解するとともに、自身の専門分野における先端研究の体験を通して、興味関心を喚起し、徳島大学におけるその後の学修・研究に対する動機づけを行う。また、学修の基本となる文章の書き方、プレゼンテーションの仕方、協働の仕方および質疑応答・議論の仕方を学び、体験することで、大学における学修の基本となる知識、技能、態度の向上を図る。

- **到達目標**：
- (1) 先端研究を行う上での学部における基礎学修の重要性を理解する。
 - (2) 医療における専門分野の重要性を理解する。
 - (3) 自分の考えを論理的に説明できるようにする。
 - (4) 課題・問題について、その本質を見抜くための行動・思考を獲得する。
 - (5) 他者の意見を適切に理解し、議論することができるようになる。
 - (6) 課題に対して、他者と協力して取り組むことができるようになる。

■ **成績評価**： SIH 道場体験学習の一環として行われる短期研究室体験で学んだ内容を報告書及び SIH 道場の感想を提出させ、教員が評価する。報告会でのプレゼンテーションとディスカッションにより、プレゼンテーション力、論理力、協働力、ディスカッション力の評価を教員が評価する。

■ **授業実施方法**：

日時	授業名	内容	担当
4月5日(金) 9:00～11:00	保健学科共通オリエンテーション	先輩からのメッセージ	保健学科教務委員長
4月6日(土) 13:00～17:00	新入生研修	午前は学生生活や行動規範に関する講義、午後はグループディスカッションを中心とした研修	吉永哲哉・河野理 他
4月25日(木) 8:30～17:00	教育プログラム	各分野の専門技師から見た教育プログラム～将来のエキスパートを目指す“夢”をもって学ぼう～	吉永哲哉・富永正英 他
4月11日(木) 15:30～16:30	SIH 道場	SIH 道場短期研究室体験の概要説明	授業設計コーディネーター(芳賀昭弘)
5月9日(木) 15:30～16:00		放射線理工学分野紹介	阪間 稔・河野理

5月9日(木) 16:00～16:30	医用画像機器工学分野紹介		吉永哲哉・児島雄志
5月16日(木) 15:30～16:00	医用画像情報科学分野紹介		芳賀昭弘・金澤裕樹
5月16日(木) 16:00～16:30	医用理工学分野紹介		森田明典・西山祐一
5月23日(木) 15:30～16:00	医用画像解析工学分野紹介		富永正英・高尾正一郎
5月23日(木) 16:00～16:30	画像医学・核医学分野紹介		大塚秀樹・西原貞光
5月30日(木) 15:30～16:00	放射線治療工学分野紹介		生島仁史・佐々木幹治
5月30日(木) 16:00～16:30	短期研究室配属先の決定(各分野6名程度)		芳賀昭弘・金澤裕樹
	放射線理工学分野		阪間 稔・河野理
	医用理工学分野		森田明典・西山祐一
6月～9月までの期間に十数時間程度の短期研究室配属	短期研究室体験		吉永哲哉・児島雄志 芳賀昭弘・金澤裕樹 富永正英・高尾正一郎 大塚秀樹・西原貞光 生島仁史・佐々木幹治
9月25日(水) 15:00～18:00	短期研究室体験報告会	各研究分野でプレゼンテーション	専攻全教員
9月27日(金) 13:00～17:00	チーム医療入門	早期体験、ラーニングスキル(協働力、プレゼンテーション力)	医療教育開発センター

■ **授業実施計画**：

- 1) 保健学科共通オリエンテーション (4/5 (金) 9:00～11:00 実施予定)

【概要】保健学科大学入門講座として行われている保健学科共通オリエンテーションにおいて、大学生活全般に対するメッセージを先輩学生が紹介する。

2) 保健学科共通新入生研修 (4/6 (土) 8:35～実施予定)

【概要】午前は、医学部合同新入生研修として学生生活や行動規範に関する講義。午後は、保健学科・大学入門講座として行われている保健学科共通オリエンテーションにおいて、SIH道場の実践として、グループディスカッションを中心とした研修を行う。

3) 教育プログラム (4月25日(木) 8:30～実施予定)

【概要】診療放射線技師の社会的役割や各専門分野に必須の科目群(教育プログラム)を入学当初に理解することにより、将来像の明確化を図ると共に、大学における能動的学修への動機づけを高める。

【事前学習】診療放射線技師の各専門分野の認定技師及び専門技師について事前に調べる。

【授業後】プログラム(講演の聴講)後に学生からの感想文提出、教育プログラム教員による感想文の評価、学生へのフィードバック

4) SIH道場 (5月9日(木)～5月30日(木)の6講時(15:30～16:30)、計6回)

【概要】本学放射線技術化学専攻の各研究分野の最先端研究の内容を聴講および質問をさせることにより、興味関心を喚起し、徳島大学における学習・研究に対する動機づけを行う。また、短期研究室配属先は、学生自らの希望によって行う方法を採用する。

【事前学習】各研究分野の最先端研究内容について、各教員のホームページ等にアクセスすることによって調べておくこと。

【授業後】レポート(感想文)提出。

5) 短期研究室体験 (6月～9月まで、各研究室にて十教時間程度実施予定)

【概要】授業実施方法欄の各研究室テーマに配属学生が取り組む。短期研究室体験における指導を通して、文章力およびプレゼンテーション能力の向上を図るとともに、協働作業を体験させることで課題解決のための協働力の重要性を認識させる。

【事前学習】反転授業コンテンツ「アイデアの発想・収束(KJ法)」の視聴

6) 短期研究室体験報告会 (9/25(水)15:00～18:00実施予定)

【概要】各研究室の体験内容について、学生が配属グループごとにプレゼンテーションを行う。プレゼンテーションは配属学生が分担して口頭発表する全員参加形式とし、プレゼンテーション力と質問力を養う。教員は、発表内容、質疑応答内容に対して、適切な指導を行う。

【事前学習】反転授業コンテンツ「効果的なプレゼンテーションの仕方」の視聴

【授業後】体験内容に関する学生からの感想文提出、教員による感想文の評価、学生へのフィードバック、ポートフォリオ作成。

7) 蔵本地区チーム医療入門ワークショップ (9月28日(金)13:00～17:00実施予定)

医療教育開発センターによる授業詳細参照

6. 医学部保健学科検査技術科学専攻

SIH道場必須項目設計表(概要のみ)

	到達目標	評価方法・基準	内容		授業実施枠
			事前学習	授業	
① 早期体験	臨床検査分野における先端研究(現場)と大学における学習について、関連させて説明することができる。	レポート提出	<ul style="list-style-type: none"> SIH道場の理解 「先輩からのメッセージ」「臨床検査技師の仕事(仮、準備中)」の内容紹介。 関連HP等の紹介。 「大学院のすそ野」：HPなどで各分野の研究内容を調査しておく。 	<ul style="list-style-type: none"> SIH道場の目的・実施の流れとその対応(レポートの書き方、ルーブリックについての説明) 「先輩からのメッセージ」「臨床検査技師の仕事と医療における役割(一部は準備中)」を聞き、様々な臨床検査の分野を知り、自分の進路について考える。 「大学院のすそ野」において担当教員から大学院の研究概要を聞き、大学院を知り、将来の進路を考える。 	<ul style="list-style-type: none"> 保健学科「SIH道場」内で実施
	論理的な文章の作成・レポートの作成において、注意すべき点について1つ以上説明することができる。	ルーブリック評価表を用いる	「先輩からのメッセージ」で作成したレポートについて、ルーブリックを用いたピア評価、ポイント確認、ブラッシュアップ	<ul style="list-style-type: none"> 先輩からのメッセージ」で作成したレポートについて、ルーブリックを用いたピア評価、ポイント確認、ブラッシュアップ 	<ul style="list-style-type: none"> 保健学科「SIH道場」内で実施
② プレゼンカ	効果的なプレゼンテーションを行うための基本的な手法・ツール等を1つ以上説明することができる。	ルーブリック評価表を用いる	<ul style="list-style-type: none"> 反転授業ビデオコンテンツ「プレゼンテーション力」の動画を視聴 	<ul style="list-style-type: none"> 「保健学科新入生研修ワークショップ」にて実施したプレゼンテーションについて、ルーブリックを用いた相互評価を行う。 「チーム医療入門」で実施したプレゼンテーションについて、ルーブリックを用いたピア評価、ポイント確認、ブラッシュアップ 	<ul style="list-style-type: none"> 保健学科「SIH道場」内で実施
	他者と協同して1つの課題に取り組むことができる。	ルーブリック評価表を用いる	<ul style="list-style-type: none"> 反転授業ビデオコンテンツ「協働力」の動画を視聴 	<ul style="list-style-type: none"> 「保健学科新入生研修ワークショップ」にてKJ法ピア評価を実施し、ルーブリックを用いたピア評価を行う。 「チーム医療入門」にてKJ法ワークを実施し、ルーブリックを用いたピア評価を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 保健学科「SIH道場」内で実施
注意点	学生が授業を通して何ができるようになるのかについて具体的に明記する。明記の仕方として「〇〇できる」と表現すると良い。		反転授業の形式で設計し、コンテンツを使用することを推奨する。	<ul style="list-style-type: none"> アクティブ・ラーニング型授業で実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> 「①早期体験」のように既存の授業で置き換えることも可能。

SIH道場プログラム設計評価シート

6. 医学部保健学科検査技術科学専攻

要素	項目	チェック	学生の学修効果・成果	改善したい点	次年度に向けた対応
早期体験	①設計した到達目標を学生は達成することができた	はい・どちらともいえない・いい 設計していない	授業内容への満足度は良く、疑問点を持った学生から質問があった。将来の仕事内容を早期に学習することで、学生の意欲も上昇し、学修効果は良好と考える。	特になし	特になし
	②設計した内容は、専門分野の学修に対して学生を動機づけるという点で効果的だった	はい・どちらともいえない・いい 設計していない			
	③学生に課した事前学習は、学生の早期体験を意欲あらしめるために効果的だった	はい・どちらともいえない・いい 課していない			
ラーニングスキル	④設計した到達目標を学生は達成することができた	はい・どちらともいえない・いい 設計していない	レポート提出で学生個々の記述や考察に向上が認められ、学修効果はあったと思える。	特になし	レポートは引用元の表示をするように指導したい。
	⑤設計したアクティビティ・ラーニング型授業は、学生の学修にとって効果的であった	はい・どちらともいえない・いい 設計していない			
	⑥学生に課した授業外学修（事前、または事後）は、学生の学修にとって効果的であった	はい・どちらともいえない・いい 課していない			
文章力	⑦学生の評価は、ルーブリック等で基準を明確にして行った	はい・どちらともいえない・いい	学修効果は良好と考える。	特になし	特になし
	⑧設計した到達目標を学生は達成することができた	はい・どちらともいえない・いい 設計していない			
	⑨設計したアクティビティ・ラーニング型授業は、学生の学修にとって効果的であった	はい・どちらともいえない・いい 設計していない			
ラーニングスキル プレゼン力	⑩学生に課した授業外学修（事前、または事後）は、学生の学修にとって効果的であった	はい・どちらともいえない・いい 設計していない	グループ内での意見とりまとめが難しく、その困難を乗り越えるスキルを身につける必要性については気づきができなかったと思う。	特になし	特になし
	⑪学生の評価は、ルーブリック等で基準を明確にして行った	はい・どちらともいえない・いい			
	⑫設計した到達目標を学生は達成することができた	はい・どちらともいえない・いい 設計していない			
ラーニングスキル 協働力	⑬各授業（体験を含む）の最後やSIH道場の終了時に学生が振り返る時間を設けた	はい・どちらともいえない・いい 課していない	学生と教員との間で建設的な意見交換ができた。学生間での意見交換もあり、十分な効果があったと考える。	特になし	特になし
	⑭学生の評価は、ルーブリック等で基準を明確にして行った	はい・どちらともいえない・いい			
	⑮振り返りの意義や方法について、学生に説明する、またはテキストの利用などで理解を促した	はい・どちらともいえない・いい 課していない			
振り返り	⑯学生が振り返った内容について教員がフィードバックを行った	はい・どちらともいえない・いい	特になし	特になし	特になし
	⑰実施したSIH道場プログラムを総合的に見て、今年度の授業設計は、学生が到達目標を達成するために、5・10分であった。4.概ね十分であった。3.ふつう。2.やや不十分であった。1.不十分であった。	5・4・3・2・1			
	※その他、他の授業との接続・発展内容・授業運営等の課題がめられたら書くください。				
総合			特になし	特になし	特になし

平成31年度 SIH道場 医学部保健学科検査技術科学専攻 授業詳細

■目的

保健学科検査技術科学専攻新入生が大学における学修について理解するとともに、自身の専門分野である臨床検査学の先端研究や現場の早期体験を通して、臨床検査学への興味関心を喚起し、大学における学修・研究に対する動機づけを行う。また、学修の基本となる文章の書き方、協働力、プレゼンテーションの仕方、振り返りの仕方を学び、それらを実践することで、大学における能動的な学習の基本となる知識、技能、意欲、態度を身につける。

■到達目標

事前学習、体験授業（「先輩からのメッセージ」、**「臨床検査技師の仕事と医療における役割」**、「大学院のすすめ」）、振り返り学修（「将来像を描く」レポート作成）によって、臨床検査技師の役割を理解し、臨床検査学分野に対する興味関心を高め、自身の将来像について考える。またラーニングスキルを獲得（文章力：「将来像を描く」レポート作成、プレゼンテーション力：「新入生研修」「チーム医療入門」での発表、協働力：「新入生研修」「チーム医療入門」でのグループワーク）して、大学における学修の基本となる能動的学修の基礎を身につけ、学修を振り返る習慣をつけて、自ら学修を計画し実施できる大学生となる。

- 1) 臨床検査学の幅広い分野を知る。
- 2) 臨床検査技師の医療における役割を理解する。
- 3) 臨床検査学分野における大学院や科学的研究について知る。
- 4) 将来像について考える。
- 5) 文章力を身につけ、科学的なレポート作成ができる。
- 6) グループで協働して意見をまとめ、それをプレゼンテーションすることができる。
- 7) 学修を振り返り、学修計画を立てて実施することができる。

■成績評価

授業の出席、提出レポートにより評価する。
レポート評価に際してはルーブリック「文章力」により行う。
なおレポートは手書きでも構わないが、電子媒体での作成・提出を推奨する。

■授業実施方法

日時	授業名	内容	担当
4月3日(水) 9:00~12:00	SIH道場の理解(概略)の説明	SIH道場の目的・実施の流れとその対応(事前学習:協働のルール、レポートの書き方、ルーブリック評価についての説明)	濱野、櫻井
4月4日(木) 9:00~11:00 13:00~16:00	先輩からのメッセージ プレゼンテーションで発表力をつけよう (事前学習)	早期体験(1) 先輩からのメッセージを参考に、先輩に対して自己紹介を行う	保健学科教務委員、保健学科教官 (協力:大学院生2名)
4月6日(土)まで	保健学科新入生研修 ワークショップ	LMSを利用してビデオ教材の視聴(協働力、プレゼン力のビデオ教材)	濱野
4月6日(土) 8:35~16:30	将来像を描くために (SIHの時間他を利用した自己学習)	ラーニングスキル(協働力、プレゼンテーション力) 各自で情報収集(学修のてひき中に紹介したHPや各分野のHP等を閲覧、LMSを利用してビデオ教材の視聴(文章力、レポートの書き方のビデオ教材の視聴))	濱野、櫻井(協力:総合教育センター) 保健学科教官
5月末までに	臨床検査技師の仕事	早期体験(2) 徳島大学病院検査部の見学体験	濱野、櫻井、中尾
6月末までに		SIH道場のテキストやビデオ教材を利用した自己学習	
8月末までに	大学院のすすめ	早期体験(3) 大学院担当教員による大学院概要説明	保健学科教務委員、保健学科教官 (協力:大学院生2名)
9月末までに	将来像を描く (「大学院のすすめ」の1週間後までに提出)	各自で学習した情報をもとに、自分の将来像についての考えを文章にまとめる。	濱野、櫻井
9月末(日)未定)	チーム医療入門	早期体験、ラーニングスキル(協働力、プレゼンテーション力)	未定

【様式③】

■授業実施計画

1) S I H道場の理解 (4月3日(水) 9:30~12:00 実施)

【概要】

検査技術科学専攻におけるSIH道場の目的・実施の流れとその対応について説明し(SIH関連ビデオを視聴)、今後の授業内容を理解させる。また、ルーブリックによる評価法について説明しておく。4月7日の新入生研修に必要なビデオコンテンツを視聴しておくよう指示。

2) 医学部新入生研修・保健学科新入生研修くワークシヨップ> (4月6日(土) 医学部新入生研修

8:30~12:00、保健学科新入生研修くワークシヨップ> : 13:00から 16:30 実施)

【概要】

新入生研修の午後の部を利用して、総合教育センターの協力のもとワークシヨップを行う。ワークシヨップでは、医療に関する身近な話題をテーマとして、グループでワークを行い、グループごとにプレゼンテーションをする。他グループのプレゼンを見て、各自がルーブリック表に従って評価する。本ワークシヨップではラーニングスキル(協働力、プレゼンテーション力)の獲得を目標とする。

【準備】 ビデオコンテンツ「プレゼンテーション力」「協働力」の視聴を指示。

【事前学習】 ビデオコンテンツ「協働力」「プレゼンテーション力」の視聴。

【授業後】 学生アンケート実施して、来年度以降の授業の参考とする。

3) 早期体験

早期体験①：先輩からのメッセージ (4/4 (木) 9:00~11:00 実施)

(各専攻の大学院学生からのメッセージ)

早期体験②：臨床検査技師の仕事と医療における役割 (4/25 (木) 午後

および 5~6月の木6講時のS I Hの時間)

【概要】

保健学科新入生オリエンテーション・SIH道場として行われている「先輩からのメッセージ」では保健学科各専攻の卒業生が、各専攻の概要、卒業後の進路等について説明し、後輩の新入生に向けて年輪的にも学生に近い立場からの先輩としてのエールを送る。また、「臨床検査技師の仕事と医療における役割」の授業では、徳島大学病院検査部の見学体験(検査部技師長他)、病院での検査技師の役割や働き方を知ってもらう。これらの授業による早期体験(疑似体験)を通じて、広い視野で自分の将来像について考える。

【準備】 検査技術科学専攻卒業生の発表内容の紹介により、学生に対して事前学習を指導する。

【事前学習】 Moodleによる事前学習を必須とする。

【授業後の課題】 4~6月中をめぐり、“自身の将来像を描く”レポートの作成を指示する。

【様式③】

早期体験③：大学院のすすめ (未定)

【概要】

大学院担当教員による大学院の概要説明を聞き、大学院の興味分野の先端研究に興味や関心を持つ。将来像の一つの選択肢として大学院進学を考えるきっかけとする。

【準備】 保健科学教育部についてIP等を見て、本教育部にある領域を調べておくように学生に指導する。

【事前学習】 IPなどの閲覧。

【授業後】 学生の授業での取り組み態度や意見、リフレクシヨンシートから、来年度以降の授業内容を考察する。

4) 将来像を描く

7月上旬までのSIHの時間を使ってレポートを作成(「大学院のすすめ」の1週間後までに提出)

【概要】

保健学科大学入門講座として行われた「先輩からのメッセージ」を聞いて、また早期体験①~③で学んだことをもとにして、「将来像を描く」レポートを作成する。ビデオコンテンツ「文章力」で学んだスキルを活かしてレポートを作成し、文章力を身につけることも目的とする。作成したレポートをもとに、各自でルーブリック「文章力」による自己評価をして、教員に提出する。教員は提出されたレポートを評価し、学生へフィードバックする。(Mahara利用)

【準備】 ビデオコンテンツ「文章力」の動画視聴を指示、「将来像を描く」レポート作成の課題を出す。

【事前学習】 反転授業ビデオコンテンツ「文章力」の動画などを作成。

ビデオを参考に「将来像を描く」レポートを作成。

自分の将来を十分に考えるための時間をとることが必要である。

【授業後】 学生からのレポート提出、教員によるレポート評価、学生へのフィードバックを行う。

5) チーム医療入門 (未定)

医療教育開発センターによる授業詳細参照

*夏期休業期間だが、出席は必須であることを全員に周知しておく

SIH道場必須項目設計表 (概要のみ)

	到達目標	評価方法・基準	内容		授業実施枠
			事前学習	授業	
① 早期体験	<ul style="list-style-type: none"> ① 基本的マナーを守ることができる。 ② コミュニケーション力を養うことができる。 ③ ホスピタリティ・マインドをもつて対応することができる。 ④ 歯科医師の役割・業務を理解し、それらに必要な能力について考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業での取り組み姿勢を評価する。 ・作成されたレポートを評価する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「相互磨き学習」ではペアパートナーと相互の術者磨きを行い、学んだことを話し合う。 ・「研究室体験」では研究室を訪問し、各講義が取り組んでいる研究テーマについて話し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・1年次前期：SIH道場「相互磨き学習」の中で実施 ・1年次前期：研究室体験を実施 	
② 文章力	<ul style="list-style-type: none"> ① 論理的な文章の作成・レポートの作成において、注意すべき点について1つ以上説明することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・e-ポートフォリオの内容から評価する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「アカデミック・ライティング入門」では、担当教員が学生から提出された事前レポートに対するフィードバックを行う。学生は重要ポイントを確認し、自身のレポートを授業中に校正し、「読書レポート」の書き方を学ぶ。 ・学生は課題図書「読書レポート」を提出する。 ・提出された「読書レポート」に対して教員がコメントを記載して返却する。 ・学生はコメントを確認、自己評価内容を再度提出する。 	<ul style="list-style-type: none"> 1年次前期：SIH道場「アカデミック・ライティング入門」 「読書レポート」関連授業において実施 	
プレゼン力	<ul style="list-style-type: none"> ・他の学生と協議し、教員や他の学生に対して自分の調査内容や考えをプレゼンテーションで発表する。 ・グループで患者の問題や解決法を協議し、代表者がその討議内容をプレゼンテーションで発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・e-ポートフォリオの内容から評価する。 	<ul style="list-style-type: none"> 「PBL・TBL入門」の課題に関する予習を行い、プレゼンテーションを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 1年次前期：SIH道場「PBL・TBL入門」の中で実施 	
協働力	<ul style="list-style-type: none"> ・WSを能動的に進めることができる。 ・WSに積極的に参加することができる。 ・他学部学生とコミュニケーションがとれることができる。 ・他学部学生と協力してプロダクトを作成することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・グループワークの内容から評価する。 ・e-ポートフォリオの内容から評価する。 ・グループワーク評価表を用いる（班全体の評価とする）。 	<ul style="list-style-type: none"> グループワークに用いる手法に関する事前資料の内容を理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> 1年次前期：SIH道場「新入生研修」の中で実施 	
注意点	<ul style="list-style-type: none"> ・学生が授業を通して何が出来るようになるのかについて具体的に明記する。明記の仕方として「○○できる」と表現するらしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・反転授業の形式で設計し、コンテンツを使用すること推奨する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・e-ポートフォリオを活用し、学生と教員間のコメントのやり取りを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 1年次前期：「チーム医入門」を実施 	

7. 歯学部 (歯学科)

7.歯学部（口腔保健学科）

SIH道場必須項目設計表（概要のみ）

	到達目標	評価方法・基準	事前学習	内容		授業実施枠
				授業	③学習の振り返り	
① 早期体験	<ul style="list-style-type: none"> ① 基本的マナーを守ることができ ② コミュニケーション力を養うことができる。 ③ ホスピタリティ・マインドをもって対応することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業での取り組み姿勢を評価する。 ・作成されたレポートを評価する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・術者歯磨きを行うに当たり必要な事項をキーワードとして考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「相互歯磨き学習」ではパートナーと相互の術者磨きを行い、学んだことを話し合う。 	<p>「相互歯磨き学習」にて学んだことを文章にまとめ、e-ポートフォリオに記入。教員はコメントをフィードバックする。</p>	<p>1 年次前期：SIH道場「相互歯磨き学習」の中で実施</p>
文章力	<p>論理的文章の作成・レポートの作成において、注意すべき点について1つ以上説明することができる。</p>	<p>提出された「読書レポート」を評価する。</p>	<p>与えられた資料（課題）に対する事前レポートを作成する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「アカデミック・ライティング入門」では、担当教員は学生から提出された事前レポートに対するフィードバックを行う。学生は重要ポイントを確認し、自身のレポートを授業中に校正し、「読書レポート」の書き方を学ぶ。 ・学生は課題図書「読書レポート」を提出する。 ・提出された「読書レポート」に対して教員がコメントを記載して返却する。 ・学生はコメントを確認、自己評価内容を再度提出する。 	<p>「読書レポート」の書式に従って記載して提出。教員はコメントをフィードバックする。</p>	<p>SIH道場「アカデミック・ライティング入門」「読書レポート」関連授業において実施</p>
② プレゼンカ	<p>グループで討議し、内容について整理してプレゼンテーションすることができる。</p> <p>他者と協同して1つの課題に取り組むことができる。</p>	<p>グループワークの評価表を用いる（班全体の評価とする）。</p> <p>e-ポートフォリオの内容から評価する。</p>	<p>課題に対する事前学習または発表準備を行う。</p>	<p>グループでコンテンツを作り、プレゼンテーションを行う。</p>	<p>学んだことは振り返りレポート用紙に記入。教員はプレゼンテーションに対するフィードバックを行う。</p>	<p>「歯科衛生士概論」の中で実施</p>
協働力	<ul style="list-style-type: none"> ・WSを能動的に進めることができる。 ・WSに積極的に参加することができる。 ・他学部学生とコミュニケーションが取ることができる。 ・他学部学生と協力してプロダクトを作成することができる。 	<p>グループワークの評価表を用いる（班全体の評価とする）。</p>	<p>グループワークに用いる手法に関する事前資料の内容を理解する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「新入生研修」では、歯科医療従事者としての心構えなどの課題について「ワーカーソンサスゲーム」や「ワールドカフェ」などによるワークを実施する。 ・講演内容を参考にしてWSのテーマについて班単位でWSを行い、プロダクトを作成する。 	<p>学んだことをe-ポートフォリオに記入。教員はコメントをフィードバックする。</p>	<p>1 年次前期：SIH道場「新入生研修」の中で実施</p> <p>大学入門講座「チーム医療入門」の中で実施</p>

SIH道場プログラム設計評価シート

7.歯学部 (共通)

要素	項目	チェック	学生の学修効果・成果	改善したい点	次年度に向けた対応
早期体験	①設計した到達目標を学生は達成することができた	はい	基本的マナーやコミュニケーションおよびホスピタリティ・マインドの理解・修得が目標であるが、「相互確信」を通じて、一定の成果が上げられたと推察される。また、シヤード・イングリにおいて、は診療見学に加えて病院長システムでの理解も進み、研究室早期体験においては最先端の研究に接することで生命科学の重要性が理解できたようである。	特になし	複数年度で同一の内容を実施しているため、準備・実施体制が一定化しているため、教員の負担も軽減できている。マンネリ化を危惧するも、SIH道場としての目的達成には効果的な手段であることから、今後も継続して実施できるように計画していくべきである。
	②設計した内容は、専門分野の学修に対して学生を動機づけるという点で効果的だった	はい			
	③学生に課した事前学習は、学生の早期体験を意義あるものにするために効果的だった	はい			
ラーニングスキル 文章力	④設計した到達目標を学生は達成することができた	はい	「アカデミック・ライティング入門」の講義において、論理的な文章の書き方や表記・整理、文章構成を学び、「読書レポート」に反映させようという努力が感じられた。特に、「フィードバック」では全体構成に大きく改善が見られた。	特になし	学生の文章力は、あらゆる点で大学入学までの資質・能力に依存する部分が大変大きい。特に、得意分野が非常に多様な（理系と文系が混在）口腔保健学科では特に顕著である。大学生活の中で個々の力量を伸ばすためにも継続して実施できるように計画していくべきである。
	⑤設計したアクティブラーニング型授業は、学生の学修にとって効果的であった	はい			
	⑥学生に課した授業外学修（事前、または事後）は、学生の学修にとって効果的であった	はい			
ラーニングスキル プレゼン力	⑦学生の評価は、ルーブリック等で基準を明確にして行った	はい	PE-WSでグループ討議後のプレゼンテーションを確認したが、差はあるものの平均的に高いレベルであったと思われる。すなわち、グループ内での討議内容を理解した上で、要点を押さえた的確な結論導出を試み、聴衆の一定の理解を得ようとする熱意を感じた。	特になし	プレゼンテーション力も文章力としかりであり、大学入学までの資質・能力に依存する部分が大変大きい。大学生活の中で個々の力量を伸ばすためにも継続して実施できるように計画していくべきである。
	⑧設計した到達目標を学生は達成することができた	はい			
	⑨設計したアクティブラーニング型授業は、学生の学修にとって効果的であった	はい			
ラーニングスキル 協働能力	⑩学生に課した授業外学修（事前、または事後）は、学生の学修にとって効果的であった	はい	新入生研修において、初対面の者同士による共同作業を経験し、PE-WSでグループ討議の導出に向けて議論・コミュニケーションの努力・姿勢を確認できた。	特になし	学生同士が協力して課題に取り組み、重要事項が認識できているなど、良好な結果が得られていると推察され、次年度も継続して実施できるように計画していくべきである。
	⑪学生の評価は、ルーブリック等で基準を明確にして行った	はい			
	⑫設計した到達目標を学生は達成することができた	はい			
振り返り	⑬振り返りの意義や方法について、学生に説明する、またはフィードバックの利用などで理解を促した	はい	コミュニケーションの重要性など、第三者的な目線からPE-WSでの自らの言動を冷静に回顧できており、SIH道場の趣旨がある程度達成できているものと推察される。	特になし	冷静な眼で自らの態度を回顧できているなど、概ね良好な結果が得られていると推察され、次年度も継続して実施できるように計画していくべきである。
	⑭各授業（体験を含む）の前後やSIH道場の終了時に学生が振り返った内容を教員がフィードバックを行った	はい			
	⑮学生が振り返った内容について教員がフィードバックを行った	はい			
総合	⑯実施したSIH道場プログラムを総合的に見て、今年度の授業設計は、学生が到達目標を達成するために、(5.十分であった。4.概ね十分であった。3.ふつ。2.やや不十分であった。1.不十分であった)。 ※その他、他の授業との接続・発展内容・授業運営等の課題が残り、また改善を要する点がある。	4	学生からはSIH道場は好意的に受け入れられており、有益だったものと考えられる。	特になし	全体として、歯学部では概ね良好な結果が得られていると推察され、次年度も継続して実施できるように計画していくべきである。

7. 歯学部

平成 31 年度 SIH 道場 歯学部 授業詳細

「協働力：ワールドカフェ」 4/12（金）14:35-17:50

到達目標：他者と協働して1つの課題に取り組むことができる。

Key Points：①ラーニングスキル（協働力）の育成

- ②自身の経験と考えに基づく意見発表と相手からのフィードバックによる気づき
- ③振り返りの経験

○事前学習

本体験学習ではグループワークに用いる手法に関する事前資料の内容を理解する。

○授業内容（180分：◆レクチャー、●個人ワーク、▲グループワーク）

経過時間	内容	注意点・教材
3分	◆ 導入 出席確認、本日の内容の確認 ◆ 第1回目のグループワークの課題説明	
30分	▲グループワーク (第1の課題に題し、各自の考えを話合いながら模造紙に記入していく。)	模造紙、マジック グループの人数は5~6人
2分	◆ 席替え ◆ 第2回目のグループワークの課題説明	
30分	▲グループワーク (第2の課題に題し、各自の考えを話合いながら模造紙に記入していく。)	模造紙、マジック グループの人数は5~6人
2分	◆ 席替え ◆ 第3回目のグループワークの課題説明	
30分	▲グループワーク (第3の課題に題し、各自の考えを話合いながら模造紙に記入していく。)	模造紙、マジック グループの人数は5~6人
70分	● 振り返り 授業全体を振り返り、学んだこと、グループで協働作業をすることやプレゼンテーションについて重要な点をまとめ、自己評価を行う。	
5分	まとめ	

7. 歯学部

○事後学習

振り返り内容をまとめ、eポートフォリオ用授業レポート用紙に記載し、学務係を通じて担当教員に提出する。(教員はコメントをフィードバックする)。

○評価方法・基準（合格基準）

- ・授業での取り組み姿勢を評価する（消極的な参加ではなかったか）。
- ・作成されたレポート内容から、到達目標に沿った学習が確認できたか、評価する。
- ・eポートフォリオシステムにて教員コメントの確認を行ったか、評価する。

注釈：クラスサイズ：55名程度

7. 歯学部

「体験学習：研究室体験」 7/13 (金)、7/20 (金) 14:35-16:05

- 到達目標：① 研究現場の雰囲気を知る
② 最新の研究事情を理解する。
③ コミュニケーション力を養うことができる。

Key Points：①学習目標の理解

- ②実験を補助することで、研究について実感する

○事前学習

本体験学習では事前学習を行わず、授業を進める。

○授業内容 (90分)：◆レクチャー、●個人ワーク、▲グループワーク)

経過時間	内容	注意点・教材
5分	◆ 導入 出席確認、本日の内容の確認	
30分	◆ 学生は、各科の担当教員から研究内容について説明を受け、討論する	
180分	● 学生は、各科の担当教員について、研究室において現場を体験する。	
10分	● 振り返り：作業を振り返り、自己評価を行う。	振り返りシートに記載する。
10分	◆ まとめ：授業全体を振り返り、学んだこと、到達目標についての重要な点を学生から導く	e ポートフォリオ用授業レポート用紙
	◆ e ポートフォリオについての説明、レポート用紙記載の説明、次回の授業の予告等	SIH 道場冊子 (配布済み)

○事後学習

振り返り内容をまとめ、e ポートフォリオ用授業レポート用紙に記載し、学務係を通じて担当教員に提出する。(教員はコメントをフィードバックする)。

○評価方法・基準 (合格基準)

- ・ 授業での取り組み姿勢を評価する (消極的な参加ではなかったか)。
- ・ 作成されたレポート内容から、到達目標に沿った学習が確認できたか、評価する。
- ・ e ポートフォリオシステムにて教員コメントの確認を行ったか、評価する。

注釈：クラスサイズ：1～3名程度

7. 歯学部

「体験学習：相互歯磨き学習」 4/19 (金) 14:35-16:05

- 到達目標：① 基本的マナーを守ることができる。
② コミュニケーション力を養うことができる。
③ ホスピタリティ・マインドをもって対応することができる。

Key Points：①到達目標の理解

- ②相互の立場に立った経験と相手からのフィードバックによる気づき
③e ポートフォリオシステムによる担当教員コメントへの振り返り

○事前学習

本体験学習では事前に相互歯磨きを行うにあたり大切と思うことをキーワードとして考えてきてもらう (課題資料を事前に配付する)。事前に想像力を喚起したうえで、授業に臨んでもらう。

○授業内容 (90分)：◆レクチャー、●個人ワーク、▲グループワーク)

経過時間	内容	注意点・教材
5分	◆ 導入 出席確認、本日の内容の確認	名札、ワークシート、必要物品の配付
40分	▲ ペア同士で相互歯磨きをする。 (20分程度で術者役側と患者役側の交替を促す)	基本的な説明は行うが、あくまでもお互いの思いやりでポジティブなコミュニケーションの使い方を工夫するように促す。
10分	● 個人で振り返り 相互歯磨きを振り返り、ワークシートを仕上げる。	ワークシート
10分	▲ ペアでフィードバック：相互歯磨きを振り返り、お互いにどんなことを思っていたのかどんなことを気にしていたのかを相互にフィードバックする。	制限時間を設けて、お互いの気持ちを遠慮なく伝えられるような雰囲気を作る。
10分	▲ 全体に対するフィードバック：人の口を触ることがどんなことか、何を大切に考えないといけないか、各自の考えを発表してもらおう。	発表者が偏らないよう配慮する。発言に対して短くコメントする。
5分	◆ まとめ：人の口を触ることの意味を再確認する。	
10分	▲ 後片付け ● 授業全体を振り返り、授業レポートを作成させる。	e ポートフォリオ用授業レポート用紙

○事後学習

振り返り内容をまとめ、e ポートフォリオ用授業レポート用紙に記載し、学務係を通じて担当教員に提出する。(教員はコメントをフィードバックする)。

7. 歯学部

○評価方法・基準（合格基準）

- ・授業での取り組み姿勢を評価する（消極的な参加ではなかったか）。
- ・作成されたレポート内容から、到達目標に沿った学習が確認できたか、評価する。
- ・eポートフォリオシステムにて教員コメントの確認を行ったか、評価する。

注釈：クラスサイズ：55名程度

7. 歯学部

「文章力：アカデミック・ライティング入門／読書レポート」

5/11（金）14:35-17:50

到達目標：

- ① 論理的な文章やレポートの作成において、注意すべき点について1つ以上説明することができる。
- ② 論理的に読書レポートを作成することができる。

Key Points：①ラーニングスキル（文章力）の育成
②振り返りの経験

○事前学習

「アカデミック・ライティング入門」：授業前に与えられた資料（課題）に対する事前レポートを作成する。

○授業内容（3回の対面授業：◆レクチャー、●個人ワーク、▲グループワーク）

経過時間	内容	注意点・教材
1回目 4/7（木） 60分	◆導入「読書レポートについて」 本関連授業の到達目標と授業の概要について説明し、事前学習の課題を与える。	事前学習の課題に関する資料
事前学習	●「事前レポート」の作成 与えられた資料（課題）に対する事前レポートを作成する。	
2回目 5/13（金） 180分	「アカデミック・ライティング入門」 ◆担当教員は学生から提出された事前レポート内容に関するフィードバックを総括して行う。 ●学生は、重要ポイントを確認し、自身のレポートを授業中に校正して、最終的な「読書レポート」の書き方を学ぶ。	「アカデミック・ライティング入門」授業のハンドアウト
授業外学修	●「読書レポート」の作成 学生は課題図書の中から一冊を選び、事前に示した「読書レポート」の要件に従って記載して提出する。	課題図書2冊
3回目 30分 7/7（金）	提出された「読書レポート」に対して教員がコメントを記載して返却する。 ●振り返り 学生は読書レポートに対するコメントを確認し、各自の自己評価内容を再度提出する。	読書レポート授業振り返り用紙

○授業外学修

課題図書2冊の中から1冊を選び、「読書レポート」を規定の要件に従って記載して提出する。

7. 歯学部

(教員はコメントをフィードバックする)。

○評価方法・基準 (合格基準)

- ・授業での取り組み姿勢を評価する (消極的な参加ではなかったか)。
- ・作成された読書レポート内容から、到達目標に沿った学修が遂行できたか、評価する。
- ・教員コメントの確認および自己評価内容について評価する。

注釈：クラスサイズ：55名程度

「PBL 入門」 6/8 (金) 14:35-16:05

7. 歯学部

Key Points：①問題解決型学習 (PBL) の経験

②振り返りの経験

○事前学習

与えられたテーマ*1について1分間プレゼンテーションの準備を行う。

○授業内容 (90分：◆レクチャー、●個人ワーク、▲グループワーク)

経過時間	内容	注意点・教材
5分	◆導入 出席確認、本日の内容の確認、グループ分け	グループ (6~7名)
10分	◆臨床症例提示 質問があれば受け付ける。	
35分	▲グループディスカッション 治療に関するディスカッションを行う。	
20分	▲いくつかのグループによるプレゼンテーション グループディスカッションの内容を発表する。	
10分	●振り返り 授業全体を振り返り、学んだこと、プレゼンテーションについての重要な点をまとめ、自己評価を行う。	
5分	◆まとめ 次回の授業の予告、TBL資料配布	

○事後学習

振り返り内容をまとめ、eポートフォリオ授業レポート用紙に記載し、学務係を通じて担当教員に提出する。(教員はコメントをフィードバックする)。

注釈

- ★*1 テーマに体験学習、または専門分野に関連するものを取り扱う。
- ★クラスサイズ：40~45名程度

7. 歯学部

「TBL入門」 6/22 (金) 14:35-16:05

Key Points : ①チーム基盤型学習 (TBL) の経験
②振り返りの経験

○事前学習

予習資料を学習する。

○授業内容 (90分) : ◆レクチャー、●個人ワーク、▲グループワーク

経過時間	内容	注意点・教材
5分	◆導入 出席確認、本日の内容の確認	
10分	●個人テスト 予習内容に関して個人テストを実施する。	
15分	▲グループテスト 個人テストと同じ内容の試験をグループでディスカッションして解答する。解答はスクラッチカードで行う。	グループ (6~7名)
15分	◆フィードバック グループテストの解答に関して教員がフィードバックする。	
20分	▲グループ課題 臨床で遭遇することの多い症例に関する問題を与える。臨床現場で遭遇することの多い解答がない症例の方が良い。	
15分	◆フィードバック グループ課題に関して教員がフィードバックする。	
5分	●振り返り 授業全体を振り返り、学んだこと、プレゼンテーションについての重要な点をまとめ、自己評価を行う。	
5分	◆まとめ	

○事後学習

振り返り内容をまとめ、eポートフォリオ用授業レポート用紙に記載し、学務係を通じて担当教員に提出する。(教員はコメントをフィードバックする)。

注釈

★1 テーマに体験学習、または専門分野に関連するものを取り扱う。

★クラスサイズ: 40~45名程度

7. 歯学部

「PBL-チュートリアル (口腔保健学科)」

6/7 (金)、6/14 (金)、6/21 (金)、6/28 (金)、6/28 (金)、11:00-12:00

(「歯科衛生士概論 8~11」)

授業概要: 将来の歯科衛生士としての自覚と責任を涵養することを目的とした課題について、小人数グループの学生全員が当事者意識をもって討議し、授業の目的を明確にする。話し合ったことを整理し、発表資料としてまとめ、7分程度のプレゼンテーションを行う。

到達目標: 提示課題についてグループで討議し、内容について整理して発表することができる。

Key Points : ①設問内容に沿った問題点を抽出する

- ②問題点について討議する
- ③グループで話し合った意見や解決方法をまとめる
- ④グループでの意見を発表する
- ⑤他のグループの意見について評価する

○事前学習

2日目以降は課題に対する事前学習または発表準備を行う。

○授業内容 (各60分) : ◆レクチャー、●個人ワーク、▲グループワーク

経過時間	内容	注意点・教材
1日目		
10分	◆導入 PBL-チュートリアルとは 本日の授業内容の確認	チュートリアル授業マニュアル 課題シート
10分	▲グループによる作業: シナリオ提示	ホワイトボード
20分	▲問題点 (疑問点、論点、キーワード) の抽出	チューター評価表
10分	▲学習方法の立案	
10分	●自学自習	
2日目		
20分	▲グループ内での発表と討論	ホワイトボード
30分	▲問題点の解決、整理	パーソナルコンピュータ
10分	●個人による作業	チューター評価表
3日目		
10分	▲グループ内での発表と討論	ホワイトボード
10分	▲問題点の解決、整理	パーソナルコンピュータ
40分	▲発表の準備	チューター評価表
4日目		
40分	▲各グループによる発表と全体討議	作成 USB 媒体
12分	各グループの発表時間: 7分, 全体討議: 5分	パーソナルコンピュータ
8分	◆シナリオ作成者によるフィードバック	チューター評価表
	●ふり振り返りレポート用紙への記載	学生ふり振り返りレポート用紙

7. 歯学部

○事後学習

ふり返し内容をまとめ、学生ふり返し用レポート用紙に記載し、担当教員に提出する。

○評価方法・基準（合格基準）

1日目～3日目のチュートリアル授業における評価は各チャーターが態度、積極性、学習意欲等について評価する。4日目の発表は各チャーターがグループリック評価表を用いて、内容の構成、姿勢、質疑応答について評価する。シナリオ作成者はフィードバックを行う。

注釈：クラスサイズ：口腔保健学科 15名

歯科衛生士概論授業において実施

7. 歯学部

「体験学習：歯科診療体験」 2年前期 4/13-7/20

到達目標：

- ① 大学病院の歯科医師の仕事述べる。
- ② 自己主導型学習（アクティブラーニング）を実践する。
- ③ 歯科医としての基本的マナーを守る。
- ④ 信頼関係を築くためにコミュニケーションスキルを実践する。
- ⑤ ホスピタリティ・マインドをもって他者と接する。
- ⑥ 個人情報保護について説明する。
- ⑦ 研究室、大学病院における感染防御について説明する。
- ⑧ 医療の中での歯科診療の役割を述べる。

Key Points：①到達目標の理解

- ②相互の立場に立った経験と相手からのフィードバックによる気づき
- ③e ポートフォリオシステムによる自己評価と振り返り

○事前学習

本体験学習では、事前に臨床の現場に出るにあたり医療人としてのマナーを考える。また、個人情報保護や感染防御といった臨床の場で基本的に必要な知識を確認する。（課題資料を事前に配付する）。

○授業内容（3回の授業〈第2学年前期〉：◆レクチャー、●個人ワーク、▲グループワーク）

経過時間	内容	注意点・教材
1回目 60分×1 4/13（金）	◆導入「個人情報保護・感染防御について」 基本的な医療人としてのマナーと実習に望む心構えを説明し、個人情報保護や感染防御といった事項について講義を行い、臨床現場体験に備える。	事前学習の課題に関する資料
2回目 60分×1 4/20（金）	▲「歯科診療体験の目標を考える」 歯科診療体験で何を学ぶかをグループで討議し、グループ毎に実習の目標を設定する。 ●病院のルール、個人情報保護や感染防御といった点について再度確認を行う。	
3回目 180分	「歯科診療体験」 ◆学生は、各診療科の担当教員について、診療室において現場を体験する。 ●学生は臨床現場における自分の振る舞いを振り返るとともに、実際の診療の場を通して、感じたこと、考えたことを、各自まとめる。	4/27-7/20
授業外学修		
4回目 90分 7/20（金）	▲振り返り 学生は、診療体験においての自分の反省・考察等を基に、グループで話し合いを行う。	グループで話し合った内容は、文章にまとめ、eポートフォリオに記入。教員はコメントをフィードバックする

7. 歯学部

○評価方法・基準（合格基準）

- ・授業での取り組み姿勢を評価する（消極的な参加ではなかったか）。
- ・eポートフォリオシステムにて教員コメントの確認を行ったか、評価する。

注釈：クラスサイズ：歯学科40名程度

SIH道場必須項目設計表（概要のみ）

	到達目標	評価方法・基準	内容		授業実施枠	
			事前学習	授業		
①	早期体験として講演等を聴講し、自分の将来の進路や方向性を大学における学習と関連させて説明する。	提出されたレポートによって目標到達をチェックする。	<ul style="list-style-type: none"> 反転授業コンテンツ「SIH道場とは」を視聴する。 「チーム医療入門」WSテーマに関する資料を閲覧する。 	SIH道場 <ul style="list-style-type: none"> 講演「薬局で働く」「働くってなに」 講演「薬害について、B型肝炎について」 「薬学の祖を学ぶ ～こころざし～」 チーム医療入門	③ 学習の振り返り 学んだことをチーム医療入門でのプロダクト作成に反映させる。 e-ポートフォリオで教員による評価を確認する。	SIH道場、チーム医療入門の中で実施
文章力	自分自身の考えを論理的に表現することができる。	ルーブリック評価表を用いる。	文章力の反転授業コンテンツを視聴する。	チーム医療入門 <ul style="list-style-type: none"> 学んだこと、今後の学習に関する目標についてレポートを作成する。 	学んだことをレポートで提出する。 e-ポートフォリオで教員による評価を確認する。	チーム医療入門の中で実施
②	効果的なプレゼンテーションを行なうためのツールを用いて説明することができる。 他の班のプレゼンテーションを聞いて討議に参加することができる。	ルーブリック評価表を用いる。	プレゼンカの反転授業コンテンツを視聴する。	チーム医療入門 <ul style="list-style-type: none"> プロダクトをもとに各班の発表と討議を行なう。 	学んだことをリフレクションシートに記載する。 e-ポートフォリオで教員による評価を確認する。	チーム医療入門の中で実施
協働力	WSを能動的に進めることができる。 WSに積極的に参加することができる。 他学部学生とコミュニケーションを取ることができる。 他学部学生と協働してプロダクトを作成することができる。	ルーブリック評価表を用いる。	協働力の反転授業コンテンツを視聴する。	チーム医療入門 <ul style="list-style-type: none"> 講演内容を参考にしてWSテーマについて班単位でWSを行い、プロダクトを作成する。 	学んだことをリフレクションシートに記載する。 e-ポートフォリオで教員による評価を確認する。	チーム医療入門の中で実施

8. 薬学部（共通）

平成 31 年度 SIH 道場 薬学部 授業詳細

■ 目的

- 1) 徳島大学の新生が大学教育の意義を理解するとともに、自身の専門分野における先端研究を早期に体験することで、研究者・医療人としてのプロ意識を早期に構築する。
- 2) 学習の基本となる文章作成法、プレゼンテーション方法論、自己評価法を学び、それらの実践を通して大学教育に能動的に参加できる知識、技能、態度を身につける。
- 3) 医療現場で働く各専門職種を目指す学生が相互理解し、将来ともに円滑なチーム医療を行える基盤を形成する動機付けを行う。
- 4) 医療人を目指す学生として何をすべきか、今後の学生生活で何を学び修得していくべきかを、他学部、他学科の学生と共に考え、お互いから学ぶことを通して、チーム医療の重要性を認識する。

■ 到達目標

チーム医療の基盤を形成する

- (1) 他人の意見を自分の言葉で説明できる。
- (2) 自分の意見を的確に伝えられる。
- (3) グループの意見をまとめて論理的に説明できる。
- (4) 他学部学生と協力してプロダクトを作成できる。
- (5) 将来の進路や方向性を大学における学習と関連させて説明できる。
- (6) レポート作成において注意すべき点を列挙できる。
- (7) 効果的なプレゼンテーションを行うために注意すべき点を列挙できる。
- (8) 基本的な手法・ツール等を使ってプレゼンテーションを行うことができる。
- (9) 学習の振り返りや気づきを基に、今後の学修計画を立てることができる。

■ 成績評価

「チーム医療入門振り返りレポート」「ラーニングスキル・ルーブリック評価表」「プレゼンテーションプロダクト」をもとに評価する。

- 「チーム医療入門振り返りレポート」
チーム医療入門で学んだこと、今後の学習の目標について、A4 用紙一枚 (1000 字程度) にまとめる。
- 「ラーニングスキル・ルーブリック評価表」
ラーニングスキル<協働力>ルーブリック評価表及び、ラーニングスキル<プレゼンテーション力>ルーブリック評価表については、チーム医療入門 WS でチャーターから評価を受ける。
ラーニングスキル<文章力>ルーブリック評価表については、担当教員より評価を受ける。
- 「プレゼンテーションプロダクト」

チーム医療入門 WS で他学部学生と協働して作成する。

【合格基準】

- 以下の項目をすべて満たすこと。
- ・「講演会振り返りレポート」を提出すること。
 - ・「チーム医療入門振り返りレポート」の指定項目が全て記載されていること。
 - ・作成したプレゼンテーションプロダクトが添付されていること。

■ 授業内容概要

早期体験学習として先輩の講演等を聴講する。また、チーム医療入門に参加し、他学部学生と協働してブレゼンテーションコンテンツを作成し、発表、討議する。

2019年4月 2日 (火)	9:45~10:00	SIH 道場説明
2019年4月 4日 (木)	8:40~9:40	講演「薬局で働く」「働くってなに?」
2019年4月 12日 (金)	13:00~15:00	講演「葉書について、B型肝炎について」
2019年9月 30日 (月)	13:00~17:00	チーム医療入門ワークショップ

■ SIH 道場終了後に担当教員が行うこと

- 1) 担当クラスの学生が提出した「チーム医療入門振り返りレポート」「ラーニングスキル・ルーブリック評価表」「プレゼンテーションプロダクト」が合格基準を満たしているか確認する。
 - ・不合格者には「再提出要求」を出す。
 - ・合格者については、大学入門講座の単位を認定する。
- 2) 「SIH 道場実施報告書」の提出
 - ・所定の様式に沿って作成・提出する。(様式は、Word 版、e ポートフォリオ版の 2 つがある)
 - ・提出先は e ポートフォリオシステム上とする。
- 3) 学生の振り返りに対して、フィードバックする。

■ SIH 道場終了後にコーディネーターが行うこと

- ・授業担当教員の「SIH 道場実施報告書」の提出状況のチェック。未提出者への催促。

<体験学習 (SIH)道場, チーム医療入門>

○事前学習

- ・ビデオコンテンツ「SIH道場とは」を視聴する。

○授業内容

日 時	経過時間	内 容	備 考
4月2日 (火) 9:45 ～10:00	15分	オープニング 出席確認、薬学部SIH道場説明	山田 (授業設計コーディネーター)
4月4日 (木) 8:40 ～9:40	60分	講演「薬局で働く」(薬学科) 講演「働くってなに？」(創薬薬科学科)	薬学部非常勤講師
13:00 ～15:00	120分	講演「薬害について、B型肝炎について」	薬被連講師 B肝訴訟原告・弁護士
4月12日 (金) 12:30 ～12:45	15分	薬学の粗を学ぶ～ころざし～導入 長井長義簡易説明、ミニテスト	教務委員
12:45 ～14:45	120分	薬学の粗を学ぶ～ころざし～	教務委員
9月30日 (月) 13:00 ～17:00	240分	チーム医療入門 (蔵本地区合同ワークショップ)	チーム医療入門チューター

○事後学習

1. それぞれの体験学習について、感想・学んだこと等をまとめる。
2. 自分の将来の進路や方向性について考察し、大学における学習と関連づけてまとめる。

<ラーニングスキル (チーム医療入門ワークショップ)>

○事前学習

1. 動画視聴：医療安全におけるノンテクニカルスキルの重要性 (約15分)
2. 補助資料確認：動画内容理解を深めるための資料
3. KJ法：ワークショップで利用するKJ法の進め方

○授業内容 (当日スケジュール)

- 12:20 受付
- 13:00 オープニングリマーク
オリエンテーション
- 13:20 基調講演 「緩和ケアの現場におけるチーム医療」
講師 大野智 先生 (島根大学医学部附属病院 臨床研修センター センター長・教授)
- 14:20 ワーク会場へ移動
- 14:30 ワークショップ開始
- 16:15 成果発表
- 16:45 総評・まとめ・諸連絡
- 17:00 終了・片付け

○事後学習

1. 「チーム医療入門振り返りレポート」の作成
2. 評価表による教員からのフィードバック

9.理工学部理工学科社会基礎デザインコース

SIH道場必須項目設計表(概要のみ)

	到達目標	評価方法・基準	内容		授業実施枠	
			事前学習	授業		
① 早期体験	<p>①【専門知】</p> <ul style="list-style-type: none"> a) 基本的な測量ができる b) 自然の恵みと災いについて自分の意見を述べることができる <p>②【協働力】</p> <p>仲間と共に協力して課題を解決することができる</p>	<p>①【専門知】</p> <ul style="list-style-type: none"> a) 測量した地点との誤差が±0cm以内 b) レポート(資料②) <p>②【協働力】</p> <p>グループフォーラム(資料①)</p>	<p>①【専門知】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事前に測量の仕方を勉強してやる <p>②【協働力】</p> <p>反転授業用の動画(協働)を視聴してやる</p>	<p>①【専門知】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・牟岐少年自然の家で想定されている津波の基準水位の位置を計測する ・自然の恵みに関する実習 ・教員による講義 <p>②【協働力】</p> <p>自然の恵みと災いについて班員で協働し学ぶ</p>	<p>③学習の振り返り</p> <ul style="list-style-type: none"> ・当日:グループフォーラム(資料①)で回答し、評価結果を学生と共有する ・課題:レポート(資料②) 	<ul style="list-style-type: none"> ・4月6,7日のSIH道場体験合宿
文章力	<p>正しい, 問題設定, 論理構成, 引用, 体裁, 表現で文章を書くことができる。</p>	<p>資料④(ルーブリック)で評価</p>	<p>反転授業用の動画(文章)を視聴してやる</p>	<p>STEM演習中に, 作成したレポートを教員と学生で資料④(ルーブリック表)を用いて評価をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教員による解説 		<ul style="list-style-type: none"> ・各研究室で行うSTEM授業
② プレゼン力	<p>各研究室の専門分野と共通テーマ(自然の恵みと災い)を掛け合わせたテーマについて, 調査研究を行い, その成果をポスターにまとめ, 発表を行う。</p>	<p>資料③で評価</p>	<p>反転授業用の動画(プレゼン)を視聴してやる</p>		<p>グループフォーラム(資料③)で回答し, 評価結果を学生と共有する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・各研究室で行うSTEM授業
協働力	<p>個人の長所と短所を活かし, 全員が役割を持ち, 共通目標の達成に向けて, 協同的に課題解決に取り組むことができる。</p>	<p>資料③と資料⑤で評価</p>	<p>反転授業用の動画(協働)を視聴してやる</p>		<p>SIH:グループフォーラム(資料①)で回答し, 評価結果を学生と共有する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・STEM:資料③で振り返り 	<ul style="list-style-type: none"> ・4月6,7日のSIH道場体験合宿 ・各研究室で行うSTEM授業
注意点	<p>学生が授業を通して何が得意ようになるのかについて具体的に明記する。明記の仕方として「○○できる」と表現すると良い。</p>		<p>反転授業の形式で設計し, コンテンツを使用することを推奨する。</p>	<p>アクティブ・ラーニング型授業で実施する。</p>		

SIH道場 プログラム設計評価シート

9.理工学部理工学科社会基盤デザインコース

要素	項目	チェック	学生の学修効果・成果	改善したい点	次年度に向けた対応
早期体験	①設計した到達目標を学生は達成することができた	はい	「SIH道場の「早期体験」は専門科目の学修において役に立っている」という問いに対し、95%の学生が役立ったと回答していた。	事前学習の内容を実習前にグループ内で「学び合う」時間を設けること。	次年度の担当者に引き継ぐ。
	②設計した内容は、専門分野の学修に対して学生を動機づけるという点で効果的だった	はい	簡単な測度を事前学習をさせて、グループで実習に与りくんだ。事前学習にはYouTubeあるいはネット上で教材を自主的に活用させた。		
	③学生に關した事前学習は、学生の早期体験を意義あるものにするために効果的だった	はい	レポートに關した多くの学生が満足や驚え、専門的知識を得たことに満足している様子が見られた。		
ラーニングスキル 文章力	④設計した到達目標を学生は達成することができた	どちらともいえない	「SIH道場で学修した「文章・レポートの書き方」は役に立っている」という問いに対して、81%の学生が役に立ったと回答しており、一定の効果は見られた。	レポート課題を課したが、十分な指導もしておらず、ルーブリック表を用いた指導など今後の課題である。	次年度の担当者に課題を説明、引き継ぐ
	⑤設計したアクティビティ・ラーニング型授業は、学生の学修にとって効果的であった	はい	文章力の評価は、コース全員の教員がルーブリックを基に分担して行った。		
	⑥学生に關した授業外学修（事前、または事後）は、学生の学修にとって効果的であった	はい			
ラーニングスキル プレゼン力	⑦学生の評価は、ルーブリック等で基準を明確にして行った	どちらともいえない			
	⑧設計した到達目標を学生は達成することができた	はい	「SIH道場で学修した「プレゼンテーション」は役に立っている」という問いに対し、役立ったと98%の学生が回答し、役立たないという学生はいなかった。	ルーブリック表を作成し、それに基づき、評価を行うこと。	次年度の担当者に課題を説明、引き継ぐ
	⑨設計したアクティビティ・ラーニング型授業は、学生の学修にとって効果的であった	はい	グループでの学習内容を、グループでまとめ発表しそれを教員が評価したが、ルーブリックを明確に示さなかった。		
ラーニングスキル 協働能力	⑩学生に關した授業外学修（事前、または事後）は、学生の学修にとって効果的であった	はい			
	⑪学生の評価は、ルーブリック等で基準を明確にして行った	いいえ			
	⑫設計した到達目標を学生は達成することができた	はい	「SIH道場で学修した「他者との協働」は役に立っている」という問いに対し、91%の学生が役立っている」と回答している。	協働力について、評価できていない。今後、ルーブリック表を作成し、評価することが課題である。	次年度の担当者に課題を説明、引き継ぐ
ラーニングスキル 振り返り	⑬設計したアクティビティ・ラーニング型授業は、学生の学修にとって効果的であった	はい	レポートの自由記述でも、みんなと力を合わせて取り組んだことへ肯定的に捉える意見を多く見かけることができた。		
	⑭学生に關した授業外学修（事前、または事後）は、学生の学修にとって効果的であった	はい	入学して間もない時に、グループ学習を課したが、効果的な学習内容であったと思われる。		
	⑮学生の評価は、ルーブリック等で基準を明確にして行った	いいえ			
振り返り	⑯振り返りの意義や方法について、学生に説明する、またはテキストの利用などで理解を促した	いいえ			
	⑰各授業（体験を含む）の最後やSIH道場の終了時に学生が振り返る時間を設けた	はい	「日頃から授業で学修したことについて振り返りを行っている」という問いに、79%の学生が行っている」と回答していない。	学習のふりかえりは学習の定着のために重要である。プログラムに余裕を持たせて、振り返りについても説明するようにする。	次年度の担当者に課題を説明、引き継ぐ
	⑱学生が振り返り内容について教員がフィードバックを行った	はい	Googleフォームを用いて、振り返りをし、教員からフィードバックをしたが、振り返りの意義などの説明はできなかった。		
総合	⑲実施したSIH道場プログラムを総合的に見て、今年度の授業設計は、学生が到達目標を達成するために、(5、10分であった、4.概ね十分であった、3.ふつう、2.やや不十分であった、1.不十分であった)。	5	「SIH道場のプログラムは全体的に大学での学修において役に立っている」という問いに対して、91%の学生が役立ったと回答している。	事前学習を課した専門教科の内容を含んだグループ学習はおおむね学習目標を達成したと思われる。しかし、ルーブリックを十分に準備周知できなかったこと、振り返りの意義を説明できていないことなどの課題もあった。	次年度の担当者に課題を説明、引き継ぐ

平成 31 年度 理工学部理工学科社会基盤デザインコース SIH 道場授業詳細表

■目的：「SIH 道場体験学習（合宿）」と「STEM 演習」によって、自身が社会基盤デザインに関する職業に就くことを意識させ、学習意欲を高める。具体的には、自身がイメージする職業人となるために基本となる、協働、文章の書き方、プレゼンテーションといった技能、基本的な専門知識、能動的な学習態度を身につける。

■到達目標：

(1) 専門技術の早期体験

社会基盤デザインの技術者となる自觉と学習意欲、専門的な知識が高まる。

評価：STEM 演習のポスター発表を【資料③】で評価

(2) ラーニングスキルの修得

学習の基本となる技能（1.文章力、2.プレゼン力、3.協働力）を身に付ける。

評価：1. 文章の書き方：各研究室の指導教員が【資料④】で評価する。

2. プレゼン力：STEM 演習のポスター発表を【資料③】で評価する

3. 協働力：STEM 演習の終了時に【資料⑤】で評価する。

SIH 道場（体験学習）【資料①】も参考にする。

(3) 学修の振り返り

振り返りの重要性を認識し、能動的な学習態度を身につける

評価：SIH 道場体験学習終了後、自己評価【資料①】⇒その場で結果を紹介し、評価内容を共有。

SIH 道場体験学習後にレポート課題【資料②】

⇒4名の担当教員が評価、STEM 演習1回目の授業で振り返る。

STEM 演習のポスター発表を評価【資料③】⇒その場で結果を紹介し、評価内容を共有。

(4) SIH 道場と STEM 演習の共通テーマ

共通テーマを、社会基盤デザインと“自然の恵みと災い”との関係、とする。

評価：SIH 道場体験学習後にレポート課題⇒STEM 演習1回目の授業で振り返り【資料②】

STEM 演習でのポスター発表を【資料③】で評価する

■成績評価：以下の合格基準3点を確認することによって単位を認定する。

【SIH 道場の合格必須基準】

- ・ SIH 道場体験型授業（合宿）に参加すること（止むを得ず参加できない場合は、別途レポート課題）。
- ・ STEM 演習の中で、文章力、プレゼン力、協働力についての Moodle を用いたアクティブ・ラーニング（反転授業）を行うこと。
- ・ STEM 演習1回目の授業で SIH 道場の体験型授業の振り返り【資料②】を作成すること。
- ・ STEM 演習の最終授業でポスターを作成・発表し、複数教員と内容について議論すること。

【SIH 道場の具体的な評価基準】

【資料②】の内容を「とても具体的」「具体的でない」の3段階で評価し、相互評価の高かったメンバーは加点を行う。

OSIH 道場で実施する体験型授業（合宿）について

・ 体験型授業（合宿）は STEM 演習の事前学習となる。

・ SIH 道場の詳細は【別紙①】参考のこと。

・ 1 回目：SIH 道場・合宿研修の趣旨説明、2～8 回目：自然の恵みと災いについての体験学習

・ 担当教員、[「コーディネーター」がすべきこと

1) 「SIH 道場実施報告書」の提出（SIH 終了後）

・ 所定の様式に沿って作成・提出。様式は、Word 版、e ポートフォリオ版の 2 つがある。

・ 提出先は e ポートフォリオシステム上とする。

2) 他の担当教員の「SIH 道場実施報告書」の閲覧と相互コメント。

3) コーディネーターは、授業担当教員の「SIH 道場実施報告書」の提出状況をチェックする。

OSTEM 演習について

・ 4 から 5 人のグループ単位で、“自然の恵みと災い”に関する個別テーマを設け、能動的に調査し、その成果をポスターにまとめ、発表する。

・ STEM 演習の詳細は【別紙②】参考のこと。

・ 担当教員は、反転授業の指導、チェックシートを活用した 1.文章力、2.プレゼン力、3.協働力の指導と評価（資料 3）を実施すること。

【1回目】

日時：平成30年4月5日（金）16：45～18：15 場所：K402

○授業内容（90分）

時間	内容	注意点・教材
10分	SIH 道場について（上月）	授業内容ではなく、合格基準を説明する。
10分	SIH 道場・合宿研修・STEM 演習の説明（田村）	
10分	STEM 演習の教員シートの配布（田村）	
60分	合宿研修の事前説明（上月）	
10分	◆アイスブレイク 机に座った3人で、「徳島の印象、魅力」を話しする。 グループで Google form に投稿 教員の意見を紹介する	緊張をほぐす 能動的、対話的な学習 ★Google form
10分	◆概要 ・「 <u>自然の恵みと災い</u> 」とは？ 恵み：具体的に徳島ものを紹介する 災い：「徳島の災いについて」話し合い 災いの事例を紹介する	
10分	・ <u>社会基盤の役割</u> について 「恵みを保全し、災いを防ぐもの」を紹介 →ダム、多自然川づくり、低炭素型まちづくり、建築物、防潮流、砂浜を守る	
10分	・ <u>将来、どのような社会基盤の技術者になりたいですか</u> ？ 個人で Google form に投稿	
10分	◆研修の内容 ・「災いを知る」の体験について （シミュレーションを説明、レベル測量の方法など） ・「恵みを楽しむ」の体験について	★Google form 予習を指示
10分	・グループ分け ・部屋割り	

【2・3・4・5・6・7・8回目 現場見学の実施】

日時：平成30年4月6日（土）終日、7日（日）半日

合宿：徳島県立牟岐少年自然の家

○授業内容（約半日）：◆講義、▲グループワーク、●個人

月日	内容	注意点・教材
4/6 終日	▲海辺での自然の災い（津波）の被害想定を知り、備える ・想定津波高さを測る ◆南海トラフ巨大地震と津波、備えるについて ▲海辺の恵み（アジ）を知る ・アジの開き、トロコテンを作る	現場見学での注意点について理解を促す。
4/7 半日	●海辺の恵みを見つめる ・海浜での散策 ▲ふりかえり	

【その他】

STEM 演習を通じたアクティブ・ラーニングの体験

*本コースにおける SIH 道場・合宿研修・STEM 演習の連携教育の考え方は【別紙③】に示す。

SIH 道場・合宿研修・STEM 演習の連携教育の考え方

SIH 道場 (1 単位)			STEM 演習 (2 単位)			
回	日程	内容	到達目標	日程	内容	到達目標
1	4月5日	オリエンテーション				
2-8	4月6日, 7日	体験型授業 (合宿)	(2) (3)			
				1 4月〇日	合宿の振り返り, レポートの評価	
				2-15 4月〇日~7月〇日	各研究室で『自然の恵みと災い』について専門技術の早期体験	(1) (2) (3)
				16 8月〇日	プレゼン発表	

到達目標	内容	評価資料
(1)		
(2)		
(3)		
(4)		

10.理工学部理工学科機械科学コース

SIH道場必須項目設計表（概要のみ）

	到達目標	評価方法・基準	内容		授業実施枠	
			事前学習	授業		
① 早期体験	<p>1. 社会生活の中で機械工学が果たしている役割の一端を理解する。</p> <p>2. もの作りの基本を理解する。</p> <p>3. プレゼンテーションの方法を修得する。</p>	<p>実習への取り組み態度を30点、レポートの提出状況と内容を70点として評価する。</p>	<p>実習手順書を事前に確認し、内容を理解してから実習に臨むように指導する。</p>	<p>安全についての考え方をまず取り上げ、工作機械類を使用したもの作り、ディーゼルエンジンとサーボモータの分解・組立・運転を実習するとともに、性能試験や材料試験を行い、これから学ぶ機械工学・技術の具現方法の一部を体験する。</p>	<p>機械工学専門科目「機械科学実験I」の中で実施</p>	
文章力	<p>自らが果たした役割、反響点などを客観的に振り返る文章を書くことができる。</p>	<p>レポートの文章を評価する。</p>	<p>反転授業コンテンツ「文章力」の動画を視聴する。</p>	<p>集中研修時に理論的な文章の書き方に関する指導を行う。</p>	<p>SIH道場「集中研修」および機械工学専門科目「機械科学実験I」の中で実施</p>	
② プレゼンカ	<p>自らの主張を理論的に分かりやすく相手に伝えることができる。</p>	<p>ディベートでの発表技術を評価する。</p>	<p>反転授業コンテンツ「プレゼンテーション」の動画を視聴する。</p>	<p>大学での事前説明時にディベートの方法や効果的なプレゼン法について指導を行う。</p>	<p>各ディベート終了後にディベートの内容について教員がコメントして学生にフィードバックする。</p>	<p>SIH道場「集中研修」の枠内で実施</p>
協働カ	<p>同じグループの学生と協働して準備作業を行うことができる。</p>	<p>レポートの記述内容及び実際のディベート準備作業を評価する。</p>	<p>大学での事前説明時にグループ内での役割を決めさせ、資料収集等の事前準備を行わせる。</p>	<p>集中研修時にグループ作業を行わせ、立論・反論の組み立てを共同で行わせる。</p>	<p>各ディベート時に立論・反論の組み立てについて教員が逐次コメントして学生にフィードバックする。</p>	<p>SIH道場「集中研修」および機械工学専門科目「機械科学実験I」の中で実施</p>
③ 学習の振り返り				<p>当日の実習内容を確認し、注意が必要だった点や手順の意味などの振り返りをレポートに記載させる。</p>		

SIH道場プログラム設計評価シート

要素	項目	チェック	学生の学修効果・成果	改善したい点	次年度に向けた対応	
早期体験	①設計した到達目標を学生は達成することができた	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> どちらでもない <input type="checkbox"/> いいえ <input type="checkbox"/> 分からない	機械加工、エンジン等の分解・組立・運転、材料試験等の実習およびレポートの作成・指導を通じ、目標とした「社会生活の中で機械工学が果たしている役割の一端を理解する。」及び「もの作りの基本を理解する」を達成できたものと考えている。	SIH道場科目「機械科学実験1」において、安全教育とレポートの提出期限を厳守する指導を徹底しており、「レポートの書き方」の演習課題で明らかとなる学生の将来設計の情報をアドバイザーへ連絡し、指導のツールとして利用できるようにする。	本年度の内容を同条件下で継続して行い、数年をかけて学修効果の有無について検討を行う。さらに、「レポートの書き方」の演習課題で明らかとなる学生の将来設計の情報をアドバイザーへ連絡し、指導のツールとして利用できるようにする。	
	②設計した内容は、専門分野の学修に対して学生を動機づけるという点で効果的だった	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> どちらでもない <input type="checkbox"/> いいえ <input type="checkbox"/> 分からない	資料を用いながら論理的な文章の書き方に關する指導を行い、研修を含んだ大卒・中修修全体の振り返りを行った。また、評価基準としてルーブリックも学生に配布した。その結果、ほとんどの学生が注意点や評価点を意識した文章の作成を行った。また、内容についても到達目標である「自らが果たした役割、反省点などを客観的に振り返る文章を書くことができる。」をほとんどの学生が満足できた。ルーブリック評価を用いることで、評価を行った4人の教員間の評価基準のばらつきを低減させた。	本年度の内容を同条件下で継続して行い、数年をかけて学修効果の有無について検討を行う。	本年度の内容を同条件下で継続して行い、数年をかけて学修効果の有無について検討を行う。	
	③学生に課した事前学習は、学生の早期体験を意義あるものにするために効果的だった	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> どちらでもない <input type="checkbox"/> いいえ <input type="checkbox"/> 分からない	④設計した到達目標を学生は達成することができた	オリエンテーション初日にディベートの取分け、ディベートの方法、評価基準及びプログラムの説明を行った。オリエンテーション2日目の集中研修の時間枠内でディベートを行なった。昨年度は、1回目・2回目ともに同じテーマで対戦チームを変えてディベートを行ったが、2回目は意見も出尽くし情熱的なものとなった。意見があったので、本年度は2テーマ用意した。ディベートは昨年よりも盛り上がりがある効果があった。	本年度の内容を同条件下で継続して行い、数年をかけて学修効果の有無について検討を行う。	本年度の内容を同条件下で継続して行い、数年をかけて学修効果の有無について検討を行う。
ラーニングスキル 文章力	⑤設計したアクティビティ・ラーニング型授業は、学生の学修にとって効果的であった	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> どちらでもない <input type="checkbox"/> いいえ <input type="checkbox"/> 分からない	⑥学生に課した授業外学修（事前、または事後）は、学生の学修にとって効果的であった	積極的に参加する学生と消極的な学生が見られる。消極的な学生でも自主的に参加を促す何らかの工夫が必要と思われる。また、本コースは1学年あたり100人を超える学生が在籍するため、個人個人に十分なプレゼンテーションの機会と時間を確保することは難しい現状である。	本年度の内容を同条件下で継続して行い、数年をかけて学修効果の有無について検討を行う。	
	⑦学生の評価は、ルーブリック等で基準を明確にして行った	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> どちらでもない <input type="checkbox"/> いいえ <input type="checkbox"/> 分からない	⑧設計した到達目標を学生は達成することができた	意見の集約や論理組立等のディベートの準備を通じて振り返りを行った。ただし、振り返りは習熟化が重要であるため、専門課程まで学年が進んだ時点で振り返りの習慣の有無及び成績で学修効果を判断する他ない。そのため、現時点では学修効果の有無は言及できない。「レポートの書き方」のレポート課題として学生生活の過ごし方について設計させた。全てのレポートを評価するとともに将来設計に關するアドバイスを記載して学生に返却した。	本年度の内容を同条件下で継続して行い、数年をかけて学修効果の有無について検討を行う。	本年度の内容を同条件下で継続して行い、数年をかけて学修効果の有無について検討を行う。
	⑧設計した到達目標を学生は達成することができた	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> どちらでもない <input type="checkbox"/> いいえ <input type="checkbox"/> 分からない	⑨設計したアクティビティ・ラーニング型授業は、学生の学修にとって効果的であった	⑩学生の学修は、ルーブリック等で基準を明確にして行った	本年度の内容を同条件下で継続して行い、数年をかけて学修効果の有無について検討を行う。	本年度の内容を同条件下で継続して行い、数年をかけて学修効果の有無について検討を行う。
ラーニングスキル プレゼン力	⑨設計した到達目標を学生は達成することができた	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> どちらでもない <input type="checkbox"/> いいえ <input type="checkbox"/> 分からない	⑩設計した到達目標を学生は達成することができた	本年度の内容を同条件下で継続して行い、数年をかけて学修効果の有無について検討を行う。	本年度の内容を同条件下で継続して行い、数年をかけて学修効果の有無について検討を行う。	
	⑩設計したアクティビティ・ラーニング型授業は、学生の学修にとって効果的であった	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> どちらでもない <input type="checkbox"/> いいえ <input type="checkbox"/> 分からない	⑪学生に課した授業外学修（事前、または事後）は、学生の学修にとって効果的であった	本年度の内容を同条件下で継続して行い、数年をかけて学修効果の有無について検討を行う。	本年度の内容を同条件下で継続して行い、数年をかけて学修効果の有無について検討を行う。	
	⑪学生に課した授業外学修（事前、または事後）は、学生の学修にとって効果的であった	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> どちらでもない <input type="checkbox"/> いいえ <input type="checkbox"/> 分からない	⑫設計した到達目標を学生は達成することができた	本年度の内容を同条件下で継続して行い、数年をかけて学修効果の有無について検討を行う。	本年度の内容を同条件下で継続して行い、数年をかけて学修効果の有無について検討を行う。	
協働能力	⑫設計した到達目標を学生は達成することができた	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> どちらでもない <input type="checkbox"/> いいえ <input type="checkbox"/> 分からない	⑬設計したアクティビティ・ラーニング型授業は、学生の学修にとって効果的であった	本年度の内容を同条件下で継続して行い、数年をかけて学修効果の有無について検討を行う。	本年度の内容を同条件下で継続して行い、数年をかけて学修効果の有無について検討を行う。	
	⑬設計したアクティビティ・ラーニング型授業は、学生の学修にとって効果的であった	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> どちらでもない <input type="checkbox"/> いいえ <input type="checkbox"/> 分からない	⑭学生に課した授業外学修（事前、または事後）は、学生の学修にとって効果的であった	本年度の内容を同条件下で継続して行い、数年をかけて学修効果の有無について検討を行う。	本年度の内容を同条件下で継続して行い、数年をかけて学修効果の有無について検討を行う。	
	⑭学生に課した授業外学修（事前、または事後）は、学生の学修にとって効果的であった	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> どちらでもない <input type="checkbox"/> いいえ <input type="checkbox"/> 分からない	⑮振り返りの意義や方法について、学生に説明する、またはテキストの利用などで理解を促した	本年度の内容を同条件下で継続して行い、数年をかけて学修効果の有無について検討を行う。	本年度の内容を同条件下で継続して行い、数年をかけて学修効果の有無について検討を行う。	
振り返り	⑮名授業（体験を含む）の最後やSIH道場の終了時に学生が振り返る時間を設けた	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> どちらでもない <input type="checkbox"/> いいえ <input type="checkbox"/> 分からない	⑯学生が振り返った内容について教員がフィードバックを行った	本年度の内容を同条件下で継続して行い、数年をかけて学修効果の有無について検討を行う。	本年度の内容を同条件下で継続して行い、数年をかけて学修効果の有無について検討を行う。	
	⑯学生が振り返った内容について教員がフィードバックを行った	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> どちらでもない <input type="checkbox"/> いいえ <input type="checkbox"/> 分からない	⑰実施したSIH道場プログラムを総合的に見て、今年度の授業設計は、学生が到達目標を達成するために、①5・10分であった、④概ね10分であった、③5分、2や10分であった、①10分未満であった。	本年度の内容を同条件下で継続して行い、数年をかけて学修効果の有無について検討を行う。	本年度の内容を同条件下で継続して行い、数年をかけて学修効果の有無について検討を行う。	
	⑰実施したSIH道場プログラムを総合的に見て、今年度の授業設計は、学生が到達目標を達成するために、①5・10分であった、④概ね10分であった、③5分、2や10分であった、①10分未満であった。	5 <input checked="" type="checkbox"/> ④ <input type="checkbox"/> ③ <input type="checkbox"/> ② <input type="checkbox"/> ① <input type="checkbox"/>	⑱学生の改善点をクリアできていないため、昨年と同様の改善点を挙げる。 ・ルーブリックの再設計 ・オリエンテーション日程の再検討 ・ディベート事前準備時間の確保 ・早期体験レベルの再検討	本年度の改善点をクリアできていないため、昨年と同様の改善点を挙げる。 ・ルーブリックの再設計 ・オリエンテーション日程の再検討 ・ディベート事前準備時間の確保 ・早期体験レベルの再検討	本年度の内容を同条件下で継続して行い、数年をかけて学修効果の有無について検討を行う。	
総合						

平成31年度理工学部理工科機械科学コース SIH道場 <授業詳細表単発・イベント型>

■目的：徳島大学の新生が大学における学習について、理解するとともに、自身の専門分野における先端研究の体験を通して、興味関心を喚起し、徳島大学における学習・研究に対する動機づけを行う。また、学習の基本となる文章の書き方、プレゼンテーションの仕方、振り返りの仕方を学び、それらを実践することで、大学における能動的な学習の基本となる知識、技能、態度を身につける。

■到達目標：

(1) 自身の専門分野における先端研究（現場）と大学における学習について、関連させて説明することができる。

- ・ 社会生活の中で機械工学が果たしている役割の一端を理解する。
- ・ もの作りの基本を理解する。
- ・ プレゼンテーションの方法を修得する。

(2-1) 論理的文章の作成・レポートの作成において、注意すべき点について1つ以上説明することができる。

・ デイベートや実習において自らが果たした役割、反省点などを客観的に振り返る文章を書くことができる。

(2-2) 効果的なプレゼンテーションを行うことができる。

- ・ 事実に基づいて自らの主張を論理的に分かりやすく相手に伝えることができる。

(2-3) 他者と協同して1つの課題に取り組むことができる。

・ デイベートや実習で同じグループの学生と協働して準備作業を行うことができる。

(3) 自身の学習活動を振り返る習慣を身につけることができる。

- ・ ポートフォリオ等を利用して、振り返りをするすることができる

■成績評価：「SIH道場最終レポート」を以下の合格基準をもとに評価する。

【SIH道場最終レポートの内容】

以下の1)～4)を含む「SIH道場最終レポート」を作成すること。レポートは手書きで作成する。

- 1) ポスター（協働力の目標に対応）
 - ・ 体験学習の成果を、期日までにチームで1枚のポスターにまとめて写真を撮る。
 - ・ ルーブリックの「協働力」に該当するすべての項目について、自己評価する。
- 2) ポスター発表（ブレゼンカ力の目標に対応）
 - ・ 1)で作成したポスターをつかって、グループ以外のメンバーにチームの成果を説明する。
 - ・ ルーブリックの「ブレゼンカ」に該当するすべての項目について、自己評価する。
- 3) 体験学習個人レポート（文章力の目標に対応）
 - ・ 体験学習で学びたいと考えていたこと（事前）、実際に学んだこと（事後）、今後の目標の3点についてA4判1枚程度のレポートを作成する。
 - ・ 配付したルーブリックの「文章力」に該当するすべての項目について、自己評価する。
- 4) SIH道場での収穫

【SIH道場レポートの合格基準】

以下の評価基準のうち、「必須」と書いてある項目をすべて満たすこと。

- ・ レポートに「ポスターの写真」が添付されていること。（必須）
- ・ レポートの「自分がポスター発表をしている様子」の動画へのリンクが付与されていること（任意）
- ・ レポートに「体験学習個人レポート」が添付されていること。（必須）
- ・ 「自己評価」と「チームメンバーからの評価（平均点）」が記入された「協働力」「ブレゼンカ」「文章力」のルーブリックが添付されていること。（必須）
- ・ 上記ルーブリックの「協働力」「ブレゼンカ」「文章力」それぞれの総合点が○以上であること。（必須）
- ・ SIH道場の収穫を1つ以上挙げて、説明すること。収穫が全くない場合は、その理由とどうすれば収穫が得られそうかを書くこと。（必須）
- ・ その他、レポートに必要なと思う内容（任意）

■授業内容（集中研修＋機械科学実験1）

<授業スケジュール>

実施日時	内容
4月6日（土）10:00～17:00	SIH道場の説明・授業の進め方・グループによるデイベート（協働力・ブレゼンテーション力）・文章の書き方（文章力）
前期・機械科学実験1	体験学習及び振り返り（文章力・協働力）

■最終回の授業後（SIH道場終了後）に担当教員が行うこと

- 1) 担当クラスの学生が提出した「SIH道場最終レポート」の添削
 - ・ 不合格者には「再提出要求」を出す。
 - ・ 合格者には点数をつける。（100点満点）
- 2) 「SIH道場実施報告書」の提出
 - ・ 所定の様式に沿って作成・提出する。（様式は、Word版、eポートフォリオ版の2つがある）
 - ・ 提出先はeポートフォリオシステム上とする。
- 3) 他の担当教員の「SIH道場実施報告書」の閲覧と相互コメント

■最終回の授業後（SIH道場終了後）にコーディネーターが行うこと

- ・ 授業担当教員の「SIH道場実施報告書」の提出状況のチェック。未提出者への催促。

【4月6日】

○事前学習

1. デイバートに関する情報・資料収集

○授業内容（集中講義：◆レクチャー、●個人ワーク、▲グループワーク）

10：00 ●▲デイバート（詳細は次ページ）

11：45 交流会 昼食

12：50 全体セミナー①

◆レポートの書き方入門

◆卒業後の進路・就職について

◆充実した学生生活を送るために

14：20-14：35 休憩

14：35 全体セミナー②

◆カルト、悪質商法、薬物に関する基礎知識

◆大学での学習方法

◆パソコンの利用方法など

○事後学習

1. 添削されたレポートが返却されるので、各人はそれを見てレポートを修正・再提出。

新入生日帰り研修 デイバート入門

1. 概要

新入生合宿研修の懇談時間を用いて「デイバート入門」を行う。学生は当日までに資料を熟読し、デイバートのテーマに関するデータ収集を行っておくこと。今回は、各自、肯定・否定の両意見を箇条書きでまとめておくこと。**デイバート立論に必要なデータ収集を行っていない学生には「SIH 道場」の単位を認定せず、別途小論文の執筆等の特別課題を設定する。**

2. 進め方（時系列）

2.1 デイバートの概略説明（オリエンテーション時）

大学入門講座の時間に「デイバートとは何か」について説明し、デイバートのテーマについて紹介する。

2.2 デイバートの準備（全学生：オリエンテーション期間中）

与えられたテーマに基づいて、「肯定側」、「否定側」両方の立論を行うためのデータ収集を、合宿研修当日までに行う。3 チームに分かれて事前準備を行う。A と B がテーマ1で対戦し、負けた方がテーマ2でC チームと対戦する。

A チーム：テーマ1「肯定側」、テーマ2「肯定・否定好きな方」

B チーム：テーマ1「否定側」、テーマ2「肯定・否定好きな方」

C チーム：テーマ2「肯定」、テーマ1「否定」両方を準備（負けたチームがどちらを選択するか分からないため）

2.3 デイバートの実施（集中研修時）

4. デイバート

4.1 デイバートとは

デイバートの特徴は、つぎの3点に集約される。

①集会や議会等の公共的(public)な議論を行う場において、何らかの論点、課題について、

②対立する複数の発言者によって議論がなされ、

③多くの場合、議論の採否が議論を聞いていた第三者による投票によって判定される。

ことから、そもそもデイバートというものが、一定の場面ー公共的な意志決定ーで行われるものであることが分かる。また、第三者を納得させるという論述ゲームとも言える。そのため、ゲームを成立させるためには幾つかの気をつけなければならない観点がある。

4.2 デイバートで必要になる技術や能力とは

デイバートに必要な(デイバートによって身に付く)能力・技術は、主に以下の4点とされている。

(1) 理解力

議論の大前提として、論題の背景を理解すること、相手の発言内容、意図を理解することが必要である。理解力には、相手の主張を適切に聞き取るリスニング能力、それをメモに取る技術なども必要となる。

(2) 分析力 (批判的思考力)

まず、相手の主張内容を吟味して、その論証が十分な根拠を有しているか等を客観的・批判的に分析する能力が必要である。さらに、相手の主張と自らの主張との一致点と相違点を明確にし、相違点がなぜ生まれるのかを分析し、自らの主張を正当化できる能力、また、これらの論理展開を可能とする知識を得るための調査能力も必要となる。

(3) 構成力

相手の論証が十分な根拠を有しているか、双方の主張の相違点と自らの主張の優位性をわかりやすく伝えるためには、自らの発言内容をわかりやすく、説得力ある構成をする能力が必要となる。構成力には、議論の組み立て方、並べ方、表現の選択、時間配分等を適切に行う能力も含まれる。

(4) 伝達力

どんなに優れた構成でも、早口で棒読みしたり、相手の理解を確かめせずに一方的にしゃべったりすると、その内容を関係者に伝えることはできない。関係者の判断を求める立場上、発言者は、自らの考えを関係者全てに効率よく判りやすく伝達するプレゼンテーション能力が求められる。

4.3 理想的なディベートを行うために

(1) 議論内容と人格 (発言者の属性) の分離

ディベートで正しい・理理的な判断を導くには、発言者の「人格」や社会的地位、年齢等の「属性」に頼った議論(例:「こどもが偉そうなことをいうな」、「大学教授が言うのだからそうだろう!」)ではなく、「発言内容」「論拠」による判断が大事である。「誰が」ではなく、「何を」議論したのかを問う。

人格や属性に関する議論は、適切な結論を導き出すのに全く役立たないばかりか、感情的な対立を生み、合理的な判断ができなくなる原因にもなる。ディベートに限らず、どのような議論形態においても避けるべきではない。

(2) 信念や思い込みによる事実誤認や偏向等の排除

公共的な問題に対しては多数の不特定第三者が関係するので、ディベートでは人格と議論の内容を分離し、客観的・論理的な根拠に基づいて議論を展開し、その根拠が覆されれば主張を撤回する論理性・客観性をトレーニングする。信念は人格を構成する大事な要素であるが、客観的な根拠や論理的な考え方に与らない信念や思い込みに基づく議論は、事実認識を偏らせたり、感情的なやり取りを誘発したりして、適切な判断の障害となる。

4.4 ディベート進行表

1. (3分) 全体説明、および、進行およびルール確認
2. (10分) 【作戦タイム】各グループで、各自収集したデータをどの様に使うか、どの様な順番で発表するか、立論のシナリオを検討する。
3. (5分) 肯定側チーム立論 (全員が分担)
4. (3分) 否定側からの反対質問
5. (5分) 否定側チーム立論 (全員が分担)
6. (3分) 肯定側からの反対質問

7. (10分) 【作戦タイム】両チームの立論、反対質問を受け、どの様に自分たちの議論を補強するのかについて検討する。

8. (4分) 否定側の最終弁論立論 (代表者)

9. (4分) 肯定側の最終弁論立論 (代表者)

10. (3分) 【判決・コメント】

5. 平成30年度のディベートのテーマ

テーマ1. 「学生アルバイトは是か否か」

テーマ2. 「Twitter や Instagram などのSMS は是か否か」

11.理工学部理工学科応用化学システムコース

SIH道場必須項目設計表（概要のみ）

	到達目標	評価方法・基準	内容			授業実施枠
			事前学習	授業	③ 学習の振り返り	
① 早期体験	<p>話題となっている科学技術あるいは社会的に重要な技術などについて理解し、大学での学習内容との関連を説明できる。</p>	<p>出席状況、参加した教員との対話ができていること。</p>	<p>高校卒業までの経験</p>	<p>研究者である大学教員の研究を知る。各自の興味ある科学技術が、大学での学習内容とどのように関連するかを調査する。</p>	<p>ループリリック評価表で自己評価する。自己評価に対して教員がコメントを記入する。</p>	SIH道場 (研修旅行)
文章力	<p>大学4年間で取り組みたいことを文章で表現できる。</p>	<p>論理的、科学的な思考力で書けていること。</p>	<p>Moodle上の自習ビデオを閲覧する。テキスト「アクティブラーニング入門」の記載内容を理解する。</p>	<p>各自の興味ある科学技術を論理的かつ科学的に整合性のある文章で表現する。</p>	<p>ループリリック評価表で自己評価する。自己評価に対して教員がコメントを記入する。</p>	SIH道場
② プレゼンカ	<p>クラスメートの前で自己紹介できる。</p>	<p>誠実に分かりやすく説明できていること。</p>	<p>Moodle上の自習ビデオを閲覧する。テキスト「アクティブラーニング入門」の記載内容を理解する。</p>	<p>自己紹介を行う。その際、各自の興味ある科学技術を口頭で論理立てて説明する。</p>	<p>ループリリック評価表で自己評価する。自己評価に対して教員がコメントを記入する。</p>	SIH道場
協働力	<p>研修旅行にて協働で清掃活動など活動を行うことができる。</p>	<p>グループメンバーを思いやり、活動に対して積極的な貢献ができていること。</p>	<p>Moodle上の自習ビデオを閲覧する。テキスト「アクティブラーニング入門」の記載内容を理解する。</p>	<p>研修旅行にて清掃活動や地引き網などを行う。積極性を持って活動に参加する。</p>	<p>ループリリック評価表で自己評価する。自己評価に対して教員がコメントを記入する。</p>	SIH道場 (研修旅行)

SIH道場プログラム設計評価シート

11.理工学部理工学科応用化学システムコース

要素	項目	チェック	学生の学修効果・成果	改善したい点	次年度に向けた対応
早期体験	①設計した到達目標を学生は達成することができた	はい・どちらともいえない 設計していない	該当しない	該当しない	該当しない
	②設計した内容は、専門分野の学修に対して学生を動機づけるという点で効果的だった	はい・どちらともいえない 設計していない			
	③学生に課した事前学習は、学生の早期体験を意義あるものにするために効果的だった	はい・どちらともいえない 設計していない			
ラーニングスキル 文章力	④設計した到達目標を学生は達成することができた	はい・どちらともいえない 設計していない	興味を持ったテーマに関して学習した結果について、意図した構造を持った文章で伝えるための訓練ができた。	特になし	本年度と同様に実施する
	⑤設計したアクティビティ・ラーニング型授業は、学生の学修にとって効果的であった	はい・どちらともいえない 設計していない			
	⑥学生に課した授業外学修（事前、または事後）は、学生の学修にとって効果的であった	はい・どちらともいえない 設計していない			
ラーニングスキル プレゼン力	⑦学生の評価は、ルーブリック等で基準を明確にして行った	はい・どちらともいえない 設計していない			
	⑧設計した到達目標を学生は達成することができた	はい・どちらともいえない 設計していない	自ら資料調査をして研究した内容を、パワーポイント・スライドを使って、他の人たちに伝えるための訓練ができた。	特になし	本年度と同様に実施する
	⑨設計したアクティビティ・ラーニング型授業は、学生の学修にとって効果的であった	はい・どちらともいえない 設計していない			
ラーニングスキル 協働力	⑩学生に課した授業外学修（事前、または事後）は、学生の学修にとって効果的であった	はい・どちらともいえない 設計していない			
	⑪学生の評価は、ルーブリック等で基準を明確にして行った	はい・どちらともいえない 設計していない			
	⑫設計した到達目標を学生は達成することができた	はい・どちらともいえない 設計していない	一つの研究テーマに対して、少人数のグループで取り組んだ各自の分担を決めてリサーチを行い、その結果を共有してまとめることで協働力を高める訓練ができた。	特になし	本年度と同様に実施する
振り返り	⑬設計したアクティビティ・ラーニング型授業は、学生の学修にとって効果的であった	はい・どちらともいえない 設計していない			
	⑭学生に課した事前学習（事前、または事後）は、学生の学修にとって効果的であった	はい・どちらともいえない 設計していない			
	⑮学生の評価は、ルーブリック等で基準を明確にして行った	はい・どちらともいえない 設計していない	グループ協働を通じて調べた内容を、さらにレポーターに文章でまとめる訓練を行い、自分が以前に書いた要旨を改善することで振り返りを行うことができた。またそのレポーターを教員が読んで学生にコメントを返すフィードバックを行うことにより、再度の振り返りを行うことができた。	特になし	本年度と同様に実施する
総合		5 (4) 3・2・1			

※その他、他の授業との接続・発展内容・授業運営等の課題が有り
ましたらお書きください。

平成31年度 理工学部理工学系化学システムコース SIH 道場

<授業詳細表>

■目的：徳島大学の新生が大学における学習について、理解するとともに、自身の専門分野における先端研究の体験を通して、興味関心を喚起し、徳島大学における学習・研究に対する動機づけを行う。また、学習の基本となる文章の書き方、プレゼンテーションの仕方、振り返りの方を学び、それらを実践することで、大学における能動的な学習の基本となる知識、技能、態度を身につける。

■到達目標：

- (1) 話題となっている科学技術あるいは社会的に重要な技術などについて理解し、大学での学習内容との関連を説明できる。
- (2) 大学4年間で取り組みたいことを文章で表現できる。
- (3) クラスメートの前で自己紹介できる。
- (4) 研修旅行にて協働で清掃活動など活動を行うことができる。
- (5) 自身の学習活動を振り返る習慣を身につけることができる。

■成績評価：「SIH 道場最終レポート」を以下の合格基準をもとに評価する。

【SIH 道場最終レポートの内容】

以下の1)～3)を含む「SIH 道場最終レポート」を作成すること。

- 1) 研修旅行における協働作業（協働力、文章力の目標に対応）
 - ・ 協働作業を行い、その内容および感想を文章で表現する。
 - ・ ルーブリックの「協働力」および「文章力」に該当するすべての項目について、自己評価する。
- 2) 自己紹介（プレゼン力の目標に対応）
 - ・ 自己紹介を行い、興味ある科学技術について説明する。
 - ・ ルーブリックの「プレゼン力」に該当するすべての項目について、自己評価する。
- 3) SIH 道場での収穫

【SIH 道場レポートの合格基準】

以下の評価基準のうち、「必須」と書いてある項目をすべて満たすこと。

- ・ 「自己評価」が記入された「協働力」「プレゼン力」「文章力」のルーブリックが添付されていること。（必須）
- ・ 研修旅行の内容が適切に表現されていること。（必須）
- ・ 自己紹介および、興味ある科学技術に対する考えが適切に表現されていること。（必須）
- ・ SIH 道場の収穫を1つ以上挙げて、説明すること。（必須）
- ・ その他、レポートに必要なと思う内容（任意）

■授業内容（90分）×5回+体験学習（詳細は次ページ）

<大まかな流れ>

大学で自主的な学ぶ手段を身につけるとともに、将来の仕事について考える。

1. 大学で学ぶとはどういうことかについて考え、学ぶために必要な事柄を理解する。
2. 学習に必要な情報を検索する方法を理解する。
3. 学びのしくみについて説明し、自己学習の重要性を理解する。さらに学習支援室の上手な利用方法を紹介し、これからの4年間の「学びの設計」を考える基盤を作る。
4. 施設見学 常三島キャンパスの主要な施設を実際にまわり、利用方法などを学ぶ。
5. 健康的に学生生活を送るために保健管理センターや、健康管理などについて学ぶ。
6. コミュニケーションの取り方の向上を図り、学生と学生、学生と教員の相互理解を深める。

※各回の詳細は次ページ

■毎回の授業後に担当教員が行うこと

- ・ 担当クラスの学生が提出した「振り返りシート」の確認または一言コメント。

■全ての授業後（SIH 道場終了後）に担当教員が行うこと

- 1) 担当クラスの学生が提出した「SIH 道場最終レポート」の添削
 - ・ 不合格者には「再提出要求」を出す。
 - ・ 合格者には点数をつける。（10点満点）
 - 2) 「SIH 道場実施報告書」の提出
 - ・ 所定の様式に沿って作成・提出する。（様式は、Word版、eポートフォリオ版の2つがある）
 - ・ 提出先はeポートフォリオシステムとする。
 - 3) 他の担当教員の「SIH 道場実施報告書」の閲覧と相互コメント
- 全ての授業後（SIH 道場終了後）にコーディネーターが行うこと
- ・ 授業担当教員の「SIH 道場実施報告書」の提出状況のチェック。未提出者への催促。

【1回目】

○事前学習

テキスト「アクティブラーニング入門」の記載内容を理解する。

○授業内容 (4月2日、90分；◆レクチャー、●個人ワーク、▲グループワーク)

経過時間	内容	注意点・教材
5分	◆オープニング 出席確認、概要説明	
30分	◆レクチャー 本コースの概要の説明を行う (30分)	
40分	◆レクチャー 大学で学ぶということについて説明する (40分)	
10分	●振り返り 授業全体を振り返り、一言コメントと自己評価を振り返りシートに書く (5分)	評価視点：自己理解のルーブリック評価
5分	●クロージング 振り返りシート (全員) の提出	

○事後学習

1. 配付資料の復習、不明点の解明。

【2回目】

○事前学習

高校時代に身につけた学習方法、知識。

○授業内容 (4月2日、90分；◆レクチャー、●個人ワーク、▲グループワーク)

経過時間	内容	注意点・教材
5分	◆オープニング 出席確認、概要説明	
15分	◆レクチャー 大学で学ぶ手段 (15分)	
40分	●個人ワーク 高校での学習内容の振り返り (40分)	復習テスト
15分	◆レクチャー 教員の紹介を行う (15分)	
10分	●振り返り 授業全体を振り返り、一言コメントと自己評価を振り返りシートに書く (5分)	評価視点：自己理解のルーブリック評価
5分	●クロージング 振り返りシート (全員) の提出	

○事後学習

1. 高校で使用した教材を使用し、不明点の解明。

【3回目】

○事前学習

テキスト「アクティブラーニング入門」の記載内容を理解する。

○授業内容 (4月3日、90分；◆レクチャー、●個人ワーク、▲グループワーク)

経過時間	内容	注意点・教材
5分	◆オープニング 出席確認、概要説明	
50分	◆レクチャー 大学での学びで重要となる教養教育院の説明 (50分)	
25分	▲グループワーク グループに分かれて大学内を回り、各種施設の場所を確認する (25分)	
5分	●振り返り 授業全体を振り返り、一言コメントと自己評価を振り返りシートに書く (5分)	評価視点：自己理解のルーブリック評価
5分	●クローゼージング 振り返りシート (全員) の提出	

○事後学習

- 興味ある施設を再訪問し、その内容を詳細に理解する。

【4回目】

○事前学習

高校までに身につけた生活習慣

○授業内容 (4月3日、90分；◆レクチャー、●個人ワーク、▲グループワーク)

経過時間	内容	注意点・教材
5分	◆オープニング 出席確認、概要説明	
45分	◆レクチャー 大学で学ぶ手段 (45分)	
25分	◆レクチャー 大学生活における健康管理および健康保険センターの説明 (25分)	
10分	●振り返り 授業全体を振り返り、一言コメントと自己評価を振り返りシートに書く (5分)	評価視点：自己理解のルーブリック評価
5分	●クローゼージング 振り返りシート (全員) の提出	

○事後学習

- 配付資料。

【体験学習の実施】

- ◆コース教員とともに研修旅行に参加し、清掃活動・地引き網などの協働作業を行う。学生は教員と懇談し、最先端の科学技術および研究内容について話し合う。
- ◆体験学習で学んだこと及び興味ある科学技術についての説明を含む文章を作成し、ルーブリック (文章力) で自己評価をした上で提出する。

○事後学習

SIH 道場最終レポートの作成と提出。

【5 回目】

○事前学習

テキスト「アクティブラーニング入門」の記載内容を理解する。

○授業内容 (4月4日、90分；◆レクチャー、●個人ワーク、▲グループワーク)

経過時間	内容	注意点・教材
5分	◆オープニング 出席確認、概要説明	
30分	◆レクチャー 情報機器および情報資源とその使用方法を説明 (40分)	
40分	●個人ワーク 情報機器を実際に利用してみる (15分)	
10分	●振り返り 授業全体を振り返り、一言コメントと自己評価を振り返りシートに書く (5分)	評価視点：自己理解のルーブリック評価
5分	●クロージング 振り返りシート (全員) の提出	

○事後学習

1. 配付資料の復習、不明点の解明。

12.理工学部理工学科電気電子システムコース

SIH道場必須項目設計表(概要のみ)

	到達目標	評価方法・基準	内容			授業実施枠
			事前学習	授業	③学習の振り返り	
① 早期体験	自身の専門分野における先端研究(現場)と大学における学習について、関連させて説明することができる。	レポートの提出・プレゼンテーションコンテンツの提出		STEM演習において電気電子工学の演習を行う。	学んだことをe-ポートフォリオに記入。教員はコメントをフィードバックする。	STEM演習の授業 枠内で実施
	論理的文章の作成・レポートの作成において、注意すべき点について1つ以上説明することができる。	提出物をルーブリック評価表に基づき評価	反転授業コンテンツ <文章力>の視聴・クイズの解答	レポートの書き方についての説明を行う。	学んだことをe-ポートフォリオに記入。教員はコメントをフィードバックする。	SIH道場の授業 枠内で実施
② プレゼンカ	効果的なプレゼンテーションを行うための基本的な手法・ツール等を1つ以上説明することができる。	提出物をルーブリック評価表に基づき評価	反転授業コンテンツ <プレゼン力>の視聴・クイズの解答	研究室見学の報告について5人程度の班に分かれてポスター形式でプレゼンテーションを行う。	学んだことをe-ポートフォリオに記入。教員はコメントをフィードバックする。	SIH道場の授業 枠内で実施
	他者と協同して1つの課題に取り組むことができる。	提出物をルーブリック評価表に基づき評価	反転授業コンテンツ <協働力>の視聴・クイズの解答	研究室見学の報告について5人程度の班に分かれてポスター形式でプレゼンテーションを行う	学んだことをe-ポートフォリオに記入。教員はコメントをフィードバックする。	SIH道場の授業 枠内で実施
注意点	学生が授業を通して何ができるようになるのかについて具体的に明記する。明記の仕方として「○○できる」と表現すると良い。	反転授業の形式で設計し、コンテンツを使用することを推奨する。		アクティブ・ラーニング型授業で実施する。	e-ポートフォリオを活用し、学生と教員間のコメントのやり取りを行う。	「①早期体験」のよ うに既存の授業で 置き換えることも 可能です。

SIH道場プログラム設計評価シート

12.理工学部理工学科電気電子システムコース

要素	項目	チェック	学生の学修効果・成果	改善したい点	次年度に向けた対応
早期体験	①設計した到達目標を学生は達成することができた	どちらともいえない	STEM演習について、実験・実習科目の体験と理解という目的は十分に達成できていると思われる。また研究実習についても、最先端研究の現場を体験できてよくなったという意見が多くあり、これからの専門科目に興味を持って頂きたいように思う。各研究実習の詳細な実施日等は、各班員と担当教員にお互い確認していただくことで、アクティブラーニングの観点から意義があったように思う。	研究実習は、時間的な制約や理解度を深めたため、1つの班は1つの研究室しか見学に行かない。ポスター発表で聴講することも可能であるが、多くの研究室へ見学できる実施方法を検討する必要性があるように思う。	研究実習の日程や実施場所を早く固め、各先生の丁寧でわかりやすい高度な専門性のご指導等を頂けるようにしたい。また、担当教員間の十分な引継ぎが重要であるように思う。
	②設計した内容は、専門分野の学修に対して学生を動機づけるという点で効果的だった	はい			
	③学生に課した事前学習は、学生の早期体験を意義あるものにするために効果的だった	はい			
ラーニングスキル	④設計した到達目標を学生は達成することができた	はい	STEM演習レポート(全14回)の作成、添削、再提出を通じて、論理的な文章の作成力が身に付いたことが確認できると思われる。また、早期体験個人レポートから、教員からのレポート添削や講評を通じて実験レポートに求められる内容が理解できたように思われる。	文章力はSTEM演習レポート添削が大部分を占めていた。SIH道場担当者が必ずしも担当しない。それ故に、SIH道場として修得した文章力は与身体験個人レポートの内容から評価するしかなく、適切な観点からどうか疑問である。	SIH道場の講義での書き方などの概念を実施したが、実践的な書き方の指導にはSTEM演習を利用する方式を継続したほうが良いように思う。継続性のためには、担当教員間での十分な引継ぎが重要であるように思う。
	⑤設計したアクティブ・ラーニング型授業は、学生の学修にとって効果的であった	はい			
	⑥学生に課した授業外学修(事前、または事後)は、学生の学修にとって効果的であった	はい			
文章力	⑦学生の評価は、ルーブリック等で基準を明確にして行った	はい			
	⑧設計した到達目標を学生は達成することができた	はい	研究室見学の報告を各班がポスター発表で行った。一方、すべての班のポスター発表を聴講し、他班の発表内容の評価も行い内容を理解を深めた。聴講者からの質問に対して丁寧な回答していたので、アクティブラーニングを実践できていたように思う。	昨年度と同様に担当講義等と重なり、ポスター発表を聴講できない教員が複数名いた。プレゼン発表の日程を早く決め、早く周知する必要性があるように思う。あるいは、ポスター発表だけでなく、時間と場所を制約を受けないSNSを利用した発表(双方向にコメント記入)も良いかもしれない。	多くの教員が参加しやすいようにプレゼン発表の日程を早く固め、早く周知する必要がある。担当教員間での十分な引継ぎが重要であるように思う。あるいは、時間と場所を制約を受けないSNSを利用した発表(双方向にコメント記入)も良いかもしれない。
	⑨設計したアクティブ・ラーニング型授業は、学生の学修にとって効果的であった	どちらともいえない			
ラーニングスキル	⑩学生に課した授業外学修(事前、または事後)は、学生の学修にとって効果的であった	はい			
	⑪学生の評価は、ルーブリック等で基準を明確にして行った	はい			
	⑫設計した到達目標を学生は達成することができた	はい	早期体験(研究室見学)のための班分け(3-4名からなる1-27班)を行い、協働力等について班員間で議論を行いアクティブラーニングを実践した。学生はコミュニケーション能力の重要性を理解できていたと思われる。	授業内でポスター発表を作ることが難しく、多くの班が授業外で行ったようである。班員時間調整が難しく苦労したようである。科目目への影響もあり難しいと思われる。	研究室見学の日程や場所等を早く固め、入学時オリエンテーションから期間を明けられないように配慮するとともに、プレゼン資料作成の期間を十分とる必要性がある。加えて、担当教員間での十分な引継ぎが重要であるように思う。
ラーニングスキル	⑬設計したアクティブ・ラーニング型授業は、学生の学修にとって効果的であった	はい			
	⑭学生に課した授業外学修(事前、または事後)は、学生の学修にとって効果的であった	はい			
	⑮学生の評価は、ルーブリック等で基準を明確にして行った	はい			
協働力	⑯振りの返りの意義や方法について、学生に説明する、またはテキストの利用などで理解を促した	はい	授業外でも内容の理解を深めるため、SIH道場のビデオ視聴を案内した。毎回、授業後には、eポートフォリオのMaharaを早い学修の振り返りを行った。学修効果を高めるため、教員もMahara上にコメントを書くよう努めた。	eポートフォリオであるMaharaに対する学生の理解度(特にアクセスリスト)が良くなかった。またMaharaの検索ツール能力が低く、思いのほか学生を悩ますのに多くの時間を取られた。この点が改善されればと思う。	振り返りの意義だけでなく、振り返りにeポートフォリオであるMaharaを利用する場合、その使い方を教えておく必要がある。また、研究実習の意義等を十分に引き継ぐ必要があるように思う。
	⑰各授業(体験を含む)の最後やSIH道場の終了時に学生が振り返る時間を設けた	どちらともいえない			
	⑱学生が振り返った内容について教員がフィードバックを行った	はい	新入生にとって他学部ではない学修(研究室見学やSTEM演習)を体験した意義は大きく、プログラミング結果を拝見すると、多くの学生はプログラミングスキル(文章力、プレゼンテーション力、協働力)や振り返りの重要性を理解できていたと思われる。	eポートフォリオであるMaharaに対する学生の理解度(特にアクセスリストの理解)が悪く、提出内容が決してよくなかった。Mahara上で特定の学生を検索するツールがなく、107名の学生の中から特定の学生を順次検索するのに時間を要した。検索性能が向上すれば、良い教育アプリになるのではないかと思う。	SIH道場内容(早期体験、プレゼン力、協働力、振り返り)だけでなくeポートフォリオのMaharaの使い方等についても十分な引継ぎが必要であるように思う。また、研究実習の意義等を十分に引き継ぐ必要があるように思う。更に、継続してSIH道場担当者の負担軽減策が望まれる。
総合	⑲実際のSIH道場プログラムを総合的に見て、今年度の授業設計は、学生が到達目標を達成するために、(5.十分であった、4.概ね十分であった、3.かた、2.やや不十分であった、1.不十分であった)	3			

【様式③】

平成 31 年度 理工学部理工学科電気電子システム SIH 道場
＜授業詳細表単発・イベント型＞

■目的：徳島大学の新生が大学における学習について、理解するとともに、自身の専門分野における先端研究の体験を通して、興味関心を喚起し、徳島大学における学習・研究に対する動機づけを行う。また、学習の基本となる文章の書き方、プレゼンテーションの仕方、振り返りの仕方を学び、それらを実践することで、大学における能動的な学習の基本となる知識、技能、態度を身につける。

■到達目標：

- (1) 自身の専門分野における先端研究（現場）と大学における学習について、関連させて説明することができるとができる。
- (2-1) 論理的文章の作成・レポートの作成において、注意すべき点について 1 つ以上説明することができる。
- (2-2) 効果的なプレゼンテーションを行うための基本的な手法・ツール等を 1 つ以上説明することができる。
- (2-3) 他者と協同して 1 つの課題に取り組むことができる。
- (3) 自身の学習活動を振り返る習慣を身につけることができる。

■成績評価：「SIH 道場最終レポート」を以下の合格基準をもとに評価する。

【SIH 道場最終レポートの内容】

以下の 1) ～ 4) を含む「SIH 道場最終レポート」を作成すること。レポートは手書きでも構わないが、電子媒体での作成・提出を推奨する。

- 1) ポスター（協働力の目標に対応）
 - ・体験学習の成果を、期日までにチームで 1 枚のポスターにまとめて写真を撮る。
 - ・ルーブリックの「協働力」に該当するすべての項目について、自己評価する。
- 2) ポスター発表（プレゼン力の目標に対応）
 - ・ 1) で作成したポスターをつかって、グループ以外のメンバーにチームの成果を説明する。
 - ・ルーブリックの「プレゼン力」に該当するすべての項目について、自己評価する。
- 3) 体験学習個人レポート（文章力の目標に対応）
 - ・体験学習で学びたいと考えていたこと（事前）、実際に学んだこと（事後）、今後の目標の 3 点について A4 判 1 枚程度のレポートを作成する。
 - ・ルーブリックの「文章力」に該当するすべての項目について、自己評価する。
- 4) SIH 道場での収穫

【SIH 道場レポートの合格基準】

以下の評価基準のうち、「必須」と書いてある項目をすべて満たすこと。

- ・レポートに「ポスターの写真」が添付されていること。（必須）
- ・レポートの「自分がポスター発表をしている様子」の動画へのリンクが付与されていること（任意）

【様式③】

- ・レポートに「体験学習個人レポート」が添付されていること。（必須）
- ・「自己評価」と「チームメンバーからの評価（平均点）」が記入された「協働力」「プレゼン力」「文章力」のルーブリックが添付されていること。（必須）
- ・上記ルーブリックの「協働力」「プレゼン力」「文章力」それぞれの総合点が○以上であること。（必須）
- ・SIH 道場の収穫を 1 つ以上挙げて、説明すること。収穫が全くない場合は、その理由とどうすれば収穫が得られそうかを書くこと。（必須）
- ・その他、レポートに必要なと思う内容（任意）

■授業内容（90分・60分）×3回+体験学習（詳細は次ページ）

＜大まかな流れ＞

体験学習を中心に、将来の仕事について考える。

- 1 回目：導入（協働力の育成）
- 2 回目：体験学習の事前学習（文章力の育成）
～専門分野の早期体験（学部が内容を指定）
- 3 回目：体験学習の事後学習（プレゼン力の育成）

※3回は別の日に行うことを想定。同日に行う場合は、事前課題のやり方を調整する必要がある。

※各回の詳細は次ページ

■毎回の授業後に担当教員が行うこと

- ・担当クラスの学生が提出した「振り返りシート」への一言コメント。

■3 回目の授業後（SIH 道場終了後）に担当教員が行うこと

1) 担当クラスの学生が提出した「SIH 道場最終レポート」の添削

- ・不合格者には「再提出要求」を出す。
- ・合格者には点数をつける。（100 点満点）
- 2) 「SIH 道場実施報告書」の提出
 - ・所定の様式に沿って作成・提出する。
 - ・提出先は e ポートフォリオシステムとする。
- 3) 他の担当教員の「SIH 道場実施報告書」の閲覧と相互コメント

■3 回目の授業後（SIH 道場終了後）にコーディネーターが行うこと

- ・授業担当教員の「SIH 道場実施報告書」の提出状況のチェック。未提出者への催促。

【様式③】

【1回目】4月上旬

- 事前学習：なし
 ○授業内容 (90分・60分)：◆レクチャー、●個人ワーク、▲グループワーク

経過時間	内容	注意点・教材
5分	◆オープニング 教員の自己紹介、出席確認、最終課題の確認、今日の課題の確認	授業内容ではなく、最終課題 (SIH 最終レポートと合格基準) を説明する。
15分	◆Moodle 上のビデオコンテンツの使い方、講義の受け方、レポートの書き方等について説明	e ポートフォリオシステムのログイン方法を配布。
15分	▲グループワークの班分け、グループ内での役割分担	連絡調整係に、グループメンバーと連絡が取れる方法を確保しておくように促す
5分	◆クロージング グループへの連絡は連絡調整係へ行うことを告知。役割分担シート、振り返りシートの提出	

○事後学習：未視聴のビデオコンテンツを視聴

【2回目】5月中旬

- 事前学習：Moodle によるビデオコンテンツ (プレゼン力、協働力、文章力) の視聴
 ○授業内容 (90分・60分)：◆レクチャー、●個人ワーク、▲グループワーク

経過時間	内容	注意点・教材
5分	◆オープニング、出席確認	
70分	◆プレゼンテーションの説明 ▲研究室見学の報告について、班に分かれてプレゼンテーションの準備を行う	
5分	◆クロージング	

○事後学習：自宅において、未視聴のビデオコンテンツを視聴

【3回目】6月中旬

- 事前学習：Moodle によるビデオコンテンツ (プレゼン力、協働力、文章力) の視聴
 ○授業内容 (90分・60分)：◆レクチャー、●個人ワーク、▲グループワーク

経過時間	内容	注意点・教材
5分	◆オープニング 教員の自己紹介、出席確認、今日の課題の確認	
70分	▲研究室見学の報告について、班に分かれてプレゼンテーションを行う。	
5分	◆クロージング 最終課題 (SIH 道場最終レポート) の確認	e ポートフォリオシステムでの最終レポート作成方法を配布。

【様式③】

○事後学習

1. e ポートフォリオシステム上に、SIH 道場最終レポートを提出する。
 4. 担当教員はSIH 道場最終レポートにコメントをつけて返却する。

【体験学習の実施】

- ◆前期実施科目の STEM 演習で、基礎的な電気電子の基礎に関する実験を体験させ、レポートを提出させている。ここで理工系のレポートの様式、論理的な文章の書き方等について指導する。また、プレゼンテーションで取り上げる実験テーマについて学習する。

13.理工学部理工学科情報光システムコース

SIH道場必須項目設計表(概要のみ)

	到達目標	評価方法・基準	内容			授業実施枠
			事前学習	授業	③学習の振り返り	
① 早期体験	情報光システムコースにおいて取り組んでいる最先端の研究内容について説明できる。	出席状況とレポートの内容により評価する。	情報系、光系での先端研究について調査しておく。	コース内の研究室を見学し、研究紹介を聴講する。また、配属実習(情報系)、ものづくり体験(光系)をする。	学んだことをレポート作成により振り返る。	「情報光システムセミナー」の中で実施
文章力	論理的な文章の作成・レポートの作成において、注意すべき点について説明することができる。	ルーブリック評価表を用いる。	反転授業ビデオコンテンツ「文章力」の動画を視聴。	レポートの書き方についての講義を行う。ルーブリックを用いたピア評価、ポイント確認。	学んだことをe-ポートフォリオに記入。教員はコメントをフィードバックする。	SIH道場の授業枠内で実施
② プレゼン力	効果的なプレゼンテーションを行うための基本的な手法・ツールについて説明することができる。	ルーブリック評価表を用いる。	反転授業ビデオコンテンツ「プレゼンテーション力」の動画を視聴。	プレゼンテーションスキルについての講義を行う。ルーブリックを用いたピア評価、ポイント確認。	学んだことをe-ポートフォリオに記入。教員はコメントをフィードバックする。	SIH道場の授業枠内で実施
協働力	他者と協同して1つの課題に取り組むことができる。	ルーブリック評価表を用いる。	反転授業ビデオコンテンツ「協働力」の動画を視聴。	専門分野のトピックスについてKJ法ワークを実施し、ルーブリックを用いたピア評価を行う。	学んだことをe-ポートフォリオに記入。教員はコメントをフィードバックする。	SIH道場の授業枠内で実施
注意点	学生が授業を通して何ができるようになるのかについて具体的に明記する。明記の仕方として「○○できる」と表現すると良い。		反転授業の形式で設計し、コンテンツを使用することを推奨する。	アクティブ・ラーニング型授業で実施する。	e-ポートフォリオを活用し、学生と教員間のコメントのやり取りを行う。	「①早期体験」のよ うに既存の授業で置き換えることも可能です。

SIH道場プログラム設計評価シート

13.理工学部理工学科情報光システムコース

要素	項目	チェック	学生の学修効果・成果	改善したい点	次年度に向けた対応
早期体験	①設計した到達目標を学生は達成することができた	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> どちらともいえない <input type="checkbox"/> いいえ <input type="checkbox"/> 設計していない	アンケートでは、84%の学生が、SIH道場の早期体験は専門科目の学習に役立っていると回答している。また、82%の学生が専門分野への興味関心が高まったと回答しており、一定の効果があったと考えられる。	一部事前学習を課すことを行ったが、効果の検証が行えなかった。	事前学習の実施と効果の検証について検討する。
	②設計した内容は、専門分野の学修に対して学生を動機づけるという点で効果的だった	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> どちらともいえない <input type="checkbox"/> いいえ <input type="checkbox"/> 設計していない			
ラーニングスキル	③学生に課した事前学習は、学生の早期体験を意識するものにするために効果的だった	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> どちらともいえない <input type="checkbox"/> いいえ <input type="checkbox"/> 設計していない			
	④設計した到達目標を学生は達成することができた	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> どちらともいえない <input type="checkbox"/> いいえ <input type="checkbox"/> 設計していない	アンケートでは、87%の学生がSIH道場の「文章・レポートの書き方」は役に立っていると回答している。また自由記述において、「レポートを書く際にととめ役立つ」という記述が見られ、効果があったと考えられる。	ルーブリック等を用いた評価が行えなかった。	ルーブリック等を用いた評価の実施。
文書力	⑤設計したアクティビティ・ラーニング型授業は、学生の学修にとって効果的であった	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> どちらともいえない <input type="checkbox"/> いいえ <input type="checkbox"/> 設計していない			
	⑥学生に課した授業外学修（事前、または事後）は、学生の学修にとって効果的であった	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> どちらともいえない <input type="checkbox"/> いいえ <input type="checkbox"/> 課していない			
ラーニングスキル	⑦学生の評価は、ルーブリック等で基準を明確にして行った	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> どちらともいえない <input type="checkbox"/> いいえ <input type="checkbox"/> 課していない			
	⑧設計した到達目標を学生は達成することができた	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> どちらともいえない <input type="checkbox"/> いいえ <input type="checkbox"/> 設計していない	アンケートでは、84%の学生がSIH道場の「ブレゼンテーション」は役に立っていると回答している。自由記述においても、「ブレゼンの重要性を理解できた」「発表しやすくなった」という記述が見られ、効果があったと考えられる。	アンケートの自由記述において、準備期間の違いを改善すべきとの意見が見られた。グループ数が多いためグループ毎に準備に使える期間が異なるというものはある程度仕方ないものの、最初に発表するグループに対しては十分な準備期間を確保する必要がある。	今年度は発表のための授業回数を増やしたが、発表練習の時間も含めた余裕のあるスケジューリングを再検討する。
プレゼン力	⑨設計したアクティビティ・ラーニング型授業は、学生の学修にとって効果的であった	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> どちらともいえない <input type="checkbox"/> いいえ <input type="checkbox"/> 設計していない			
	⑩学生に課した授業外学修（事前、または事後）は、学生の学修にとって効果的であった	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> どちらともいえない <input type="checkbox"/> いいえ <input type="checkbox"/> 課していない			
ラーニングスキル	⑪学生の評価は、ルーブリック等で基準を明確にして行った	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> どちらともいえない <input type="checkbox"/> いいえ <input type="checkbox"/> 課していない			
	⑫設計した到達目標を学生は達成することができた	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> どちらともいえない <input type="checkbox"/> いいえ <input type="checkbox"/> 設計していない	アンケートでは、90%の学生がSIH道場の「他者との協働」は役に立っていると回答している。「自由記述においても、「協働力の大切さを知れた」「協働作業がしやすくなった」などの記述が見られ、効果があったと考えられる。	特になし	本年度と同様に進める
協働力	⑬各授業（体験を含む）の最後やSIH道場の終了時に、学生が振り返り内容を記入した	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> どちらともいえない <input type="checkbox"/> いいえ <input type="checkbox"/> 設計していない			
	⑭振り返りの意義や方法について、学生に説明する、またはテキストの利用などで理解を促した	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> どちらともいえない <input type="checkbox"/> いいえ <input type="checkbox"/> 課していない			
振り返り	⑮各授業（体験を含む）の最後やSIH道場の終了時に、学生が振り返り内容を記入した	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> どちらともいえない <input type="checkbox"/> いいえ <input type="checkbox"/> 設計していない			
	⑯振り返りの意義や方法について、学生に説明する、またはテキストの利用などで理解を促した	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> どちらともいえない <input type="checkbox"/> いいえ <input type="checkbox"/> 課していない	アンケートで「学修（体験）を振り返ることの重要性を理解した」と回答した学生は全体の85%に達している。振り返りの重要性は理解されていると考えられる。	一方で、日頃から授業で学習したことについて振り返りを行っていることと回答した学生は68%であり、32%の学生は自主的な振り返りが実践できていないことがわかる。	学生の振り返りに対する教員からのフィードバックを充実させるなど、自主的な振り返りを促す方法を検討する。
総合	⑰学生が振り返り内容について教員がフィードバックを行った	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> どちらともいえない <input type="checkbox"/> いいえ <input type="checkbox"/> 設計していない			
	⑱実施したSIH道場プログラムを総合的に見て、今年度の授業設計は、学生が到達目標を達成するために、(5、10分であった。4.概ね十分であった。3.ふつう。2.やや不十分であった。1.不十分であった)。	5 (4) 3・2・1	85%の学生が、SIH道場の教育プログラムに満足でき、大学での学修において役に立っていると回答している。また、アクティブラーニングの重要性を理解したという学生も91%に達した。	与えた課題に対し、グループ毎に異なる解決策に発想することや期待していたが、どのグループも似たような発表になってしまった。多様性を持たせる工夫が必要と考えられる。	グループ毎に異なる課題を与える。もしくは複数の課題から選択する仕組みにするなど、課題の与え方について検討する。

平成 31 年度 理工学部理工学科情報光システムコース SIH 道場
 <授業詳細表>

■ **目的**：徳島大学の新生が大学における学習について理解するとともに、情報工学、光工学、知能工学分野における先端研究の体験を通して、興味関心を喚起し、徳島大学における学習・研究に対する動機づけを行う。また、学習の基本となる文章の書き方、プレゼンテーションの仕方、振り返りの仕方を学び、それらを実践することで、大学における能動的な学習の基本となる知識、技能、態度を身につける。

■ **到達目標**：

- (1) 情報光システムコースにおいて取り組んでいる最先端の研究内容について説明することができる。
- (2-1) 論理的文章の作成・レポートの作成において、注意すべき点について説明することができる。
- (2-2) 効果的なプレゼンテーションを行うための基本的な手法・ツール等を説明することができる。
- (2-3) 他者と協同して1つの課題に取り組むことができる。
- (3) 自身の学習活動を振り返る習慣を身につけることができる。

■ **成績評価**：プレゼン内容、レポート等により評価する。

【SIH 道場最終レポートの内容】

- 以下の1)～3)を含む「SIH 道場最終レポート」を作成すること。
- 1) 発表会（プレゼン力、協働力の目標に対応）
 - ・ パワーポイントを用いて作成したスライド（メールまたはUSBで提出）。
 - ・ ルーブリックの「協働力」に該当するすべての項目について自己評価する。
 - ・ ルーブリックの「プレゼン力」に該当するすべての項目について自己評価する。
 - 2) 研究室見学レポート（文章力の目標に対応）
 - ・ 研究室見学報告書。
 - ・ ルーブリックの「文章力」に該当するすべての項目について自己評価する。
 - 3) SIH 道場での収穫

■ **授業内容**

- ・ テクニカルライティング、プレゼンテーションスキルでは、事前学習としてビデオ視聴を行う。講義内で、理解度テストを行い、自己採点後に説明を行う。
- ・ プレインストームニングと KJ 法では、事前学習としてビデオ視聴を行う。講義では 5-7 人のグループに分かれ、グループのメンバーのバックグラウンドやスキル等を紹介しあつた後、リーダーと書記を決める。与えられた大枠テーマ内で具体的なテーマ設定を行い、プレインストームニングを行う。プレインストームニングの結果を KJ 法により整理する。得られた結論に対して、プレゼンテーション用のスライドの作成を行い、プレゼンテーションを行う。

各回の詳細を次に示す

(◆) レクチャー、● 個人ワーク、▲ グループワーク

日時・場所	内容	担当
4月6日(土) 8:40-15:30 場所：K206, K309, K407	【グループワークの講義と実習】 ◆ SIH 道場の概要説明 ◆ グループワークのビデオ視聴・講義 ◆ プレインストームニング(BS)・KJ法の講義 ▲ チーム作り・BSの実習 ▲ KJ法の実習(1)	岡本敏弘 丹羽実輝 水科晴樹 水科晴樹・丹羽実輝 水科晴樹・丹羽実輝
4月10日(水) 8:40-10:10 場所：K407	【テクニカルライティング】 ◆ ●テクニカルライティングの講義・実習 ビデオコンテンツの視聴・クイズ・解答例やポイントの解説を要点毎に区切りながら行う。	大野 将樹
4月17日(水) 8:40-10:10 場所：K407	【プレゼンテーションスキル】 授業前学習（ビデオコンテンツ使用） ● ミニテスト（授業前学習の確認） ▲ ◆採点、ポイント解説(採点は学生同士で行う) ◆ プレゼンテーションスキルの講義 ▲ グループディスカッション ▲ 発表 ● テスト ● 授業の振り返り	伊藤 桃代
4月24日(水) 8:40-10:10 場所：K407	【グループワークの実習】 ▲ KJ法の実習(2)と KJ法のまとめ ▲ 意見の集約と発表資料作成	水科晴樹・丹羽実輝
5月8日(水) 8:40-10:10 場所：K407	【発表会 1】 ◆ オープニング（相互評価について説明） ▲ 発表（1～6班，発表7分，質疑3分） ● 相互評価・自己評価	岡本敏弘 教務委員・学生委員
5月15日(水) 8:40-10:10 場所：K407	【発表会 2】 ◆ オープニング（相互評価について説明） ▲ 発表（7～11班，発表7分，質疑3分） ● 相互評価・自己評価	岡本敏弘 教務委員・学生委員
5月22日(水) 8:40-10:10 場所：K407	【発表会 3】 ◆ オープニング（相互評価について説明） ▲ 発表（12～16班，発表7分，質疑3分） ● 相互評価・自己評価	岡本敏弘 教務委員・学生委員
5月29日(水) 8:40-10:10 場所：K407	【発表会 4】 ◆ オープニング（相互評価について説明） ▲ 発表（17～21班，発表7分，質疑3分） ● 相互評価・自己評価	岡本敏弘 教務委員・学生委員

7/9	K407	グループ工作 もの作り体験が主に個人での工作であるのに対して、グループでの実験や光学器の作製を行い、発表を行う。
7/16	K407	
7/23	K407	

・ 体験学習

以下のように、情報系と光系のそれぞれで実施する。

<情報系実施内容>

日付	場所 (仮)	内容 (仮)
4/10	K202	情報系ガイダンス
4/17	C10	実験体験 ソフトウェア実験、システム実験の説明・体験する (各 30分) 終了後レポート作成 (20分)
4/24	C10	体験配属
5/8	C10	毎週、班ごとに二つの研究室を訪問し、見学・体験する (30分 × 2回)
5/15	C10	
5/22	C10	研究室見学終了後 C10 でレポート作成 (20分)
5/29	C10	
6/5	各研究室	配属実習
6/12	各研究室	班ごとに研究室に配属し、各研究に関連した実験・実習を班別に行う。
6/19	各研究室	
6/26	各研究室	実習で学んだことをテクニカルライティングに沿ってレポート作成する。
7/3	各研究室	
7/10	各研究室	
7/17	各研究室	
7/24	各研究室	

<光系実施内容>

日付	場所 (仮)	内容 (仮)
4/9	K407	光系ガイダンス
4/16	各研究室	体験配属
4/23	各研究室	毎回、班ごとに一つの研究室を訪問し、見学・体験する (60分) 見学終了後、K407 で振り返りレポート作成 (20分)
5/7	各研究室	
5/14	各研究室	
5/21	各研究室	
5/28	各研究室	
6/4	K407	感性教育 エゴグラムによる性格診断についての体験授業を行う。
6/11	K407	もの作り体験
6/18	K407	偏光・屈折等の光学現象に注目し、それを用いた器具等の作製や実験を行う。
6/25	K407	
7/2	K407	

SIH道場必須項目設計表（概要のみ）

	到達目標	評価方法・基準	内容		授業実施枠
			事前学習	授業	
① 早期体験	自分の専門分野における先端研究（現場）を体験し、大学における学習と関連させて説明することができる。	早期体験の報告会でのプレゼンテーションを教員が評価する。	研究室訪問する以前に、その分野について調べてみる。	応用理工数コース教員の研究室を訪問する際の手順やマナー等の指導を行う。	SIH道場の授業実施枠内で実施
文章力	論理的文章を作成する際に注意すべきことを一つ以上説明することができる。	研究室訪問で得た知識等をまとめたレポートを作成させ、教員が評価する。	反転授業コンテンツ「文章力」の4つの動画を視聴する。	論理的な文章の書き方に関する指導を行う。	SIH道場の授業実施枠内で実施
② プレゼンカ	効果的なプレゼンテーションを行うための基本的な手法・ツール等を一つ以上説明することができる。	報告会でのプレゼンテーションを教員が評価する。	反転授業コンテンツ「プレゼンテーション力」の3つの動画を視聴する。	プレゼンテーションを行うにあたっての注意点を指導する。	SIH道場の授業実施枠内で実施
協働カ	他者と協働して一つの課題に取り組むことができる。	報告会のための資料作成および報告会でのプレゼンテーションを通してグループ活動について教員が評価する。	反転授業ビデオコンテンツ「協働力」の3つの動画を視聴する。	グループで話し合いを行う際の注意点を指導する。	SIH道場の授業実施枠内で実施
				③ 学習の振り返り	
				学んだことをポートフォリオに記入する。教員はコメントをフィードバックする。	SIH道場の授業実施枠内で実施

14. 理工学部理工学科応用理工数コース

SIH道場プログラム設計評価シート

14.理工学部理工学科応用理数コース

要素	項目	チェック	学生の学修効果・成果	改善したい点	次年度に向けた対応
早期体験	① 設計した到達目標を学生は達成することができた	はい ⑤5と⑥6も 設計していない	学生アンケートの結果にも見られるように、研究室訪問で専門分野に触れることにより、大学における学習の興味ある分野だけでなく、まったく知らない分野の研究室に行くことで、視野が広がったと感じた学生も多くいた。	訪問先を考えるのにブレインストーミングを用いていくが、何か他に良い方法があれば変更したい。ただし、下記協働力には、この手法は良いとアンケートからは概ね認められる。研究室訪問の時間を「20分/研究室」として設定したが、時間が足りないと感じた学生が多かったため、訪問する研究室の数とプログラムの見直しも行った。	より効果的な話し合いができるよう、ブレインストーミングを含め工夫したい。時間設定に関しては、対応して下さる教員の負担のことも考えながら検討していきたい。
	② 設計した内容は、専門分野の学修に対して学生を動機づけるという点で効果的だった	はい ⑤5と⑥6も 設計していない	研究室訪問ごとの振り返りなど、文章を書く機会を設けたことと、文章を考える力が付いたと思われる。	提出された文章の多くに対してチェック作業を行うことができなかった。フィードバックすることによって高い学習成果が得られたと思われる。	すべての文章をチェックすることは負担的に難しいと思われる。研究室訪問の振り返りシートなど提出するものの精査が必要と考える。チェックを行うなど、フィードバックの機会を増やすことを検討したい。
	③ 学生に馴染んだ事前学習は、学生の早期体験を意義あるものにするために効果的だった	はい ⑤5と⑥6も 設計していない	研究室訪問の際に、メールで各教員に問い合わせるようにより指導を行うことで、正しい書き方などについて理解することができたと思われる。		
ラーニングスキル 文章力	④ 設計した到達目標を学生は達成することができた	はい ⑤5と⑥6も 設計していない	他者に自分の考えを伝えることの大切さと難しさを感じ取り、プレゼンを行うときの注意点について十分な理解ができたと思われる。	準備の時間が短かったこと。一度に複数のプレゼンを行ったので、声が入り交じり、聞き取りにくい状況であった。プレゼンで、資料が小さく見えにくい状況であった。	準備時間に関しては、日程調整などで十分に対応可能と思われるので、検討をしていく。他の改善したい点は、以前から上がっている問題もあり、現状では対応が難しいと思われるが、今後も検討していく。
	⑤ 設計したアブテイル・ラーニング型授業は、学生の学修にとって効果的であった	はい ⑤5と⑥6も 設計していない			
	⑥ 学生に馴染んだ授業外学修（事前、または事後）は、学生の学修にとって効果的であった	はい ⑤5と⑥6も 設計していない	興味や考えが異なる学生同士で協働しながら研究室訪問を行ったりしたことで、協働作業の重要性を知り、また多くの新しい興味を持つことができたと思われ。		
ラーニングスキル プレゼン力	⑦ 学生の評価は、ルーブリック等で基準を明確に行っていた	はい ⑤5と⑥6も 設計していない			
	⑧ 設計した到達目標を学生は達成することができた	はい ⑤5と⑥6も 設計していない			
	⑨ 設計したアブテイル・ラーニング型授業は、学生の学修にとって効果的であった	はい ⑤5と⑥6も 設計していない			
ラーニングスキル 協働力	⑩ 設計した到達目標を学生は達成することができた	はい ⑤5と⑥6も 設計していない			
	⑪ 設計したアブテイル・ラーニング型授業は、学生の学修にとって効果的であった	はい ⑤5と⑥6も 設計していない			
	⑫ 学生に馴染んだ授業外学修（事前、または事後）は、学生の学修にとって効果的であった	はい ⑤5と⑥6も 設計していない			
振り返り	⑬ 振り返りの意義や方法について、学生に説明する、またはフィードバックの利用などで理解を促した	はい ⑤5と⑥6も 設計していない			
	⑭ 各授業（体験を含む）の最後やSIH道場の終了時に学生が振り返る時間を設けた	はい ⑤5と⑥6も 設計していない			
	⑮ 学生が振り返り内容について教員がフィードバックを行った	はい ⑤5と⑥6も 設計していない			
総合	⑯ 道場のSIH道場プログラムを総合的に見て、今年度の授業設計は、学生が到達目標を達成するために、5.10分であった。4.10分であった。3.5分、2.いや不十分であった。1.不十分であった。	5 ④4・3・2・1	研究室訪問を題材にして ・協働力 ・プレゼンテーション力 ・文章力 の重要性を身をもって知ることと、これから大学で身に付けて行くべきことを明確にすることができた。	用紙などによる振り返り行いが、話し合いをする機会が少なかった（設定はしたが時間が足りなかった）。学生同士で話し合う機会を増やすことができたと思う。	時間配分の検討を行い、振り返りの時間を充分に確保できるようにする。
	*その他、他の授業との接続、発展内容・授業運営等の課題があり、それらから書きください。				内容としては現在のものでも十分と思われ。ただ、振り返り込みから思考を重んじる大学の学習へと変換させるためには、もう少しテーマを絞り行うべきと考える。施設の問題や限られた時間で行う必要があるなどの制約が多く、対応が難しいものもあるが、上記の内容を検討していく。

平成31年度 理工学部理工学応用理数コース SIH 道場 < 授業詳細 >

■ **目的**：徳島大学の新入生が大学における学習について、理解するとともに、自身の専門分野における先端研究の体験を通して、興味関心を喚起し、徳島大学における学習・研究に対する動機づけを行う。また、学習の基本となる文章の書き方、プレゼンテーションの仕方、振り返りの仕方を学び、それらを実践することで、大学における能動的な学習の基本となる知識、技能、態度を身につける。

■到達目標：

- (1) 自身の専門分野における先端研究（現場）と大学における学習について、関連させて説明することができる。
- (2-1) 論理的文章の作成・レポートの作成において、注意すべき点について1つ以上説明することができる。
- (2-2) 効果的なプレゼンテーションを行うための基本的な手法・ツール等を1つ以上説明することができる。
- (2-3) 他者と協働して1つの課題に取り組むことができる。
- (3) 自身の学習活動を振り返る習慣を身につけることができる。

■ **成績評価**：「SIH 道場最終レポート」を以下の合格基準をもとに評価する。

【SIH 道場最終レポートの内容】

以下の1)～4)を含む「SIH 道場最終レポート」を作成すること。レポートは手書きでも構わないが、電子媒体での作成・提出を推奨する。

- 1) グループ活動について（協働力の目標に対応）
 - ・「協働力」について学んだことをまとめる。
 - ・グループ活動について振り返り自己評価する。
- 2) 成果発表について（プレゼン力の目標に対応）
 - ・「プレゼン力」について学んだことをまとめる。
 - ・成果発表会での各人の発表および他者の発表を振り返り自己評価する。
- 3) 研究室訪問個人レポート（文章力の目標に対応）
 - ・研究室訪問で学びたいと考えていたこと（事前）、実際に学んだこと（事後）、今回の成果と自身の進路や目標の8点についてレポートを作成する。
- 4) SIH 道場での収穫

【SIH 道場レポートの合格基準】

以下の評価基準のうち、「必須」と書いてある項目をすべて満たすこと。

- ・プレゼンテーション資料が提出されていること。（必須）
- ・SIH 道場最終レポートが提出されていること。（必須）
- ・「自己評価」と「グループメンバーへの評価」が記入された「協働力」「プレゼン力」のグループリックが提出されていること。（必須）

・SIH 道場の収穫を1つ以上挙げて、説明すること。収穫が全くない場合は、その理由とどうすれば収穫が得られそうかを述べること。（必須）

■授業内容（約90分）×10回

<授業スケジュール>（詳細は次ページ）

回	実施日時	内容	会場	提出
1	4月2日（火）14:35～16:05	SIH 道場の説明・担当教員の紹介	K501	○
2	4月3日（水）10:25～11:55	学びの相談について 教養教育院について	創成学習スタジオ	○
3	4月4日（木）10:25～11:55	履修相談	K501	
4	4月5日（金）13:45～14:25	図書館の利用方法	創成学習スタジオ	
5	4月11日（木）12:50～14:20	研究室訪問ガイダンス	総科3号館スタジオ	○
6	4月18日（木）12:50～14:20	グループによるディスカッション	総科3号館スタジオ	○
7	4月25日（木）12:50～14:20	グループによる研究室訪問・調整（協働力）	総科3号館スタジオ	○
8	5月19日（木）12:50～14:20	グループによる研究室訪問（協働力）	総科3号館スタジオ	○
9	5月16日（木）12:50～14:20	グループによる資料作成（協働力）	総科3号館スタジオ	△
10	5月23日（木）12:50～14:20	成果発表会（プレゼンテーション力）	総科3号館スタジオ	◇

提出物：○（振り返りシート）、△（グループ評価（協働力））、◇（グループ評価（プレゼン力））と SIH 道場アンケート）

■ 授業後に担当教員が行うこと（毎回ではなく指定された回のみ）

・担当クラスの学生が提出した「振り返りシート」と「グループ評価」の回収。

■ 最終回の授業後（SIH 道場終了後）に担当教員が行うこと

- 1) 担当クラスの学生が提出した「SIH 道場最終レポート」の添削およびコメント
- ・不合格者には「再提出要求」を出す。
- 2) 「SIH 道場実施報告書」の提出
- ・所定のフォーマットに沿って作成・提出する。（様式は、Word 版、e ポートフォリオ版の2つがある）

■ 最終回の授業後（SIH 道場終了後）にコーディネーターが行うこと

・授業担当教員の「SIH 道場実施報告書」の提出状況のチェック。未提出者への催促。

【第1回4月2日(火)14:35~16:05】K501、司会：三好、全担当者参加
 事前準備：グループ分け、振り返しシートの準備(約70部)(三好)
 目標：SIH道場とは何かを理解する。

経過時間	内容	注意点・教材
20分	◆オープニング SIH道場の詳細・振り返しシートを配布する。 アンケート 教員の自己紹介を行う。 最終課題・成績評価について説明する。	各担当教員による自己紹介 授業内容ではなく、最終課題 (SIH最終レポートと合格基準) を説明する。
40分	◆SIH道場の説明 SIH道場の目的やスケジュールを説明する。事前課題やテスト、eポートフォリオシステムの使い方、反転授業などを説明する。	SIH道場の目的とスケジュール等の説明(三好) eポートフォリオシステム、moodleの使い方の説明(三好)
15分	▲グループメンバー確認 研究室訪問のグループメンバーの確認を行い、各グループで自己紹介する。	グループと担当教員の顔合わせ
5分	◆クロージング 振り返しシートの記入と提出を行う。	振り返しシートの保管(三好)

○事後学習

SIH道場の概要の理解、配布資料の復習。

【第2回4月3日(水)10:25~11:55】創生学習スタジオ、学びについて(理工学部学生委員長、教養教育院教員担当)

事前準備：振り返しシートの準備(約70部)(三好)
 目標：大学における学びの相談について学ぶ。教養教育院での学びのシステムを学ぶ。

○事前学習

教養教育院の履修の手引を読む。

経過時間	内容	注意点・教材
40分	◆レクチャー 学びの相談について	出席確認はしない 理工学部学生委員長
50分	◆レクチャー 教養教育院について	教養教育院教員

○事後学習

教養教育院の履修の手引および資料の復習。

【第3回4月4日(木)10:25~11:55】K501 履修相談、教務委員
 ○事前学習
 Web登録説明会の資料を読む。

経過時間	内容	注意点・教材
90分	◆レクチャー、●個人ワーク、▲グループワーク ●履修相談	出席確認。 手引、時間割、シラバス

履修登録は午後から。教養教育と理工学部手引、時間割、シラバスの全てを持ってくる。

【第4回4月5日(金)13:45~14:25】創成学習スタジオ 図書館の利用法

経過時間	内容	注意点・教材
40分	◆レクチャー、●個人ワーク、▲グループワーク ◆図書館の利用法	注意点・教材

【第5回4月11日(木)12:50~14:20】総合科学部3号館スタジオ、司会：三好、全担当者参加
 事前準備：振り返しシートの準備(約70部)(三好)

目標：研究室訪問の方法について学ぶ。グループでのディスカッション方法を学ぶ。

※研究室訪問の事前指導にあたる

○事前学習

ビデオコンテンツを見る(協働力に関する3つのビデオ教材)

【第6回4月11日(木)10:25~11:55】創生学習スタジオ、学びについて(理工学部学生委員長、教養教育院教員担当)

経過時間	内容	注意点・教材
5分	◆オープニング 出席確認、振り返しシートを配布する。 概要説明を行う。	出席確認は各クラスの担当教員 (協働力のルーブリックの提示 (5月16日への導入))
20分	◆レクチャー 研究室訪問についてのガイダンスを行う。	本日以外での訪問、本日の訪問 についての説明(三好)
20分	◆レクチャー 「協働力」のビデオを見る。	ビデオ視聴後のクイズを実施 (三好)
45分	▲グループ活動 研究室訪問の方針についてディスカッション ・グループとして訪問する4つ程度の希望研究室を 決める。 振り返しシートの提出。	模造紙、ペン、ポストイットを 配布(教理で用意) ポストイット、模造紙13枚× 2

○事後学習

研究室訪問に際しての依頼メール作成・内容の確認など。

【第6回4月18日(木)12:50~14:20】総合科学部3号館スタジオ、司会：守安、全担当者参加

事前準備：振り回りシートの準備(約70部)(三好)

※グループによってはディスカッションを継続

○授業内容(90分)：◆レクチャー、●個人ワーク、▲グループワーク

経過時間	内容	注意点・教材
5分	◆オープニング 出席確認、授業概要説明、振り回りシートの配布。	出席確認を行う。 14:10に集合を告知する。
75分	▲グループ活動 研究室訪問の方針についてディスカッション ・前回決定できなかったグループは、再度ディスカッションを行い、訪問研究室を決定する。 ・すでに訪問する研究室が決まっている場合、研究室訪問を実施する。	
5分	●振り回り グループでの活動を振り返る。	
5分	◆クロージング 振り回りシートの提出。 次回の授業の予告を行う。	振り回りシートの保管(三好)

○事後学習

研究室訪問で得た情報をまとめる。

【第7回4月25日(木)12:50~14:20】総合科学部3号館スタジオ、司会：三好、全担当者参加

事前準備：振り回りシート(約70部)(三好)

目標：研究室訪問。

○授業内容(90分)：◆レクチャー、●個人ワーク、▲グループワーク

経過時間	内容	注意点・教材
5分	◆オープニング 出席確認、授業概要説明、振り回りシートの配布。	14:10に集合を告知する。
75分	▲グループ活動 研究室訪問、および訪問研究室の再調整を行う。 ・研究室訪問が決定しているグループは引き続き研究室を訪問する。 ・グループとして希望研究室の訪問ができない場合、他グループから希望者を募り、別に訪問グループを作って訪問する。 (担当者のアドバイスが必要⇒)	できる限り学生全員が希望する分野・研究室を訪問できるように配慮する。 担当者が訪問希望研究室のアドバイスを行なう。 (希望学生のいるグループ担当者) ○希望分野・研究内容の抽出 ○他グループの希望者への声掛け。 ○訪問グループの結成(グループ内での連絡体制決める) ○訪問研究室の推薦
5分	●振り回り グループでの活動を振り返る。	
5分	◆クロージング 振り回りシートの提出。 次回までの課題を発表。	振り回りシートの保管(三好)

○事後学習

研究室訪問で得た情報をまとめる。

【第8回5月10日(木)12:50~14:20】総合科学部3号館スタジオ、司会：三好、全担当者参加

事前準備：振り返しシート（約70部）（三好）

目標：研究室訪問。

○授業内容（90分）；◆レクチャー、●個人ワーク、▲グループワーク

経過時間	内容	注意点・教材
5分	◆オープニング 出席確認、授業概要説明、振り返しシートの配布。	14：10 に集合を告知する。
75分	▲グループ活動 研究室訪問	
5分	●振り返り グループでの活動を振り返る。	
5分	◆クロージング 研究室訪問を終えての振り返しシートの提出。 次回までの課題を発表。	課題：「プレゼンテーション力」 のビデオを見て、クイズに答える。 振り返りシートの保管（三好）

○事後学習

研究室訪問で得た情報をまとめる。

【第9回5月16日(木)12:50~14:20】総合科学部3号館スタジオ、司会：三好、全担当者参加

事前準備：協働力のルーブリック（約70部）（三好）

○事前学習

ビデオコンテンツを見る（プレゼンテーション力に関する3つのビデオ教材）

○授業内容（90分）；◆レクチャー、●個人ワーク、▲グループワーク

経過時間	内容	注意点・教材
5分	◆オープニング 出席確認、授業概要説明、協働力のルーブリック評価を配布。	14：10 に集合を告知する。 プレゼンテーションのルーブリックの提示（次回への導入）
75分	●▲グループ活動 プレゼンテーション資料作成（手書き）を行う。 A4版2枚まで	教員は適宜アドバイスを行う。 下書き用紙は特に配布しない。
5分	●振り返り グループ活動を振り返る。	協働力のルーブリック評価
5分	◆クロージング 協働力のルーブリック評価を提出する。 次回の授業の予告を行う。	ルーブリックの保管（三好）

○事後学習

プレゼンテーション資料の作成および見直し。

情報科学入門でWordの使用方法を学習し、5月16日に作成した手書きのプレゼンテーション資料をWordで作成する。ただし、必ずしもプレゼンテーション資料はWordで作成しなければならないわけではない。

次のような点からも自身の考え方を整理してみる。

- ・自身の希望研究分野・研究室を訪問し、話を聞いて得た知識や感想。
- ・希望研究分野のイメージが訪問前後でどのように変化したか、しななかったか。
- ・自身の希望する研究方向が訪問前後でどのように変化したか、しななかったか。
- ・今回の成果と自身の希望する研究、進路、目標などとの関連。
- ・希望外の研究室を訪問して新たな発見があったか。
- ・新たに希望する研究分野などが見つかったか。

【第10回5月23日(木)12:50~14:20】総合科学部3号館スタジオ、司会：三好、全担当者

事前準備：プレゼンカのルーブリック(約70部)(三好)

○事前学習

グループでプレゼンテーション資料を完成させ、発表の準備をする。

○授業内容(90分)：◆レクチャー、●個人ワーク、▲グループワーク

経過時間	内容	注意点・教材
5分	◆オープニング 出席確認、授業概要説明、プレゼンテーションカのルーブリック評価を配布。	
70分	▲、●成果発表 6ヶ所に分かれてグループ毎にホワイトボード上で のポスター発表を同時実施する。 1ヶ所には二つのグループを配置し、前半と後半に分かれてそれぞれの班が互いに発表と聴講を行う。 発表は、質疑応答を含め一人5分間とする。 司会はグループの担当教員が行う。	A4版用紙2枚に発表内容をまとめ、 評価視点：プレゼンカのルーブリック評価
10分	●振り返り 成果発表会の振り返り。 アンケートの記入	
5分	◆クロージング 最終課題(SIH道場最終レポート)の確認を行う。 終わりの挨拶。 プレゼンテーションカのルーブリック評価を提出する。 アンケートを提出する。	最終レポートは5月31日(金)までに提出 提出先は教養教育院のレポートボックス ルーブリックの保管(三好)

○事後学習

1. ビデオコンテンツを見る(文章力に関する4つのビデオ教材)
2. SIH道場最終レポートの作成と提出。

注) SIH道場最終レポートは【SIH道場最終レポートの内容】の4項目を書き込み出来るA4版1枚を提出。最終レポート用紙の作成担当は(三好)。前年度担当者に確認が必要。

注) 応用数理コースSIH道場のmoodleでのページの作成依頼担当は(三好)。不要の場合割愛する。
Maharaで代用できる。

SIH道場必須項目設計表（概要のみ）

15. 生物資源産業学部

	到達目標	評価方法・基準	内容			授業実施枠
			事前学習	授業	③学習の振り返り	
① 早期体験	自身の専門分野に関連した伝統技術の実際や絵画に登場する農水畜産物や農業・食品・医療文化と大学における学習について、関連させて説明することができる。	作成レポートの提出	学外研修で体験した伝統技術や絵画に登場する農水畜産物や農業・食品・医療文化についてインターネットを利用して自主的に調べる。	1. 学外研修→研修した内容について調査し、レポートとして文章にまとめる。 2. 学外研修→研修した内容についてプレゼンテーションとKJ法ワークを行う。	③学習の振り返り 学んだことをe-ポートフォリオに記入。教員はコメントをフィードバックする。	SIH道場の授業枠内で実施
文章力	論理的な文章の作成・レポートの作成において、注意すべき点について1つ以上説明することができる。	提出物にルーブリック評価表を用いる	反転授業コンテンツ：「3.ラーニングスキルを身につけよう」にある「文章力」に関するビデオコンテンツの視聴	早期体験1の内容に対して作成したレポートについて、ルーブリックを用いたピア評価、ポイント確認、ブラッシュアップ	③学習の振り返り 学んだことをe-ポートフォリオに記入。教員はコメントをフィードバックする。	SIH道場の授業枠内で実施
② プレゼンカ	効果的なプレゼンテーションを行うための基本的な手法・ツール等を1つ以上説明することができる。	ルーブリック評価表を用いる	反転授業コンテンツ：「3.ラーニングスキルを身につけよう」にある「プレゼンテーション力」に関するビデオコンテンツの視聴	早期体験2の内容に対して作成したプレゼンテーションについて、ルーブリックを用いたピア評価、ポイント確認、ブラッシュアップ	③学習の振り返り 学んだことをe-ポートフォリオに記入。教員はコメントをフィードバックする。	SIH道場の授業枠内で実施
協働力	他者と協同して1つの課題に取り組むことができる。	ルーブリック評価表を用いる	反転授業コンテンツ：「3.ラーニングスキルを身につけよう」にある「協働力」に関するビデオコンテンツの視聴	早期体験2の内容に対してKJ法ワークを実施し、ルーブリックを用いたピア評価を行う。	③学習の振り返り 学んだことをe-ポートフォリオに記入。教員はコメントをフィードバックする。	SIH道場の授業枠内で実施

平成 31 年度生物資源産業学部 SIH 道場 授業詳細表

15. 生物資源産業学部

■ 目的：

生物資源産業学部の新入生に対する教育と研究に関する導入教育を行う。大学における学習の意義を理解し、自身の専門分野に関連した伝統技術の実際や絵画に登場する農水畜産物や農業・食品・医療文化に関する学外研修（藍染体験および大塚国際美術館見学）を通して、専門分野における興味関心を喚起し、生物資源産業学部の学習・研究に対する動機づけを行う。また、大学における学習・研究に対して学生が能動的に取り組むことができるように、能動的学習の基盤となる学習技術（文章力、プレゼンテーション力、協働力、振り返り力）習得のため、レポート作成、個人・グループ単位でのプレゼンテーションおよびKJ法を用いたワークショップを実施する。

■ 到達目標：

- (1) 自身の専門分野に関連した伝統技術の実際や絵画に登場する農水畜産物や農業・食品・医療文化と大学における学習について、関連させて説明することができる。
- (2-1) 論理的文章の作成・レポートの作成において、注意すべき点について 1 つ以上説明することができる。
- (2-1) 効果的なプレゼンテーションを行うための基本的な手法・ツール等を 1 つ以上説明することができる。
- (2-3) 他者と協同して 1 つの課題に取り組むことができる。
- (3) 自身の学習活動を振り返る習慣を身につけることができる。

■ 成績評価：以下の各項目について合格基準をもとに評価する。

- 1) 体験学習プレゼンテーション（プレゼン力の目標に対応）
 - ・学外研修の体験学習を通して学んだこと、得たことおよび感じたことなどについて発表を行う。
 - ・評価は、担当教員がルーブリック評価表（「プレゼン力」）で採点する。
- 2) 体験学習ポスター発表（協働力の目標に対応）
 - ・学外研修の体験学習を今後の学びにどう活かすのか、どう役立てるのかについてグループで議論し意見を集約して発表を行う。
 - ・評価は、担当教員がルーブリック評価表（「協働力」）で採点する。
- 3) 体験学習個人レポート（文章力の目標に対応）
 - ・学外研修の体験学習で学びたいと考えていたこと（事前）、実際に現場で学んだこと（事後）、今後の目標などについて A4 判 1 枚程度（約 1000 字）のレポートを作成する。
 - ・評価は、担当教員がレポート内容をグループ評価表（「文章力」）で採点する。

【SIH 道場の合格基準】

- 以下の評価基準についての必須項目をすべて満たしていること。
- ・「体験学習プレゼンテーション」を行っていること。
 - ・「体験学習ポスター発表」に参画し、討論および発表を行っていること。
 - ・「体験学習個人レポート」を提出していること。

■ 授業内容（90 分）× 4 回 + 体験学習（詳細は次ページ）

< 大まかな流れ >

学外研修を中心に実施し、専門分野についての理解を深める。

- 1 回目：導入（SIH 道場関連資料の使用方法的会得）
- 2 回目：反転授業（ビデオコンテンツ）による事前学習
～専門分野の早期体験等（学外研修：藍染体験、大塚国際美術館の見学）
- 3 回目：学外研修の事後学習（個人プレゼンテーション；プレゼン力の育成）
- 4 回目：学外研修の事後学習（KJ 法とポスター発表；協働力の育成）

終了後：学外研修の課題提出（個人レポート作成；文章力の育成）

※各回の詳細は次ページ

■ 毎回の授業後に担当教員が行うこと

- ・ e ポートフォリオシステムを利用し、担当クラスの学生が提出した「振り返りシート」への一言コメント。コメントは、学外研修終了時、個人プレゼン終了時、ポスター発表終了時、課題レポート終了時の計 4 回。
- 4 回目の授業後（SIH 道場終了後）に担当教員が行うこと
 - 1) 担当クラスの学生が提出した「SIH 道場最終レポート（体験学習個人レポート）」の添削
 - ・不合格者には「再提出要求」を出す。
 - ・合格者は「認定」の評価をつける。
 - 2) 「SIH 道場実施報告書」の提出
 - ・ e ポートフォリオ版の書式に沿って作成し、e ポートフォリオシステム上に提出する。
 - 3) 他の担当教員の「SIH 道場実施報告書」の閲覧と相互コメント
- 4 回目の授業後（SIH 道場終了後）にコーディネーターが行うこと
 - ・ 授業担当教員の「SIH 道場実施報告書」の提出状況のチェック。未提出者への催促。

15. 生物資源産業学部

【1回目】(4月2日(火)8:40~10:10)

○導入、学外研修の事前学習
SIH道場についての内容説明、情報機器と情報資源の使用法説明、WEB (http://sih-web.cloudapp.net/sih/)上のビデオコンテンツ(「1. SIH道場で学びの基礎について身につけよう」と「3. ラーニングスキルを身につけよう」)にあるビデオコンテンツの視聴。「SIH道場について」の視聴と「eポートフォリオの使い方」の理解は必須。

○事後学習
学外研修実施場所(施設・研究所・企業)の事前調査、学外研修で学びたいと思うこと、などについて事前に考えておくように連絡する。自宅から未視聴のビデオコンテンツを視聴。

【2回目】(4月2日(火)10:25~11:55)

○学外研修の事前学習
ビデオコンテンツ(「プレゼンテーション力」、「文章力」に関するもの)を見る。「プレゼンテーション力」と「協働力」に関するビデオコンテンツの視聴は必須。「文章力」に関するビデオコンテンツは課題レポートの作成前までにしておくように連絡する。

○事後学習
学外研修実施場所の事前調査、学外研修で学びたいと思うこと、などについて事前に考えておくように連絡する。自宅から未視聴のビデオコンテンツを視聴。

【学外研修の実施】

○学外研修内容(4月3日(水)8:30~16:50)
研修場所: 藍住町歴史館 藍の館(藍染体験)
ゆめタウン徳島(星食場所)
大塚国際美術館(絵画文化鑑賞)

学部定員を約35名弱ずつ3班(1、2、3)に分割して3台のバスに分乗し、各施設での体験と見学生は気づいたことをメモしながら学外研修を行う。

研修行程計画表(統括責任者:長宗秀明、副責任者:刑部敬史)

1班(担当:田端厚之、山田久嗣)
2班(担当:川上竜巳、向井理恵)
3班(担当:服部武文、山城考)
工学部発 → 藍の館 → ゆめタウン徳島(星食) → 大塚国際美術館 → 工学部着

○事後学習

学生はeポートフォリオシステム上に、振り返りレポートを提出。担当教員は振り返りレポートにコメントを付けて返却する。

【3回目】(4月4日(木)8:40~10:10)

学外研修と同じ班に分かれ、3教室にて実施。班内の各個人がビデオコンテンツ(プレゼン力)を参考

15. 生物資源産業学部

にして、体験学習を通して学んだことや感じたことなどについて班全員の前で1名ずつ1~2分間のプレゼンを行う。各班の担当教員がグループブック評価表により採点する。

○授業内容(90分); ◆レクチャー、●個人ワーク、▲グループワーク

経過時間	内容	注意点
5分	◆オープニング(内容説明)	
25分	●プレゼンテーション内容の検討	下書き用紙に記載
65分	●プレゼンテーション(1~2分間)	プレゼン力のルーブリック評価
5分	◆クロージング(総評)	

○事後学習

学生はeポートフォリオシステム上に、振り返りレポートを提出。担当教員は振り返りレポートにコメントを付けて返却する。

【4回目】(4月4日(木)10:25~11:55)

学外研修と同じ班に分かれ、3教室にて実施。班内を4~5名ずつの7~8班に分けて、ビデオコンテンツ(協働力)を参考にして、体験学習を今後の学びにどう活かすのかについてKJ法による集団討議を行う。討議結果についてのポスターを製作し、各班の代表者が議論内容をまとめて2~3分間で発表する。各班の担当教員がグループブック評価表により採点する。

○授業内容(90分); ◆レクチャー、●個人ワーク、▲グループワーク

経過時間	内容	注意点
5分	◆オープニング(KJ法の説明)	
15分	●カードの作成	各自最低3~4枚に記入
15分	▲カードの島作りと自由討論	同意見、異意見の分類
15分	▲カードの島のまとめと名称付け	意見間の関連性チェック
10分	▲発表のためのまとめ	発表者の決定
25分	▲発表(2~3分+若干の討論)	協働力のルーブリック評価
5分	◆クロージング(総評) 体験学習個人レポートの作成と提出について	レポート締切日等の諸連絡

○事後学習

学生はeポートフォリオシステム上に、振り返りレポートを提出。担当教員は振り返りレポートにコメントを付けて返却する。

【SIH道場終了後の課題】

学生はeポートフォリオシステム上に、SIH道場を総括した内容の課題レポート(体験学習個人レポート)を締切日までに提出。担当教員は課題レポートにコメントを付けて返却する。

SIH道場必須項目設計表(概要のみ)

16.医療教育開発センター

	到達目標	評価方法・基準	内容			授業実施枠
			事前学習	授業	③学習の振り返り	
① 早期体験	医療現場で活躍している専門家の講演を聴講し、グループワークを通して自分自身を振り返り、今後の自分の学習のあり方について説明することができる。	他学部・学科学生との合同ワークショップでのグループワークのノウハウ・マナーについて班毎にグループワーク評価を行い、振り返りレポートで個別に評価する。	ワークショップテーマに関連した資料を閲覧する。	ワークショップのテーマに沿った専門家の講演を聴講する。他学部・学科学生と合同でグループワークを行い、テーマについてのプロダクトを作成する。	リフレクションシート、振り返りレポートに学んだことを記入する。教員は振り返りレポートを評価し、コメントをフィードバックする。	SIH道場「チーム医療入門」平成31年9月30日13:00-17:00
文章力	今後の自分の学習のあり方についてレポートにまとめることができる。	振り返りレポートで評価する。	反転授業ビデオコンテンツ「文章力」の動画を視聴。	ワークショップ終了後に、今回のテーマについて自分の意見を振り返りレポートとしてまとめ、提出する。	教員は振り返りレポートを評価し、コメントによるフィードバックを行う。	SIH道場「チーム医療入門」平成31年9月30日13:00-17:00
② プレゼン力	グループで討議した結果を他のグループにプレゼンテーションできる。	代表者の発表をグループワーク評価表を用いて評価する。(班全体の評価とする)。	反転授業ビデオコンテンツ「プレゼンテーション力」の動画を視聴	3~4班合同でプロダクトをもとに各班の発表と討議を行う。	リフレクションシートを作成し、教員からのグループワーク評価結果をeレポートフォリオで確認する。	SIH道場「チーム医療入門」平成31年9月30日13:00-17:00
協働力	他者と協力して、テーマについて討議(意見交換)し、プロダクトを作成できる。	グループワーク評価表を用いて評価する(班全体の評価とする)	反転授業ビデオコンテンツ「協働力」の動画や「法の動画を視聴する。	ワークショップのテーマについて班単位でKJ法を用いてプロダクトを作成する。	リフレクションシートを作成する。教員からのグループワーク評価結果をeレポートフォリオで確認する。	SIH道場「チーム医療入門」平成31年9月30日13:00-17:00
注意点	学生が授業を通して何ができるようになるのかについて具体的に明記する。明記の仕方として「○○できる」と表現すると良い。		反転授業の形式で設計し、コンテンツを使用することを推奨する。	アクティブ・ラーニング型授業で実施する。	eレポートフォリオを活用し、学生と教員間のコメントのやり取りを行う。	「①早期体験」のよ うに既存の授業で置き換えることも可能です。

SIH道場プログラム設計評価シート

要素	項目	チェック	学生の学修効果・成果	改善したい点	次年度に向けた対応
早期体験	①設計した到達目標を学生は達成することができた	<input checked="" type="checkbox"/> はい、どちらともいえない <input type="checkbox"/> 設計していない	他学科の学生と討議し、発表する機会があり、目標は達成していると考えられた。	特になし	変更は予定していない。
	②設計した内容は、専門分野の学修に対して学生を動機づけるという点で効果的だった	<input checked="" type="checkbox"/> はい、どちらともいえない <input type="checkbox"/> 設計していない			
	③学生に課した事前学習は、学生の早期体験を意義あるものにするために効果的だった	<input checked="" type="checkbox"/> はい、どちらともいえない <input type="checkbox"/> 設計していない			
ラーニングスキル 文章力	④設計した到達目標を学生は達成することができた	<input checked="" type="checkbox"/> はい、どちらともいえない <input type="checkbox"/> 設計していない	おおむね達成できた。	特になし	変更は予定していない。
	⑤設計したアクティブラーニング型授業は、学生の学修にとって効果的であった	<input checked="" type="checkbox"/> はい、どちらともいえない <input type="checkbox"/> 設計していない			
	⑥学生に課した授業外学修（事前、または事後）は、学生の学修にとって効果的であった	<input checked="" type="checkbox"/> はい、どちらともいえない <input type="checkbox"/> 設計していない			
ラーニングスキル プレゼン力	⑦学生の評価は、ルーブリック等で基準を明確にして行った	<input checked="" type="checkbox"/> はい、どちらともいえない <input type="checkbox"/> 設計していない	WSで作成したプログラムを他の班にプレゼンテーションできていた。	特になし	変更は予定していない。
	⑧設計した到達目標を学生は達成することができた	<input checked="" type="checkbox"/> はい、どちらともいえない <input type="checkbox"/> 設計していない			
	⑨設計したアクティブラーニング型授業は、学生の学修にとって効果的であった	<input checked="" type="checkbox"/> はい、どちらともいえない <input type="checkbox"/> 設計していない			
ラーニングスキル 協働能力	⑩学生に課した授業外学修（事前、または事後）は、学生の学修にとって効果的であった	<input checked="" type="checkbox"/> はい、どちらともいえない <input type="checkbox"/> 設計していない	WS形式のプログラムである。与えられたテーマについて、討議し、プログラムを作成していた。	特になし	変更は予定していない。
	⑪学生の評価は、ルーブリック等で基準を明確にして行った	<input checked="" type="checkbox"/> はい、どちらともいえない <input type="checkbox"/> 設計していない			
	⑫設計した到達目標を学生は達成することができた	<input checked="" type="checkbox"/> はい、どちらともいえない <input type="checkbox"/> 設計していない			
振り返り	⑬各授業（体験を含む）の最後やSIH道場の終了時に学生が振り返る時間を設けた	<input checked="" type="checkbox"/> はい、どちらともいえない <input type="checkbox"/> 設計していない	おおむね達成できた。	特になし	変更は予定していない。
	⑭学生の評価は、ルーブリック等で基準を明確にして行った	<input checked="" type="checkbox"/> はい、どちらともいえない <input type="checkbox"/> 設計していない			
	⑮振り返りの意義や方法について、学生に説明する、またはテキストの利用などで理解を促した	<input checked="" type="checkbox"/> はい、どちらともいえない <input type="checkbox"/> 設計していない			
総合	⑯学生が振り返った内容について教員がフィードバックを行った	<input checked="" type="checkbox"/> はい、どちらともいえない <input type="checkbox"/> 設計していない	総合的に概ね十分であると考えられた。	チーム医療入門は、将来チーム医療を推進するための準備教育の第一段階として位置づけられ、医・歯・薬学部がチャーターとして参加している。毎年、初めて参加する教員も多い。事前説明を行っているが、説明からWS当日まで、日程に余裕がなかったため、もう少し時間に余裕を持った説明会の日程を組みたい。	教員に対する説明会を、本年度よりも早く実施する。
	⑰実施したSIH道場プログラムを総合的に見て、今年度の授業設計は、学生が到達目標を達成するために、5.5分であった。4.概ね十分であった。3.ふつう。2.やや不十分であった。1.不十分であった。	<input checked="" type="checkbox"/> はい、どちらともいえない <input type="checkbox"/> 設計していない			
※その他、他の授業との接続・発展内容・授業運営等の課題がありましたらお書きください。					

【様式③】
平成31年度 医療教育開発センター SIH道場 <授業詳細表・イベント型>

■目的：

- 1) 医療人として各専門職種を目指す学生が、将来、円滑なチーム医療を実践するための基盤形成として必要な相互理解をはかる。
- 2) 医療人を目指す学生として、今後の学生生活で何を学び、習得していくべきかを他学部、他学科の学生と共に考え、お互いから学ぶことを通して、医療人としてのプロフェッショナルリズムの醸成をはかる。

■到達目標：

- 1) 他者と協力してテーマについて討議（意見交換）し、プロダクトを作成できる。
- 2) 「テーマ（未定）」について討議することができる。
- 3) 今、自分達ができること、今後の学習のあり方について討議することができる。
- 4) グループで討議した結果をほかのグループにプレゼンテーションできる。

■成績評価：「SIH道場最終レポート」を以下の合格基準をもとに評価する。

以下の1)～3)に基づいて、グループワークにおける協働力およびプレゼンテーションシヨンのルーブリック評価、振り返りレポートによる文章力のルーブリック評価を行う。

- 1) チーム医療入門ワークショップへの参加
 医療現場で活躍している専門家の講演を聴講し、他学部・学科学生との混合グループで協働してテーマに沿ってプロダクトを作成する。さらに、そのプロダクトについてグループ間でプレゼンテーションと討議を行う。
- 2) 「リフレクションシート」の作成
- 3) 「振り返りレポート」の作成

チーム医療入門ワークショップへの参加について、自らを振り返り、今後の学習について考える。

- 3) 「振り返りレポート」の作成
 「チーム医療入門」に参加して、学生自身が学んだこと、また今後の学習に関する目標について、A4用紙1枚（約1000文字）にまとめる。

【SIH道場レポートの合格基準】

以下の3つの評価基準をすべて満たすこと。

- 1) チーム医療入門ワークショップに参加すること。
- 2) リフレクションシートを提出すること。
- 3) グループワークにおける協働力とプレゼンテーションシヨンのルーブリック評価で合格すること。
- 4) 振り返りレポートを提出し、そのルーブリック評価で合格すること。

*ルーブリック評価での合格基準は、各観点での評価尺度で（c）がひとつまでとする。

■ワークショップ概要

開催日時：平成31年9月30日 13：00～17：00

会場：（予定）大塚講堂（1F 大ホール、2F 小ホール）、保健学科C棟、総合研究棟

対象：蔵本地区（医学部、歯学部、薬学部）1年生 約400名

方法：大野智先生（島根大学医学部附属病院 臨床研究センター 教授）の講演「未定」を聴講し、講演

【様式③】

を紹介して学修する。それに続いてテーマ「未定」に沿ってグループワーク（ディスカッション）を行い、プロダクト作成・発表・討議する。

タイムスケジュール：

- 12:30 受付
- 13:00 全体オリエンテーション
 ・挨拶 徳島大学大学院医薬学研究所 未定
 ・ワークショップ・スケジュール説明
- 13:20 講演「未定」

講師：大野智先生（島根大学医学部附属病院 臨床研究センター 教授）

14:20 各ワーキング会場に移動

14:30 グループワーク開始

- ・アイスブレイキング（自己紹介）
- ・役割（司会、時計、発表）分担を学生で決める。
- ・ワークショップ作業開始：KJ法により、模造紙1枚にプロダクトを作成。

16:00 小グループ発表

- ・1会場3班でグループ発表（発表5分＋質疑3分）
 - ・全体討論5分（学生が司会）
 - ・チューターのコメント、振り返り・フィードバックを行う
- 16:45 まとめ

・学生はSIH道場アンケート記入

・チューターはアンケート記入

17:00 学生作業終了 解散

17:10 チューター反省会（スキルスラボ5、6）

*チューターはティーチングポートフォリオ入力（10月6日まで）

事前学習

- 1) KJ法：ワークショップで利用するKJ法の進め方
- 2) 大野智先生から推薦の資料を閲覧する。

事後学習

- 1) 振り返りレポートの作成・提出
- 2) eポートフォリオシステムで、ルーブリック評価（協働力、プレゼン力）の確認。

令和元年度 SIH 道場振り返りシンポジウム実施報告

1) 開催趣旨

各学部・学科での「SIH 道場～アクティブ・ラーニング入門～」を振り返り、取組内容および成果と課題を共有し、次年度のプログラム改善に繋げる。

2) 実施概要

日時：令和元年 11 月 15 日（金）16:30～19:00（16:00 受付開始）

場所：常三島キャンパス 総合科学部地域連携プラザ2階地域連携大ホール(けやきホール)

参加対象：大学、短大、高等専門学校、高等学校の教職員及び学生

【令和元年度 SIH 道場～アクティブ・ラーニング入門～振り返りシンポジウムポスター】

文部科学省大学教育再生加速プログラム (AP)
テーマI～アクティブ・ラーニング～

令和元年度 SIH道場振り返り シンポジウム

STRIKE WHILE THE IRON IS HOT. 鉄は熱いうちに打て

令和元年
11/15 (金)
16:30～19:00

徳島大学における全学必修初年次教育科目「SIH道場～アクティブ・ラーニング入門～」を振り返り、成果と課題を共有し、改善に繋げるためのシンポジウムを開催します。

徳島大学 常三島キャンパス
総合科学部地域連携プラザ2階地域連携大ホール(けやきホール)
対象：大学、短期大学、高等専門学校、高等学校の教職員及び学生

16:30-16:35	開会の挨拶	高石 喜久	理事・副学長(教育担当) AP実施専門委員会 委員長
16:35-16:55	令和元年度SIH道場総括	塩川 奈々美	高等教育研究センター
16:55-17:25	授業設計2.0(イテ)による 授業実践報告	上月 康則 友竹 正人	理工学部理工学科(社会基盤) 医歯学部歯学科看護学専攻
17:25-17:55	ポスター発表	各学部・学科(O-2) 担当教員	授業設計コーディネーター
17:55-18:15	SIH道場受講生からの報告	各学部・学科(O-2) 学生	授業評価改善ワーキンググループ
18:15-18:45	ディスカッション	吉田 博	高等教育研究センター
18:45-18:55	外部評議員からのコメント		
18:55-19:00	閉会の挨拶	川野 卓二	高等教育研究センター AP実施専門委員会 副委員長

徳島大学
【問い合わせ先】
徳島大学教員支援課教育普及推進部
所在地：〒770-8502 徳島県徳島市新橋町2丁目24番地
電話：086-656-7679 (内線：81-7114)
メール：ky@tokushima-u.ac.jp
【主催】徳島大学 大学教育再生加速プログラム実施専門委員会
徳島大学 大学教育再生加速プログラム実施専門委員会
〒770-8502 徳島県徳島市新橋町2丁目24番地
TEL: 086-656-7679 (内線: 81-7114)
MAIL: ky@tokushima-u.ac.jp

3) 開催報告

最初に、宮崎隆義教授（大学教育再生加速プログラム実施専門委員会副委員長）が開会の挨拶を行った。次に「令和元年度 SIH 道場の総括」として、塩川奈々美特任助教が、大学教育に対する社会のニーズの変化、SIH 道場の目的および令和元年度の各プログラムの取組概要について紹介すると共に、令和元年度の学生アンケート結果について説明を行った。続いて、「SIH 道場授業設計コーディネーターによる実施報告」として、コーディネーターを代表して上月康則教授（理工学部理工学科社会基盤デザインコース）と友竹正人教授（医学部保健学科看護学専攻）が報告を行い、各学部学科の授業設計コーディネーターによ

る「ポスター発表」が行われた。その後、「SIH 道場受講生からの報告」として SIH 道場評価・改善 WG の学生から各学部学科で取り組まれた SIH 道場に関する意見が述べられた。その後の「ディスカッション」には宮崎隆義教授、上月康則教授、塩川奈々美特任助教、SIH 道場評価・改善 WG 委員 2 名（安田結月さん（総合科学部）・中野剛志君（理工学部社会基盤デザインコース））が登壇し、吉田博講師の司会のもと、SIH 道場の役割や効果、持続可能な SIH 道場の実施方法に関するディスカッションを展開した。

本シンポジウムには、学内教職員、学生および外部評価委員の 72 名が参加し、今年度の SIH 道場の課題を踏まえ、次年度に向けた改善点を検討する機会となった。

4) ディスカッションのまとめ

ディスカッションは、シンポジウムで共有されてきた SIH 道場の実施報告やアンケート結果、学生からの意見などを踏まえて、さまざまな立場の参加者間で議論を行い、次年度以降のプログラム改善に繋げることが目的である。登壇者は、教養教育院より宮崎隆義教授・教養教育院長（大学教育再生加速プログラム実施専門委員会副委員長）、授業設計コーディネーターより理工学部社会基盤デザインコース上月康則教授、各プログラムの実施支援の立場より高等教育研究センター教育改革推進部門の塩川奈々美特任助教、受講者の立場より理工学部社会基盤デザインコースの中野剛志君、総合科学部安田結月さんの 5 名であり、司会は高等教育研究センター教育改革推進部門の吉田博講師が務めた。

ディスカッションでは、事前に会場参加者に配付された「EQ シート」を活用し、SIH 道場振り返りシンポジウム全体や「SIH 道場評価・改善 WG 委員」の学生に向けた質問を受け付けた。

まず、参加学生から「SIH 道場の活動意義について、どの程度各学部学科で周知されているのか。SIH 道場の意義について担当の先生から説明がなかった。」とする質問がなされ、授業設計コーディネーター代表として上月教授より「社会基盤デザインコースでは、1泊2日でプログラム。少人数で担当しているから情報共有はなされている。」との回答が得られた。次に同じく参加学生から「SIH 道場の活動内容や量が各学部学科で大きな差があるのはなぜか。」との質問がなされ、SIH 道場の実施・支援を担当する塩川特任助教から「教員の規模による。授業に割ける人数に違いがある。各学部学科でどこまで目指すのか、目標が違うため、実施日数や時間にも差が出てくる。」と回答された。これらの質問により、SIH 道場実施の意義理解が十分に学生に伝わっていない状況があることが明らかとなった。

次に、「SIH 道場の早期体験について受講後に振り返ることがあるか」という質問がなされ、受講生を代表して中野君、安田さんが「友達作りのきっかけになったし、その友人と振り返ることがあった。」と回答した。SIH 道場設計の必須項目である「早期体験」を通じて、入学時点の学生にとって、専門分野を体験するだけでなく、友人作りのきっかけとなってい

ることがわかった。

また、「教養や専門の授業などでどれぐらいの割合で AL を行うのが良いか。」との質問には塩川特任助教は「AL をどう想定するのかにもよる。AL をどのような目的で利用するかによる。」と回答し、教養教育院の宮崎教授は「AL ではコミュニケーション能力が養われるが、知識の習得には至らないのではないかという問題がある。AL をしながら学生が自ら知識を取り入れていくことが求められる。初年次から教養に触れるにあたり、SIH 道場の基本的な部分で多くの教員が関わり、AL を身に付けてもらっている。学生がもつ潜在的な能力を伸ばすために、効果的に AL を実施できればと思う。」との意見が述べられた。学生視点からの回答も求められ、安田さんが「AL をどう活用するか。授業を実施する教員が学生に学びを与えられるよう問題提起をし、働きかける。その手段として AL が実施されれば効果的である。割合は知識と AL の割合は 7 : 3、8 : 2 など。」と述べた。AL の普及・導入が求められる中、学修の目的に応じた効果的な導入が求められている。

「人的・経済的コストの観点から持続可能な内容にするためにはどういう工夫が可能でしょうか。低コストでも効果の高いコンテンツに関して何かアイデアはありますか。」という質問には上月教授が回答し、コースで伝統的に合宿の費用について、学友会による補助や、安く利用できる宿泊施設の活用、学生による 1000 円程度の自己負担、企業からの支援を募るなどコースでできる努力を行っている旨を説明した。

「満足度に何が影響しているのか。分析しているか。」という質問には塩川特任助教が指名され、昨年度の自由記述の解析の結果から、各コースの SIH 道場授業内容のうち、満足度の高いものは何なのかについて一定の偏りが確認されたことを報告した。

この他、SIH 道場で学んだことが専門課程で活かされているという実感があるかどうかについて質問がなされ、司会の吉田講師がフロアの参加教員に意見が求めた。「SIH 道場の事業が始まる前と後とで学生に違いは感じられるか」の問いかけにフロア参加者は「変わったと思う (2 名)」「変わっていないと思う (10 名以上)」となり、SIH 道場の効果について検討を重ねる必要があることが明らかとなった。

今後の SIH 道場の運用を行っていくためには、各学部学科の SIH 道場授業設計コーディネーターを含めた授業担当者による SIH 道場の積極的な活用が求められる。学生たちの学びが一単位の枠組みに収まらなければならないということではなく、SIH 道場を契機とし他科目へ波及させ、その学び・学ぶ姿勢が将来的な学修の深化へと続くよう、連携を図る必要性が示唆された。継続的かつ発展可能な SIH 道場の運用を目指し、教員、学生双方との議論を重ねていきたい。

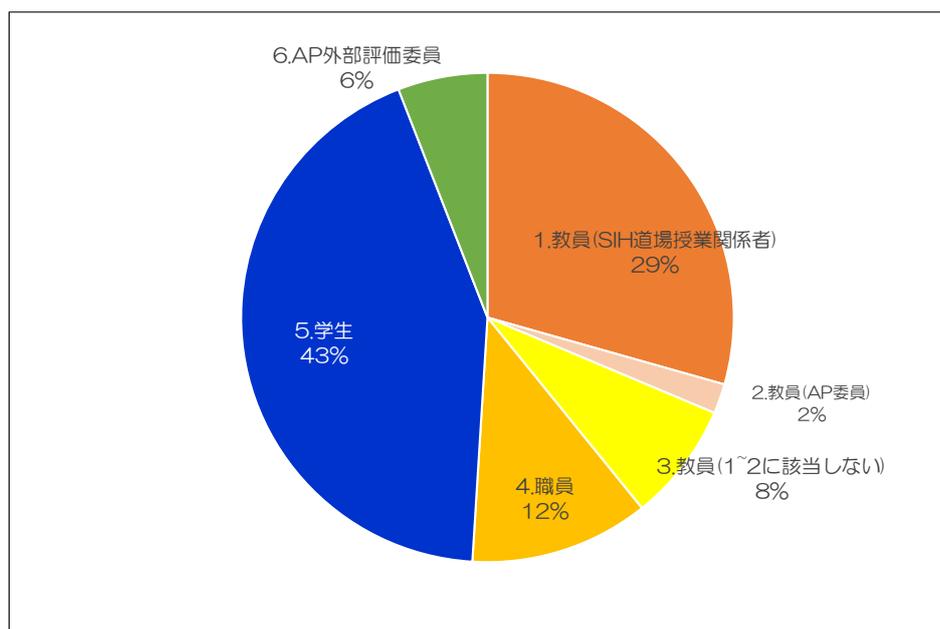
5) 令和元年度 SIH 道場振り返りシンポジウム 参加者アンケート集計結果

開催日時：令和元年 11 月 15 日（金）16:30～19:00

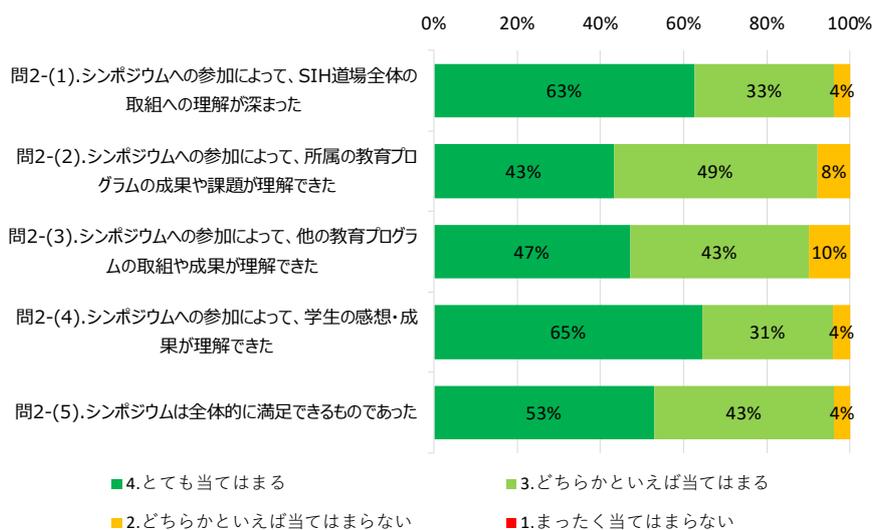
参加者数：72 名（うち運営スタッフ 10 名）

アンケート回答者数：51 名（回収率：70.8%）

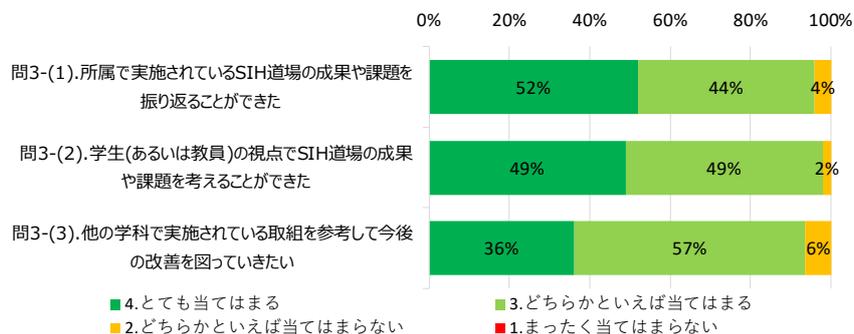
問 1. 回答者の所属について



問 2. 振り返りシンポジウムについて



問3. 振り返りシンポジウムに参加した感想



問4. 参加してよかった点、今後の改善点（自由記述）

- SIH 道場について改めて理解を深めることができた点。
- SIH 道場が今後更に有意義な授業になるシンポジウムだと思いました。
- 他学部の先生のお話から、学習に対する意識やコミュニケーション力を高めるために様々な工夫をされていることが分かりました。
- 私自信は大学（高等教育）において、こういう活動をする意義を見出すことができません。高校や中学校でやるべきことかなと思いました。他の医療人と交流できたのは良かったという感想は多かった。
- 登壇中に周りを見回すと寝ている大人の方が多かったので次回からは注意して頂きたいです。
- 学生に圧がかかっていたように感じた
- 学生からの意見のうち、上級生（学部2～4年）にサポートに入ってもらいたいという言葉が印象に残った。補助金終了後も何らかの形でつなげて頂きたい。
- 振り返りを教員と学生が共有できるという場があるのは良いと思う。互いの意見を聞くことで、それぞれの視点で物事を考えられ、より実り多いものになっていくと思った。
- 他学部の取り組みを参考に改善について考えてゆきたい。
- ○○先生が発表された社会基盤コースの取組みが非常に良かった。学生にとっても非常に有効な取り組みになっていると思う。他の学部でも、マネしやすいので、広く紹介してはどうでしょうか。
- 教員間のふり返りが必要。
- よかった：単純に、他の授業とは違い、多くの先生方が形作っていることを理解できた点。改善点：時間管理。"簡けつに"という言葉が目立ち、本来あるべき意見を少しけずっている気もする。重要な部分が伝わらないおそれがある。
- ポスター発表で他学部の SIH 道場の取り組みを知ることができた。SIH 道場受講生からの報告とディスカッションのときの質問に抽象的な内容が多く答えることが少し難しかった。
- 改めて SIH 道場について考える機会になりました。ありがとうございました。

- 学生の発言は良いですね
- 他の学部が SIH 道場で何をしたのかたくさん聞いてよかった。私の学部では、グループ発表の後の教授の評価があまり厳しくなかったのもっと厳しく言ってほしかったです。
- 大学の講義をうけると、もっと生徒が自発的に受けることのできる講義にできるのではないかと思う。生徒の意見をしっかりと教員に伝えてほしいなと思いました。
- ・小グループに分けた、グループディスカッションを取り入れると、より、ふりかえりが充実すると思う。・SIH に積極的に取り組んでいる学科もあり、今後の取り組みが改善できる可能性があることが分かった。・栄養の教授が後半見当たらなかった。(熱心でないことがはっきりわかった)。
- 他学科や教員の意見を聞き、SIH 道場についての理解を深めることができた。
- SIH 道場の目的を再認識し、これからの学生生活にどう活かしていけば良いのか理解できた。
- SIH 道場をどのように先生方がプログラムして、目的をもっているかが分かってよかった。
- SIH 道場のとり組みについて、学部、学科、専攻で差があると知り、それは塩川先生が、教員の人数の差であるとおっしゃっていたが、栄養と比べると、放射はとても貴重な体験をすることができたと考えるので、それは差がありすぎると考えた。
- 学生の様々な意見を聞くいい機会でした。
- 他の学部がどのような活動をしたのかが分かった。また、生徒と教師の双方向の授業が良いと改めて思った。
- 他学部・他学科・他専攻・他コースの SIH の取り組みを聞き、参考なる点もたくさんありこれからの学びにつなげていきたいと思った。教授の方とのディスカッションも勉強になり有意義な時間であった。
- 他学部の人の話が聞いてよかった。
- 他のコースの取組を具体的に聞いたこと 学生のコメントも参考になった
- 受講生の姿、成長している姿が
- 他の人の意見が聞いたこと。と他学部で SIH として行っていることを知れたこと。
- 学生さんの意見を聞いたのは、有意義でした。
- やはり振り返りが、異なる意見や観点を持った方と一っしょにできたことが有意義でした。
- ・学生の意見がきけたことがよかった。 ・多くの教員、学生が参加できる時間帯に開催してほしい
- 参加者が少ないので参加者を増やす必要があるように思う。
- SIH 道場プログラムに対する学生の生の意見が聞いた。シンポジウムは有意義であったが、参加人数が少ないと感じた。これらが学科・コースで共有されれば、本プログラ

ムが、さらに充実したものになると考えられる。

問5. 所属の SIH 道場を体験しての感想及び意見（自由記述）

- やらないよりもやって良かったと思う。
- MRI を使って脳機能についての研究体験を行いました。卒研の時には、さらに深く学習することができるということで今後の学習に意欲的に取り組みたいと思いました。
- 総合科学部と他の学部とは教育に関する考え方が違うのでこういう活動は、他学部に任せた方が良いのではないのでしょうか。
- 喋る機会を頂けて非常に有難かったです。
- もっと意義のあるコンテンツに改善できないものか。2 学科合同に無理があるのか。という感想です。
- やったわりに実感がうすい。「無くても良い」「怠い」という意見を友人への聴き取りで聴いた。実を言うと、僕自信にも憶えていることが少ない。いくら重要でも、生徒にとって面白くなければ効果がない。☆アンケートの信ぴょう性が低い。「どちらでもない」を取り入れ、本当に「どちらかというが良い/悪い」と思っている実教をハイクすべき。
- 大学入学前のプログラムだったこともあり戸惑いもあったが大学での学びの基盤となったことを実感している。
- SIH 道場の実施の効果はある（はず）だと思うが、3 年生あたりを見て、SIH 道場がはじまった年の前後よりも、改組に伴う入学生の質（？）の違いが大きすぎて、SIH 道場の効果が分からなかった。改組後入学した学生（光）のモチベーションアクティブィティは以前に比べ低い、SIH のおかげで、ましなのかもしれないと思う。
- 藍染体験は、生物資源産業学部にとっても関係している内容だったので、来年度も続けてほしい。
- 生徒だけでなく、教員も SIH 道場の内容を理解して講義をすると、よりよい講義になると思う。
- ・プログラムに関して、担当教師（教授）があまり積極的ではない、と感じた。・人数に応じた取り組み方をしっかりと決めてほしい。（人数が足りないなら、上級生を活用すれば良いと思う）・担当者アンケート回答率が悪く、0%の学科もあったため、生徒と同様に聞き取り調査を行うべきだと思う。そこで、担当者と生徒との認識や満足度のずれが見えるようになる。
- アクティブ・ラーニングを通して学科やプレゼンについて学べ、同じ学科の友人もできて充実した学生生活をおくることのできるきっかけを作ってくれたように思う。個人的にはとても良かった。
- 将来に向けての心構えができた。
- 私の所属では地引き網をして、友達がたくさんでき、協働性がついてとてもよかった。

しかし、大学で必要なレポートの知識等は教えてもらえなかったため、そのプログラムを組み込む必要があると感じた。

- 私は早期研究室体験を通して、芳賀研究室で、min-max 補正と、Z-score 補正を用いて両者の補正の特徴とその差が有意であるかを調べた。その結果を他の研究室で体験をされていて、基礎知識のない放射線校の仲間に分かりやすく伝える発表をするために、画像や実際に用いた結果を power point にまとめ、発表した。そのときに班全員で、1つの研究結果をみんなに分かりやすく伝えるために、議論したことは、プレゼンテーション能力の向上やコミュニケーション能力の向上に役立ったと考える。また、1年のうちに将来の仕事像が見えたことは、今後のモチベーションにつながったと思う。
- お世話になりました。勉強になりました。
- 友達ができるきっかけとなった。大学でどのような学びをするのかが分かって良かった。
- 学部生の 3, 4 年生の意見も聞きたかったです。(SIH 道場で学んだことが活かしているのか、自分の成長も実感できているか) 来年以降も、ふり返りシンポが開かれるなら、卒業生にもアンケートを取っていただき、結果を公表してほしいです。
- 学んだこと (レポート・プレゼンテーションなどのアクティブ・ラーニング) をこの機のみならず、これから活かしていきたいと考える。
- 先生たちの研究内容が知れてよかった。
- SIH で、レポートに関して点数や評価をしっかりとしてほしいという意見があったが、それをしてもらって全員が自分で反省し改訂するのか、疑問に思った。自分で、見直したり、本で調べるのが大事だと思う。何でもかんでもつめ込むのは良くない。
- シンポジウムを通じて、何故アクティブ・ラーニングが「本当」に必要なのかの真の意味をほとんどの教員は全く理解していないのがわかった。
- 特にありません

1

令和元年度 SIH道場 ～アクティブ・ラーニング入門～

総括

徳島大学高等教育研究センター
教育改革推進部門 特任助教
塩川 奈々美

4

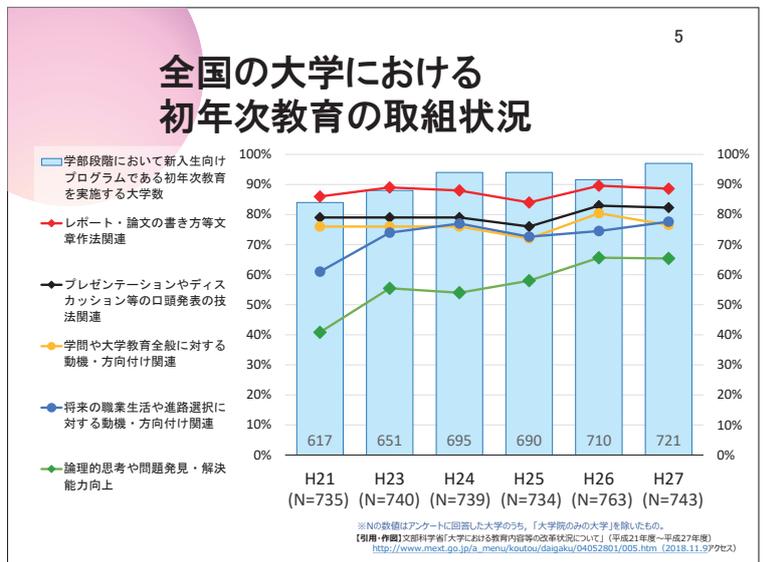
初年次教育の位置付け

- 「**初年次教育は、**高等学校で身に付けるべき基礎学力の単なる補習とは一線を画すべきであり、高等学校教育から大学における学修に移行するに当たって、**大学における本格的な学修への導入、より能動的な学修に必要な方法の習得等を目的とするもの**として捉えるべき」（高大接続答申2014, p.21）
- 初年次教育
高等学校から大学への円滑な移行を図り、**大学での学問的・社会的な諸条件を成功させるべく、主として大学新入生を対象に作られた総合的教育プログラム。**高等学校までに習得しておくべき基礎学力の補完を目的とする補習教育とは異なり、新入生に最初に提供されることが強く意識されたもの。（文部科学省2017）

2

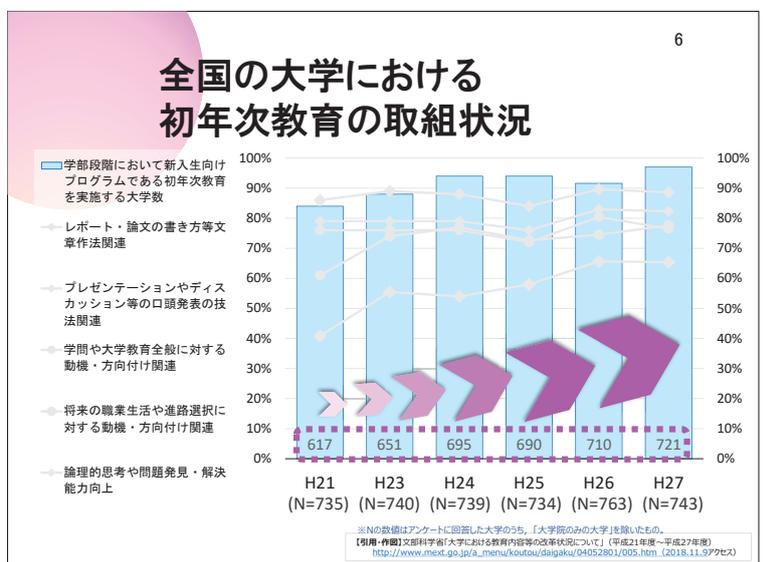
総括の概要

- 初年次教育の在り方
 - 初年次教育の位置づけ
 - 全国の大学における初年次教育の取組状況
 - 企業の求める人材
 - 初年次教育の在り方
- SIH道場の概要
- 令和元年度の取組
 - SIH道場 受講前・受講後アンケート調査結果
 - SIH道場 授業担当者アンケート調査結果
 - SIH道場 支援教材・LMSの活用
- 今後の課題

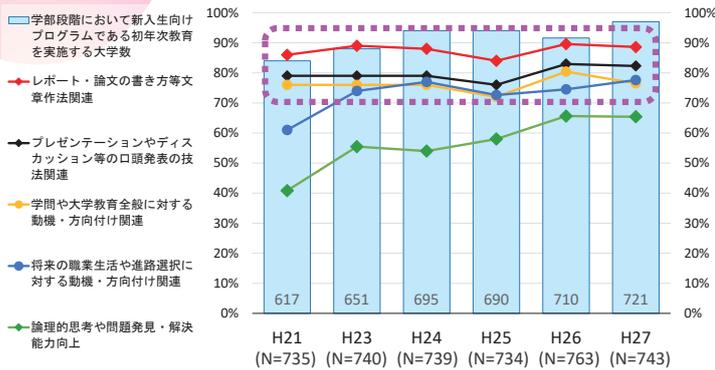


3

初年次教育の在り方

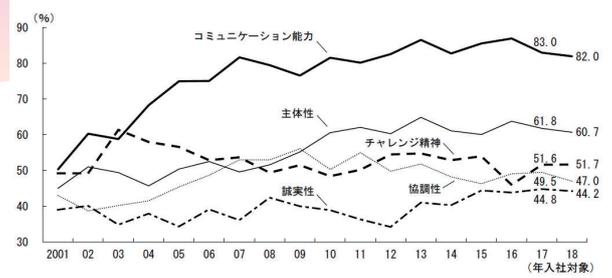


全国の大学における初年次教育の取組状況



※Nの数値はアンケートに回答した大学のうち、「大学院のみの大学」を除いたもの。
 【引用・作図】文部科学省「大学における教育内容等の改革状況について」（平成21年度～平成27年度）
http://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/daigaku/04052801/005.htm（2018.11.9P2E）

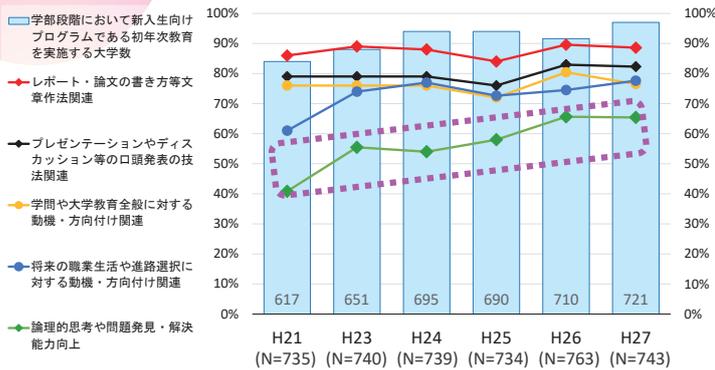
企業の求める人材



- ◆ 上位5項目の需要の高さは安定している。
- ◆ 「コミュニケーション能力」は平成21年度から30%増

【引用・作図】「2017年度 新卒採用に関するアンケート調査結果」日本経済団体連合会（経団連）が企業の大卒等新卒者の採用選考活動を総括することを目的に、1997年度より実施。【調査対象】経団連企業会員1,339社、【回答社数】553社（回答率41.3%）、【実施時期】2017年7月28日～8月31日、【回答社内訳】製造業42.1%、非製造業57.3%、不明0.5%；従業員数1,000人以上71.8%、500人以上1,000人未満14.1%、500人未満12.7%、不明1.4%【URL】<http://www.keidanren.or.jp/policy/2017/096.pdf>

全国の大学における初年次教育の取組状況



※Nの数値はアンケートに回答した大学のうち、「大学院のみの大学」を除いたもの。
 【引用・作図】文部科学省「大学における教育内容等の改革状況について」（平成21年度～平成27年度）
http://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/daigaku/04052801/005.htm（2018.11.9P2E）

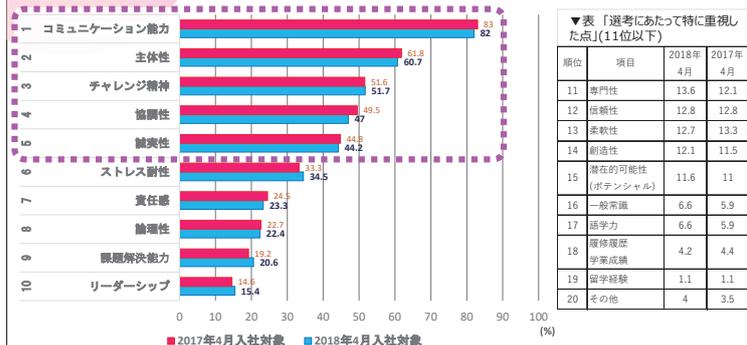
初年次教育の在り方

- 大学における本格的な学修への導入、より能動的な学修に必要な方法の習得等を目的とするものとして位置付けられ、大学での学問的・社会的な諸条件を成功させるべく、主として大学新入生を対象に作られた総合的教育プログラム。
- 新卒採用者に「コミュニケーション能力」「主体性」「チャレンジ精神」「協調性」「誠実性」が重視される社会
 ⇒ 大卒程度の専門的な知識・技能・能力は前提
 企業の人材育成方針に適応できる人物

これから始まる大学での学修に備え、4年後に社会で求められる人材に育つための素地を養う機会

企業の求める人材

◆ 「選考にあたって特に重視した点（5つ選択）」（上位10位，前年度比較）



▼表 「選考にあたって特に重視した点」(11位以下)

順位	項目	2018年4月 (%)	2017年4月 (%)
11	専門性	13.6	12.1
12	信頼性	12.8	12.8
13	柔軟性	12.7	13.3
14	創造性	12.1	11.5
15	潜在的可能性 (ポテンシャル)	11.6	11
16	一般常識	6.6	5.9
17	語学力	6.6	5.9
18	履修履歴	4.2	4.4
19	留学経験	1.1	1.1
20	その他	4	3.5

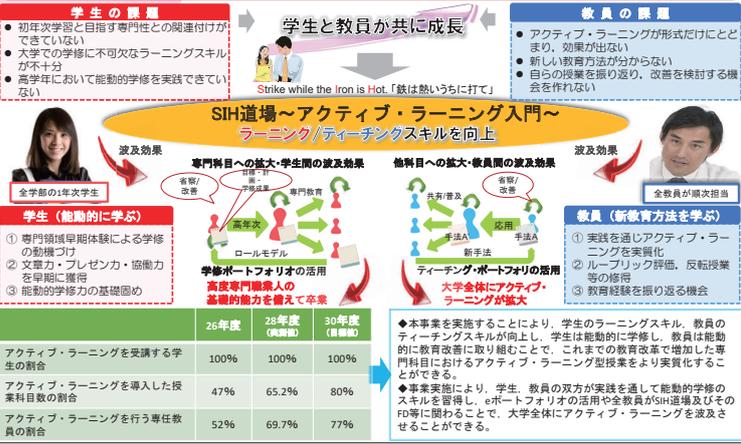
【引用・作図】2017年度 新卒採用に関するアンケート調査結果「日本経済団体連合会（経団連）が企業の大卒等新卒者の採用選考活動を総括することを目的に、1997年度より実施。【調査対象】経団連企業会員1,339社、【回答社数】553社（回答率41.3%）、【実施時期】2017年7月28日～8月31日、【URL】<http://www.keidanren.or.jp/policy/2017/096.pdf>

SIH道場の概要

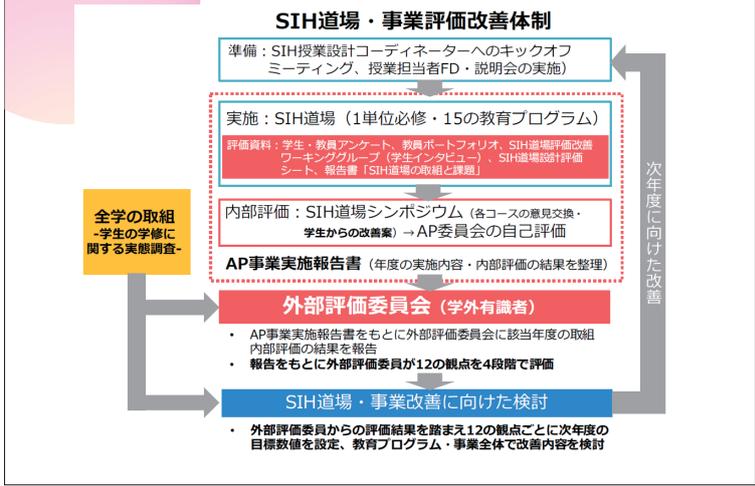
SIH道場の概要

平成26年度「大学教育再生加速プログラム」選定取組

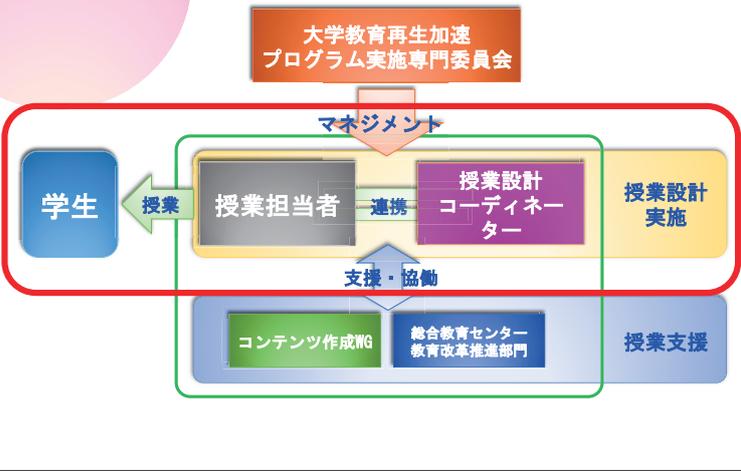
本事業は、「鉄は熱いうちに打て」(SIH: Strike while the Iron is Hot)の精神に則り、「SIH道場～アクティブ・ラーニング入門」を初年次に導入し、反転授業、グループワーク、学修ポートフォリオ、専門領域早期体験等によるリフレクションを基盤としたアクティブ・ラーニングの体験を通して、学生と教員が共に学び合い、成長することで、アクティブ・ラーニングを学生課題全般に浸透させていく取組である。



SIH道場・事業評価改善体制

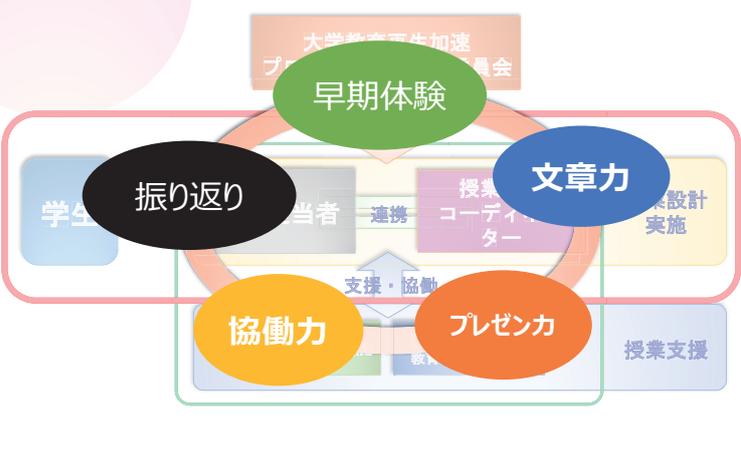


SIH道場実施に関わる各アクターの関係



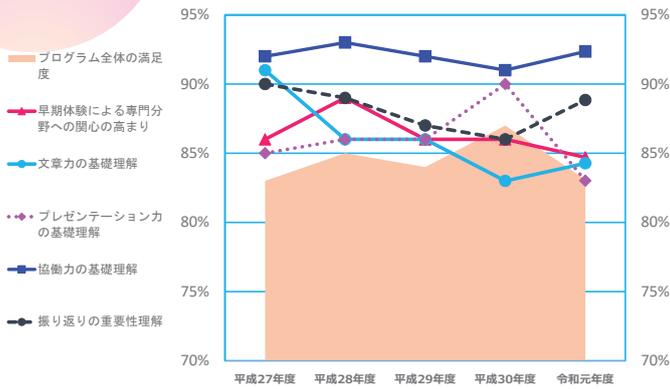
令和元年度の取組

SIH道場実施に関わる各アクターの関係



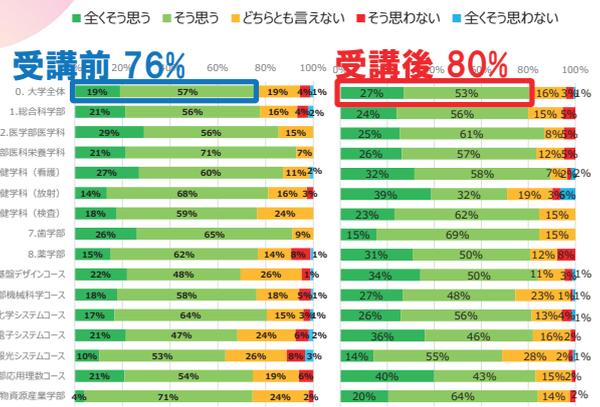
学部	学科	①体験学習			③振り返り
		文書力	プレゼン力	協働力	
総合学部	総合社会科学科	大塚国際美術館見学	授業後の再レポート作成・指導後の再レポート作成	・SIH道場 (学友コミュニケーション)	プロダクトへ教員がコメントし、学生が振り返りを行う
	医学部	・キリア形成等に関する授業・診療現場体験	・ビデオ教材の視聴、授業・振り返りWS終了後にレポート作成	・振り返りWS及びチーム医療入門WSでK3法を用いて振り返りでプレゼン	・リアクションシートの活用・学生が振り返りを行い教員がコメント
	医科栄養学科	・研究室訪問・先輩の講演の聴講 (チーム医療入門)	WS時にK3法で出た意見をまとめる	作成したプロダクトに基づきプレゼン	両単位でWSを行いプロダクト作成
医学部	保健学科 (看護)	「先輩」からのメッセージ聴講	講義および書かせたものでのプレゼン	「先輩からのメッセージ」でのプレゼン評価	仕事に対する将来像についてK3法ワーク
	保健学科 (放射)	認定講師・専門技師の講演・研究室配属および体験学習	体験学習のレポート作成	報告会でのプレゼン	短期研究室配属での協働作業
	保健学科 (検査)	「先輩」からのメッセージ聴講・「大学院のすすめ」	レポートを書かせたものでのプレゼン	「チーム医療入門」でのプレゼン	「チーム医療入門」でのK3法ワーク
歯学部	歯学科	「PBL」実習	「アカデミック・ライティング入門」聴講	「PBL」実習	「新人研修」でのコンセンサスゲーム、ワークアウト
	口腔保健学科	「相互価値学習」	「相互価値学習」	「相互価値学習」	「相互価値学習」
	歯学部	創薬薬科学科	・講演 薬理で働く「ほか」	・「先輩」からのメッセージ聴講	・K3法で出た意見をまとめる
薬学部	創薬薬科学科	・先輩の講演 (「チーム医療入門」)	最終レポート作成 (「チーム医療入門」)	STEM実習でのレポート作成・ピア評価	チームに関する調査研究を行いレポート発表
	社会基礎デザイン	・体験合宿・実習体験	・「先輩」からのメッセージ聴講	「集中研修」でのグループ制作を行いプレゼン	両単位でWSを行いプロダクト作成
	機械科学	「機械科学実習1」での技術体験	・体験合宿・実習体験	・自己紹介	・体験学習でのGW
理工学部	応用化学システム	「研修旅行」(地引・清瀬)体験	・STEM講演 (電気電子工学演習)	体験学習後の5名程度の地元に協働してプレゼン	体験学習でのGW
	電気電子システム	・研究室見学	・体験合宿・実習体験	・体験合宿・実習体験	・体験合宿・実習体験
	情報光システム	・研究室訪問	・体験合宿・実習体験	・体験合宿・実習体験	・体験合宿・実習体験
生物資源産業学部	応用生命	・研究室訪問	・体験合宿・実習体験	・体験合宿・実習体験	・体験合宿・実習体験
	応用生物	・研究室訪問	・体験合宿・実習体験	・体験合宿・実習体験	・体験合宿・実習体験
	食料科学	・研究室訪問	・体験合宿・実習体験	・体験合宿・実習体験	・体験合宿・実習体験
生物資源産業学部	生物生産システム	・研究室訪問	・体験合宿・実習体験	・体験合宿・実習体験	・体験合宿・実習体験
	医療教育開発センター	・研究室訪問	・体験合宿・実習体験	・体験合宿・実習体験	・体験合宿・実習体験

SIH道場の満足度



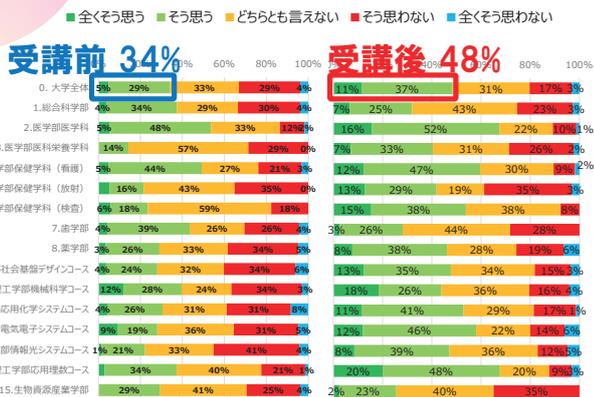
協働力

1つの課題に対して、他者と協力して取り組むことができる。



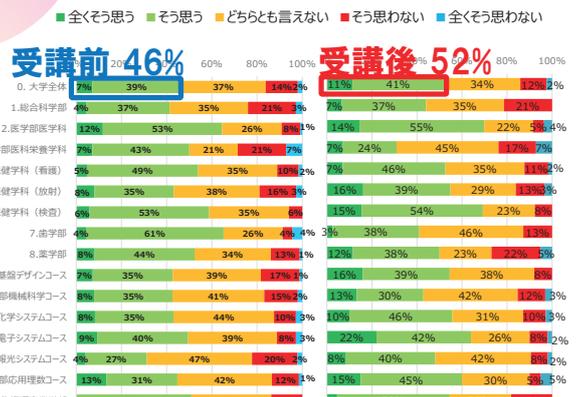
文章力

自分の考えを文書による表現で、効果的に相手に伝えることができる。



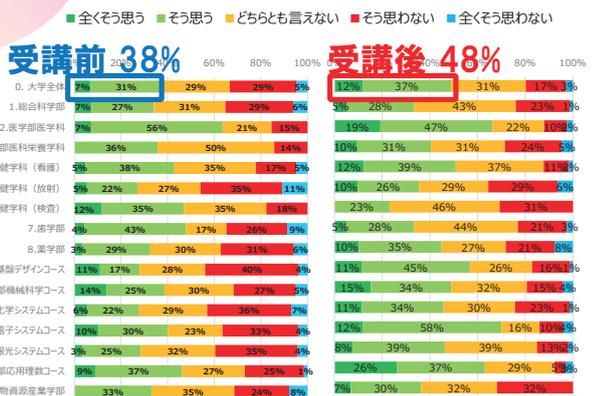
振り返り

日常的に自身の学修内容等を振り返り、改善点を見出し向上を図っている。

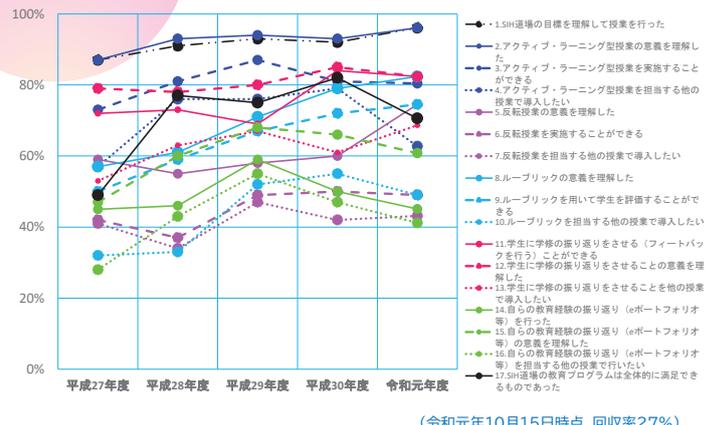


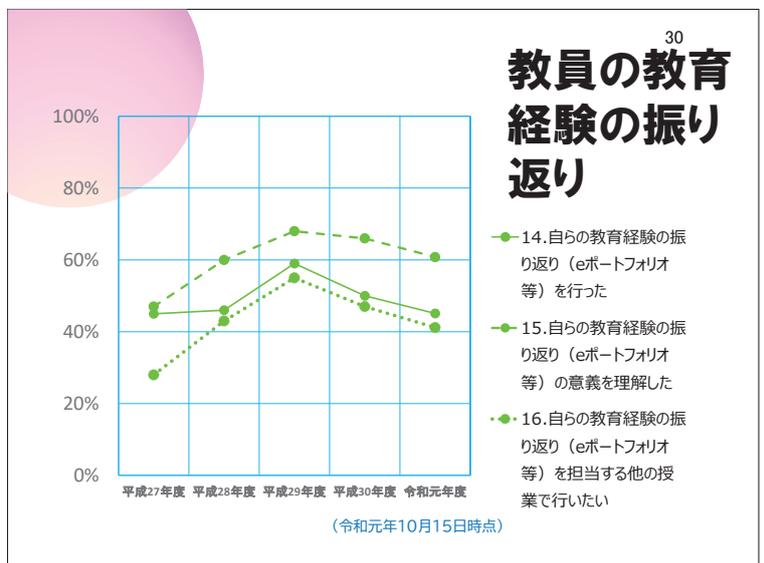
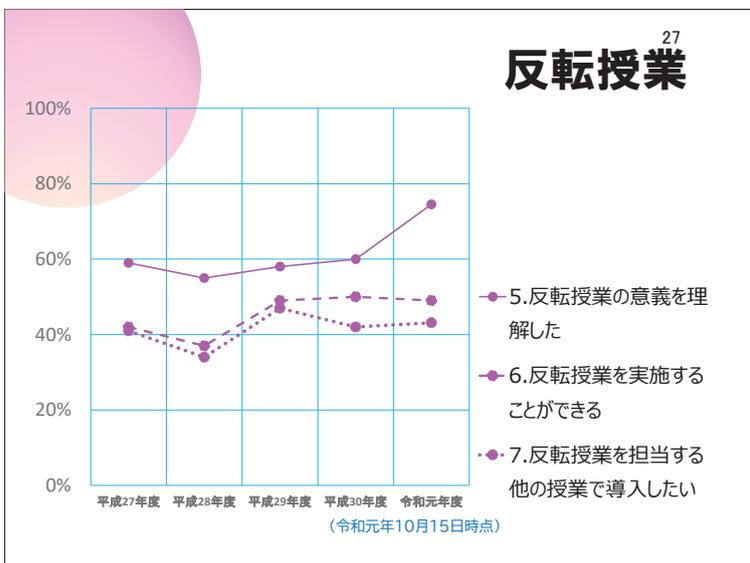
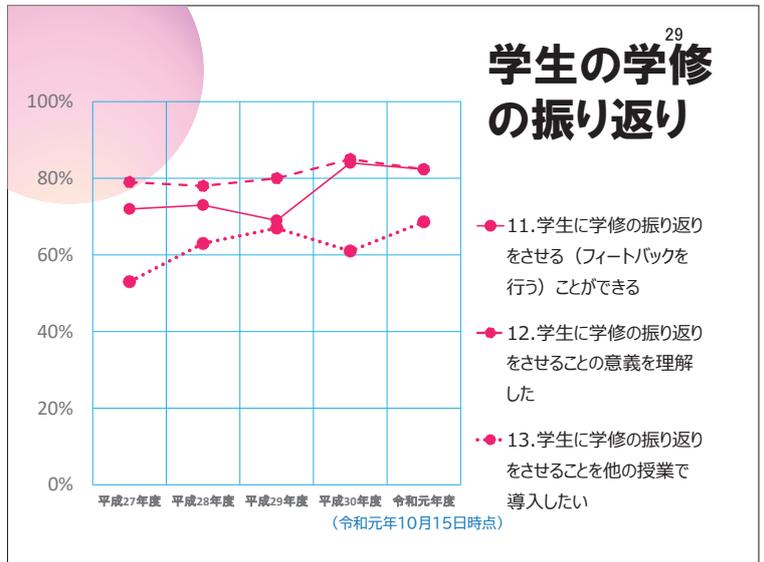
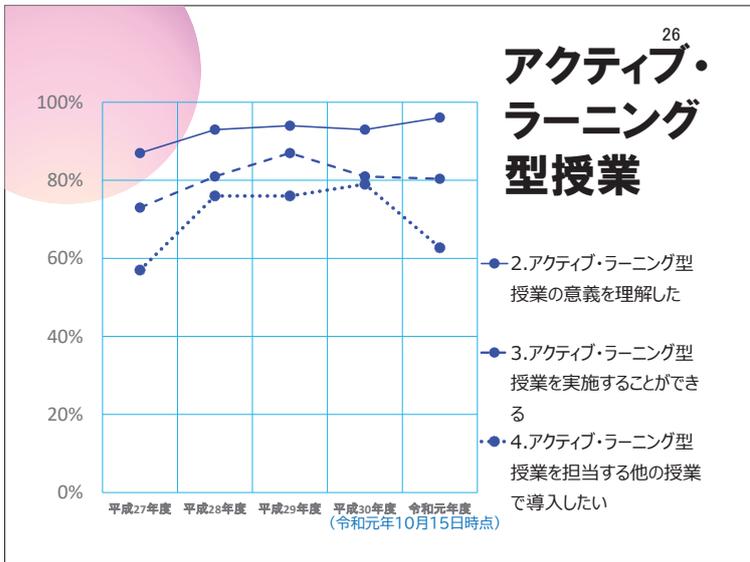
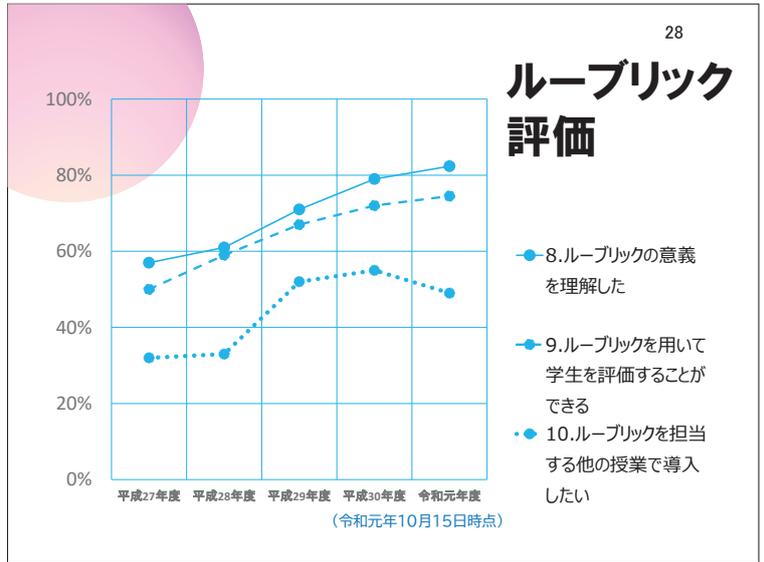
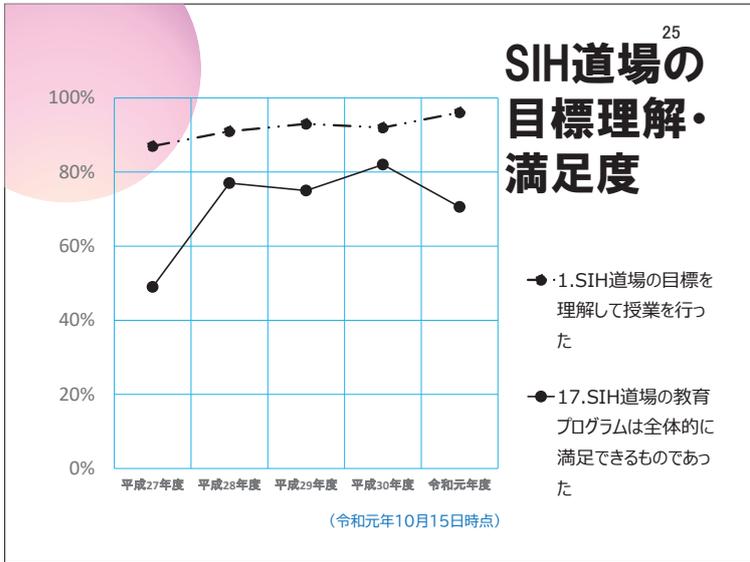
プレゼンカ

自分の考えを口頭による説明や資料を用いて、効果的に相手に伝えることができる。



教員の意識改革





教員の意識改革

- 意義理解・実践可能かつ他科目への導入に前向き → **学生の学修の振り返り**
- 意義理解・実践可能だが、他科目への導入に消極的 → **AL型授業, ルーブリック評価**
- 意義は理解しているが、実践・他科目への導入は難しい → **反転授業, 教員の教育経験の振り返り**

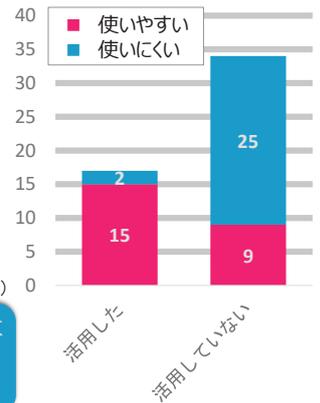
(令和元年10月15日時点, 回収率27%)

支援教材・LMSの活用

SIH道場テキスト

- **使いやすい**
 - ✓ シンプルで理解しやすかった。
 - ✓ ビデオ教材が理解の役に立った。
 - ✓ 研究室配属後に使うと、理解も深まるようだった。
 - ✓ よくまとめられていた。
 - ✓ 初めて行ったので参考にした。
- (配付資料p.66)

☞ テキストをアクティブラーニングできるように構成いただきたい。例えば、問いかけをするなど。



支援教材・LMSの活用

▼SIH道場のテキスト



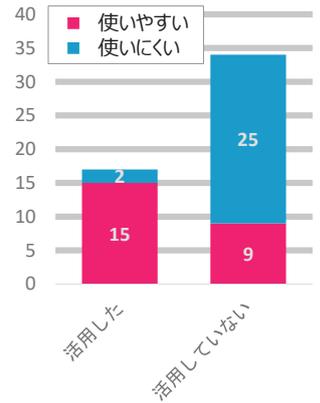
▼mahara (eポートフォリオシステム)



支援教材・LMSの活用

SIH道場テキスト

- **使いにくい**
 - ✓ 独自に教科書を使用している。
 - ✓ 念頭にありませんでした。
 - ✓ 総括・コーディネーター担当であったためその為の情報が載っているわけではないため。
 - ✓ 使いやすいか使いにくいかを判断できるまで使わなかった。
 - ✓ Maharaのみの利用であったため、判断できない。
- (配付資料p.66)



支援教材・LMSの活用

問4 SIH道場の実施支援に関わる取組に関して、以下の①～⑦までの各項目にお答え下さい。

- ① SIH道場のテキストを授業で活用した。
- ② SIH道場のテキストは使いやすかった。
- ③ ②について、テキストが使いやすかった、または使いにくかった理由を、自由にお書きください。《自由記述》
- ④ Mahara (eポートフォリオシステム) を授業で活用した。
- ⑤ Mahara (eポートフォリオシステム) は使いやすかった。
- ⑥ ⑤について、Maharaが使いやすかった、または使いにくかった理由を自由にお書き下さい。《自由記述》

※ ①②④⑤は「1.まったく当てはまらない」～「4.とても当てはまる」の4件法

支援教材・LMSの活用

mahara

- **使いやすい**
 - ✓ 慣れたら使いやすい。
 - ✓ 飛ぶノードでレポートを返却できる。
 - ✓ PC上で学生にフィードバックできる。
- (配付資料p.67-68より要約)

インターネットが使えない条件（電波が届きにくい僻地での野外学習）では使えない。

システムのフォームからコメントできる機能があればより使いやすい



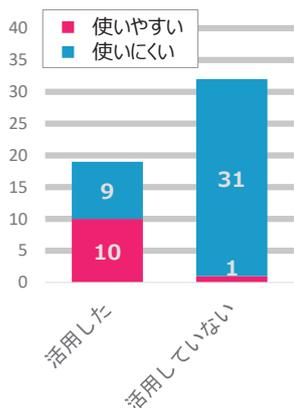
支援教材・LMSの活用

37

mahara

■ 使いにくい

- ✓ manabaを使用。
 - ✓ 不慣れ（学生、教員）
 - ✓ システムエラーが起きる。
 - ✓ 効率的な処理ができない。
（学生検索機能、レポートの一括DL）
- （配付資料p.67-68より要約）



今後の課題

40

- 令和元年度は「大学教育再生加速プログラム」採択期間の最終年度。

→ 令和2年度～学部学科独自の実施体制

- ✓ 過去5年間の取組によって、各学部学科におけるSIH道場の実施体制はおおよそ整った状態にある。
- ✓ SIH道場におけるプログラム設計や授業実施、改善といったPDCAサイクルの継続的な運用、発展が望まれる。
- ✓ 授業担当者間の連携が必要不可欠となる。
- ✓ 次年度の担当者への引き継ぎを強化する。

- 教育改革推進部門による継続的なサポート

令和元年度 SIH道場の取組

38

- ◆ 新生が毎年変わる中、SIH道場の満足度は85%前後の高い水準を維持。

⇒ **SIH道場実施体制の全体的な成熟**

- ◆ SIH道場必須項目に関する学生の自己評価は受講後に向上。

→ **ただし、肯定的意見が約半数にとどまる項目があるなど、今後の課題は残る。**

- ◆ SIH道場の取り組みを通じて、本学における教員のアクティブラーニングに関する意識も変化。

参考文献

41

- 一般社団法人 日本経済団体連合会（2017）「2017年度 新卒採用に関するアンケート調査結果」
<http://www.keidanren.or.jp/policy/index09b.html>（2018.11.9アクセス）
- 中央教育審議会（2014）『新しい時代にふさわしい高大接続の実現に向けた高等学校教育、大学教育、大学入学者選抜の一体的改革について（答申）（中教審第177号）』
- 文部科学省（2009-2017）「大学における教育内容等の改革状況について」
http://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/daigaku/04052801/005.htm（2018.11.9アクセス）
- 山田礼子（2012）「大学の機能分化と初年次教育：新入生像をてがかりに」『日本労働研究雑誌』54（12）、pp.31-43、労働政策研究・研修機構

今後の課題

39

ご静聴
ありがとうございました。

42

<社会基盤デザインコースのテーマ>

とくしまの海の災いに備え、恵みを楽しむ





徳島大学
牟岐少年自然の家

牟岐町の海

牟岐町での昭和南海地震津波 (徳島地方気象台HP)

学生92名
教員スタッフ78名
TA 2名,

上月康則, 馬場俊孝, 中田成智, 田村隆雄,
武藤裕則, 橋本親典, 尾野薫, 松重摩耶, TA

SIH道場の目標との関係

- 専門分野の早期体験：津波防災, 環境保全, 測量学

ラーニングスキル	<ul style="list-style-type: none"> 協働力：◎ プレゼンテーション力：○ 文章力：△
アクティブ・ラーニング	<ul style="list-style-type: none"> 課題演習：○ ふりかえり：○ グループワーク：◎
社会基盤	<ul style="list-style-type: none"> 学ぶ意欲を育む：○ 徳島を知る：○

合宿のしおり

2019年度 SIH道場

徳島大学社会基盤デザインコース合宿のしおり
～テーマ：とくしまの海の災いに備え、恵みを楽しむ～

- 日時：4月6日～7日
- 集合時間：8時40分 ※時間厳守
- 集合場所：社会基盤デザインコース棟前
- 費用：無料
- 合宿場：牟岐少年自然の家

合宿の目的

- 南海トラフ巨大地震に備える方法を考える
- 徳島の海の恵みを楽しむ方法を考える
- 仲間と協同して、論理的、主体的に取り組む基本的な姿勢を身につける

SIH道場 (Strike with the Iron & Steel) の目標と合宿目的の関連

持ち物

- 1. 自身の所持品 (2. 自分の飲み物, 3. バインダー)
- 4. 筆記用具 (5. 楽譜集, 7. 合宿のしおり) 8. 合宿セット (9. 徳島県南地域津波防災マップ, 10. 津波発生時, 11. 避難, 12. シンク, 13. 洗面, 14. 手洗, 15. 歯ブラシ, 16. 歯磨き粉, 17. 歯ブラシケース, 18. 洗面用品)

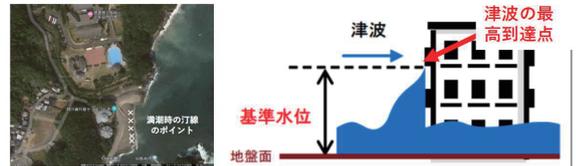
自然の家での注意事項

持ち込みしたゴミはすべて持ち帰る。21時50分までに入浴を終えること。

2.内容

南海トラフ巨大地震が起きた時、どこまで津波が到達するのかを調べよう！

- 地盤からの津波の水位を「浸水深」といいます。
- 「浸水深」に建物などを駆け上がる効果を加えたものを「基準水位」といいます。
- 「基準水位」がゼロとなった場所が、津波の最高到達点です。
- ★牟岐の少年自然の家の「津波の最高到達点」の位置がわかっていません。
- みんなで力を合わせて、「水準儀 (レベル)」という測量機器をつかって「津波の最高到達点」の位置を調べてみよう！



1.合宿の目的

- 南海トラフ巨大地震に備える方法を考える
徳島県南地域の津波の特性を知り、備え方を知る
地震・津波は他人事
合宿後：地震・津波は自分ごと
- 徳島の海の恵みを楽しむ方法を考える
徳島県の代表的な海産物の楽しみ方を知る
徳島おもろないつまらない
合宿後：徳島には隠された魅力がある
- 仲間と協同して、論理的、主体的に取り組む基本的な姿勢を身につける
大学生活不安、仲間と一緒に主体的に取り組めるかな
合宿後：大学生活を主体的におくれそつ

測量の方法

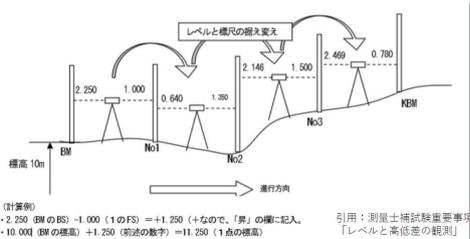
- 予習：You tubeをみて自分で勉強しよう！
(事前に必要な知識を勉強してくる授業を反転学習と言います。)
➢ 測量の方法：昇降式水準測量 (レベル測量)
- 当日：測量をする。
➢ 測量を始める地点の地盤高さは、8.5m
➢ 津波の最高到達点の地盤高さは、13.4m
➢ 水準儀 (レベル)、標尺、記帳の役割を1回ずつ交代して測量をすること。
➢ 求めた津波最高到達点の高さを玄関にビニールテープで示す。
➢ 最後に、事前に調べた正しい最高到達点の位置を発表し、各班の測量の精度を発表します。
- 目標
➢ 水準測量の基本的な方法を修得する。
➢ ここで地震津波が発生したときの避難方法を考え、模造紙にまとめる。なお、この付近では地震発生から約11分で海の水位に変化が生じ始めます。



YoutubeのQR



到達点を示す場所



(計算例)
 ・2.250 (BMのBS) - 1.000 (1のFS) = +1.250 (±なので、「昇」の欄に記入。
 ・10.000 (BMの標高) + 1.250 (前読の数字) = 11.250 (1点の標高)
 引用：測量士補試験重要事項「レベルと高低差の観測」

高低差の観測記録シート

NO	後方 (BS)	前方 (FS)	高低差		高さ (GH)	カ (し) 操作
			昇 (+)	降 (-)		
基準点 (BM)					8.5m	
No1						

活動の振り返り (Googleフォームで投票・即時開票) 資料 1

・全部で45分あります。
 ・自身の活動を振り返ることは最も自身の学びにつながります。
 ・この振り返り結果は調査報告書を通じて、全体で振り返るためにスクリーンに表示します。
 ・成績には反映されず、振り返り時間も短時間なのでリラックスして回答してください。
 ・なお、このアンケート結果は今後の学びの質保証と改善のために個人が特定されない形で論文に掲載されることがあります。

班番号、回答者氏名



- ① 合宿において最も学びになったことはなんですか？ (自由記述)
- ② 合宿の全体の満足度 (5件法)
- ③ 特に満足度の高かったことは何ですか？ (自由記述)
- ④ 特に満足度が低かったことは何ですか？ (自由記述)
- ⑤ 「自然の恵みを保全し、災いを減らす技術者になる」という意識が向上しましたか？ (5件法)
- ⑥ これからの大学での学習を「協働的・主体的に取り組んでいこう」という意欲が高まりましたか？ (5件法)
- ⑦ ①～④の4項目について、実習での学習姿勢について、あてはまるものを選んでください。

1. 仲間への貢献度	<input type="checkbox"/> 自分ができることを探して仲間へ貢献した	<input type="checkbox"/> 貢献はあったが行動はできなかった	<input type="checkbox"/> 貢献も行動もなかった
2. 雰囲気づくり	<input type="checkbox"/> グループの雰囲気をもっとポジティブに近づけた	<input type="checkbox"/> 貢献はあったが行動はできなかった	<input type="checkbox"/> 貢献も行動もなかった
3. 学び合い	<input type="checkbox"/> わからないことや疑問に思う事は質問し、グループの学びが深まった	<input type="checkbox"/> 貢献はあったが行動はできなかった	<input type="checkbox"/> 貢献も行動もなかった
4. 役割分担・協力	<input type="checkbox"/> グループ全員が役割できるような役割を分担したり、協力しあっていたりすることができた	<input type="checkbox"/> 貢献はあったが行動はできなかった	<input type="checkbox"/> 貢献も行動もなかった

①体験学習の中で疑問に思ったこと、不思議だなと思ったことがあれば書いて下さい (自由記述)。
 ⑧～⑭ (自由記述)

海の恵みを楽しむ

- ① トコロテン作り
- ② 釣り
- ③ 磯遊び
- ④ 流木きーホルダー
- ⑤ 漂着物アート
- ⑥ 日向ぼっこ



学び・気づいたこと・疑問点 メモ 名前

(2日目のグループワークで意見を共有し合います)

- 1 海の恵み体験
- 2 測量実習：ここで地震津波があったときの避難方法など
- 3 先生の講義 津波や防災対策
- 4 学生生活4年間で身に着けたいことややりたいこと
自分に足りないものは？ どういう大学生生活を送りたい？

プレゼン評価 (Googleフォームで投票・即時開票・成績反映) 資料 0

班の評価 班 評価者氏名

ポスター (例)

タイトル
 班番号: 1 名前: ○○, △△
 ①津波・防災
 ここで津波・地震があったらどうする?
 ②海の恵み
 ③4年間で身に着けたいこと

【学びの評価】
 ①先生の講義と体験や実習を関連させて、津波や防災に関する自分たちの気づきが述べられている
 ②徳島の海の恵みを体験したからこそその気づきが述べられている
 ③大学生生活の4年間で身に着けたいことややりたいことが述べられている
 1: 全く述べられていない 2: 述べられている 3: 工夫、思案して述べられている

【発表の評価】
 ④説明する内容を聞き手に理解してもらおうとする姿勢が伝わる (姿勢: 声の大きさ、視線、表現等)
 ⑤説明する内容を聞き手に理解してもらおうとするデザインになっている (デザイン: 適切な文字の大きさと量で、イラストや図を使う、色の配色)

投票

【体験学習終了時 (宿題)】第一回目のSTEMに持参、学生間で対話をさせ、学びの成果を共有する。担当教員が採点し、SIHの成績評価資料 (体験学習) とする。 資料 2

レポート 班 氏名 評価 とても具体的 具体的 具体的でない

①自然の恵み・災いについて a) 学んだこと、自分で調べたこと	②体験学習を行ったこと a) 成長したと感じたこと
b) 疑問に思ったこと、もっと知りたいと思ったこと	b) 社会基盤デザインの技術者となる上で、自身に足りない、身につけたいと思ったこと
③体験学習の感想	④体験学習で特に主体的、協働的な学生を2名あげてください。自身の名前もあけてよい。

QR

3. 結果

- 成果発表への相互評価
- 合宿への期待, 満足度
- 社会基盤の分野の技術者になることへの意欲
- 協同的・主体的に学ぶ意欲
- 仲間への貢献度
- 学びあいの姿勢
- 役割分担・協力の姿勢

13

満足感の理由

- 測量もできたし、綺麗な星空も見れたし、何よりいろいろな人と話すことができたから
- たくさんの人と話せた。自身で問題の答えを見つけることを学べた
- これからの学習意欲が高まっただけでなく友達とより仲良くなる事が出来たから
- 班の人だけでなく多くの人と友達になれた。建築にしか興味なかったが、災害にも興味を持てた
- 高校とは違い自己責任で沢山の活動ができたから
- これから大学で学ぶことの入り口のように感じた
- 楽しく過ごせたとし、初めての体験やここでしかできなかったことができたから
- 班で協力して測量した事に達成感があったため

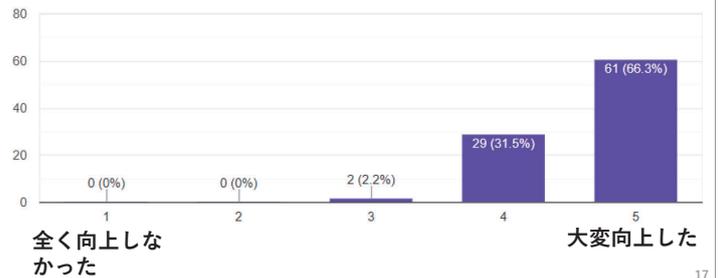
16



14

「自然の恵みを保全し、災いを減らす技術者になる」という意欲が向上しましたか？

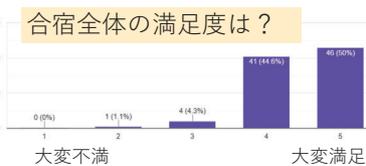
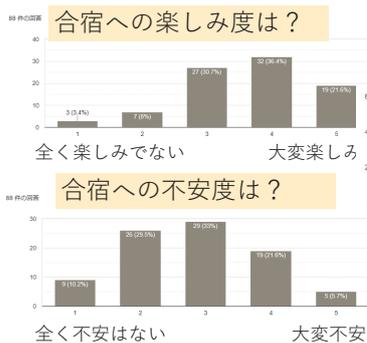
92件の回答



17

事前

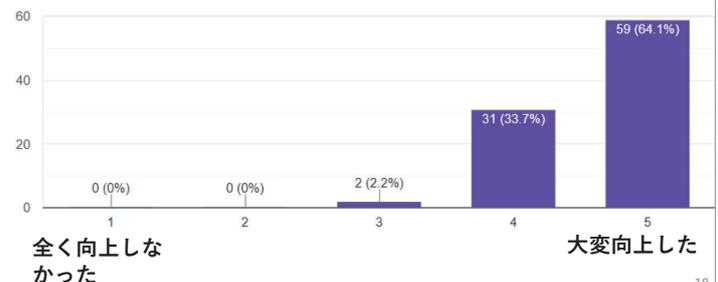
事後



15

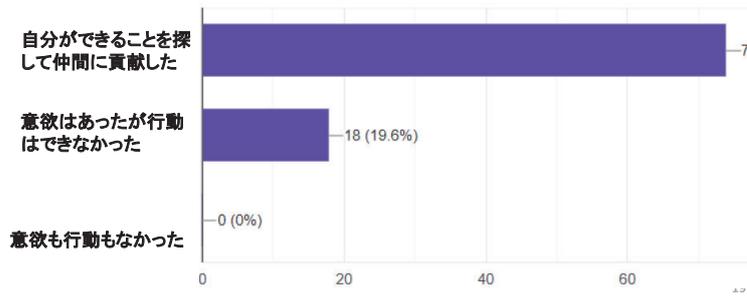
これからの大学での学習を「協同的・主体的に取り組んでいこう」という意欲が向上しましたか？

92件の回答



18

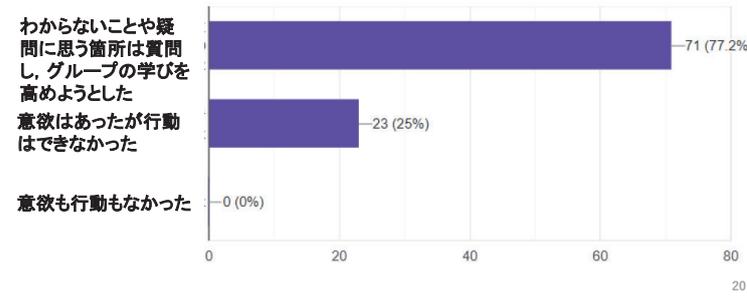
実習であなたの【仲間への貢献度】についてあてはまるものは？



徳島県外の友達に「徳島は遠いし、何もないように思える。徳島に行く気がしないなあ」と言われました。あなたはどのように答える？

	そのとおり、何もない	そんなことはない、魅力ある
実習前	73名	17名 徳島ラーメン、阿波踊り
実習後	6名	86名 自然、星空、海、食べ物

実習であなたの【学び合い】に対する姿勢であてはまるものは？



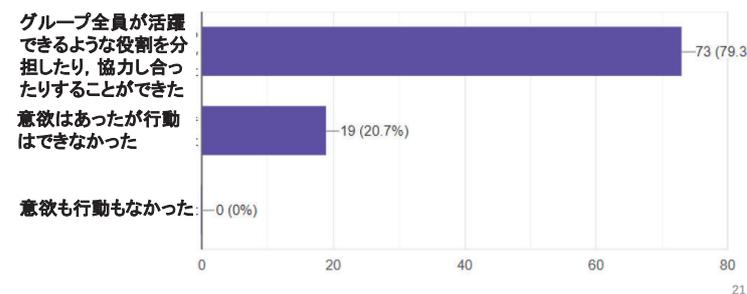
自宅、下宿先からの津波避難するときのために備えておくことは？

	ハザードマップでこの土地の危険性を確かめておく
実習前	6名
実習後	25名

早く高いところへ逃げる！

避難への行動や意識がより具体的になった

実習であなたの【役割分担・協力】に対する姿勢であてはまるものは？



4. おわりに(工夫した点とその効果)

★コースの学習目標をゴールに！
「恵みと災いへの理解と基本的な対応の修得」
●ラーニングスキル、アクティブラーニングの能力向上は不可欠

- みんなでやれば測量もできた
- ハザードマップの大切さ理解
- のんびり、徳島の良さを実感
- プレゼン評価のポイント理解&自分も評価者となった
- 単なるスキル修得にはない、満足感を覚えた！



授業設計コーディネーターによる授業実践報告

医学部保健学科 看護学専攻

授業設計コーディネーター 友竹正人

1

令和元年度 看護学専攻 SIH道場

<成績評価>

「医療人を目指す学生としての基本的マナーについて考える」をテーマとした個人レポート(文章力の目標に対応)を、以下の基準をもとに評価する。

- (1) 体験学習で学んだことを踏まえて、「医療人を目指す学生としての基本的マナーについて考える」をテーマにして、レポートを作成する。
- (2) ルーブリックの「文章力」に該当するすべての項目について、自己評価を行う。
- (3) 提出日を守る。ルーブリックの「文章力」の評価も併せて提出する。

4

令和元年度 看護学専攻 SIH道場

<目的>

看護学専攻の新入生が、大学における学習について理解するとともに、自身の専門分野における先輩からの仕事や研究に関する講演を通して、興味関心を喚起し、徳島大学における学習・研究に対する動機づけを行う。

また、学習の基本となる文章の書き方、プレゼンテーションの仕方、振り返りの仕方を学び、それらを自分自身で実践することで、大学における能動的な学習の基本となる知識、技能、態度を身につける。

2

令和元年度 看護学専攻 SIH道場

<個人レポートの合格基準>

以下の評価基準のうち、「必須」の項目をすべて満たすこと。

- (1) レポートの書き方に従い、「序論」、「本論」、「終論」、「参考文献」が書かれていること。
- (2) 参考文献の表記が適切になされていること。
- (3) 「文章力」のルーブリック評価が添付されていること。(必須)
- (4) ルーブリックの「文章力」の総合点が6割以上であること。(必須)
- (5) 提出期限の遵守。(必須)
- (6) その他、レポートに必要なと考えられる内容。(任意)

5

令和元年度 看護学専攻 SIH道場

<到達目標>

- (1) 自身の専門分野における現場と大学における学習について、関連させて説明することができる。
- (2) 論理的文章の作成・レポートの作成において、注意すべき点について1つ以上説明することができる。
効果的なプレゼンテーションを行うための基本的な手法・ツール等を1つ以上説明することができる。
他者と協同して1つの課題に取り組むことができる。
- (3) 自身の学習活動を振り返る習慣を身につけることができる。

3

■授業スケジュール

日時	授業名	内容	注意事項
4月1日 (月) 10:00～ 大講義室	●学科別オリエンテーション ●専攻別オリエンテーション①	大学で学ぶ意味 SIH道場とは 学修設計とは	学修設計、履修計画に関する説明をよく聞き、前期の履修予定表を作成する
4月2日 (火) 9:00～ 大講義室	●専攻別オリエンテーション②	学生生活について 学修設計(履修)について	上記の履修予定表をもとに、履修登録を行う。 学生生活の諸注意について理解しておく。
4月3日 (水) 9:00～ 大講義室	●専攻別オリエンテーション③	SIH道場について コンテンツ視聴について 事前課題やグループワークテーマの提示	※徳島大学のHP上のMoodleでSIH道場のコンテンツ「文章力を身につけよう」協働カ「プレゼンテーション力」を各自で必ず視聴する。 ※レポート課題等に必要なお内容である。

6

4月4日 (木) 9:00～ 大講義室	●学科別オリエンテーション 先輩からのメッセージ 1～将来像のイメージ化へ	体験学習 大学院に進学した先輩からのメッセージを聞いて質疑応答。	
13:00～ 大講義室 12:50 集合	●図書館ツアー	体験学習 3 班に分かれて、図書館の利用の仕方について学修する。 ※班はオリエンテーション用紙等参照	※各班、必ず開始 10 分前に大講義室で集合。 点呼後、出発となる。 ※ツアー時間以外は、4/25 の事例検討の準備を行う。
4月6日 (土) 8:40～	●新入生研修	体験学習、ラーニングスキル (文章力、協働力、プレゼンテーション力)	

7

グループワーク「医療人を目指す学生としての基本的マナーについて考える」について

日時：4月25日、5月9日(木) 15:30～16:30
場所：保健学科 C 棟 2 階 C-23

日程	授業でおこなうこと	必ず！事前しておくこと	提出物
4/25	①授業開始時には各グループで集まっておく。 ②事例をもとに自分で考えた意見や持ち寄った文庫などから学んだ内容を発表し、グループメンバーでディスカッションを行う。 -感想だけで終わらないようにする。 -なぜ、そのように考えたのか。 -どうすればよいか (この部分は、自分の意見だけでなく、文庫などを用いながら客観性を持たせるように努力する)。 ③感想をまとめれば、発表準備を行う。 ※発表時に配布する発表用資料を A4 判 1～2 枚で作成する。 ※手書き、またはパワーポイントで発表する場合は PC で作成可。 ※発表の仕方は口頭、パワーポイントによるプレゼン、ロールプレイ(風の劇等、自由)とする。 ※他者評価の用紙は自分以外の G メンバーを評価基準として評価する。評価後はみえないように裏にした状態で各自前での教壇まで提出。	-Moodle にある、「応働力」リブレゼンテーション「文章力」のコンテンツを視聴する。 -4/3 の時間やその他の時間を利用して、事例から考える自分の意見をまとめておく。 -4/25 までに図書館やインターネット等で、参考にしたい文庫を探し、持参する。 -PC を使用する場合は、G メンバーで相談し誰か持参するようになる。 ※PC の使用希望があるが、持参できない場合は、こちらで準備する。4/18 の SIH 道場後に事前に申し出ること	「応働力」のグループ評価。 「応働力」の他者評価。 発表用資料。 以上を 4/25 授業終了時、提出。 ※発表資料のみ、終了時の提出が個人の場合は、4/26 午後 6 時まで高橋(室)に提出する。

10

4月11日 (木) 15:30～ 16:30 大講義室	●先輩からのメッセージⅡ ～将来像のイメージへ	大学病院で働いている看護師や助産師からのメッセージを聞き、自分自身の将来像を描く。質疑応答あり。 講師：2～3 年目看護師、認定看護師、専門看護師	各自、質問等、考えておくこと。
4月18日 (木) 15:30～ 16:30 大講義室	●先輩からのメッセージⅢ ～将来像のイメージへ	保健師、養護教諭からのメッセージを聞き、自分自身の将来像を描く。質疑応答あり。 講師：助産師、保健師、養護教諭	同上

8

5/9	① 1 G から順番にグループワークで検討した内容を発表する。 -発表時間は移動時間込みで 5 分間。 ※各 G の発表後、他者評価用紙に G の評価を評価基準に沿って記載する。 ② 9 G まで発表が終了後、質疑応答につづき、質問や感想を積極的に発言する。 ※挙手による質問等ない場合は、(しを)引き、当たったグループに質問や感想等、述べてもらう。 必ず、1 つはコメントを考えておきましょう！ ③ 質疑応答終了後、グループ評価にて自己評価を記載する。	発表方法をメンバーで話し合っておく。 -後半の司会、タイムキーパー(後半の G メンバーから選出) -後半の司会、タイムキーパー(前半の G メンバーから選出)を決定し、4/26 の午後 6 時までに高橋室まで連絡。	「プレゼンテーション」のグループ評価。 「プレゼンテーション」の他者評価。 レポート 「文章力」のグループ評価。
-----	---	--	---

レポート提出について

- 5月9日(木) 16:30 (SIH 道場終了時)に提出。
- 「医療人を目指す学生としての基本的マナーについて考える」を主題にして A4 判 1 枚程度のレポートを作成する。
※A4 判 1 枚かつ 1000 字以上、PC 使用時のフォントは MS 明朝 10.5 ポイントとすること。
- レポート作成時、「SIH 道場レポート提出について」の資料を参照し、必要な視点や項目が記載できているか、形式は整っているかを確認すること。
- レポート提出時、「文章力」のグループ評価も提出すること。

11

4月25日 (木) 15:30- 16:30 C-23 教室	●医療人を目指す学生としての基本的マナーについて考える I	グループワーク① 身近な事例をグループで検討し、医療人を目指す学生としてのマナーや姿勢についてディスカッションする。	事例検討、および発表準備を行う。 パワーポイント等、PC を用いて資料作成、発表したい G は PC を持参すること。 ※PC が持参できない場合は、準備するため 4/18 に申し出てください。
5月9日 (木) 15:30- 16:30 C-23 教室	●医療人を目指す学生としての基本的マナーについて考える II	グループワーク② グループワーク①をもとに、プレゼンテーションし、質疑応答を行う。 レポートの最終提出は、全員 5 月 9 日の発表終了時とする。	質問、感想などを述べられるようにすること。

9

事例②:3.4グループ

岸さんは、入学して初めて病院実習に行きました。実習を終了し、とても感動して facebook に病院実習での感想を投稿しました。事前に先生から個人情報についての注意を聞いていたので、病院名や患者さんの名前などは記載しませんでした。

後日、患者さんから病院へクレームがあり、学校にも連絡がきました。Facebook を見た患者さんが、学生の名前や投稿日等から、自分を受け持った学生さんであること知り、自分のことが書き込まれていることを不快に感じたそうです。

それを聞いた岸さんは落ち込むと同時に、「悪口や個人情報を書いたわけではないのに、私がしたことはそれほどよくないことだったのかしら。」と内心疑問を感じてあなたに愚痴をこぼしました。

➤あなたは岸さんにどのように対応しますか？

12

患者さんの気持ち

13

- ・ 不安、不快
- ・ 入院していることを知られたくない
- ・ 書かれた内容が気になる
- ・ 信用できない



対応

16

- ① 岸さんの味方をする
- ② 岸さんに助言する

実習生の気持ち

14

- ・ 悪いことは書いてない
- ・ 悪意はない
- ・ 自分は悪くない



学んだこと

17

- ・ 個人情報の領域は人それぞれ
- ・ 些細な一言や写真で最悪の事態に発展することもある
- ・ 一番に患者さんの立場に立って考える

15

問題点

- ・ 投稿したこと（わざわざSNSに載せなくていい）
- ・ 個人情報をごとまでか理解していない
- ・ 病院や大学全体が悪くみられる
- ・ 患者さんの気持ちを考えていない



5月16日 15:30- 16:30	担当教員との面談、実習着の 試着	※面談は各教員の指定の場所で行う ※実習着の試着は保健学科 B 棟 4階 B41 実習室で行う	
5月23日 15:30- 16:30	同上	同上	
5月30日 6月6日 15:30- 16:30	担当教員との面談		

18

3. SIH 道場の成果と課題

3-1. 学生・教員対象 SIH 道場アンケート結果

1) SIH 道場の成果検証

大学教育再生加速プログラム事業全体としては、各部局からの委員で構成される AP 実施専門委員会（委員長は教育担当理事）が事業計画に基づき運営を統括し事業を推進している。

SIH 道場については、プログラム改善につなげるための評価指標を策定し、これに沿ってアンケート調査等の効果検証を行っている。SIH 道場において学生は、①専門分野の早期体験により学修や研究への意欲を高め、②ラーニングスキル（文章力・プレゼンテーション力・協働力）の修得により大学での学びの基礎固めを行い、③学修の振り返りにより主体的に計画を立て学び続ける習慣を身につける。他方教員にとって SIH 道場は OJT 型の FD としての機能を持ち、①アクティブ・ラーニングの実質化、②反転授業、ルーブリックによる評価法の修得、③教育経験の省察を行うなどのティーチングスキルをつける場となる。

SIH 道場では、「学生と教員が共に学び合う」ため、SIH 道場の成果検証においては、学生と教員がそれぞれの目標に到達したかを把握することが必要となる。そのため、各学部の SIH 道場の終了後には学生および教員対象のアンケートをそれぞれ実施してきた。平成 30 年度からは、これら「受講後」の学生・教員アンケートに加えて、SIH 道場の受講前に実施する「受講前」学生アンケートを導入し、SIH 道場の受講前後で学生の大学の学びに対する意識がどのように変化するかを検証できる体制をとった。さらに、調査項目にはこれまでの調査項目に加え、ベネッセ教育総合研究所が 2008 年・2012 年・2016 年に実施した「大学生の学習・生活実態調査」に共通する項目を採用したことにより、全国の大学生と徳島大学の新入生の特徴について比較検討することが可能となった。

これらのアンケートの結果については、SIH 道場の実施支援を担当している高等教育研究センター教育改革推進部門が集計及びとりまとめを行い、結果を各プログラムに返却している。これらの結果や学生の学修成果を踏まえて、各プログラムの SIH 道場授業設計コーディネーターは、「プログラム設計評価シート」のフォーマットに従い、必須項目の到達度チェックをするとともに、学生の学修成果や改善点、次年度に向けた対応を記述する。次年度の授業設計コーディネーターは、これに基づきプログラム改善を行うことができる。

2) SIH 道場学生アンケート結果概要

令和元年度のアンケート回答者数は以下の通りである。

【受講前】 1,320 名中 1,146 名 (87%)

【受講後】 1,320 名中 941 名 (71%)

令和元年度 SIH 道場受講生における受講後学生アンケートの結果を見てみると、SIH 道場のプログラム満足度は大学全体で 81%であった(受講後学生アンケート問 3-⑩)。昨年度(平成 30 年度)が 87%であったことを鑑みると SIH 道場満足度の低下が懸念されるが、SIH 道場のプログラム満足度は科目開講当時(平成 27 年度)から 80%台を維持しており、平年並みの結果とみることができる。さらに、令和元年度 SIH 道場受講生は「SIH 道場の目標を理解して学修を行った」(受講後学生アンケート問 3-①)とする学生が大学全体で 86%にのぼり、多くの学生が授業の趣旨を理解して授業に臨んでいることがわかる。

続いて、今年度の取組について SIH 道場の授業設計必須指標である「早期体験」「文章力」「プレゼンテーション力」「協働力」「振り返り」に着目して結果を見てみたい。

「早期体験」については、受講後に「専門分野(学科での学修・研究)に対する興味関心が高まった」(受講後学生アンケート問 3-②)とする学生が大学全体で 85%にのぼり、この肯定的な意見について学科別にみても 70%~98%と全体的に高い割合で回答が得られている。

さらに、「文章力」「プレゼンテーション力」「協働力」「振り返り」について、受講前後の学生アンケートの結果を比較したところ¹⁾、

「文章力」 34%→48% (+14%)

「プレゼン力」 38%→48% (+10%)

「協働力」 76%→80% (+4%)

「振り返り」 46%→52% (+6%)

の結果が得られており、令和元年度 SIH 道場受講を通じて、受講前よりも各スキルについて能力が向上した・身についたとする学生が増えていることが明らかとなった。

これらの結果から、令和元年度 SIH 道場のプログラムは概ね適切に運用されており、学生達がラーニングスキルを身に付ける契機としての役割を果たしているものと言える。令和 2 年度以降は、こうした取組が学部学科コース単位にゆだねられることから、プログラムの改善や学生の大学での学びの導入としての役割を果たしているのかどうか、検証の機会をもつことを検討する必要があるだろう。

¹⁾ 「文章力」「プレゼンテーション力」「協働力」「振り返り」に関する各数値は受講前学生アンケートの設問(2-1, 2-2, 2-3, 2-4)と受講後学生アンケートの設問(問 2: 2-1, 2-2, 2-3, 2-4)によるものである。

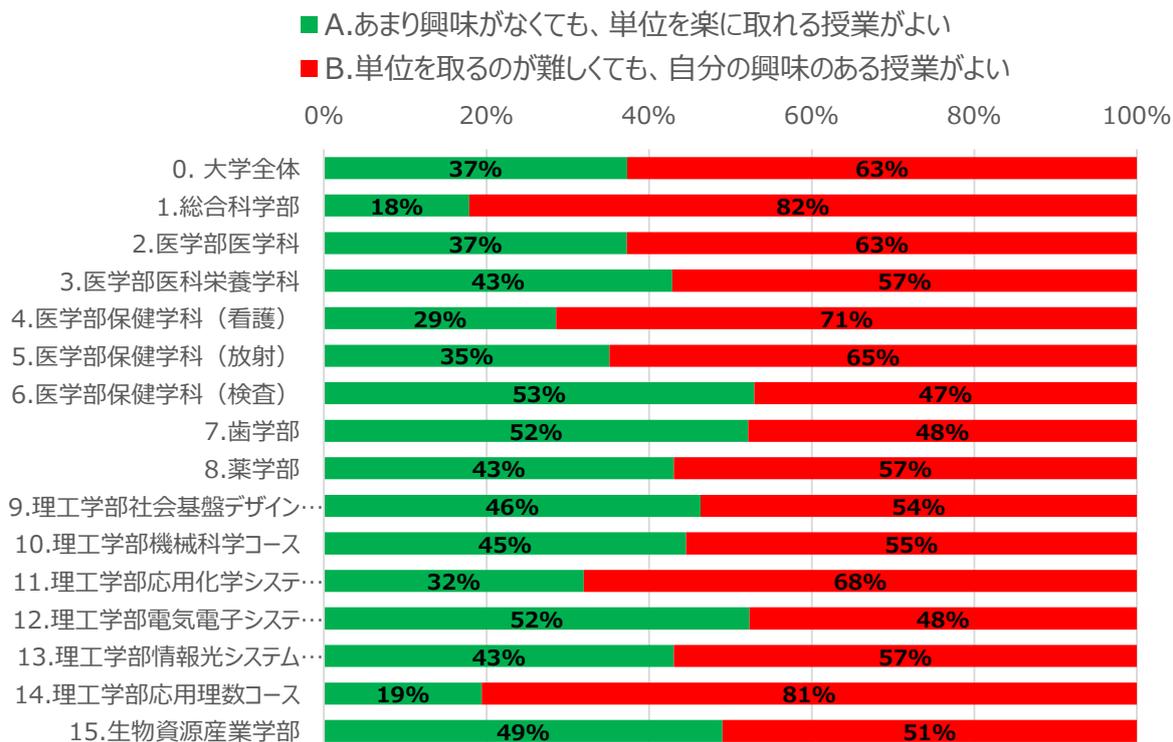
令和元年度 SIH 道場 受講前学生アンケート

回答者の所属について

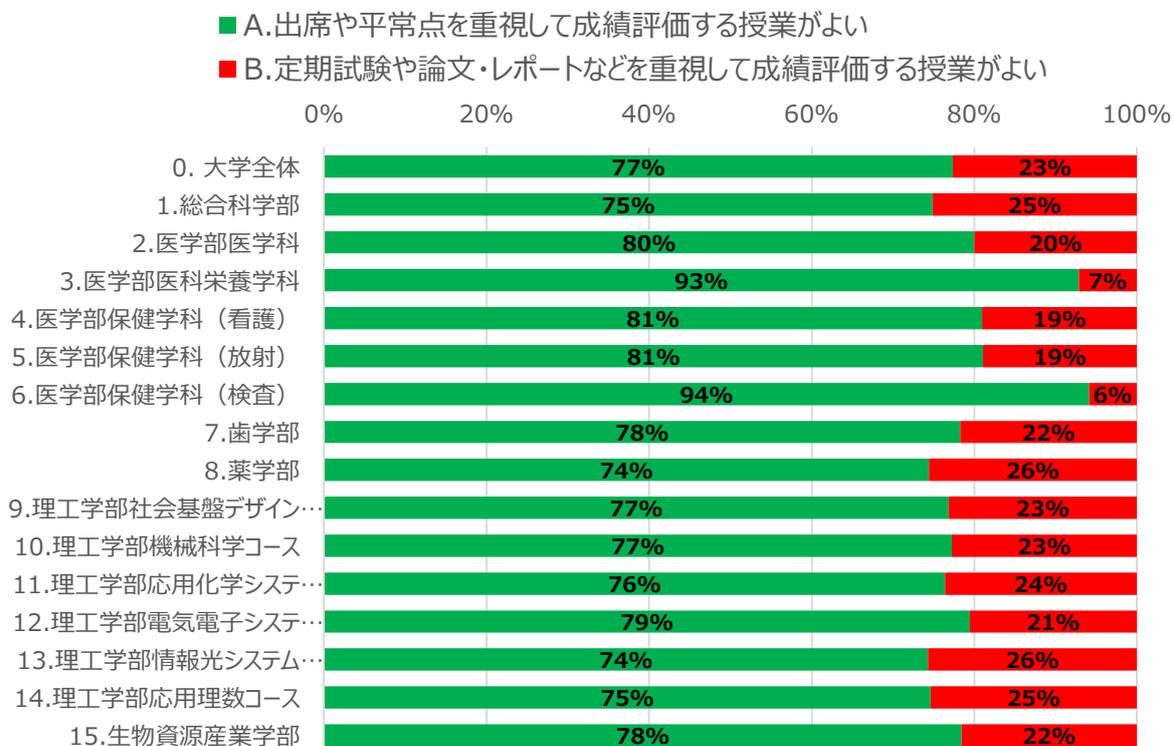
有効アンケートの状況<令和元年10月15日>

プログラム名	受講者	回答者数	回答率
総合科学部	182	179	98%
医学部医学科	114	110	96%
医学部医科栄養学科	51	14	27%
医学部保健学科看護学科専攻	73	63	86%
医学部保健学科放射技術専攻	37	37	100%
医学部保健学科検査技術科学専攻	17	17	100%
歯学部	55	23	42%
薬学部	89	86	97%
工学部理工学科社会基盤デザインコース	93	82	88%
工学部理工学科社会機械科学コース	116	101	87%
工学部理工学科応用化学システムコース	76	72	95%
工学部理工学科電気電子システムコース	106	106	100%
工学部理工学科情報光システムコース	138	138	100%
工学部理工学科応用理数コース	68	67	99%
生物資源産業学部生物資源産業学科	105	51	49%
合計	1320	1146	87%

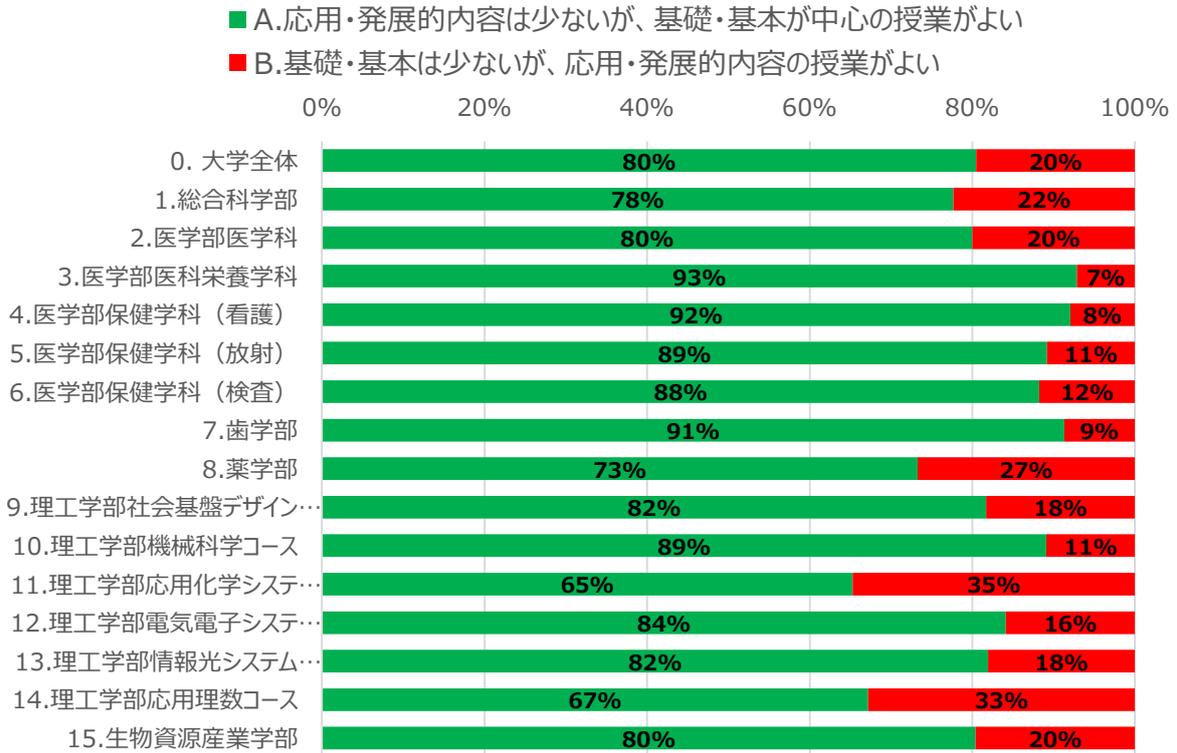
1-1.



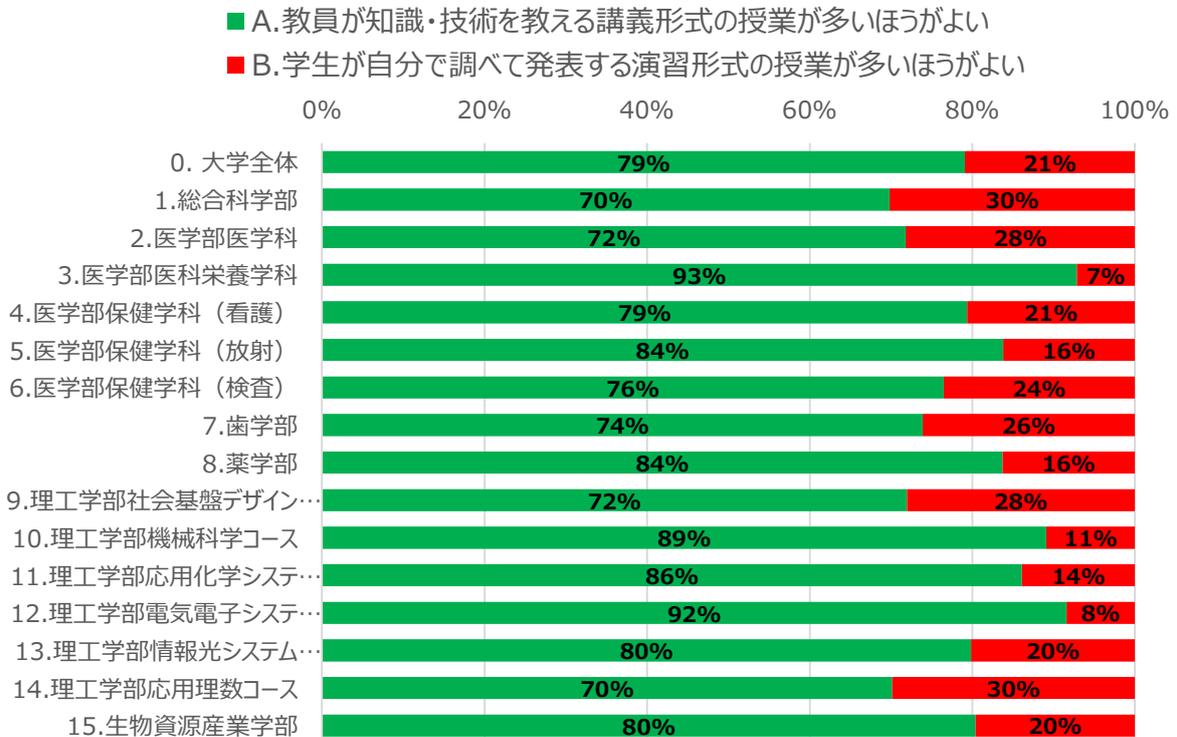
1-2.



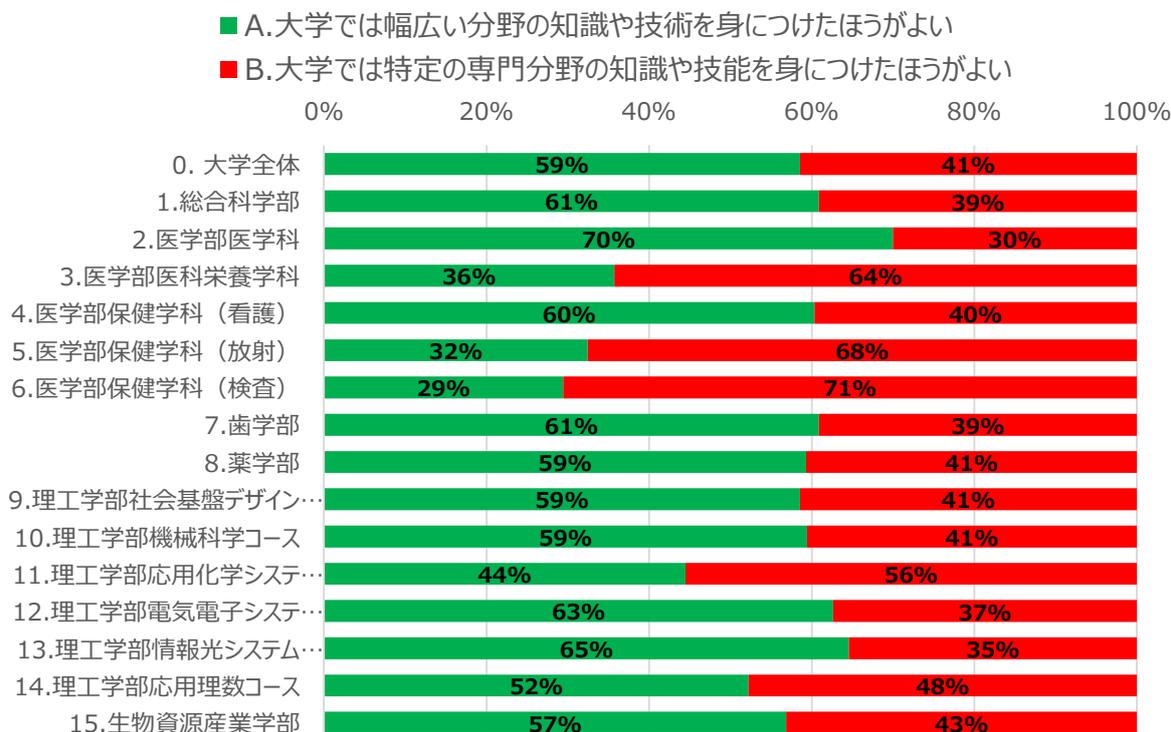
1-3.



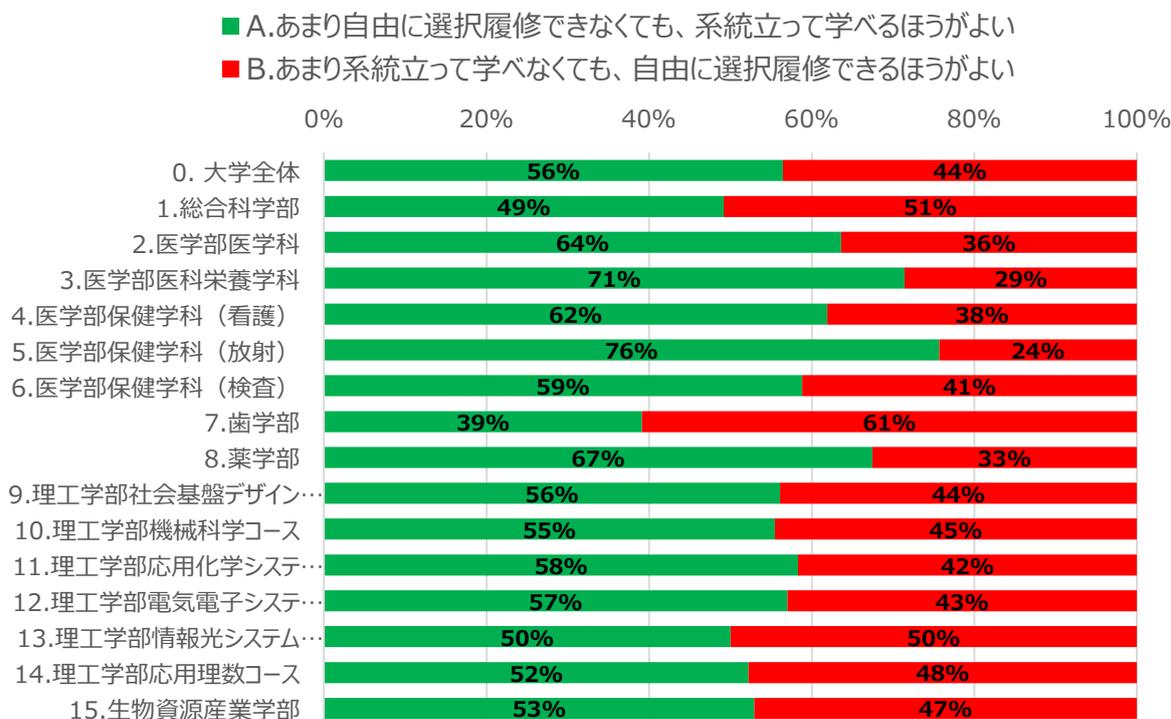
1-4.



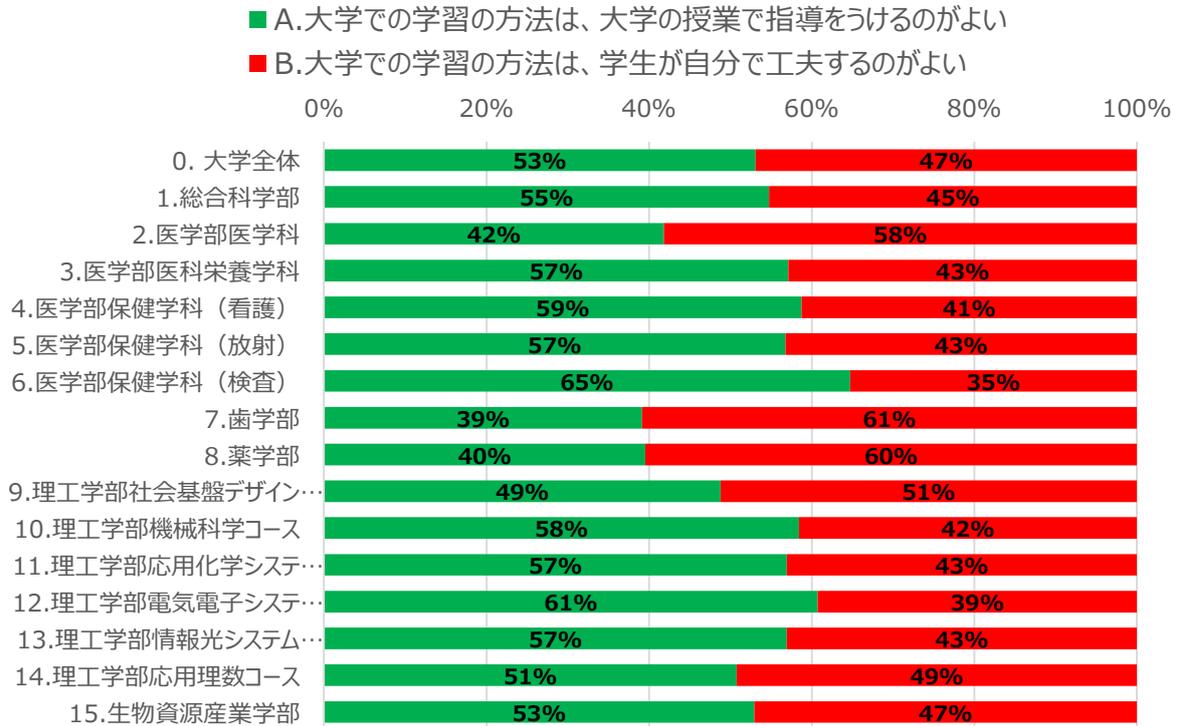
1-5.



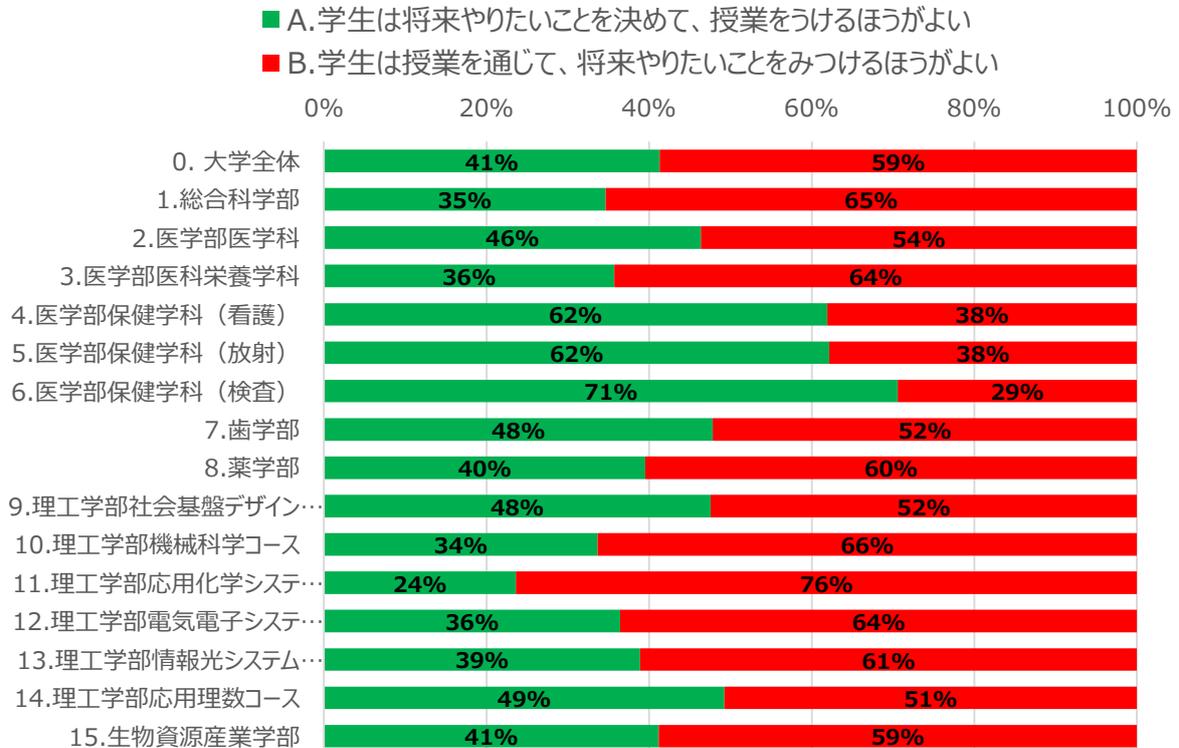
1-6.



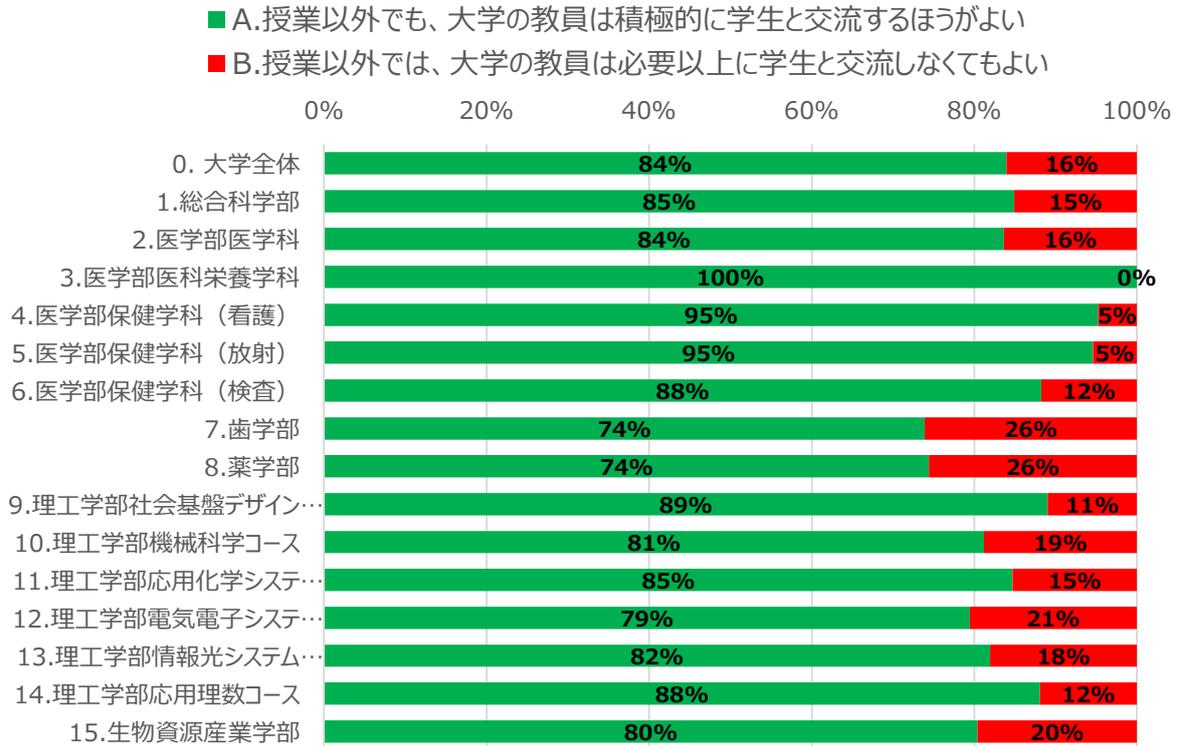
1-7.



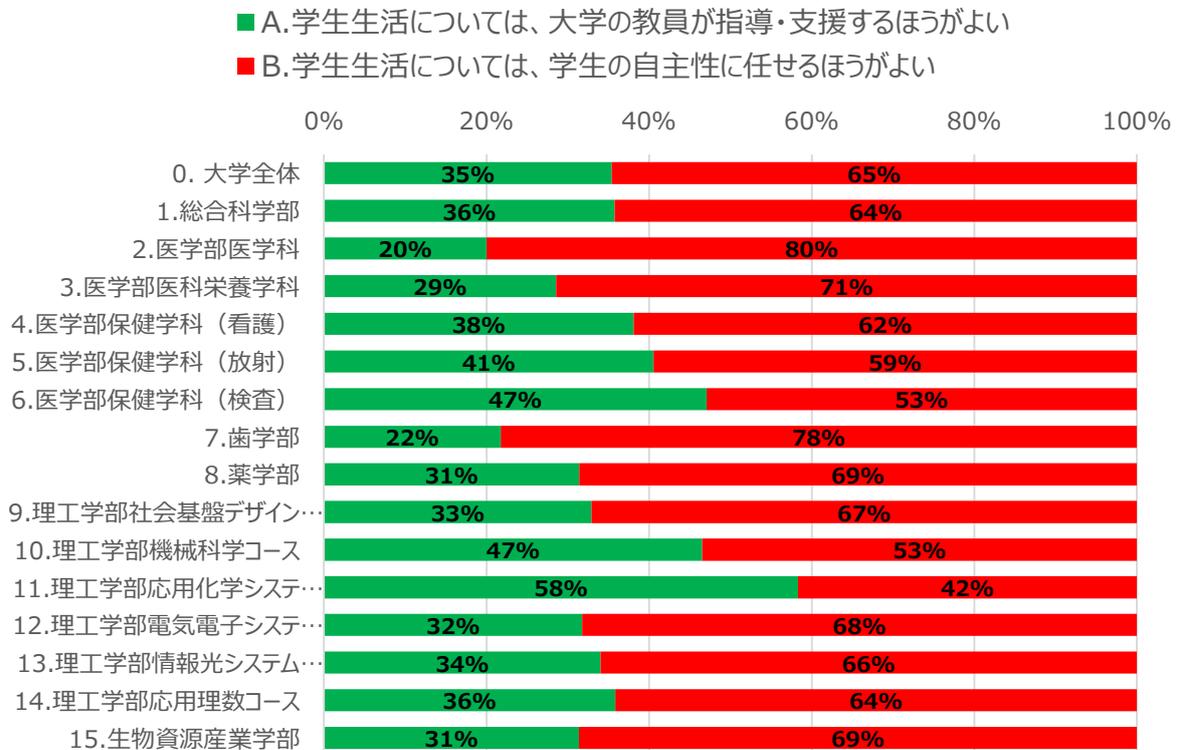
1-8.



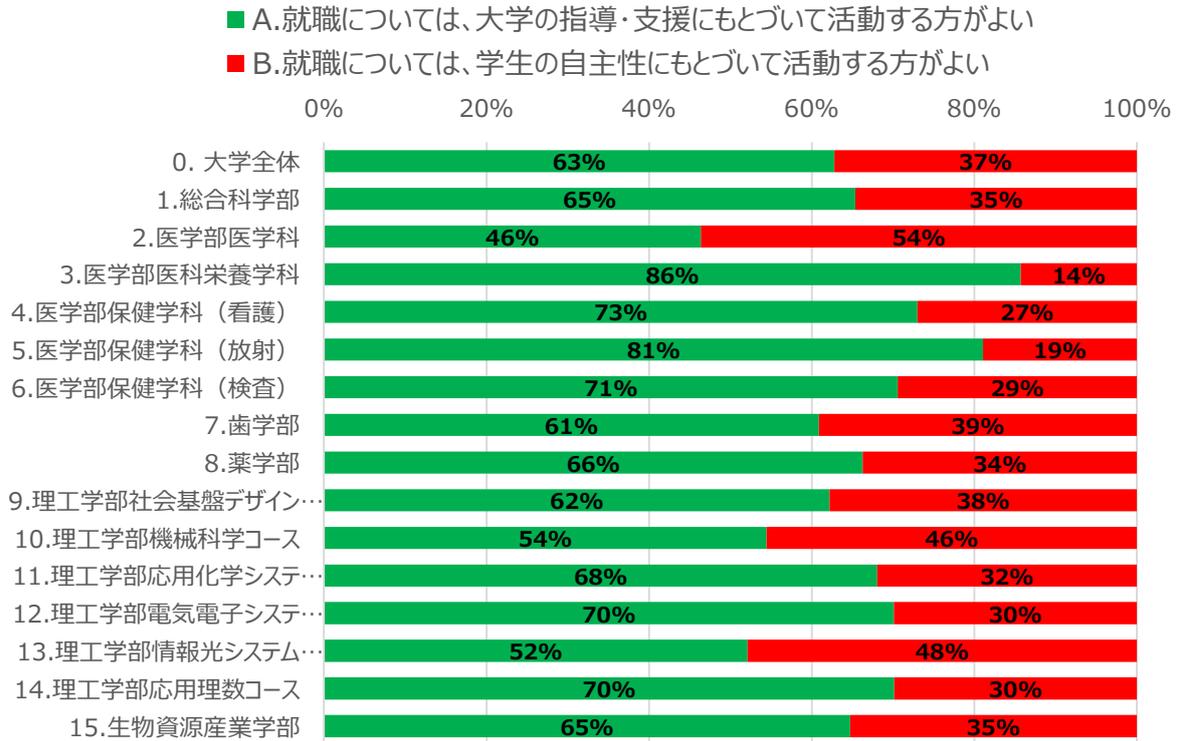
1-9.



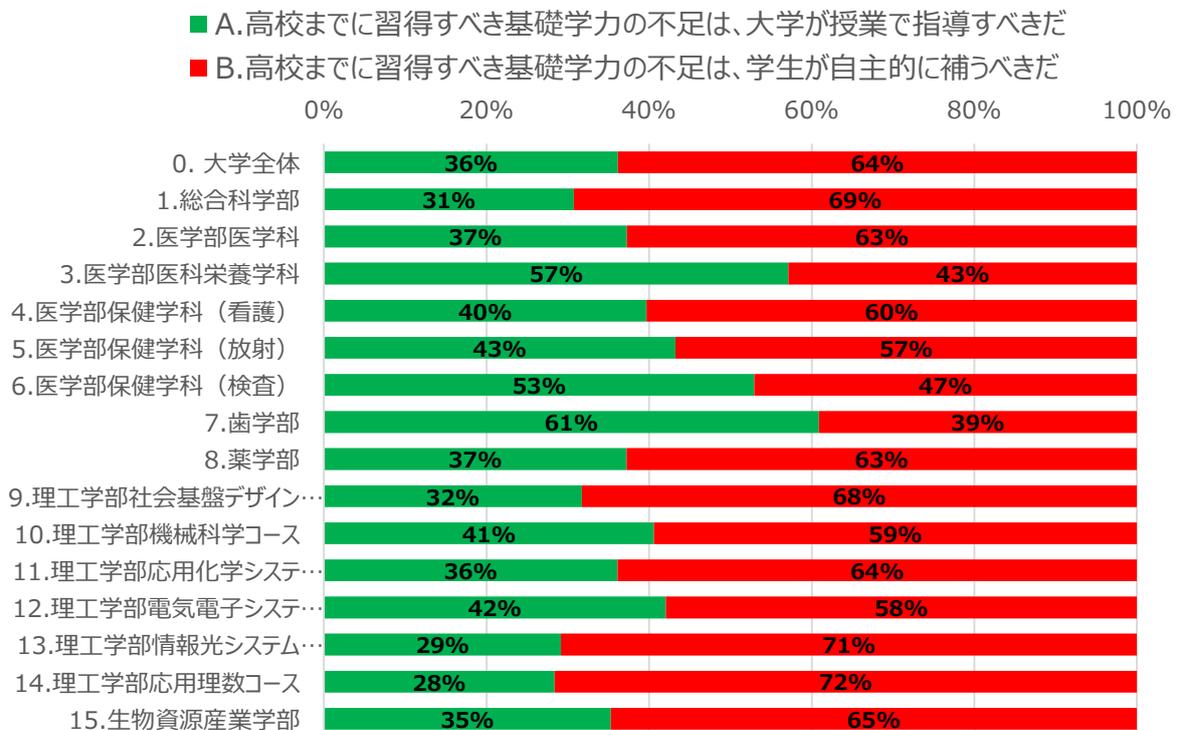
1-10.



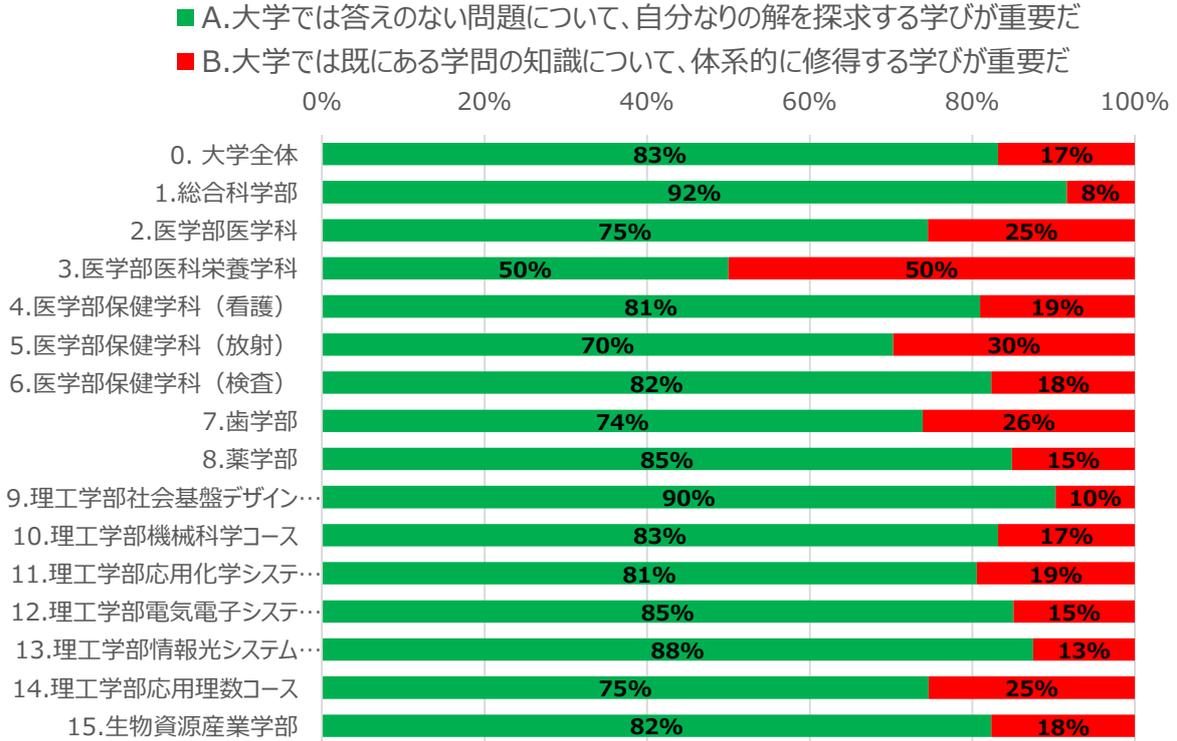
1-11.



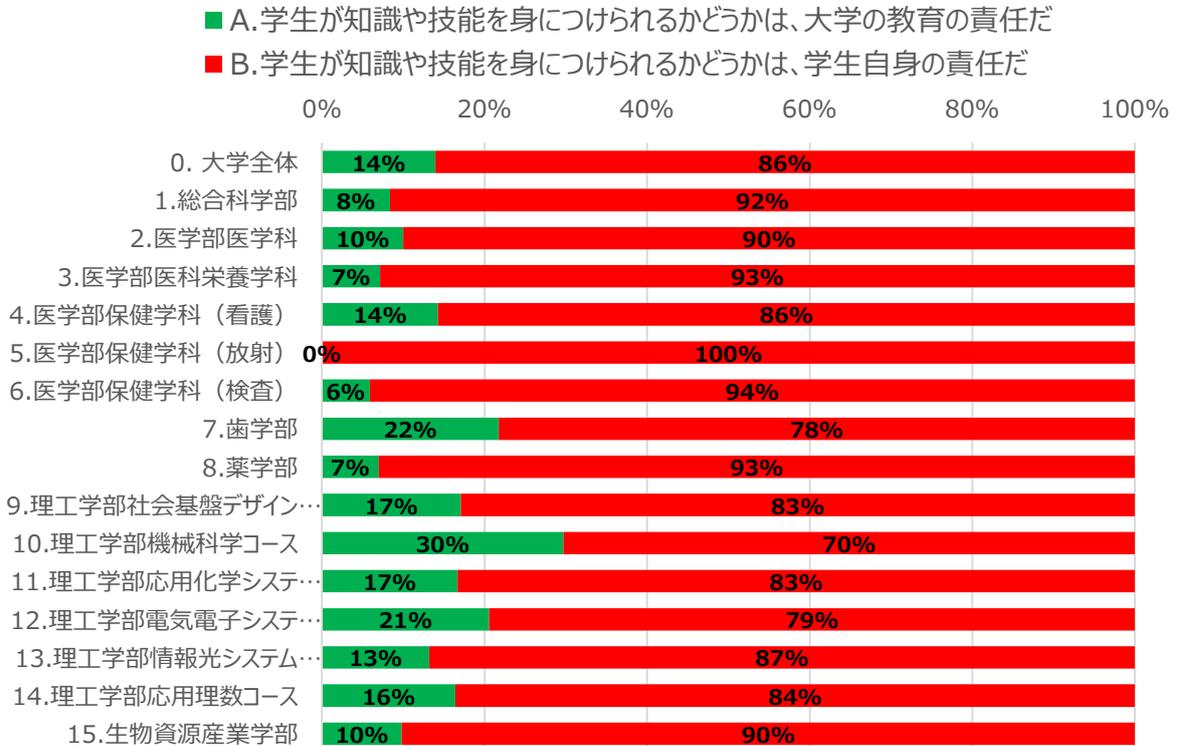
1-12.



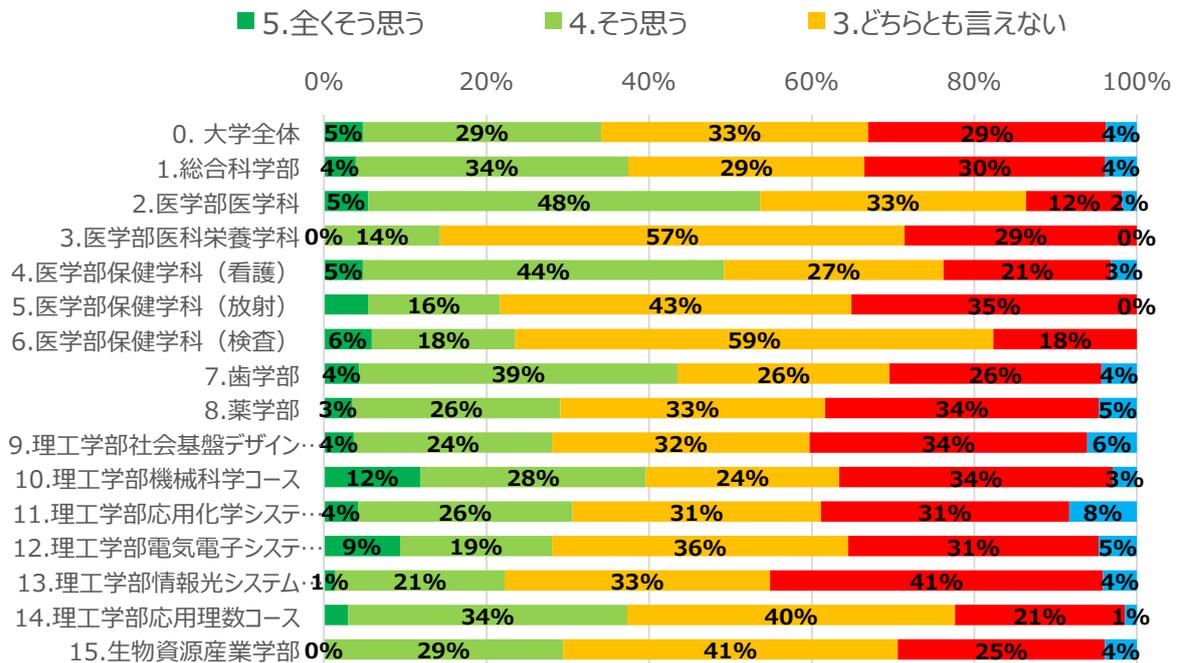
1-13.



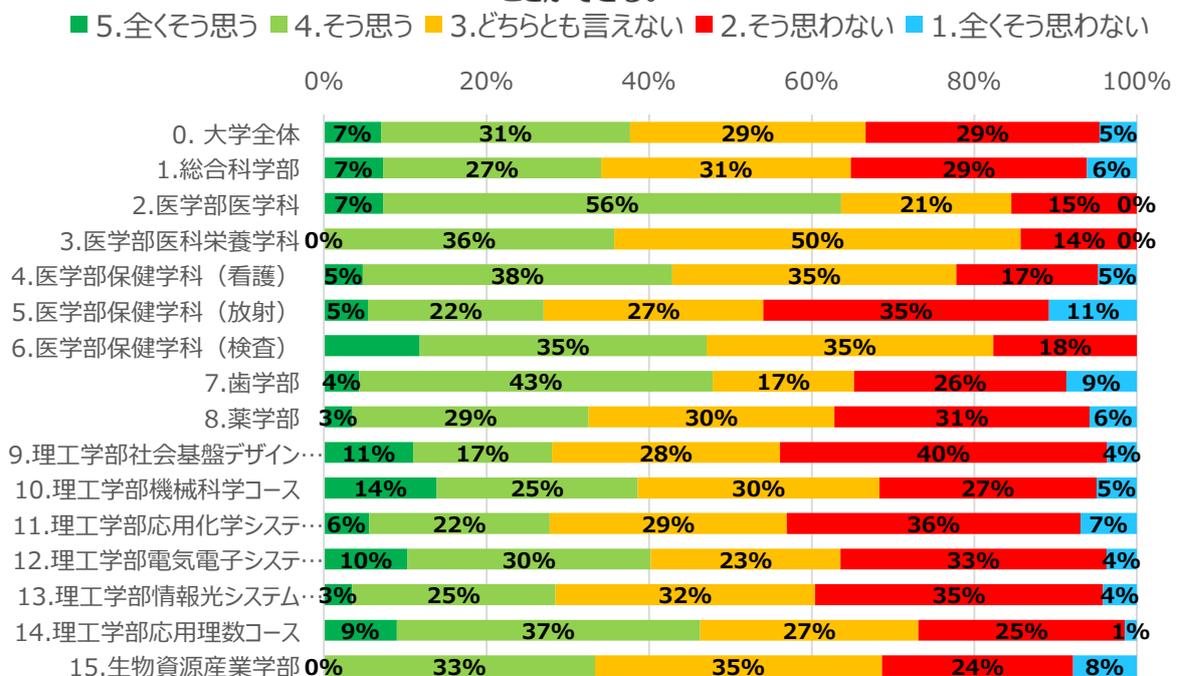
1-14.



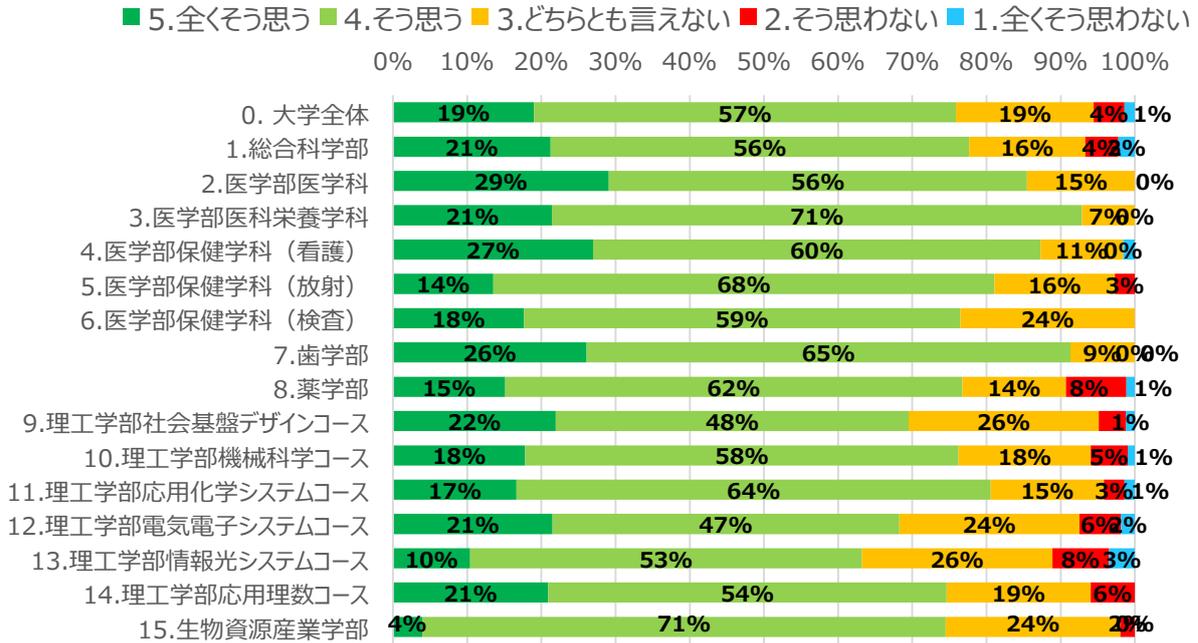
2-1. 自分の考えを文書による表現で、効果的に相手に伝えることができる。



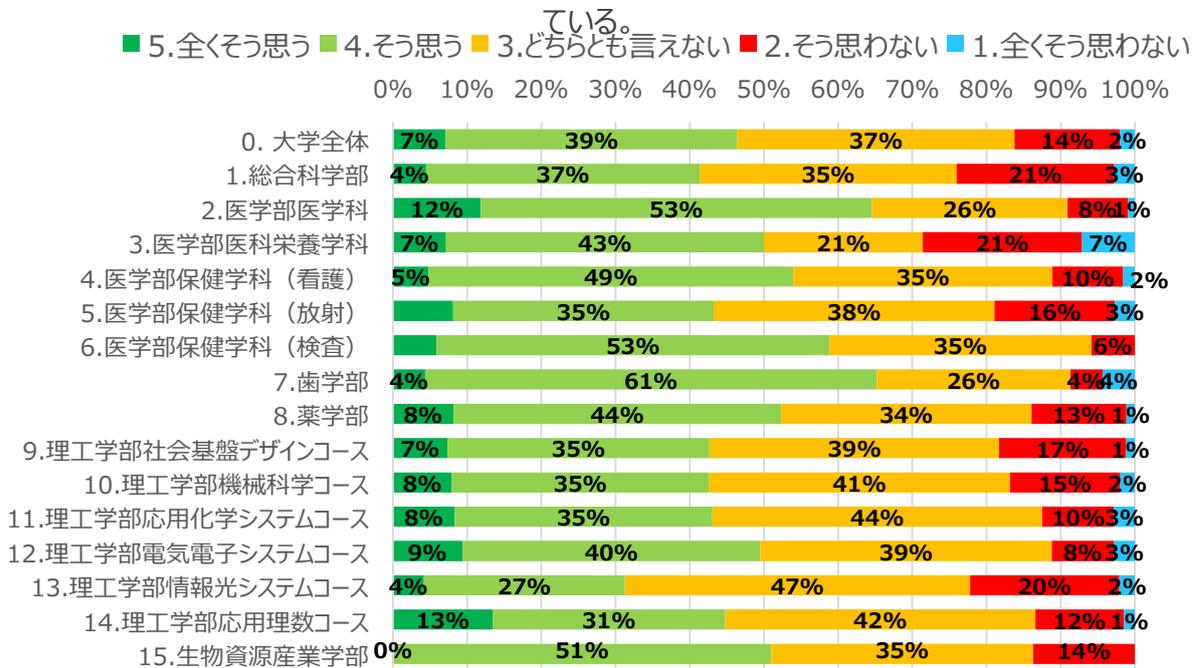
2-2. 自分の考えを口頭による説明や資料を用いて、効果的に相手に伝えることができる。



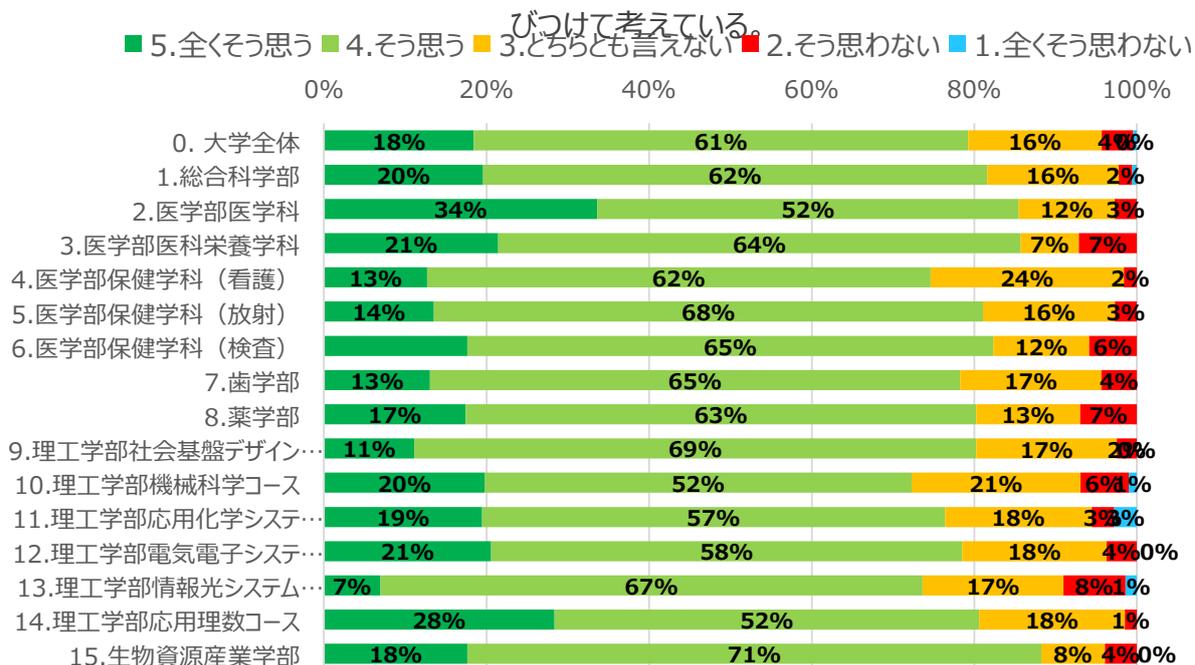
2-3. 1つの課題に対して、他者と協力して取り組むことができる。



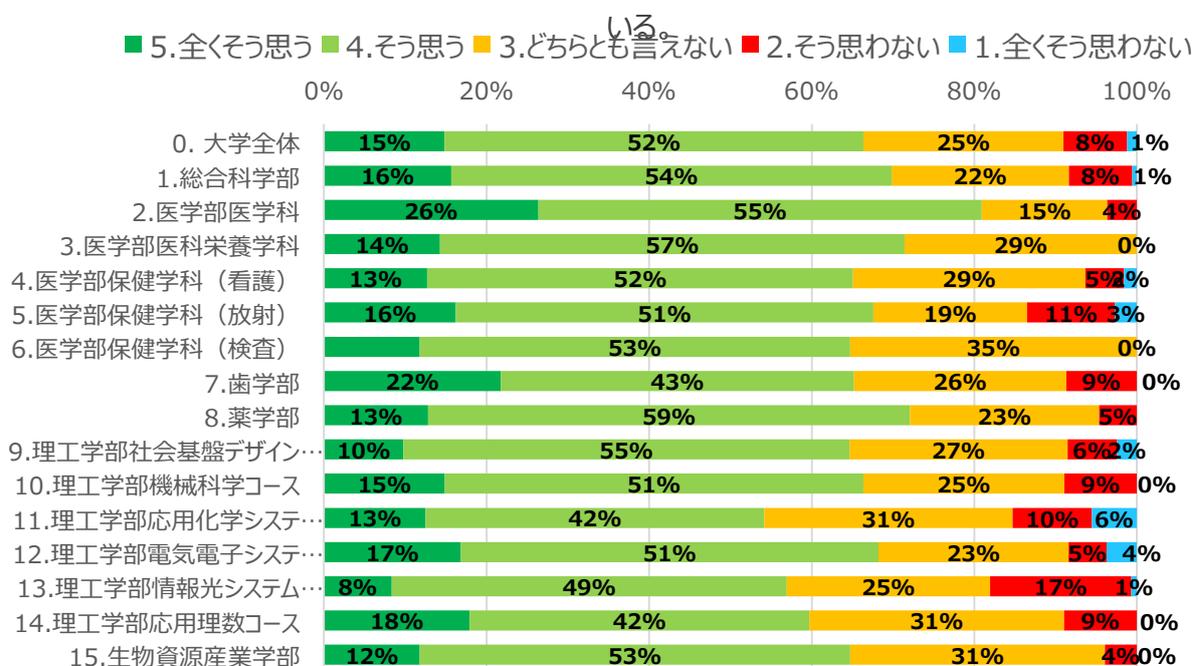
2-4. 日常的に自身の学修内容等を振り返り、改善点を見出し向上を図っている。



2-5.授業内容の意味を理解しようするとき、自分がすでに知っていることと結びつけて考えている。



2-6.授業で学ぶ新しい考えを理解するとき、それらを現実生活と関連付けている。



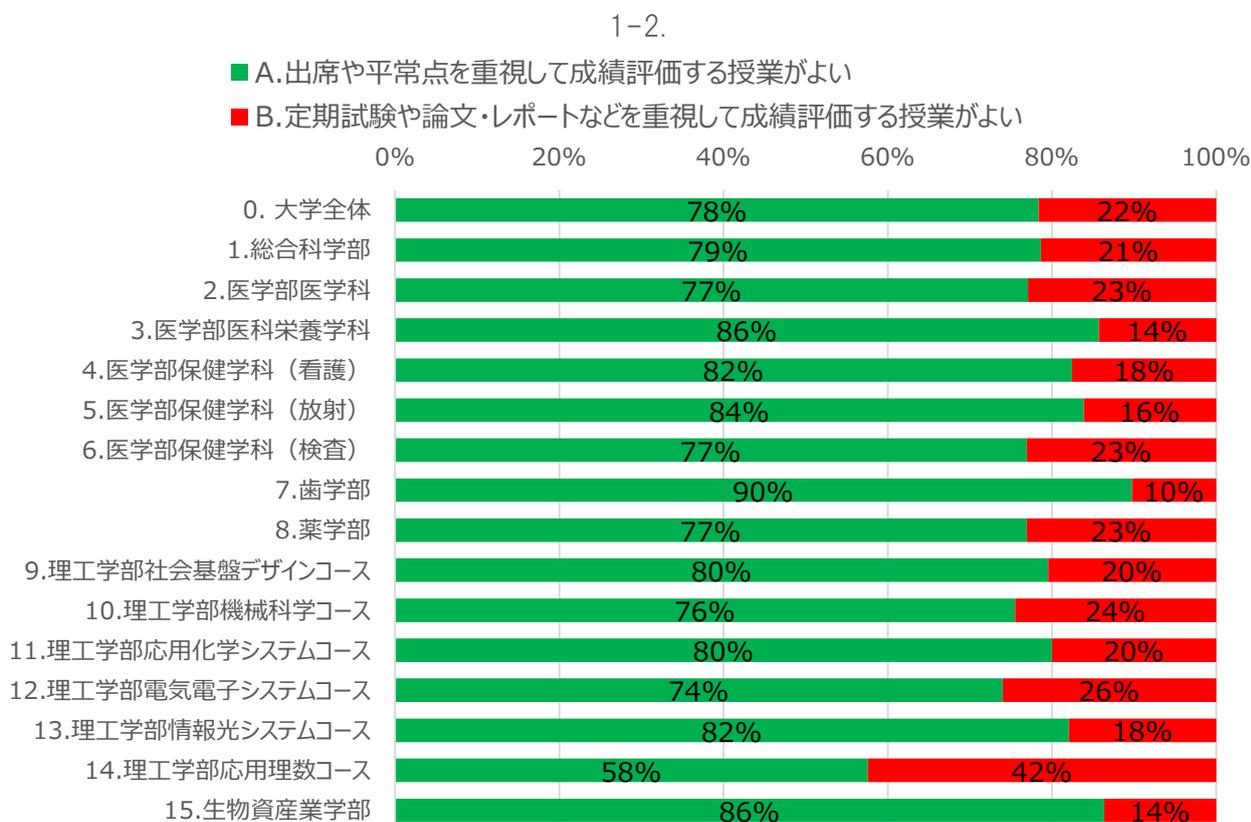
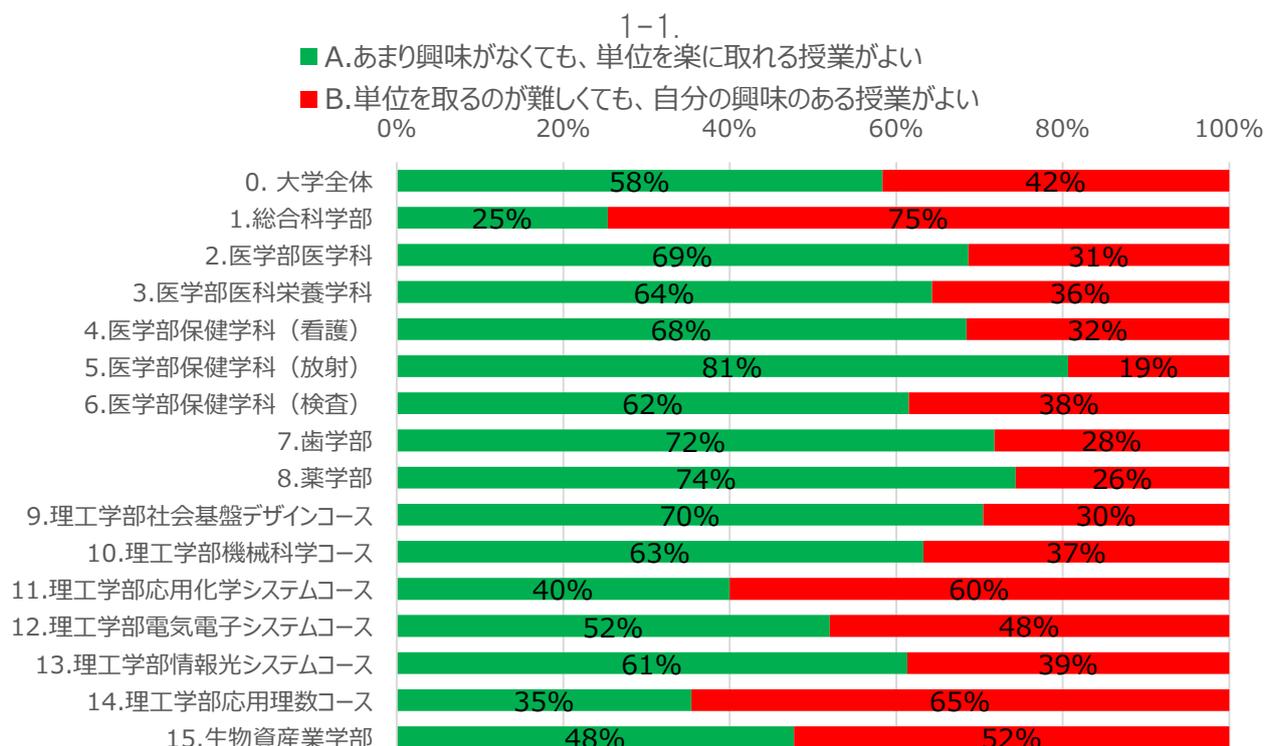
令和元年度 SIH 道場 受講後学生アンケート

回答者の所属について

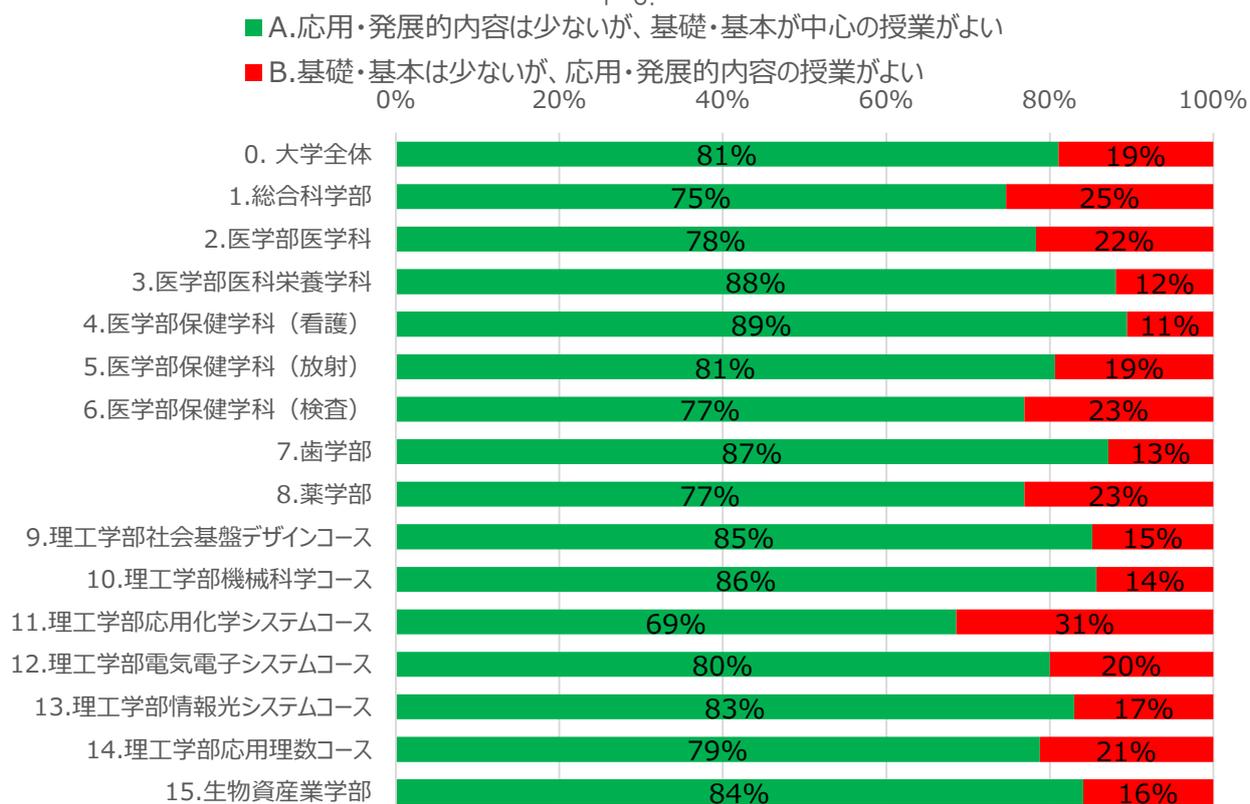
有効アンケートの状況<令和2年2月5日>

プログラム名	受講者	回答者数	回答率
総合科学部	182	75	41%
医学部医学科	114	83	73%
医学部医科栄養学科	51	42	82%
医学部保健学科看護学科専攻	73	57	78%
医学部保健学科放射技術専攻	37	31	84%
医学部保健学科検査技術科学専攻	17	13	76%
歯学部	55	39	71%
薬学部	89	78	88%
工学部理工学科社会基盤デザインコース	93	88	95%
工学部理工学科社会機械科学コース	116	98	84%
工学部理工学科応用化学システムコース	76	70	92%
工学部理工学科電気電子システムコース	106	50	47%
工学部理工学科情報光システムコース	138	106	77%
工学部理工学科応用理数コース	68	67	99%
生物資源産業学部生物資源産業学科	105	44	42%
合計	1320	941	71%

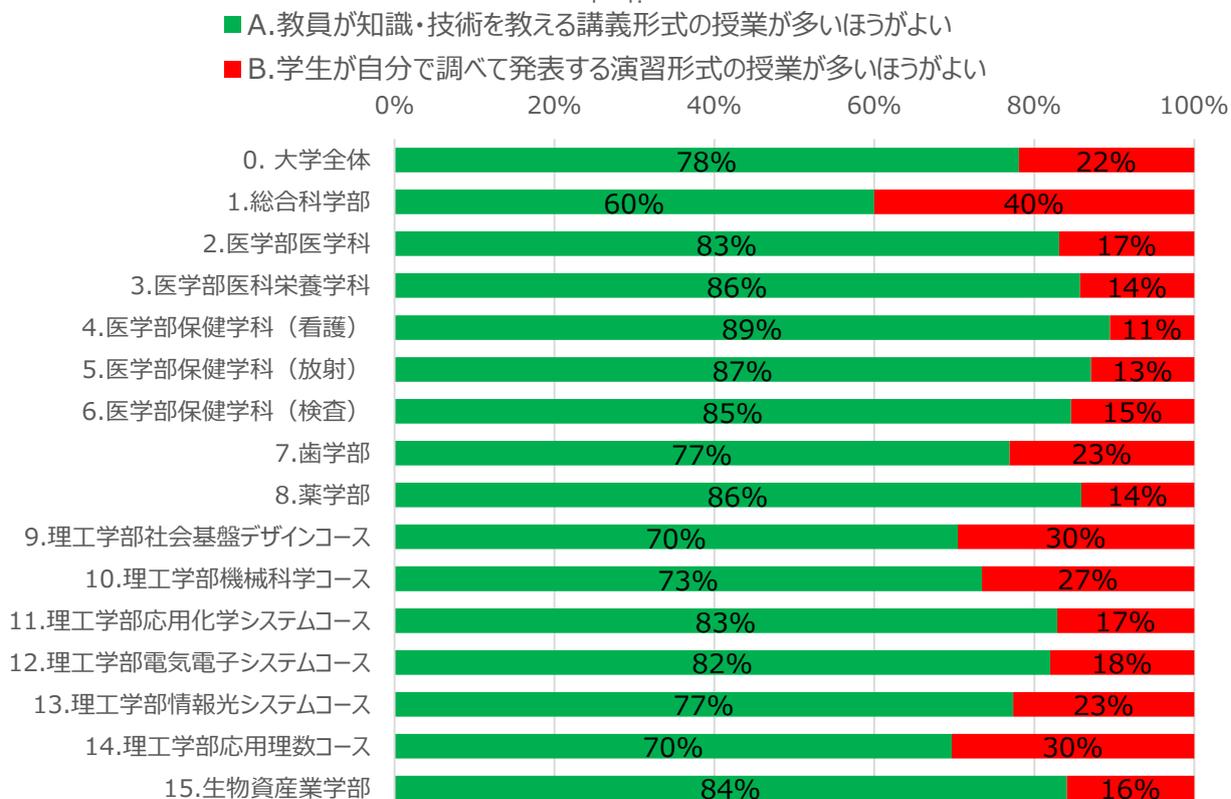
問 1. 大学教育について、あなたは次にあげる A、B のどちらの考え方に近いですか？

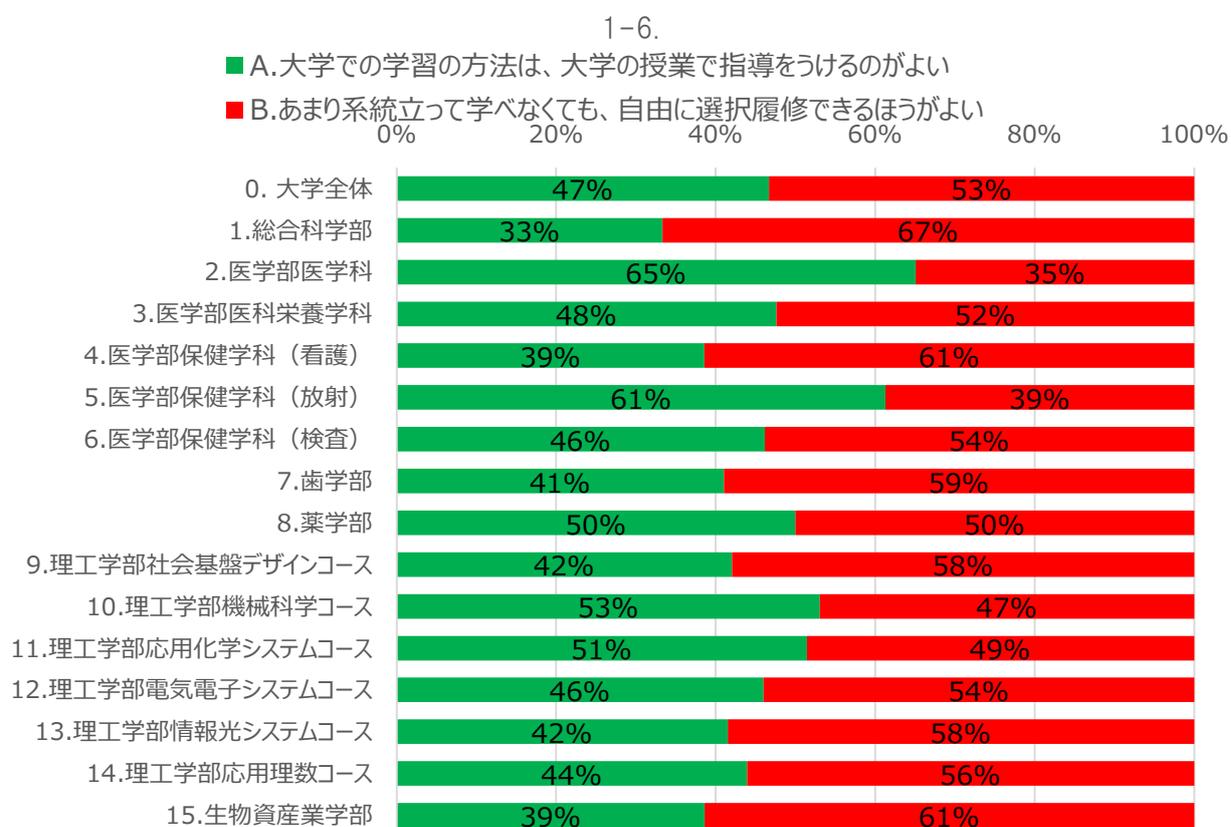
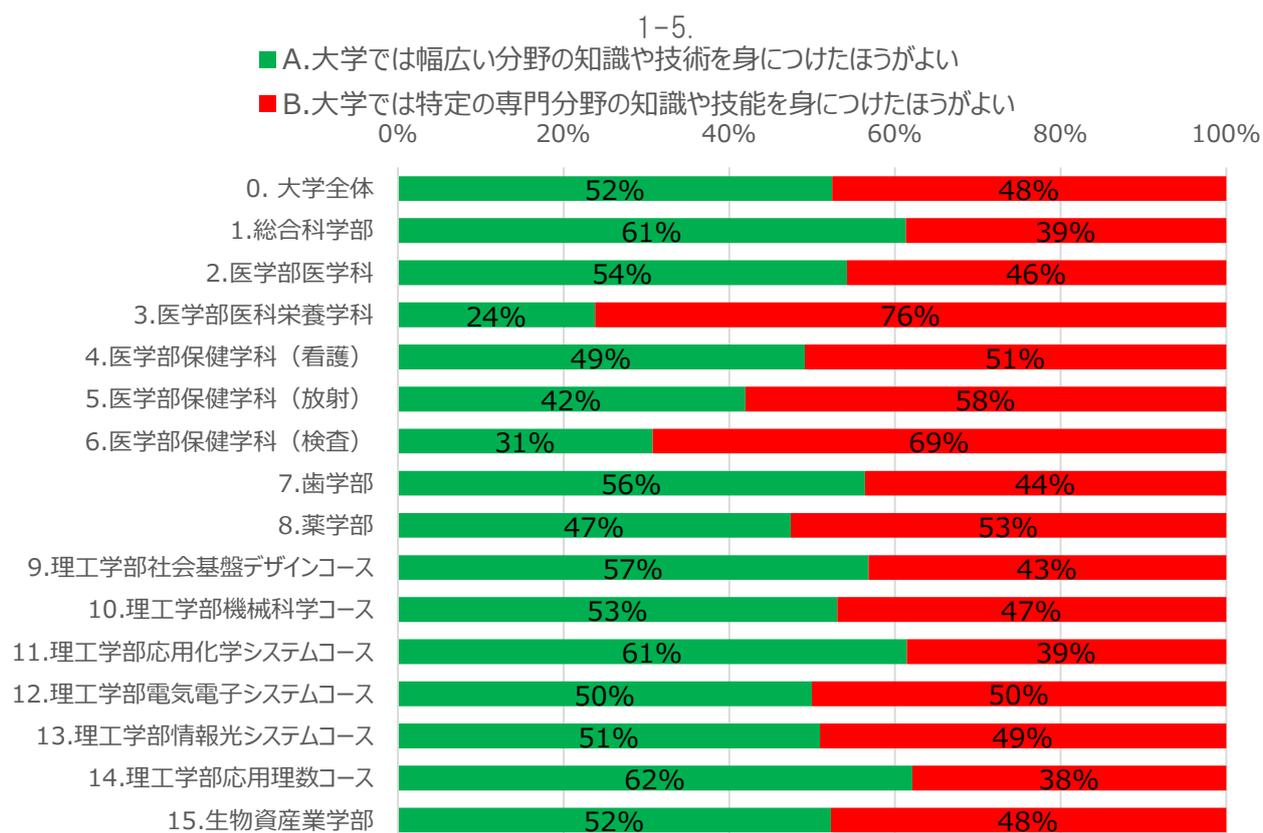


1-3.



1-4.



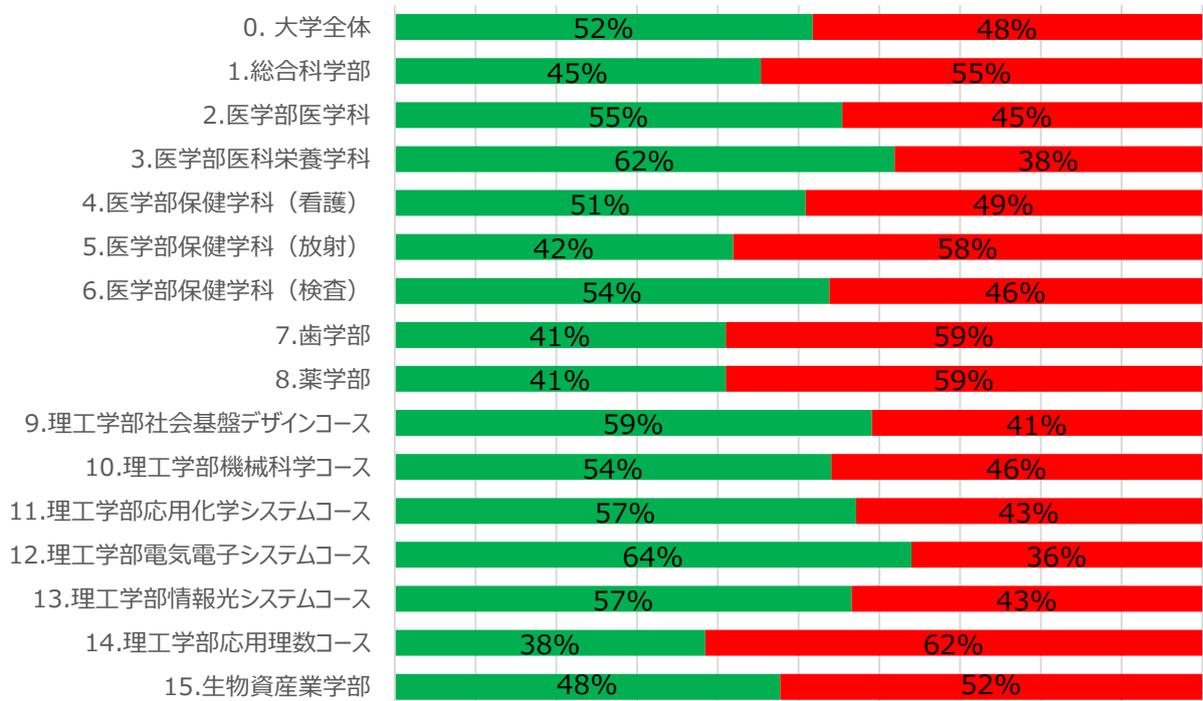


1-7.

■ A.大学での学習の方法は、大学の授業で指導をうけるのがよい

■ B.大学での学習の方法は、学生が自分で工夫するのがよい

0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%

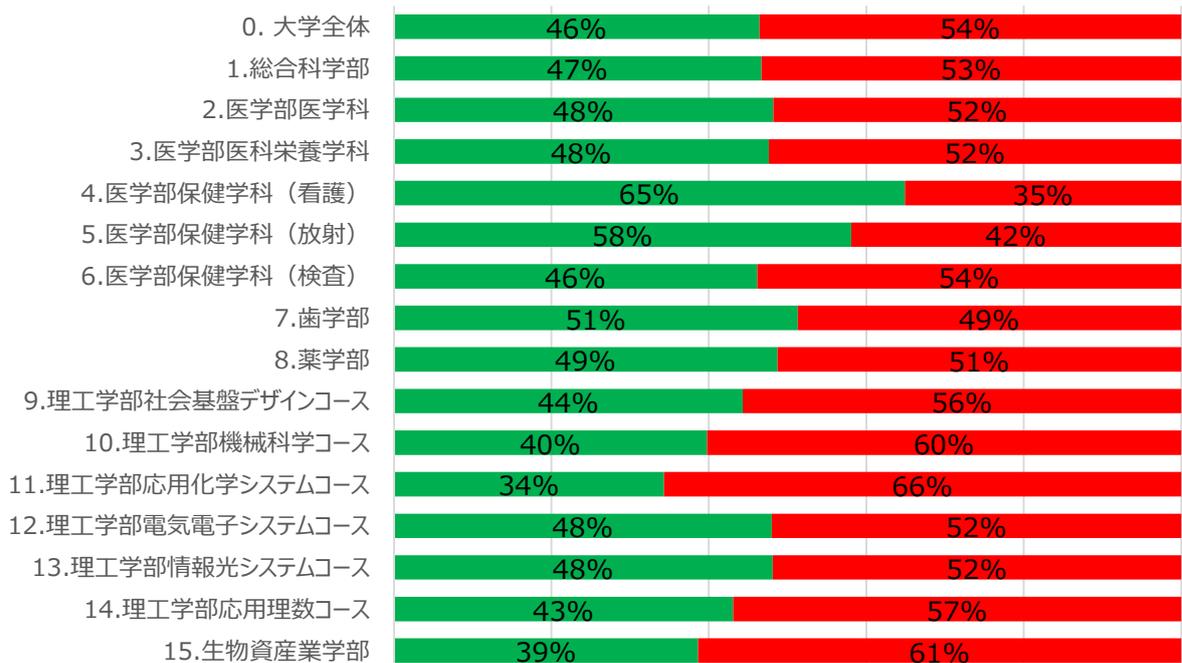


1-8.

■ A. 学生は将来やりたいことを決めて、授業をうけるほうがよい

■ B. 学生は授業を通じて、将来やりたいことをみつけるほうがよい

0% 20% 40% 60% 80% 100%

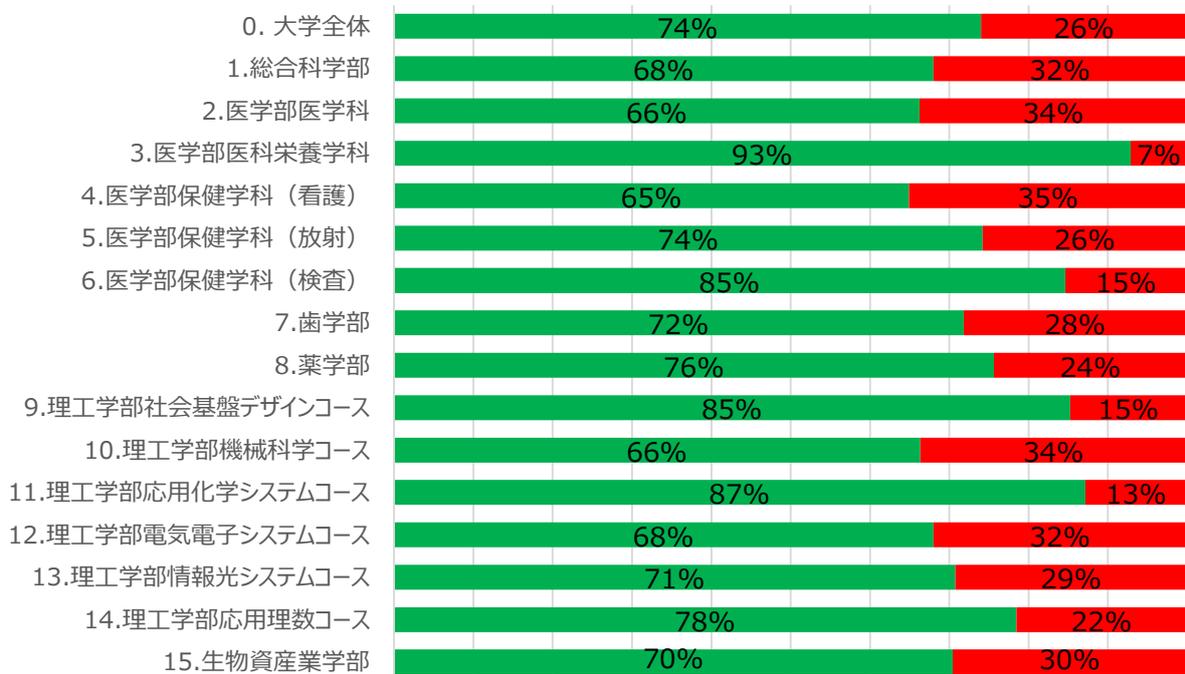


1-9.

■ A.授業以外でも、大学の教員は積極的に学生と交流するほうがよい

■ B.授業以外では、大学の教員は必要以上に学生と交流しなくてもよい

0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%

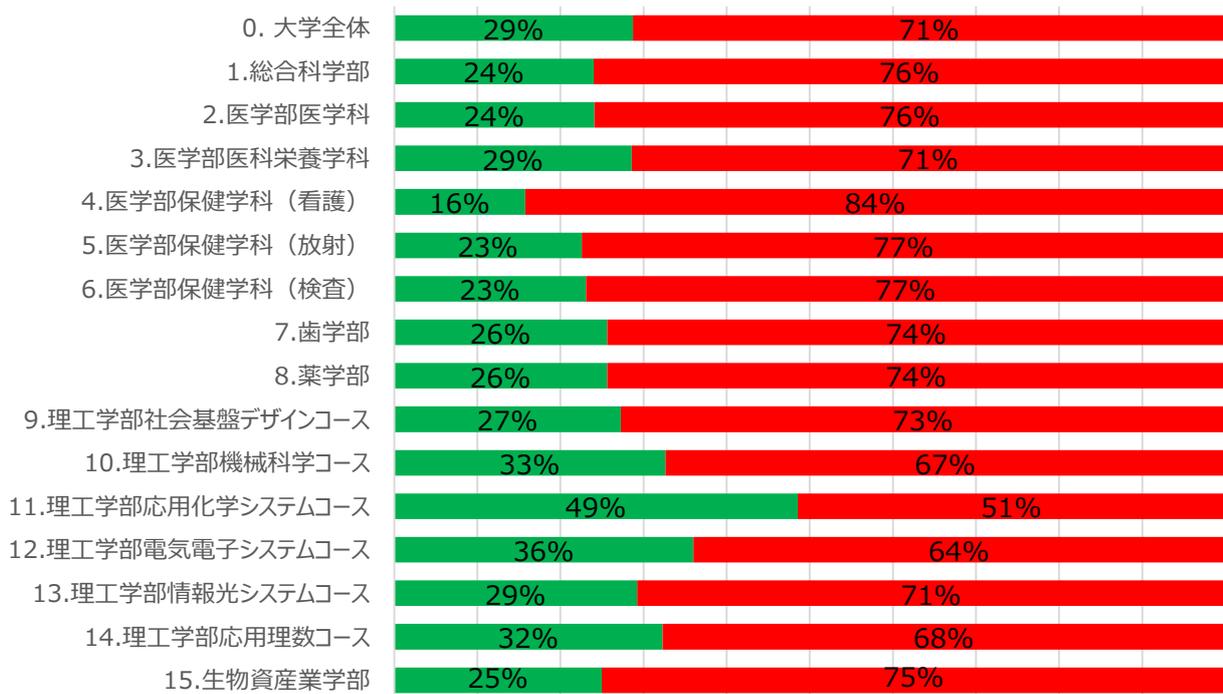


1-10.

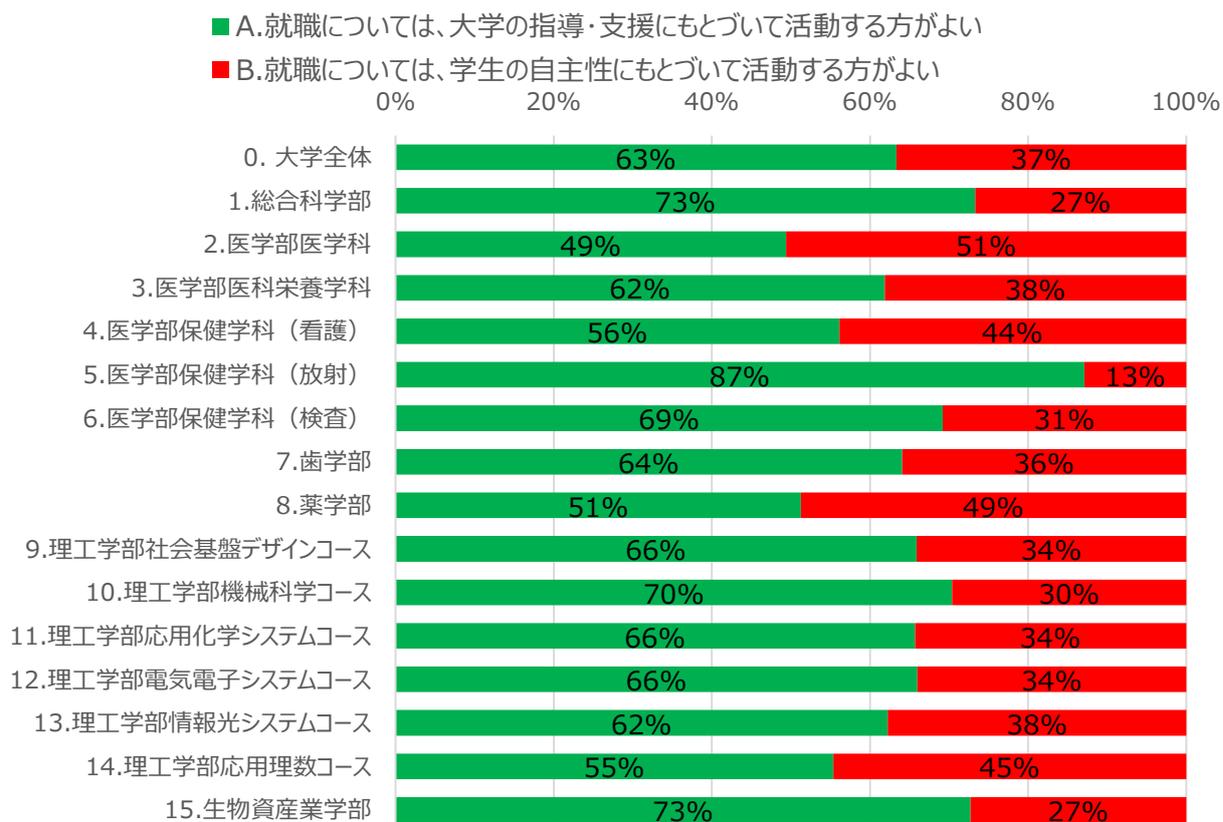
■ A. 学生生活については、大学の教員が指導・支援するほうがよい

■ B. 学生生活については、学生の自主性に任せるほうがよい

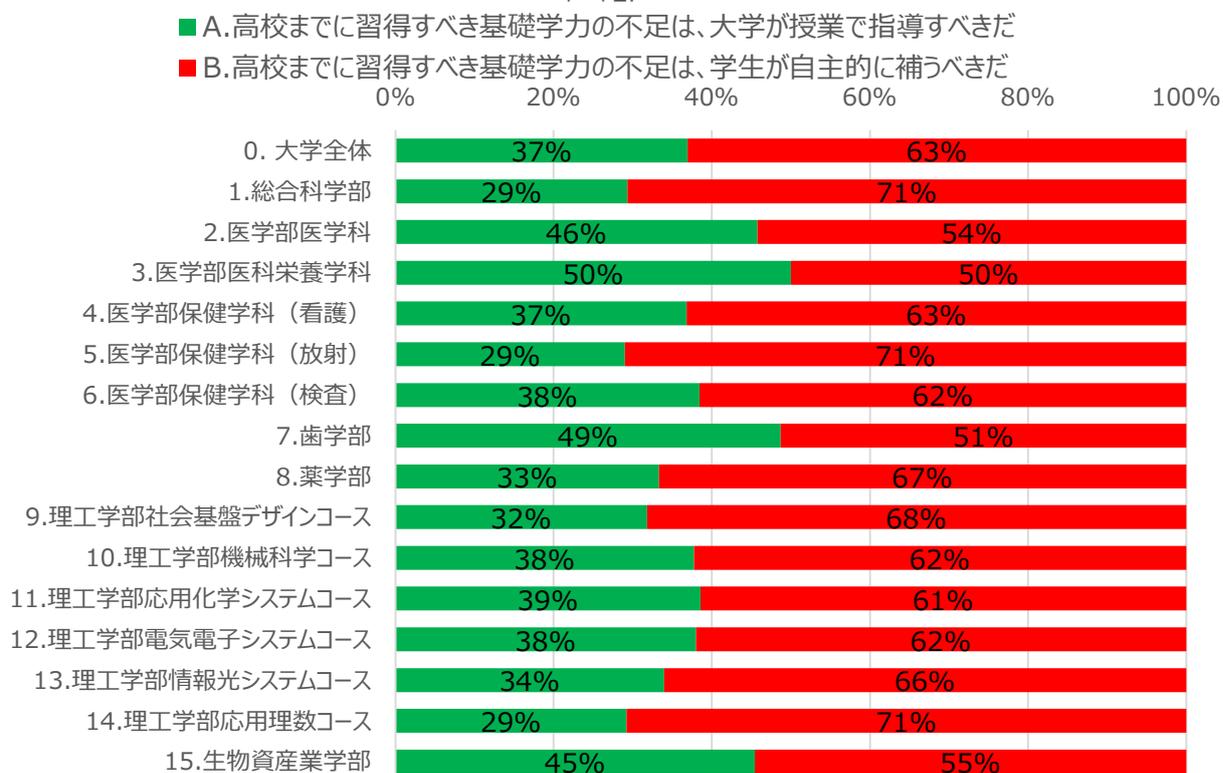
0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%



1-11.



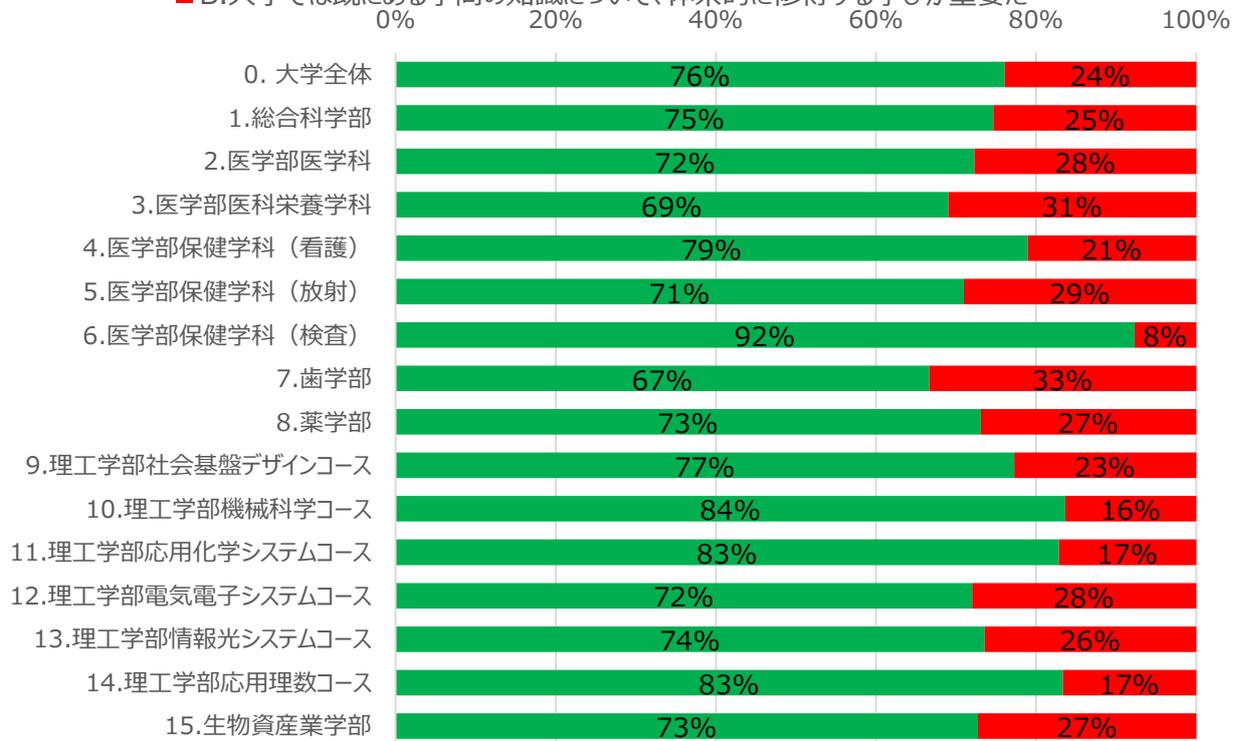
1-12.



1-13.

■ A.大学では答えのない問題について、自分なりの解を探索する学びが重要だ

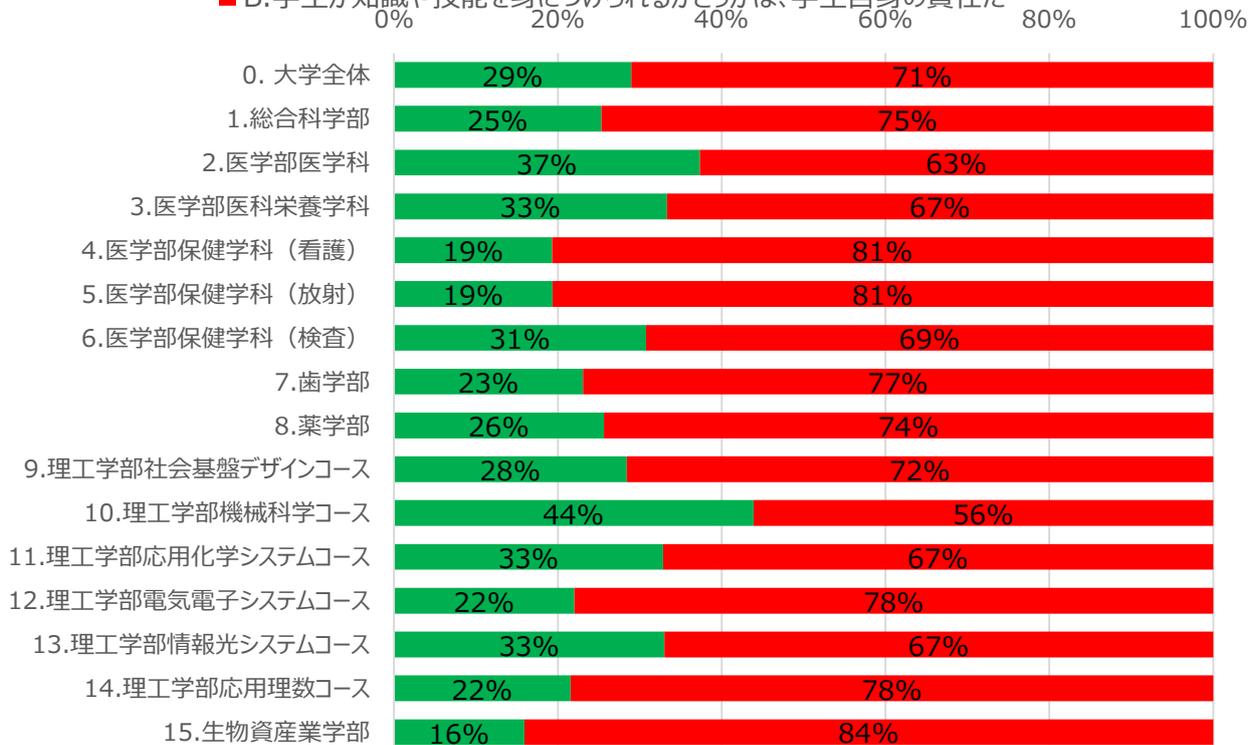
■ B.大学では既にある学問の知識について、体系的に修得する学びが重要だ



1-14.

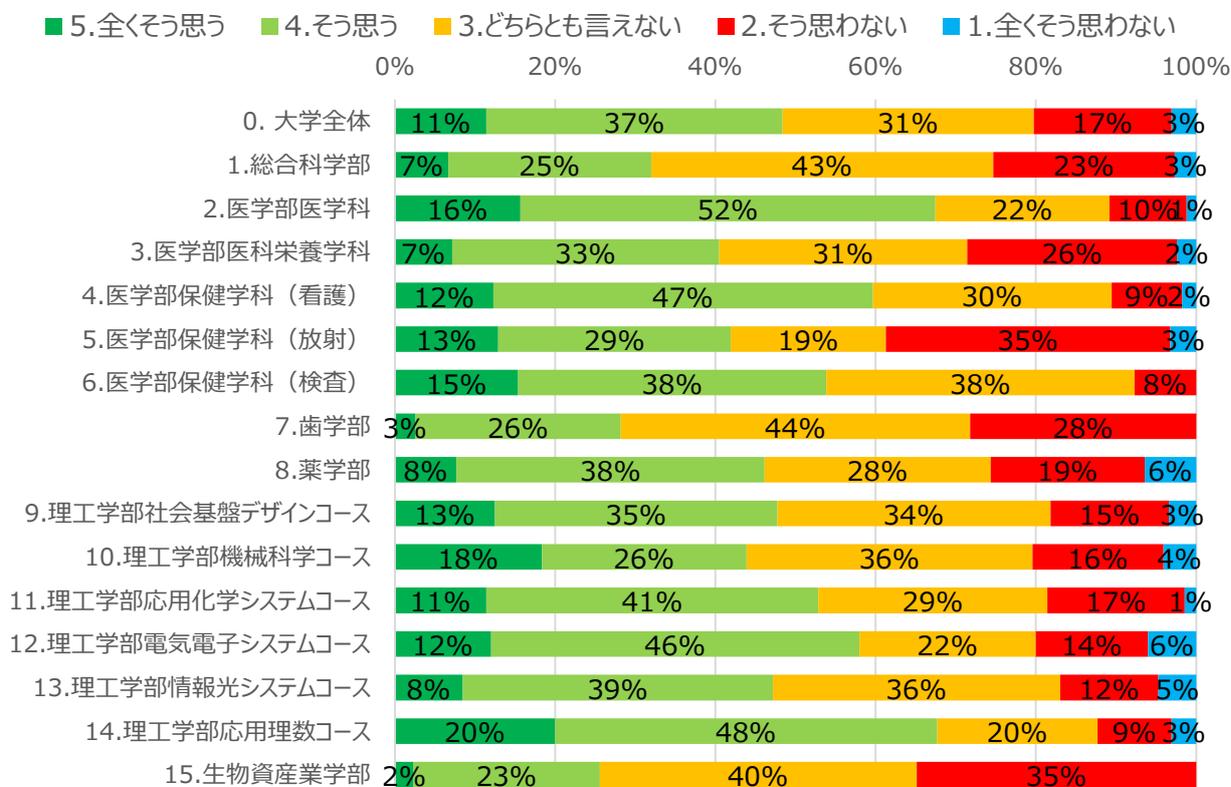
■ A. 学生が知識や技能を身につけられるかどうかは、大学の教育の責任だ

■ B. 学生が知識や技能を身につけられるかどうかは、学生自身の責任だ

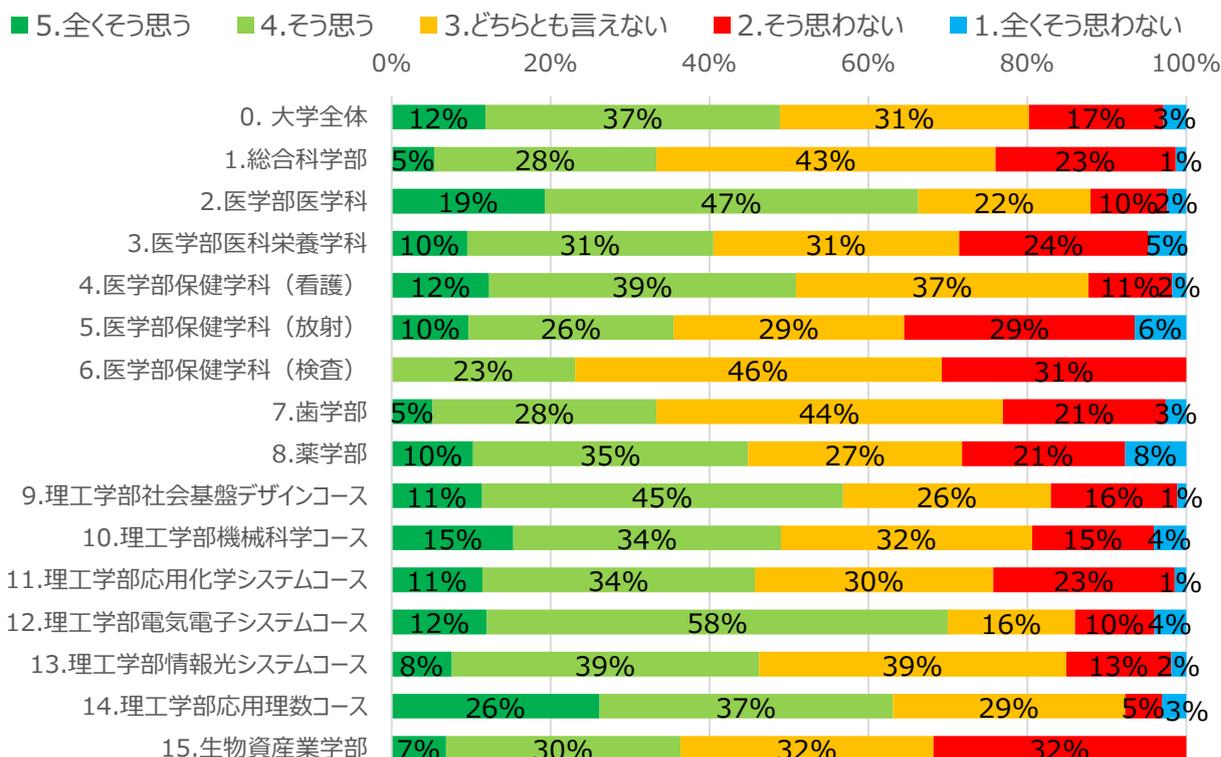


問 2. 自身の学習について、当てはまる項目を「5. 全くそう思う」～「1. 全くそう思わない」のうち当てはまるものを1つ選んで下さい。

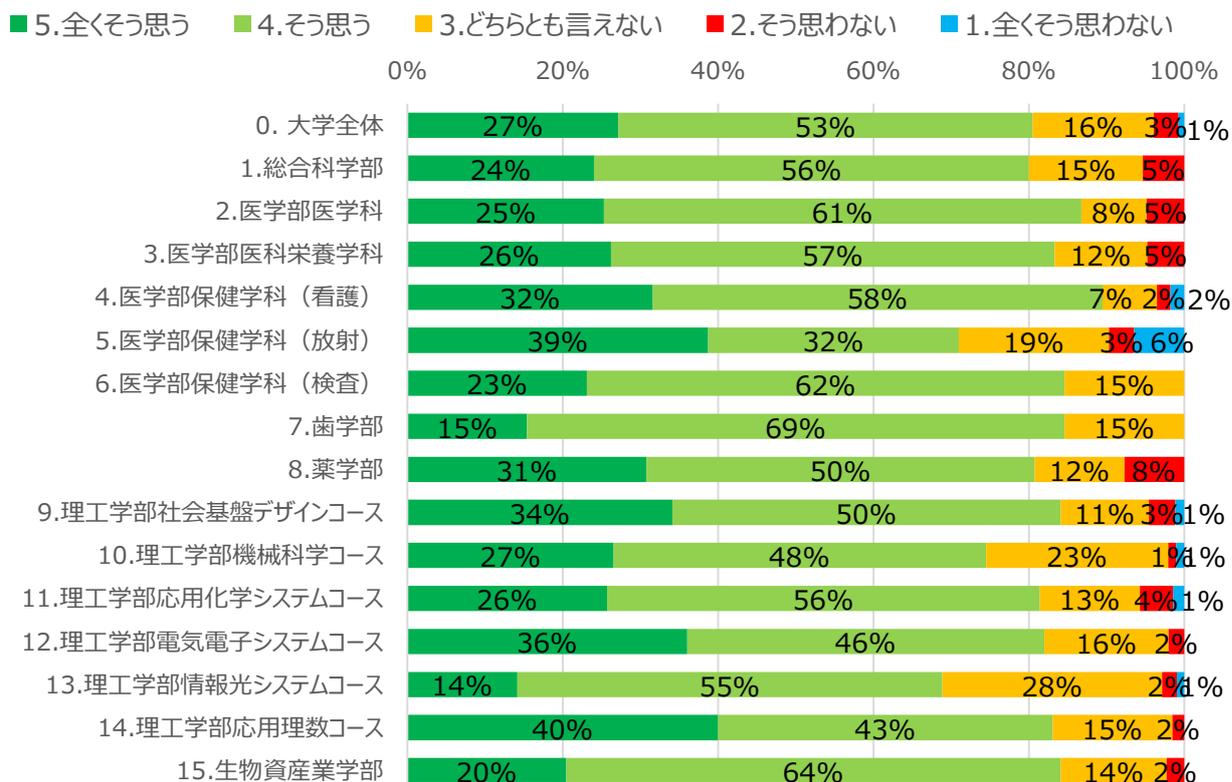
2-1. 自分の考えを文書による表現で、効果的に相手に伝えることができる



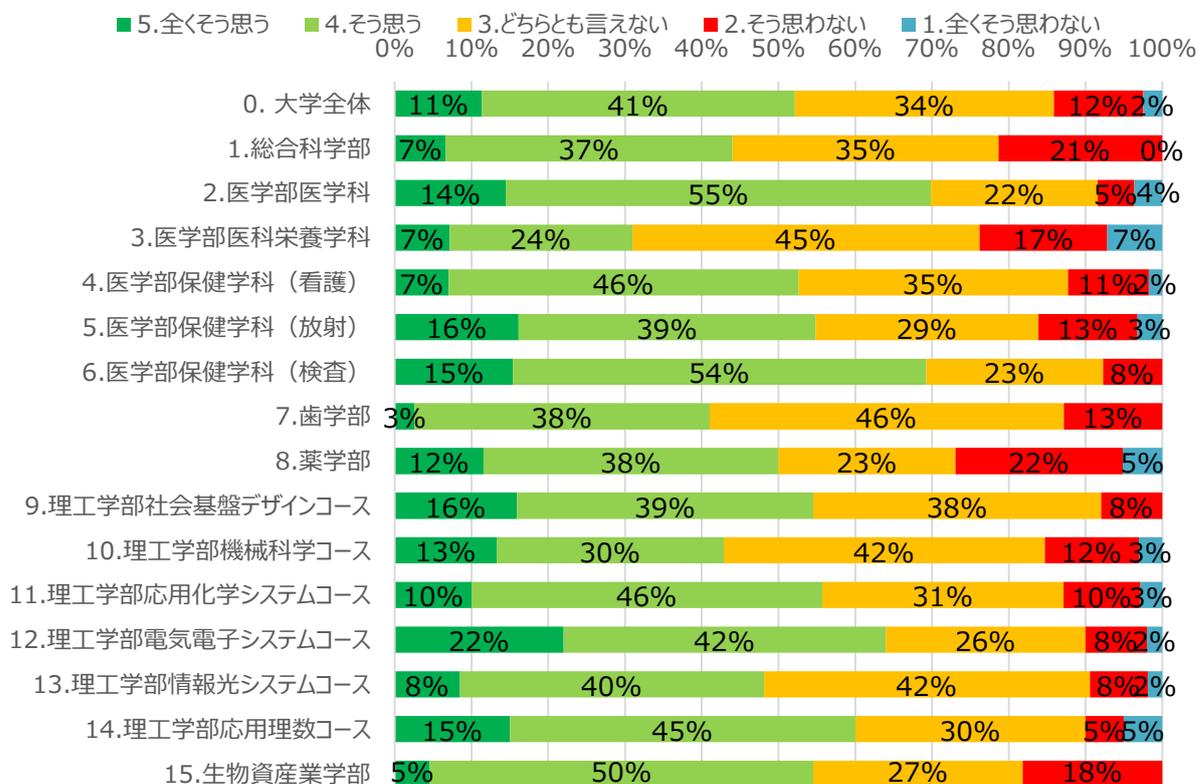
2-2. 自分の考えを口頭による説明や資料を用いて、効果的に相手に伝えることができる



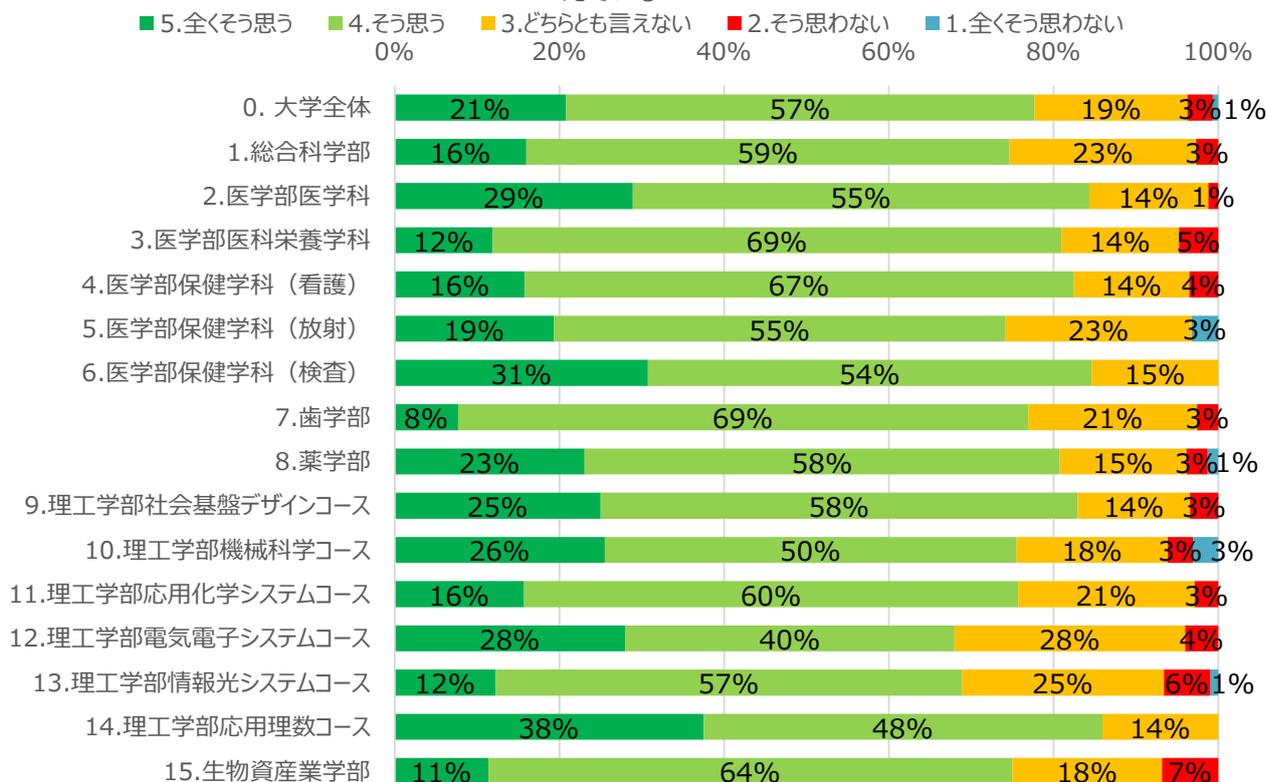
2-3. 1つの課題に対して、他者と協力して取り組むことができる



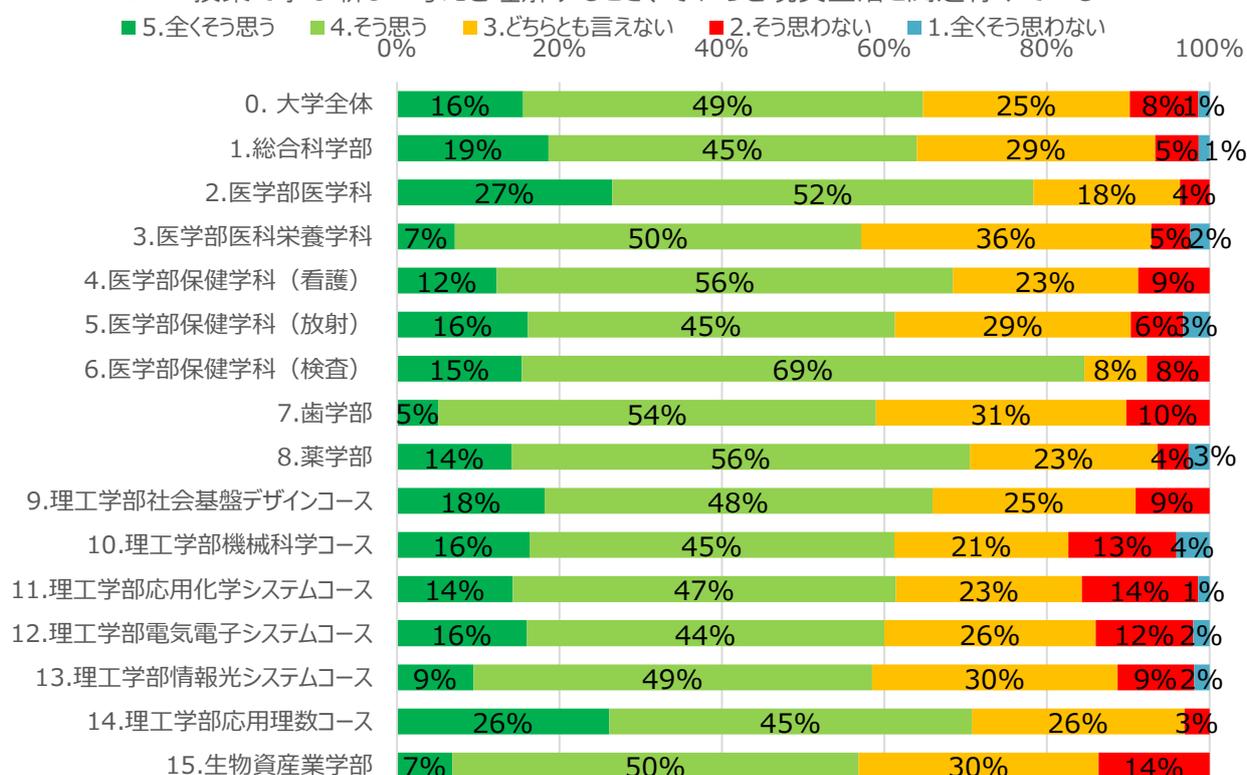
2-4. 日常的に自身の学修内容等を振り返り、改善点を見出し向上を図っている



2-5. 授業内容の意味を理解しようするとき、自分がすでに知っていることと結びつけて考えている

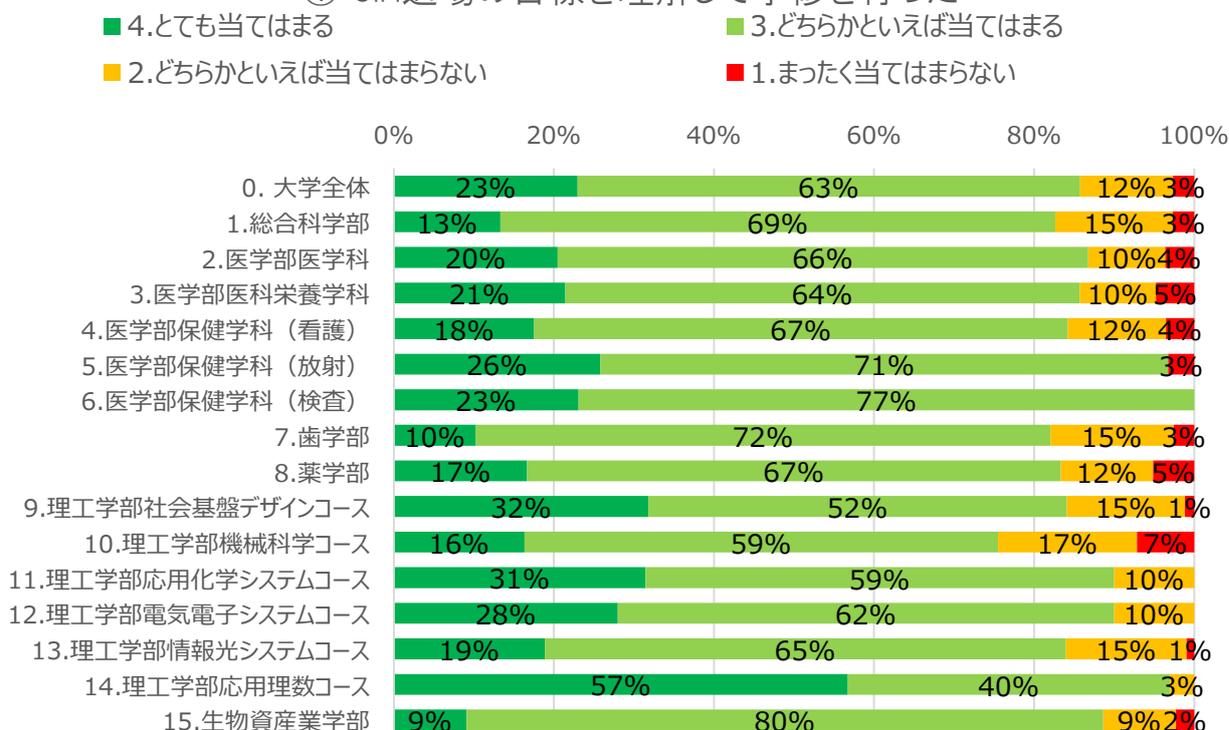


2-6. 授業で学ぶ新しい考えを理解するとき、それらを現実生活と関連付けている

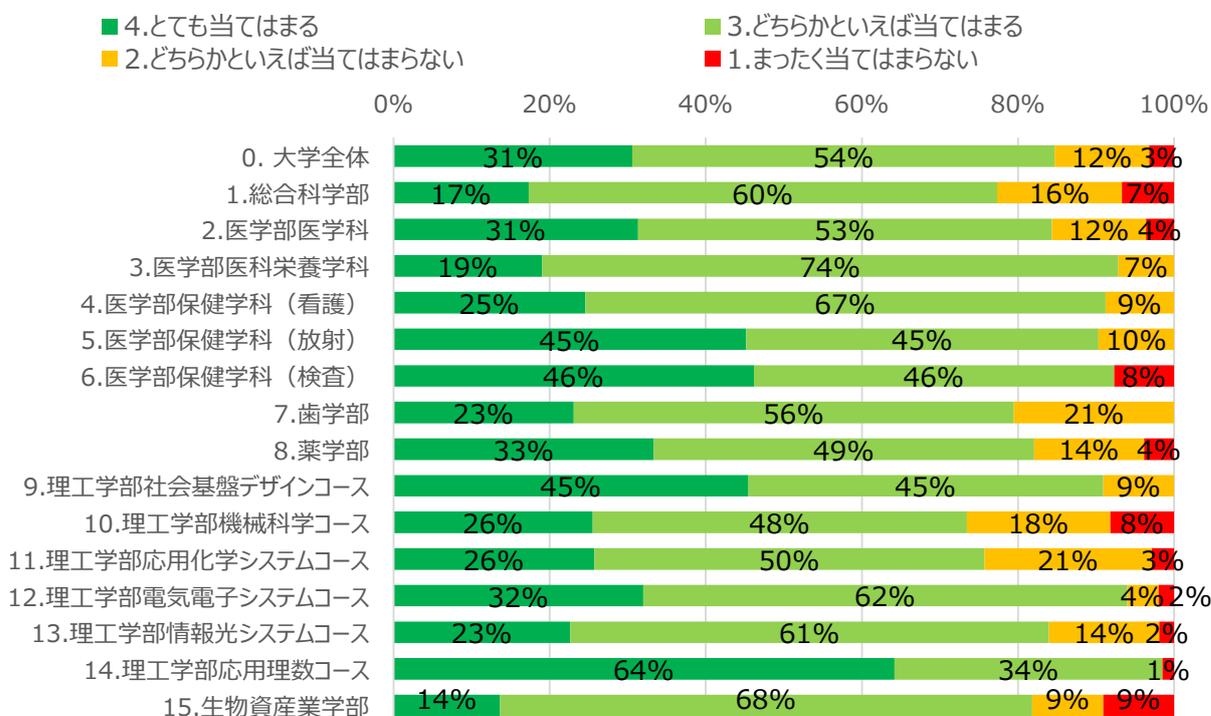


問3. SIH道場のプログラムについて、「4. とても当てはまる」～「1. まったく当てはまらない」のうち当てはまるものを1つ選んでください。

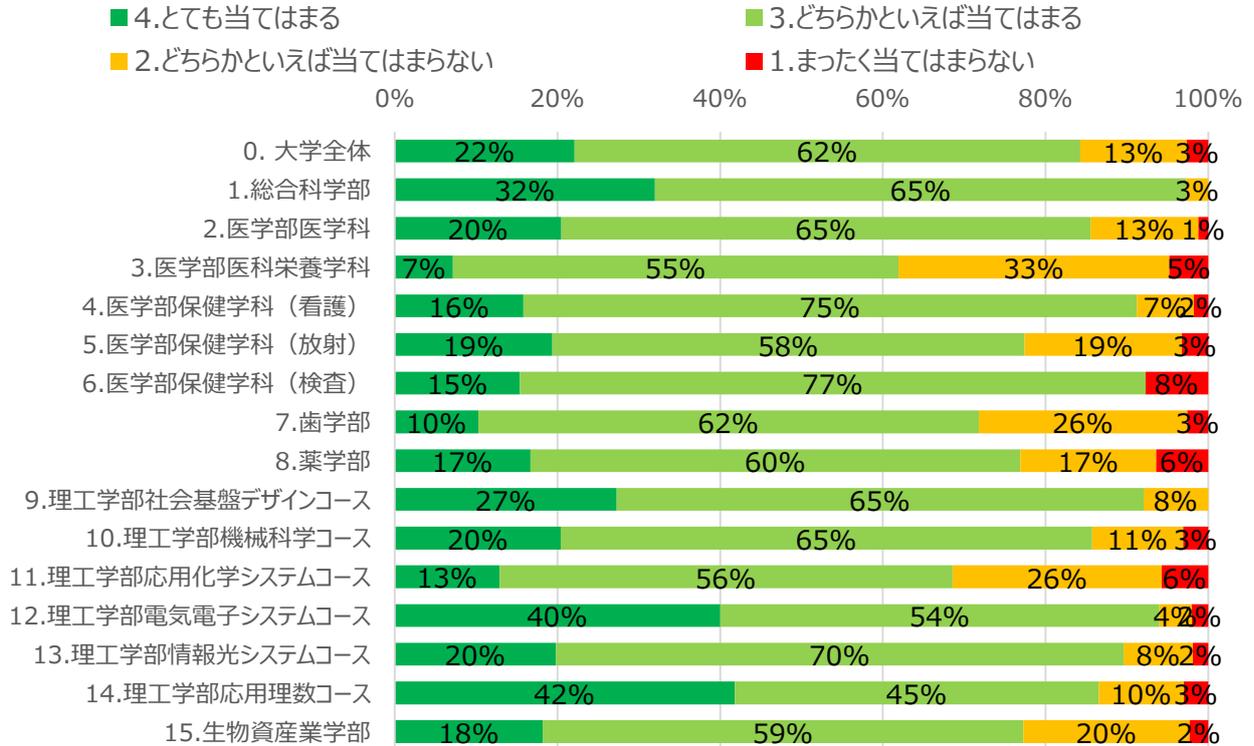
① SIH道場の目標を理解して学修を行った



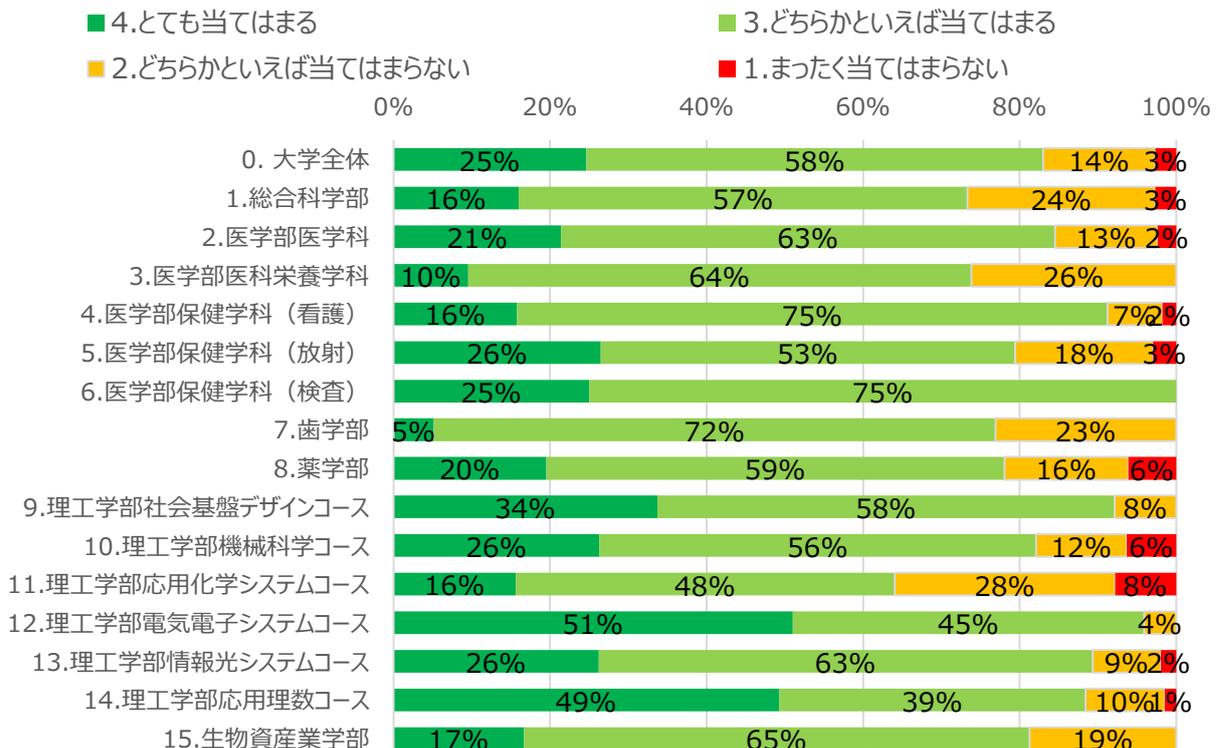
② 早期体験で専門分野(学科での学修・研究)に対する興味関心が高まった



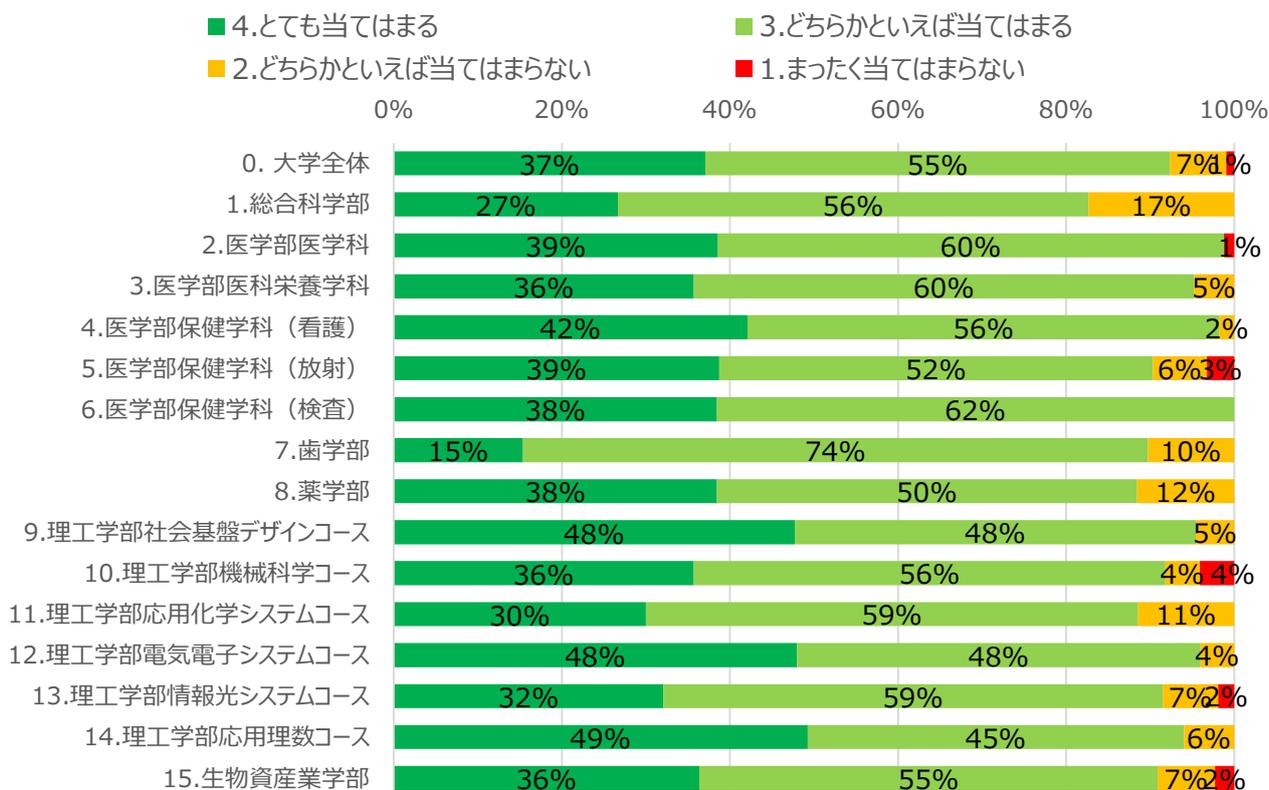
③レポート等の学術的文章を書く際に必要な準備や基本的なルールを理解した



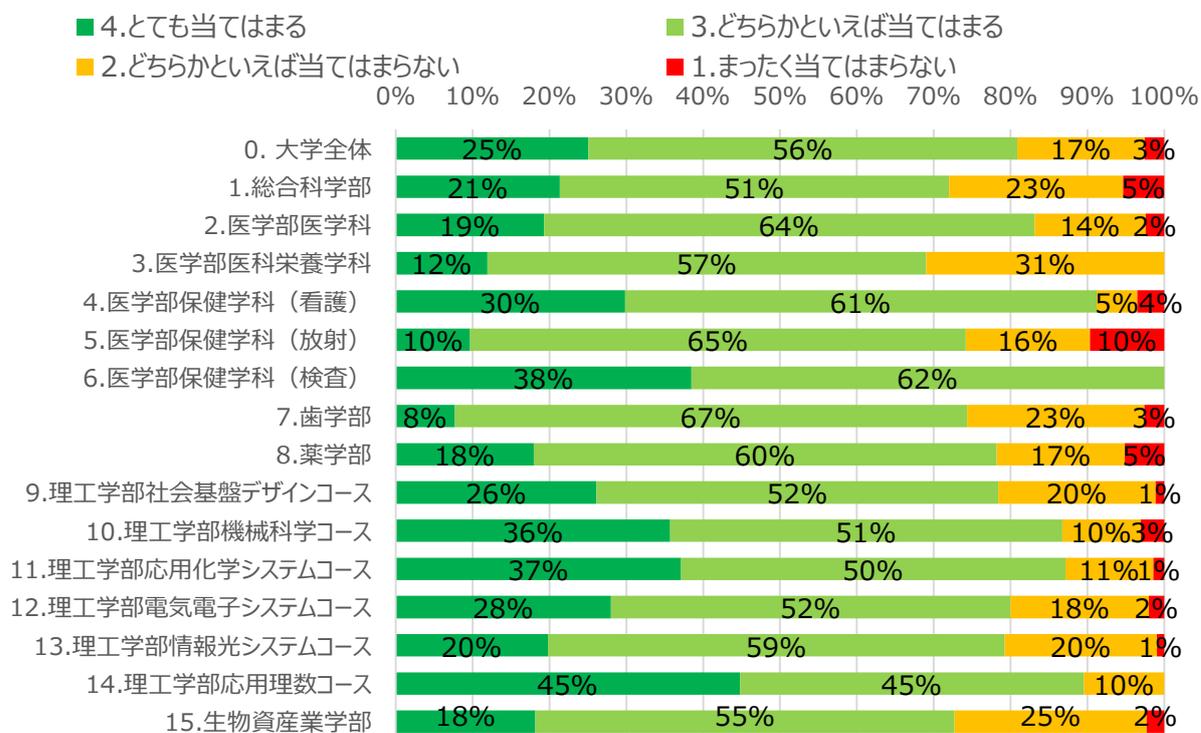
④プレゼンテーションを効果的に行うために必要な準備・姿勢・資料を理解した



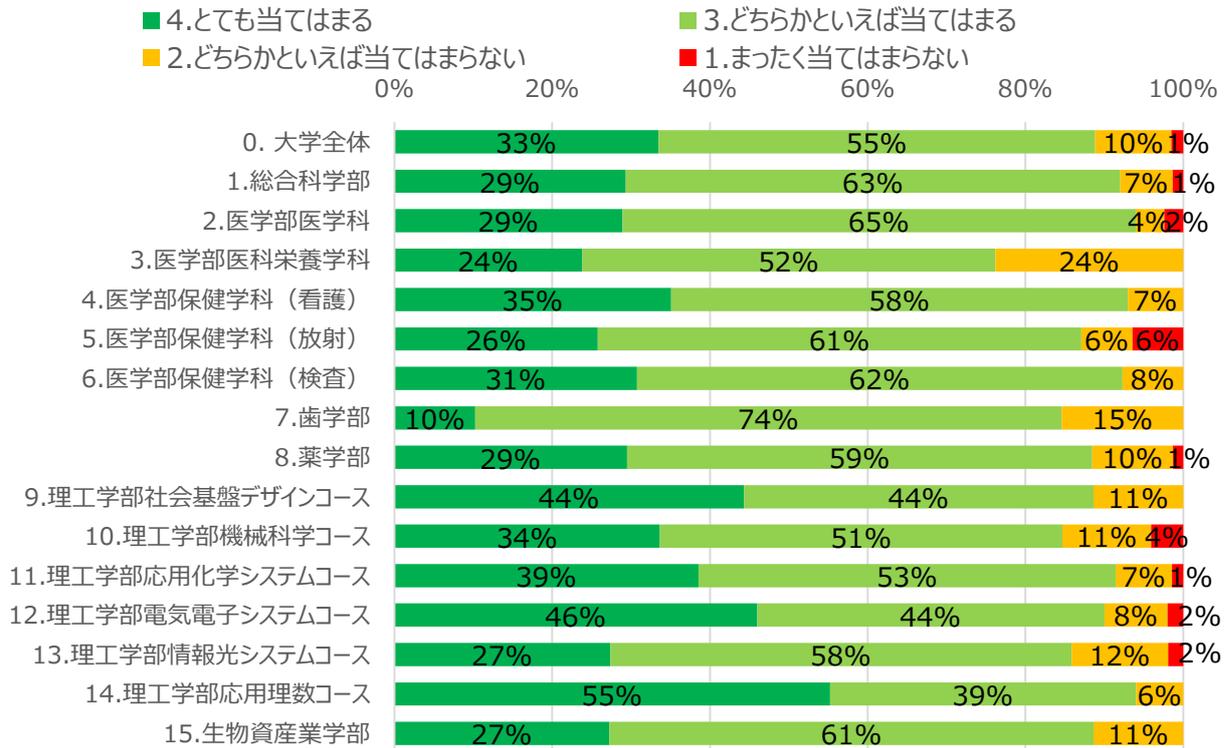
⑤1つの課題に対して、他者と協力して取り組む際の留意点を理解した



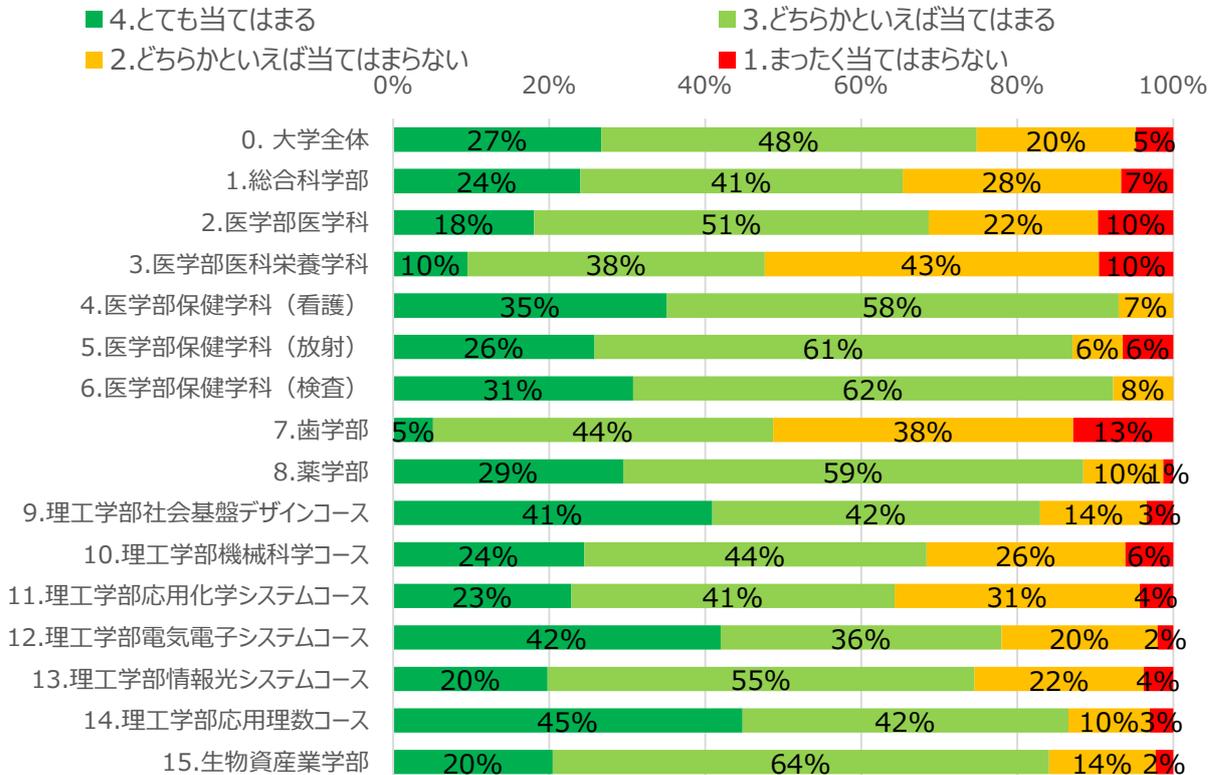
⑥課題等の評価の基準がわかった(ルーブリック・チェックリストなどが示されていた)



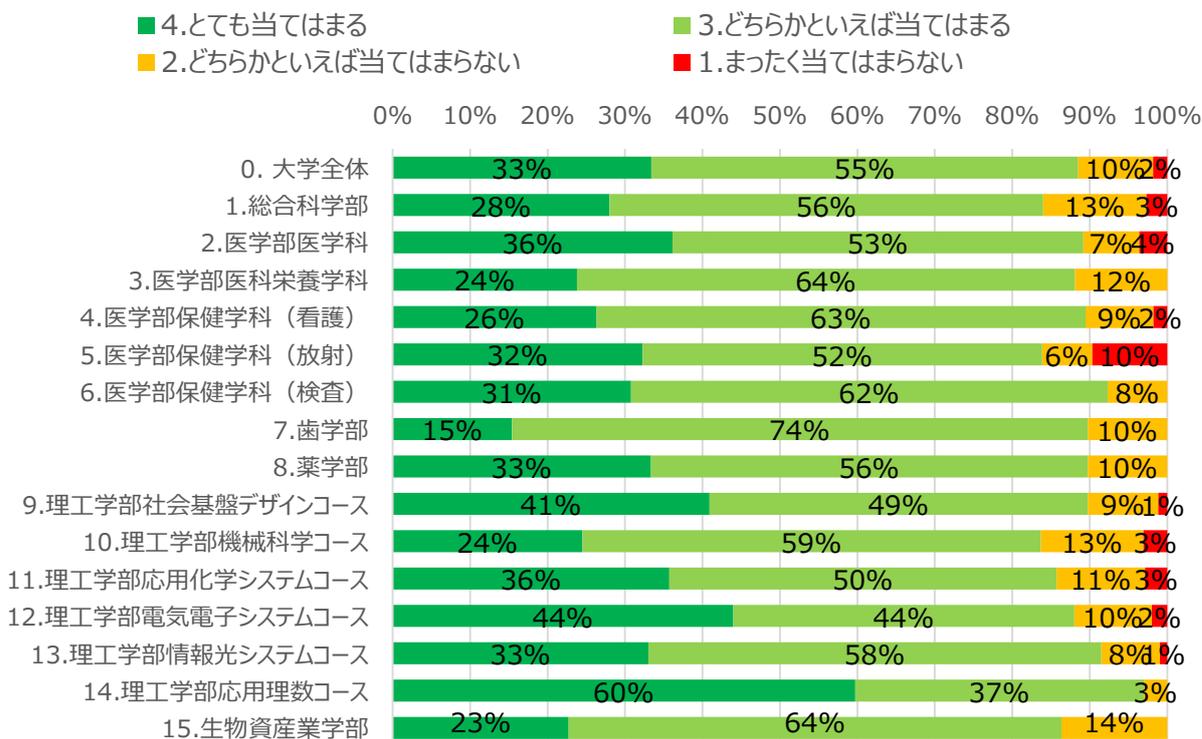
⑦学修(体験)を振り返ることの重要性を理解した



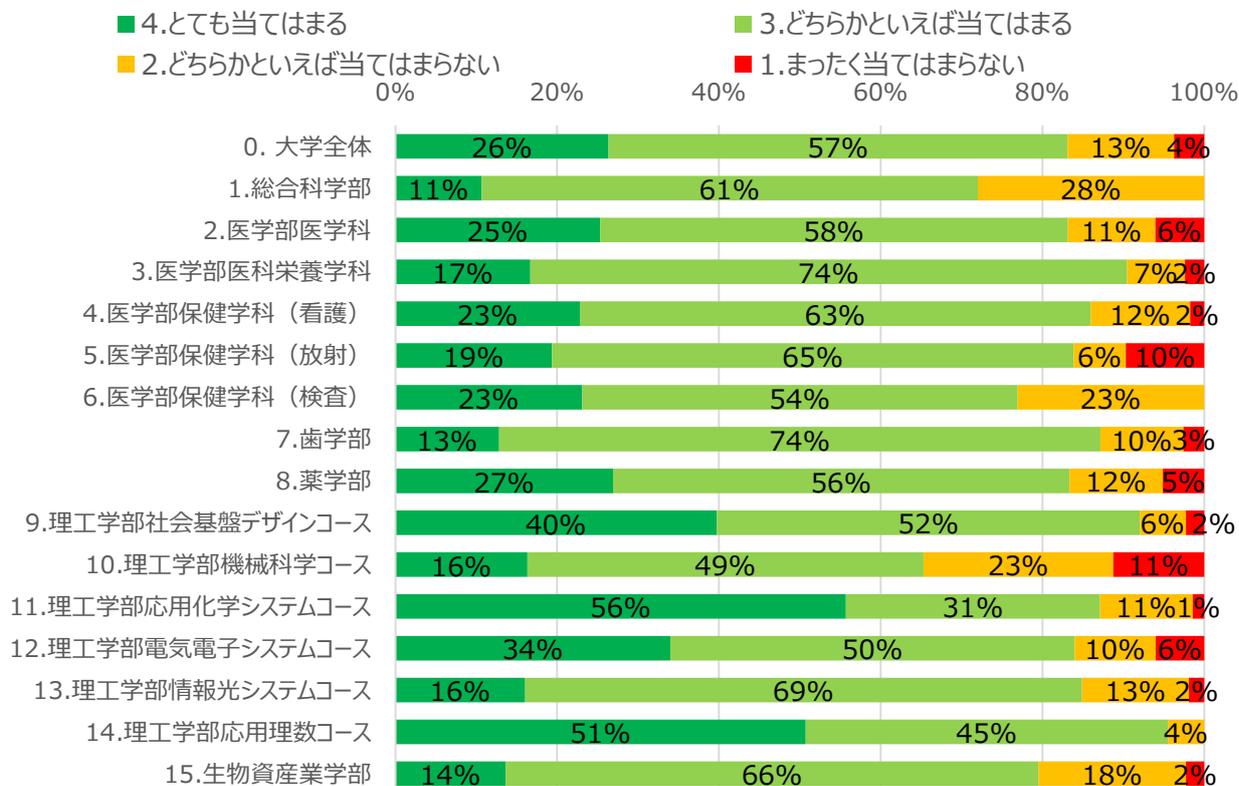
⑧授業外(事前または、事後)において学修を行った



⑨ 自ら考え抜く能動的学修(アクティブ・ラーニング)の重要性を理解した

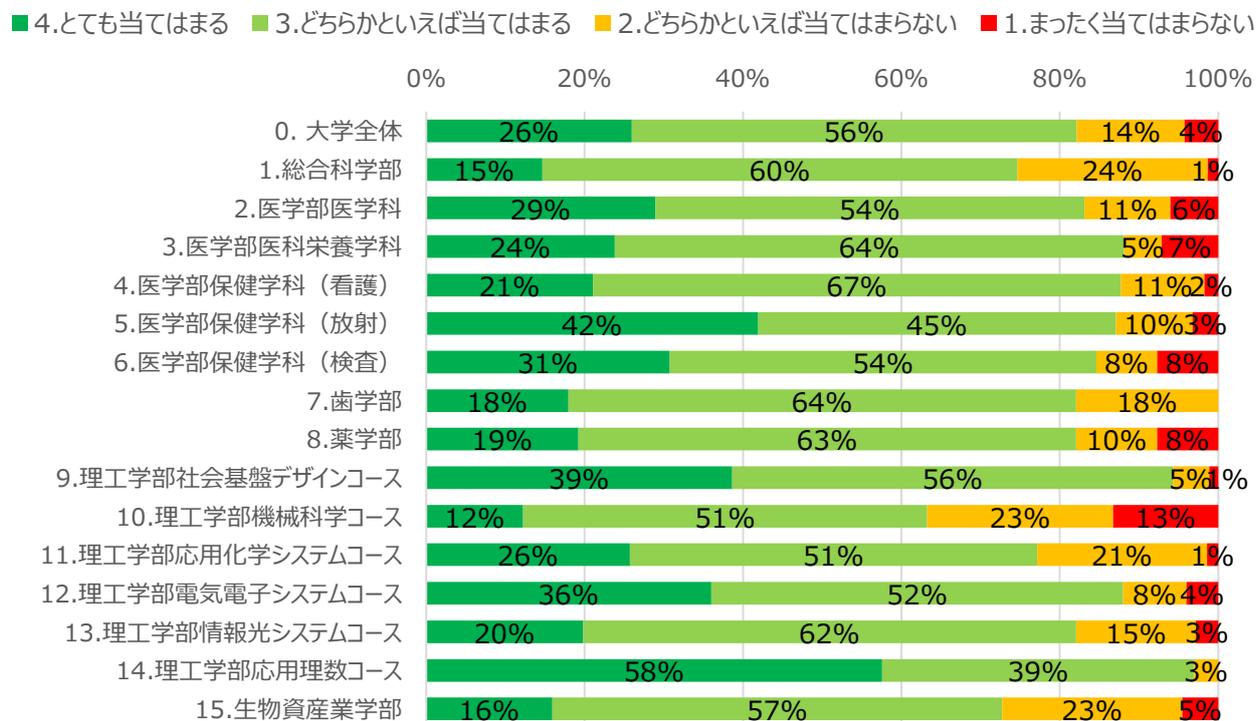


⑩ SIH道場のプログラムは全体的に満足できるものであった

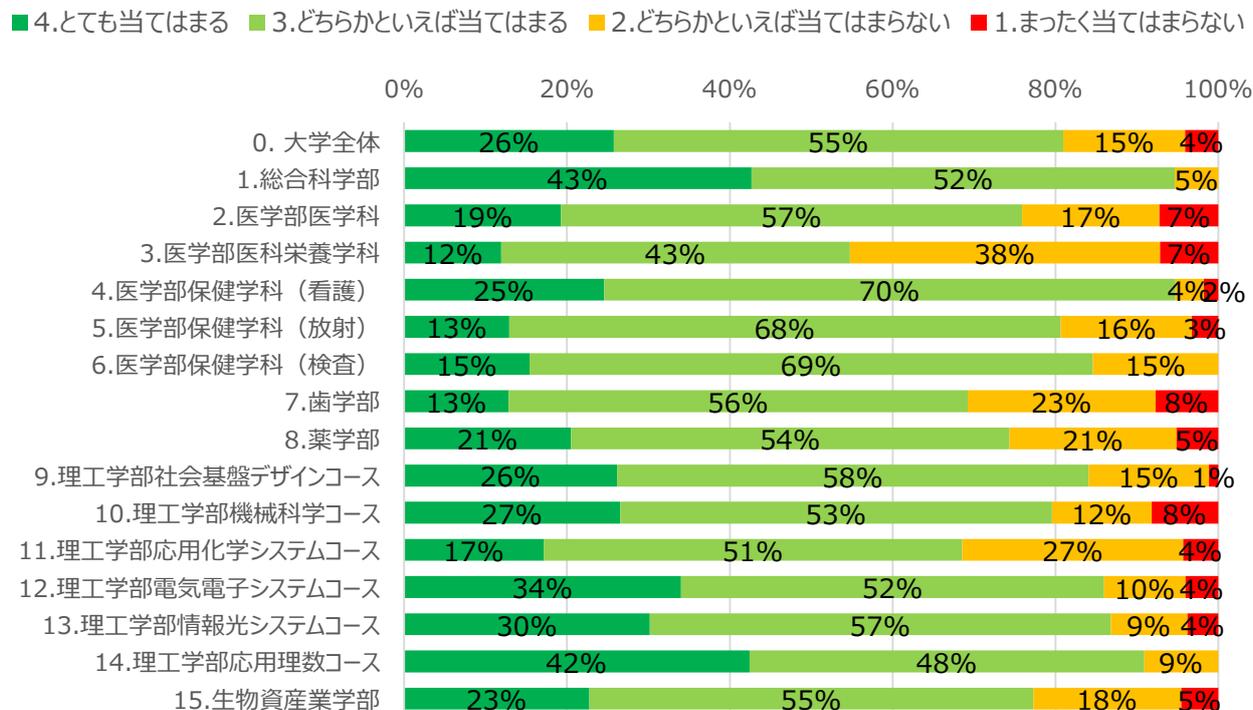


問 4.

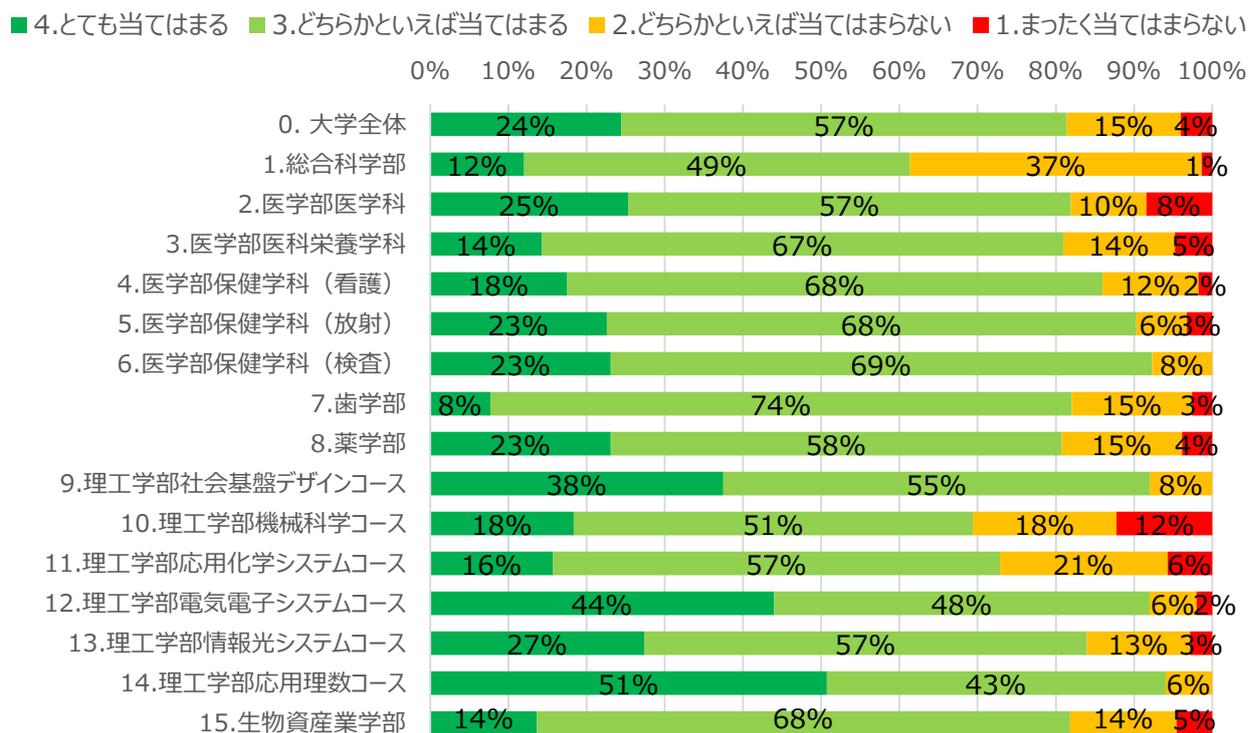
①SIH道場の「早期体験」は専門科目の学修において役に立っている



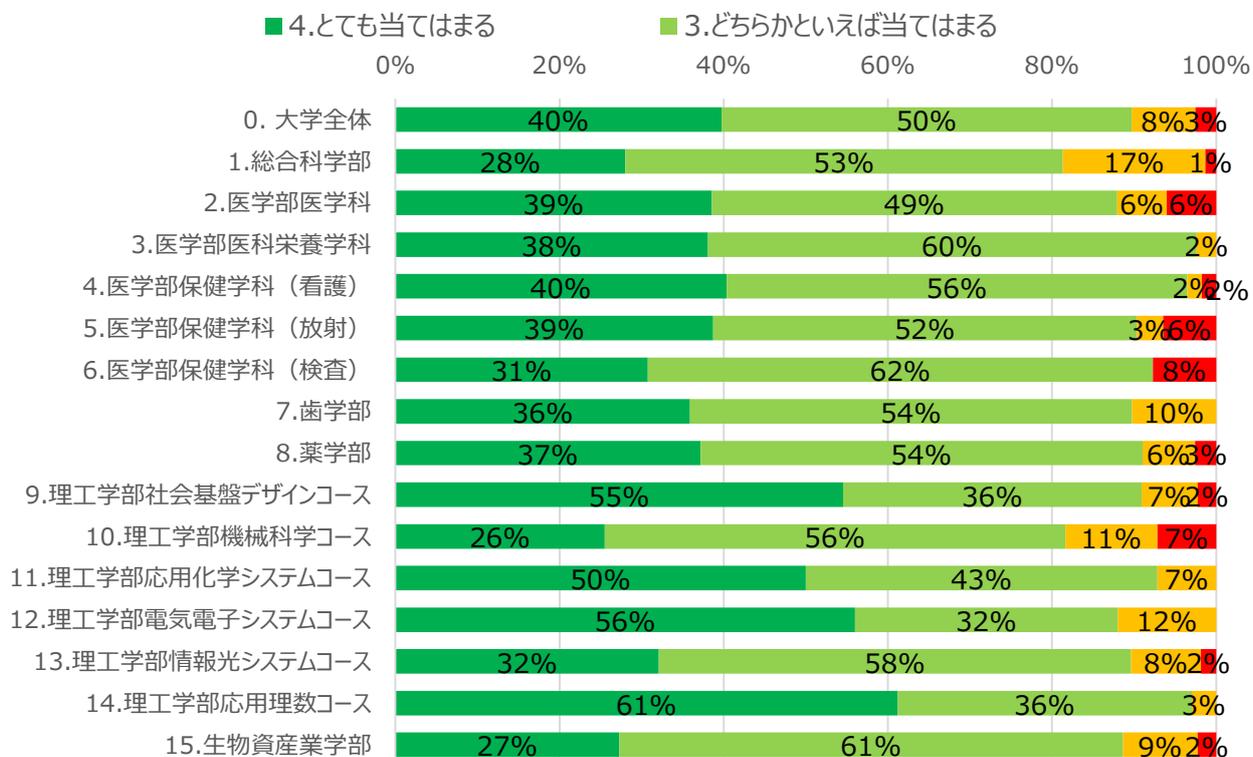
② SIH道場で学修した「文章・レポートの書き方」は役に立っている



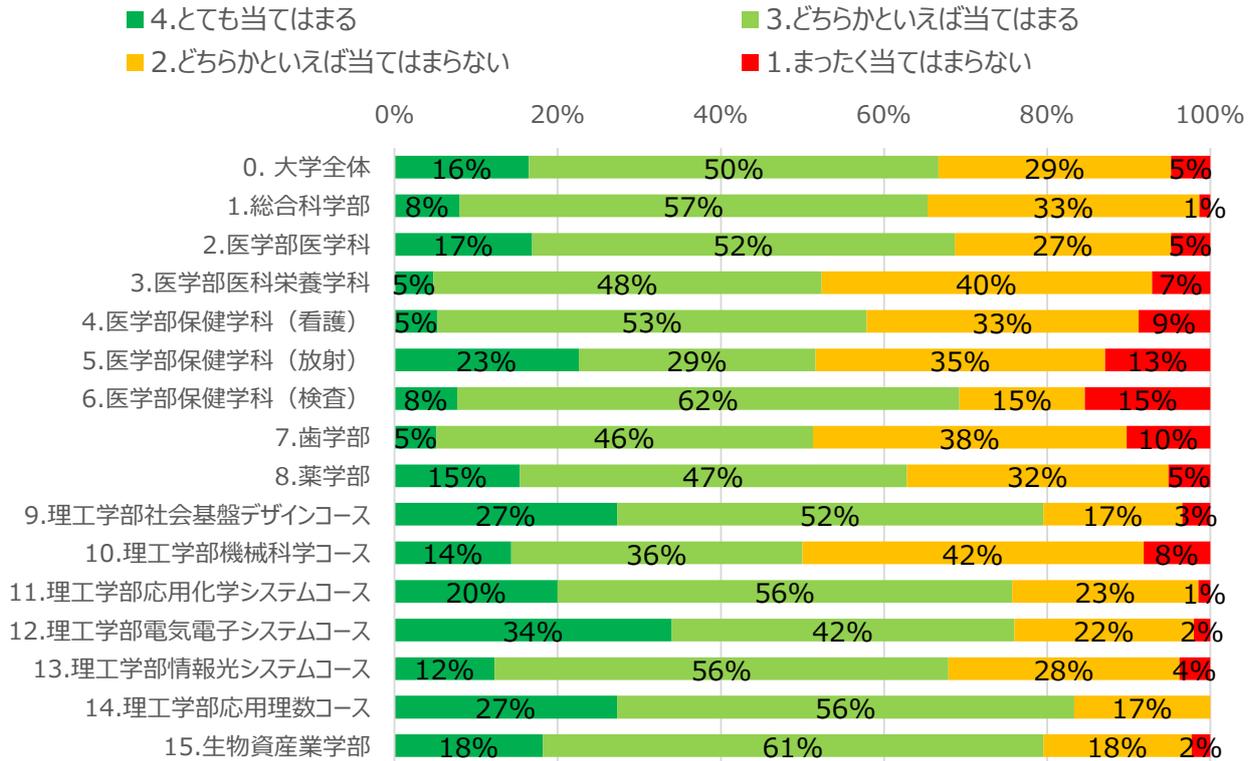
③SIH道場で学修した「プレゼンテーション」は役に立っている



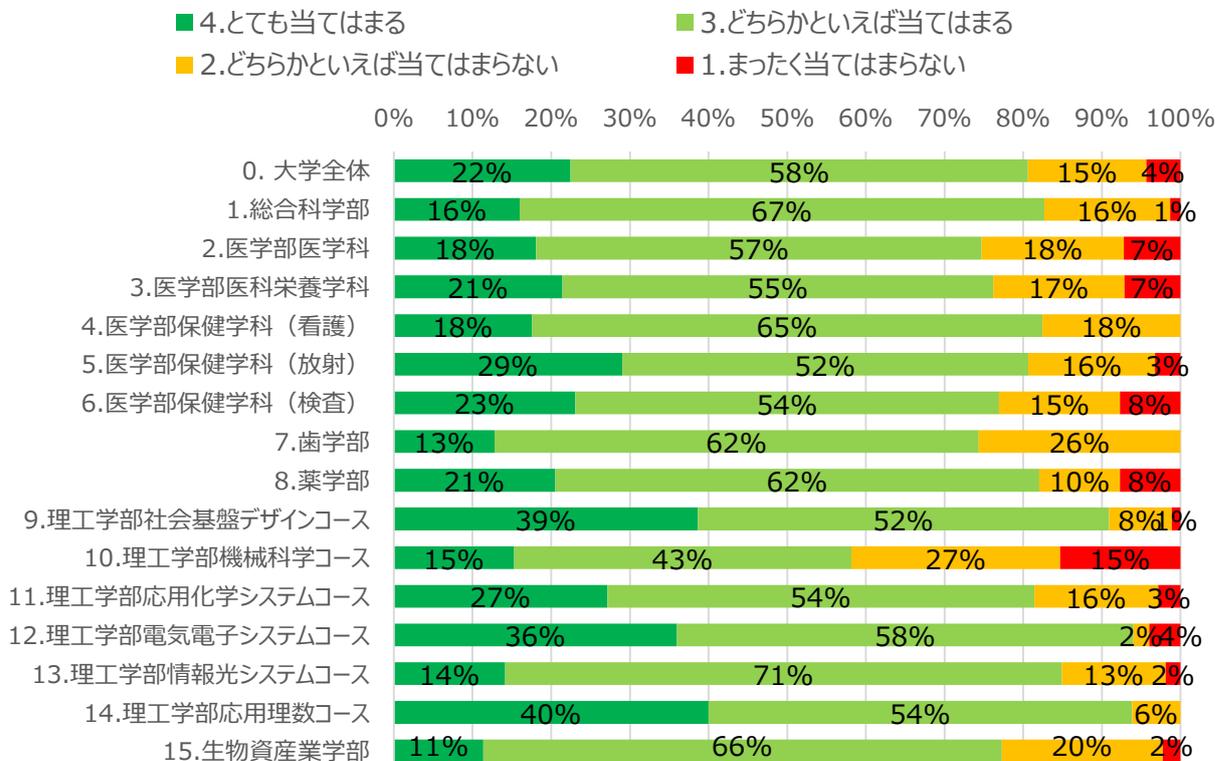
④SIH道場で学修した「他者との協働」は役に立っている



⑤日頃から授業で学修したことについて振り返りを行っている

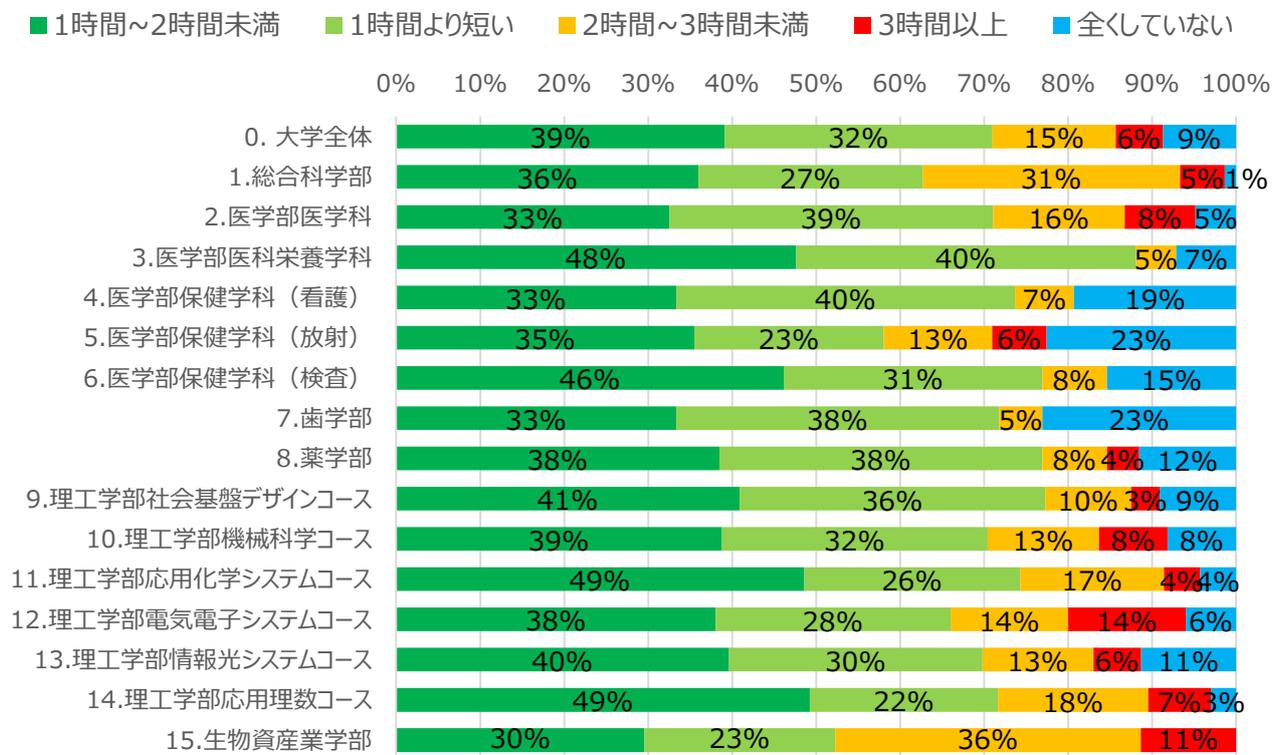


⑥SIH道場のプログラムは全体的に大学での学修において役に立っている



問 5.

1日平均するとどれくらい授業時間外に学習を行っていますか。当てはまるものを1つ選んで下さい。



<自由記述>

問 6. SIH 道場のプログラムについて、大学での学修を始める上で役に立った点と改善点があればお書き下さい。

①役立った点

【総合科学部】

- レポートや論文の基本的な書き方を理解し、それを生かして、レポート等を書くことができた。
- レポートの書き方がわかった。
- 大学生としての心構え。
- レポートの書き方が分かったのが良かった。
- 変わる生活環境にスムーズに慣れていくことができた点。引用の仕方を分かるまで教えてくれた点。
- 大学では、初対面の人とグループ活動を行うこともあるので、知らない学生とグループワークを行う機会があった点はよかった。
- レポートの書き方講座。
- 自分で疑問点や課題を見つけて慣れる習慣がついた点。
- レポートの書き方や大学で学ぶ意味を覚えてくれたので、これから大学生生活を送るうえでそれらを意識することができるようになったことだと思います。なんの目標もなく大学に来てしまった人にとっても目標を見つけようという意識を高めるきっかけになったのではないのでしょうか。
- レポートの書き方を学ぶことができた点。
- レポートの書き方を教えてくださったのは大変助かりました。さらに、山口先生の書籍を読んでレポートの達人になれるように頑張ります。
- 速足してくれてくれたおかげでいろんな人と仲良くなれた。
- レポートの書き方を知れたこと。
- 論文の書き方。
- あいつば教授の話から歴史、日本と外国との関係を改めて深く知ることができた。
- 友人を作れた。
- レポートの書き方。
- 戦争に対する見方が一面的ではなくなかった。
- レポートが毎週あるため、レポートを書くことに慣れることができた点。
- レポートの書き方が分かった。
- レポートの書き方。
- 友達をつくる。
- 徳島大学での授業の受け方がわかった。
- レポートを書く上でインターネットとの付き合い方が分かった。
- レポートを書く際に役立った。
- レポートの書き方のこと、自身で考えること。
- アクティブラーニングについて学べたこと。
- 大学の仕組みがよくわかった。
- レポートの書き方がわかった。
- 今まで曖昧だった、引用の仕方が明確にわかった。
- 大学の授業を受ける心構えを作ることができた。
- アイスパレイク。
- 大学で学習するに至って取るべき姿勢がわかった点。
- レポートの書き方がとても役に立ちました。
- レポートの書き方を理解することができて良かった。大学での学びの根本的な意味がわかった。
- レポートの書き方。
- レポートの書き方がわかった。
- レポートの書き方と、多面的に考える力が身に付いた点。

- レポートの書き方、多面的な考え方。
- レポートを書く上で文章構成や情報の集め方が分からず、論理的で説得力のある文章が書けなかったのですが、SIH 道場のプログラムを受けることで具体的にどのようにな文章を書くべきか、どこから情報を集めてくるかなどが分かったのがとても良かったです。これからの大学生活に大いに役立てていきたいと思えます。
- もつと分かりやすくすすべるべき。
- レポートの書き方や引用の仕方。
- レポートの書き方や学術的な考え方を教わったこと。
- レポートの書き方、特に引用の仕方を学べたので他の授業でのレポートでのごく役立つ。
- レポートを書く時の注意点についてわかった点。
- レポートの書き方がわかった。
- 資料の見つけ方、客観的な文章の書き方。
- 高校と大学の学習の違い。
- 人の話を聞く力の養成。
- レポートの書き方。
- レポートの書き方多様な視点を持つことの大切さ。
- 総合科学入門講座で、「そのまま使えば『コピペ』でもちゃんと出典を書けば『引用』という表現がわかりやすかった点。(わかりやすい表現は頭に入ってきたから。)
- レポートの書き方。
- レポートの書き方を、しっかりと教えてもらったこと
- 論文の書き方を知ることが出来た点。
- レポートの書き方が分かった点。
- 正しい引用の仕方を学べた。
- レポートの書き方を教わったのはとても良かった。ほかの授業でも使うことができる。
- レポートの書き方がわかった。
- 大学についてよくわかった。
- レポートの書き方、論理的な考え方、民主主義の重要さ。
- レポートの書き方。
- レポートの書き方がわかった。
- レポートや論文の書き方を学べた点。
- レポートの書き方。
- レポートの書き方。

【医学部医学科】

- 意見をまとめていく方法。
- 他学科の人と交流ができた。
- 司会のやり方を再確認できた。
- 自ら主体的に考える姿勢が身についた。
- 早期体験実習は興味を深める上でとても役に立ち、勉強の意欲も増しとても良かった。
- 他学科との交流ができた点。
- チーム医療のことがわかってきた。
- 興味を持てた。
- みんなと協力してワークショップをすることが出来た。上手なプレゼンテーションのやり方を身につけることができた。
- 他学部と関わられた。
- グループワークのやり方としてKJ法を知ることができた。
- 大学病院の中で2つの研修科を見ることができた点。
- 専門的なことについて！ゆっくりと考える時間が出来た。
- なぜ自分が学んでいるのか考えるようになった。
- 様々な意見を知れた。他学部の考えが知れた。
- これから知識以外にも医師に求められるものについて知ることができたと思う。

- ・他の学科の人と意見交換できて良かった。
- ・早期臨床体験実習で、実際の診療現場を見学し、今後の学習への意欲がわいた。
- ・こみゆりよくあがった。
- ・他学部との友達ができた。
- ・コミュニケーション能力の育成。
- ・人と話し合っって問題に向き合うことの重要性を理解させられた。
- ・チーム医療について考える機会ができた。
- ・ブレゼンテーション能力があった。
- ・早期臨床体験実習では医師になるという自覚を得ることができとても良かったです。
- ・これから医学科で医師を目指す上でいい体験になった。
- ・初対面の人とも話し合うこと。沢山の意見をまとめる力が身につくこと。
- ・自らが医療に携わるという自覚を再認識できた点。
- ・他学部と交流。
- ・他学部他学科の人たちとも交流することができた。
- ・他学科の人と知り合えたこと。
- ・他の学科との交流をしたい。
- ・kj法を用いた他者と意見のすり合わせの実践ができた。
- ・さまざまな考え方を学んだ。
- ・他学部の人と討論したのは非常にためになった。
- ・病院見学が良かった。
- ・他者とのコミュニケーション。
- ・様々な人と話すことができた。
- ・他者との協調性やコミュニケーション能力が鍛えられる。
- ・病院体験で学習意欲が向上されました。
- ・自分の将来の職業の見学ができて、少し具体的実感がわいた。他の学科の人たちと交流することができた。
- ・他者と協力すること。
- ・コミュニケーション力があがりました。
- ・レポートの書き方など、高校で学ばない内容を入塾して早い段階で教えてもらえた点。
- ・他学部との交流は新鮮で、いいものだと感じた。
- ・知らない人と協働で作業する点。
- ・他学部の人々の意見が聞けてよかった。
- ・他職種との連携。
- ・体験学習は将来への実感が湧きやすくてよかった。
- ・とても役に立った。
- ・あまり知らない人と交流することが出来たところが役に立った。
- ・他職種を知ることができた。
- ・初対面の人と対話をした。
- ・考える力が身についた。
- ・他学科の人たちと交流出来てよかったです。
- ・ブレゼン力が向上した。
- ・レポートの書き方が学べた。
- ・レポートの書き方を学べた。
- ・レポートの書き方を学べた。
- ・他学科の同級生と交流を深めることができた。
- ・緩和ケアについてよく学べた。
- ・普段忘れてしまいがちな自分の最終目標、自分が何のために学修をするのかということを思い出させてくれる点。
- ・人との関わり

【医学部医科栄養学科】

- ・コミュニケーション。
- ・講習会が良かったです。
- ・他学科との交流。
- ・多角的な視野をもてたこと。
- ・将来に役立つことを学べた。
- ・それぞれの学科の人の考え方が変わった。
- ・コミュニケーション能力が上がった。
- ・医療従事者として必要なものを改めて実感した。
- ・グループワーク。
- ・普段、他学科の人たちと話す機会がないので話せて楽しかった。
- ・今まで知らなかったことを知ることが出来た。
- ・他学科との交流。
- ・レポートの書き方。
- ・対話力。
- ・URLを貼ってあったおかげで事前学習しやすかった。
- ・他の学部の生徒と、医療について話すことができた。
- ・他学科の人との意見交換ができたこと。
- ・ブレゼンテーションの機会があつて今後に役立つと思った。
- ・協調性の大切さを学べた点。
- ・人のブレゼンについての評価を他人から聞いて客観的に理解することができた。
- ・大学の勉強の取り組み方。
- ・緩和ケアについて様々な人の価値観に触れ、考えることができた。
- ・ブレゼンの練習になった。
- ・早期体験学習。
- ・自分の意見を言う力。
- ・他社との協力。
- ・友達が増えた。
- ・自分のコミュニケーション。
- ・他者と話し合う力を身につけることができた。
- ・初対面の人とコミュニケーションをとるのは緊張したけど、様々な専門の人と集まって話をするチーム医療をなんとなく感じられたのがよかった。
- ・協力して話し合いを行うことができた。
- ・他学科と交流できたこと。
- ・これから必要になる最低限のスキルを身につけることが出来た点。
- ・レポートの書き方を学べたのはよかった。
- ・人と会話する力が身についた。
- ・一つの課題についてみんなで考えることで、より良いアイデアに繋がるのがわかった。
- ・他学部の人を知ることができた点。
- ・他学科と交流すること。
- ・まず意見をたくさん出して、似ているものや逆の意見などに分類するという方法が役に立った。

【医学部保健学科（看護）】

- ・他学科と話す機会を得られたこと。
- ・他学部との交流を通して、いろんな意見を聞くことができた。
- ・ブレゼンテーション。
- ・協調性が身につく。
- ・他学部と交流できた。
- ・レポートの書き方を学べた点。

- ・ 他者との会話。
- ・ 発表の練習になりました。
- ・ グループワークが面白い感じ。
- ・ レポートの書き方。
- ・ レポートの書き方。
- ・ 自分の意見を相手に伝える力が養った。
- ・ 他者との協調性や関わることの重要性を学ぶことができた。
- ・ レポートの書き方など。
- ・ レポートの書きかた。
- ・ 他学科の人との交流があった。
- ・ 減多に接する機会のない他学部と交流できた点。
- ・ 他者とコミュニケーションを上手くとれるようになった点。
- ・ 他学科の人と関わることができた。
- ・ レポートの書き方。
- ・ チーム医療の大切さを感じた。
- ・ コミュニケーション力が上がった。
- ・ 他学生との交流。
- ・ 他学科の子と仲良くなることができた。
- ・ 他学科の生徒と交流出来たこと。
- ・ 他者と協力することの楽しさを知った。
- ・ レポートの書き方。
- ・ 初対面の人と意見を話し合う力があった。
- ・ 他者と交流すること。
- ・ レポートの書き方。
- ・ レポートの正しい書き方を理解することができた。
- ・ レポートの書き方など。
- ・ 交友関係が広がること。
- ・ 他学科の人と話せたこと。
- ・ レポートの参考文献の書き方。
- ・ グループワーク。
- ・ 他学部他学科の人達と関わる機会が出来て良かったです。看護以外からの視点でも考えようとする能力が身につきました。
- ・ レポートの書き方を学んぶことができた。
- ・ 他学科の人たちとの交流が良かった。
- ・ 知らない人と話す抵抗が少なくなりました。
- ・ 他学部の人との関わりを深めることができた。
- ・ 自分の意見を前より伝えられるようになったと思う。
- ・ 多職種で情報共有ができてよかった。
- ・ 発表。
- ・ 他学部と交流できる。
- ・ 他学部の学生とのコミュニケーションや協働力を身につけられた。
- ・ 多くの人と喋れた。
- ・ 他職種との協力の大切さがわかった。
- ・ チーム医療について

【医学部保健学科（放射）】

- ・ 将来についてとても役に立った。
- ・ 友達ができた。
- ・ 専門的な分野について理解が深められた。
- ・ レポートの書き方。
- ・ 他学部の人との交流が将来のチーム医療を想像することができて役に立った。

- ・ 早期研修は病院の設備や形態について詳しく知ることができる良い機会だったと思う。
- ・ 関心が深まった。
- ・ 他者とのコミュニケーションを図ることが出来た。
- ・ いろんな学部と交流出来た。
- ・ プレゼン時のパワーポイントの作り方。
- ・ プレゼン能力の向上。
- ・ 他職種との関係の深さや、専門の大切さをした。
- ・ 他の学科の人と関わることができた点。
- ・ 専門的知識が増えた。
- ・ パワーポイントの正しい使い方を学べた。
- ・ 1年のうちから深いことを知ることが出来て良かった。
- ・ プレゼンテーション力が身についた。
- ・ レポートの書き方やプレゼンテーションの仕方。
- ・ 向上心が芽生えた。
- ・ プレゼン力。
- ・ やるきがでた。
- ・ SHH 報告会でいるんな人のプレゼンを聞く中で、他者から学ぶことや自分以外の研究室の内容を
- ・ 他学部の学科の人とコミュニケーションをとったこと。

【医学部保健学科（検査）】

- ・ プレゼンテーションを行う機会が少ないのでやり方だったりつかみはできてよかった。また、KJ 法などを用いるとグループワークをスムーズに進行でき理解しやすかったのでまた真似したいと思う。
- ・ 他学部の学科の人と交流できた。
- ・ 積極的に動くための機会が設けられた点。
- ・ 病院見学に行ったことで、自分が将来就く職業に対する興味により出てきた。
- ・ 協力して問題を解決していく点。
- ・ 他学科の人の意見を聞いた。
- ・ チームごとの発表。
- ・ 協働力。
- ・ 他学部と交流できて良かったところ。
- ・ 様々な人とコミュニケーションをとれた。
- ・ 他学部の学科の人と協力して活動したこと。

【歯学部】

- ・ 他者との交流。
- ・ 自分の専門に詳しくなれたし、面白い話ができた。
- ・ 大学がどのようなどころかわかった。
- ・ 他者と協力して学修することは少ないので、その点はとも良かったです。また、将来自分が立つであろう現場を知ることが勉強する原動力となっています。
- ・ 他者との協力という点で学べるものが多かったので役立った。
- ・ 将来のことを考えるきっかけになった。
- ・ レポートの書き方の講習は役に立った。
- ・ 交流が深めれた。
- ・ 歯学についてより関心を持った。
- ・ プレゼンテーションのコツやレポートの書き方が学べた点。
- ・ レポートの書き方などを学ぶことができた。
- ・ 積極性。
- ・ 価値観。
- ・ レポート書き方が分かった。

- ・ 協調性が身についた。
- ・ 他者とコミュニケーションをとりながら目標を達成することで、社会性や協調性も身に付いた。
- ・ レポートの書き方。
- ・ 色々な人と関われるところ。
- ・ いろいろなことが学べた。
- ・ 知らない人と協力できるようになった
- ・ 専門分野のモチベーションの維持につながった点。
- ・ 知らない同士でも、すぐに問題を取り組み始めるようになったこと。

【薬学部】

- ・ 講義とは違った形の学習ができた点。
- ・ レポートを書くのがうまくなった。
- ・ 協力。
- ・ 話し合いの進め方、プレゼンテーションの仕方について学ぶことができた。他学部の人と話し合い、刺激をもらった。
- ・ 知り合いがふえた。
- ・ 1年生のうちから社会人としての基礎的なことを学べることはありがたいとおもった。
- ・ プレゼンテーション力。
- ・ 他者と協力したり討論したりすることはこれからの学修において役に立つと思う。
- ・ 協力。
- ・ 体験談を知れること。
- ・ プレゼンテーションについての理解が深まったと思います。
- ・ 専門知識を深める点。
- ・ 説明する力 プレゼン力。
- ・ レポートの書き方がわかった。
- ・ グループワークの演習ができたので、今後に繋がった。
- ・ 専門分野への興味を増加させた点。
- ・ 初対面の人でも物怖じせずに話せるようになってきた。
- ・ コミュニケーション。
- ・ ワークショップでの他学部との交流や講演を通して専門的な医療に関する知識を深めることができたと思う。
- ・ 自分の意見を表現することができるようになった。
- ・ ほかの学部の人と話したこと。
- ・ いろいろな学部の人と交流ができる。
- ・ 早いうちに課題は解決しようという姿勢が大事だと気づいた点。
- ・ 自主性が、求められる活動が多く、簡単なことではなかったが、初対面の人と、創造する力を身に付けられた点。
- ・ 他者との協力のし方が、理解できた。
- ・ 現場での活躍を知れた点。
- ・ 少し薬剤師という職業への理解が深まった。
- ・ プレゼンテーションに慣れることができたようなプログラムで、とても良かったです。
- ・ たくさんレポートを書く練習ができたこと。
- ・ 他学部と交流でき、自分にはなかった考え方を知ることができた。
- ・ 自分で課題を見つけること。
- ・ 他学部との交流ができたことがよかった。
- ・ SH 道場の体験みたいなのが4月にあったこと。
- ・ 初対面の人と協力して様々な案を出しあって意見をまとめることによりコミュニケーション能力や協調性の向上につながった。
- ・ 他学部との交流を深めることができた。
- ・ 協調性が身についた。

- ・ たくさん。
- ・ 他の学部との交流。
- ・ いろいろな見方ができるようになった。
- ・ 他学部の人の意見も知ることができた点。
- ・ コミュニケーション能力の向上。
- ・ 友達ができた。
- ・ 人前で話すことの難しさと重要性。
- ・ レポートの書き方。
- ・ レポートの書き方を学べた。
- ・ あらゆる視点で物事を考えることができるようになりました。
- ・ プレゼンテーション、他者との協働がよりできるようになった。
- ・ 多様な意見を持つ人を尊重して1 番良い形を考えるディスカッションができたこと。
- ・ ブレインストーミングの経験ができた。
- ・ 初対面の人とのコミュニケーションの練習になった。
- ・ レポートがしんどいこと。
- ・ 学業の取り組み方について、明確な目的を示してくれたおかげで、意識的に取り組めた。時間を有効に使えた。
- ・ 高校までとは違う、大学での学びの基礎を学べました。今まで交流を持てなかった人との交流が持て、他の学部での考えの視点を知ることができました。
- ・ 他者との協力。
- ・ 他者とコミュニケーションをとったり、それによって自らの考えと他者の考えを共有することができた。また、相手の意見を取り入れることで、柔軟性や積極性が身に付いた。
- ・ 将来の自分の職業について詳しく知ることができた。自分の進路を決める際の参考になると思った。
- ・ 他学部の人と共同で学ぶ機会があった点。
- ・ 鉄は熱いうちに打てという意味の英語を学んだ。
- ・ 大学でどのように学べば良いか、方向性が分かったのも、変に気張らずに学ぶことができた。
- ・ 医療に関する問題を知ることが出来た。
- ・ 大学でどのような事をするかについての概要を知れたので良かった。
- ・ 他学部の学生の意見を知れた。
- ・ 他学部の人と交流できて良かった
- ・ 能動学習についていろいろ知ることができました
- ・ ディスカッションの力がついた
- ・ 様々な考え方があり、それを自分の中で咀嚼して自分の意見を出して、それを他社に発表した
- ・ レポートにまとめたりするという能力を養えた点。

【理工学部・社会基盤】

- ・ 幅広い知識をつけられた。
- ・ 教授とコミュニケーションが取れて楽しかった。
- ・ 自分たちで行動する力を養えた。
- ・ 社会基盤のことをさらによく知れた。
- ・ 自主的に動き学習できたので楽しかった。
- ・ 集団行動の仕方。
- ・ プレゼンの能力が上がった。
- ・ これからの勉強。
- ・ 準備が出来たし、友達もできた
- ・ 「文書・レポートの書き方」。
- ・ いろいろな分野を一気にされた。
- ・ 他者との協働で今回の発表も上手くいった。
- ・ 自分で考える発想力と自分から行動する行動力が身につきました。

- ・ 友達作れたこと。
- ・ 視野が広がった。
- ・ 他者との協力。
- ・ ほぼはじめで会った人と協力してポスターを作成することはとてもいい経験になった。
- ・ S1H道場を通じて、自分の学びたいことを知れるいいきっかけになったと思う。
- ・ 研究室配属により先に研究内容について知れてよかった。
- ・ 協力して結果を導いたこと。
- ・ 話合いの重要性を理解する点。
- ・ 協力して調べ自分の考えを発表する点。
- ・ 体験することが大切であるということ。
- ・ 発表の練習ができた。
- ・ 他者と協力が可能になるのが素晴らしいから。
- ・ 大学院生まで協力してくれるから。
- ・ 幅広い視野をみにつけることが出来た。
- ・ 人前で話す練習ができた。
- ・ チームで協力することの大切さ。
- ・ 集団で考えられるということ。
- ・ 自ら専門分野について学ぶ姿勢。
- ・ 他者との協力、交流。
- ・ 改めて建築のおもしろさがわかった点。
- ・ グループで協力して研究を行い、発表する技術を養う点。
- ・ レポートのちゃんとした書き方が分かった。
- ・ アクティブラーニングの方法を知った点。
- ・ 自分から行動する自主性。
- ・ コミュニケーション能力が上がった。
- ・ 研究、発表のやり方。
- ・ いろいろな人と仲良くなれた。
- ・ 地元の駅の現状について知れた。
- ・ 本格的に研究室に入る前に、色々知ることができたこと。
- ・ 協調性。
- ・ レポートと正しい書き方。
- ・ 協力して調べてる力発表する力文章にまとめられる力等今後役に立つことを学べた。
- ・ 他者との協力や協調性の大切さを学べた。
- ・ 興味があることについてよく知れたこと。
- ・ コミュニケーションしながら活動しやすくなった。
- ・ 研究のさわりを知れて、研究したいという強い思いが芽生えた。自分としては早く研究室に入りたいです。講義を受けるより研究していたいです。正解に辿り着くより自分を正解にする方が早いことに気づきました。
- ・ ちゃんとしたレポートの書き方やプレゼンの仕方。
- ・ 発表のしかた。
- ・ な学生同士仲良くなるきっかけになったてん。
- ・ 社会基盤を体感できた。
- ・ 大学での仕組みがわかった。
- ・ レポートの書き方。
- ・ 自分で行動し考えること。
- ・ 同じグループの人達と研究する物事を選択するとき、他の意見を聞いて面白いなと感じ、興味がわいた問題が増えたこと。
- ・ 知らない知識をたくさん吸収出来た。
- ・ これから専門的なことを学ぶ上で、必要なことに気づけたこと。

- ・ グループワークがやりやすくなった。
- ・ 他者と協力することの重要性がわかったり、プレゼンテーションの難しさがわかった。
- ・ グループでの話し合い方法・手順。
- ・ 協力しなければ調べが進まないことがわかった。
- ・ 友達ができた。
- ・ 協力してひとつの事に取り組むことの大切さと達成感を味わえた。
- ・ 協調性が少し身についた。
- ・ 専門的なことが学べたこと。
- ・ 協調性。
- ・ 体験することです分野についてよく知ることができた。
- ・ 他者との協力することの大切さを学べた。
- ・ どのような事をこのコースで学ぶことが出来るのかよく分かった。
- ・ 課題を見つけようとする力がついた。
- ・ 協力することの重要性
- ・ 友達作り。
- ・ 今まで興味を持っていたことに対してより深く知ることができた。
- ・ 特になし

【理工学部・機械科学】

- ・ プレゼンテーションを行うことで、プレゼンの効果的な方法を学べた。
- ・ なった。
- ・ メンバーとの協力。
- ・ レポートの書き方、評価の仕方が理解できた。
- ・ プレゼンテーションにおける準備の大事さを知った。もっと準備すべきだった…。
- ・ デイベントは役に立った。
- ・ レポートの書き方。
- ・ 議論する力がついた。
- ・ レポートの書き方を学習できた。
- ・ レポートの書き方の参考になった。
- ・ 他者との交流の方法。
- ・ 人前で話すことはとても学ぶものがあった。
- ・ 交流できた。
- ・ レポートの書き方などの簡単な初歩的な内容、または大学内の施設を知れた。
- ・ どうやって学修すれば良いか教えてくれたこと。
- ・ 頑張る理由ができた。
- ・ 大学の学生レベル。
- ・ 周りの学生のレベル。
- ・ 下準備の重要性を学べた。
- ・ 高校の頃以上に自主的に勉強するようになった。
- ・ デイベントする力がついた。
- ・ プレゼンについて学べた。
- ・ 他者との協力ができ、解決へ導く力が増した。
- ・ 大学での学び方がわかった。
- ・ レポートの練習になった。
- ・ レポートの書き方。
- ・ レポートのまとめ方。
- ・ 他者と協力して作業を行える点。
- ・ プレゼン能力の向上。
- ・ 他者と協力して活動出来た点。
- ・ レポートの書き方がわかった点。

- 人と話す機会。
 - 討論の仕方が学べた。
 - 大学生感が出て良かった。
 - レポートの書き方が身についた。
 - 大学で行う講義の形式がなんとなく理解できた点
 - プレゼンテーションの仕方と、共働する大切さを学ぶことができた。
 - レポートの書き方がとてもよくなった。
 - レポートの書き方が知れてよくなった。
 - レポートの書き方。
 - レポートの書き方。
 - グループワークのやり方(ディベート)。
 - ビデオがあるので何回も見直せる。
 - 積極性が培われた。
 - いろいろなことを体験できた点。
 - 基本的に良かったと思う。
 - レポートの書き方。
 - レポートの書き方を学ぶことができた。
 - ディベート。
 - 人前で話す練習になった。
 - 事前準備の大切さがわかった。
 - アクティブラーニングの必要性が理解できた。
 - ディベートチームとの、コミュニケーションを取れ、戦略を練り、発表のスキルも向上した。
 - 相手に内容を伝える大切さを学んだ。
 - データをただまとめるだけではダメであることがわかった。
 - 履修。
 - 復習は大事。
 - ディベート。
 - 他者との協力を意識するようになった。
 - レポートの書き方を習得出来た。
 - レポート、プレゼンテーション。
 - レポートの書き方がわかった。
 - 講義の形式が分かった。
 - 協調性。
 - レポート。
 - レポートの書き方。
 - ディベートのやり方。
 - 自分の意見を相手に伝える能力と相手の意見を理解し、判断する能力。
 - 特になし。
- 【理工学部・応用化学】**
- 基礎を学ぶことが出来た。
 - 徳島大学の仕組みを理解した。
 - 共同の精神。
 - 友達ができた。
 - 履修の仕方。
 - 話せる友達が増えた。
 - 今日みたいな研修は、集団行動について重要な事を学べるような気がするので、ぜひもっと増やしてほしい。
 - 協力。
 - 友達ができた。
 - 友達増える。
- 人どう付き合ったら良いかがいかがい少し分かりました。
 - レポートの書き方などを学べた。
 - 友達との親睦を深められた。
 - 学習法の指導。
 - 質問とか相談ができる友達ができ点。
 - 他者と協働する必要性を認識できた点。
 - 授業について知ることができたこと。
 - 協力してできたこと。
 - 同じコースの人達と仲良くなれた。
 - 基本的な概要。
 - レポートの書き方。
 - 文章を書く癖がついた。
 - 学校の設備が分かった。
 - 人とのコミュニケーションが役に立った。
 - よくなった。
 - メンバーと仲良くなることできた。
 - みんなと協力することの大切さを感じることができたこと。
 - 周りと協力して作業すること。
 - 同学科の友人と広く知り合うことができた。そして、お互い作業をつつがなく進められた。
 - 協働作業。
 - 大学についてわかった。
 - 友達を作る機会でもでき、親交も深められ、大学生活のスタートダッシュがきれる。
 - コミュニケーションの取れる機会が増えた。
 - 他者と協力する大切さ。
 - 行なった活動内容を振り返り文章に起こすことで、能動的な学習姿勢が身についた。
 - 大学生活についてよくなった。
 - やる気大事。
 - 共同作業を行うことの重要性。
 - いろんな人と交流をできた！
 - 地引網で友達と仲良くなった。
 - 協調性を育むことができた。
 - これからの研究などに役に立つ。
 - これからどういうことを大学で学ぶのか分かった。
 - 他者との協働。
 - 学科のメンバーとの交流が深まった。
 - 効率よく単位がとれる点。
 - 人と協力する事。
 - 他者との協力をすること。
 - 初めて話す人と行動することで新たな人間関係を生むことができた。
 - 友好を深めることができた。
 - 友達が増えた。
 - 地引網ができた。
 - 他者との触れ合いを大切にできる点は良かった。
 - 友達と協力できる。
 - 履修方法。
 - 出席確認など受講してなかったらわからなかったと思う。
 - 大学の授業のスタイルを学べた点。
 - レポートの書き方です。
 - 交流が深まった。
 - 皆さんと協力して活動する技能を身につけた。
 - 同じコースの人と仲良くなれた。単位などについて知れた

- ・ クラスメイトとより仲を深めることができた。
- ・ 友達を作ることができた。
- ・ 大学の細かい仕組み(単位や授業についてなど)についてを学べたので、これからどうがんばっていくか目標を立てることができた。また学校のことだけでなく、詐欺や健康のことなども知れてよかった。
- ・ 特になし。

【理工学部・電気電子】

- ・ プレゼンの仕方を学んだ。
- ・ プログラムを進める上で協力が大事だと感じた。
- ・ グループで共同作業することで自覚をもって作業できた。
- ・ 研究内容を知ること、コースの選択の参考になった。
- ・ プレゼンの仕方。
- ・ プレゼンテーションの作り方。
- ・ グループワークをするにあたっての必要なことを学べた。
- ・ プレゼンテーションの作り方を学べた。協調性も高めることができた。
- ・ 大学の研究室の様子が少しわかって、とても興味が湧いた。
- ・ 研究室がどんなところか知れるところ。
- ・ レポートの書き方やプレゼンテーションについて、高校までではやらなかったのでやり方を理解することができたと思う。
- ・ プレゼン能力と班員との協調性。
- ・ プレゼンの準備と発表を経験できた。
- ・ プレゼンテーション。
- ・ 自分から行動する大切さを学んだ。
- ・ 最先端の研究を今知れたこと。
- ・ いきなり大学っぽい活動ができて 今後どのような活動を行っていくのか少し分かった。
- ・ グループ学習。
- ・ プレゼン力。
- ・ プレゼン力の向上に役に立った。
- ・ 専門分野にいち早く触れることが出来た。
- ・ 班のメンバーと協力することの大切さを学びました。
- ・ 将来研究室を決める上で参考になった。また、発表などの仕方についても分かった。
- ・ 研究室見学はとても良かった。
- ・ 研究内容が明確で、自分の知識が増えた。
- ・ プレゼンテーションの作成や班の人とコミュニケーションをとることを学んだ。
- ・ 履修科目の選択。
- ・ 役に立った点 履修科目。
- ・ グループを中心にしたことが役に立った。
- ・ 専門科目の先取りが出来た。
- ・ 他者と協力して働くことの留意点を理解した。
- ・ プレゼンのイメージができた。
- ・ プレゼン力と協働力が身に付いた。
- ・ 仲間とのコミュニケーション能力。
- ・ プレゼンのコツを学べた。
- ・ 自分の考えと研究内容を短くまとめる力が身に付いた。
- ・ プレゼンテーションのやり方がわかった。
- ・ どの教授がどのような実験をしているかがよく分かり今後の参考になった。
- ・ 心構えの改善。
- ・ 協働性。
- ・ わからないことがあっても自分で調べ、自分から知識を増やすことができた。
- ・ コミュニケーション能力を身に付ける機会を得られた。

- ・ どんな研究が行われているのかわかった。
- ・ 特になし。

【理工学部・情報光】

- ・ プレゼンテーションをやった事は役に立った
- ・ コミュニケーション力を高めれた。
- ・ みんなで協力する力がつきました。
- ・ プレゼン。
- ・ プレゼンの作り方。
- ・ 自らスライドを作成してプレゼンテーションを行うのは初めてだったので良い経験ができた
- ・ アクティブラーニングについて学ぶことができた。
- ・ プレゼンが上手くなった。
- ・ プレゼンテーションの上手なやり方や他人と協力すること。
- ・ プレゼンの方法やグループの討論について理解できた。
- ・ 解らないことを自分で調べること。他人と協力すること。
- ・ レポートの書き方と口頭発表の仕方を学べた。
- ・ グループワークの練習が出来た。
- ・ スライド作成。
- ・ 高校でやった研究発表。
- ・ グループワークができた。
- ・ レポートやパワーポイントを作るポイントが分かった。
- ・ 協働力とプレゼンのやり方を学べた点が良かったです。
- ・ 話し合いの方法。
- ・ 文章を書く力は以前より向上した。それに伴って、文章を読み解く力もついたように思う。
- ・ 基礎的なことを学べた。
- ・ 人前に立つという経験をした。
- ・ プレゼンの仕方。
- ・ レポートの書き方。
- ・ 友達と言える人ができた。
- ・ 徳島について知ることができた点。
- ・ レポートやプレゼンの方法。
- ・ プレゼンの重要性を理解できた。
- ・ レポートの書き方。
- ・ プレゼンテーションのスライドをつくる上で協働力の重要性を感じました。
- ・ プレゼンの仕方などが役立った。
- ・ プレゼンの仕方を学べた。
- ・ プレゼンに慣れた。
- ・ プレゼンテーションの構成の仕方と進め方を学ぶことができた。
- ・ 発表しやすくなった。
- ・ 発表の方法が具体的にわかった点。
- ・ プレゼンの練習が出来たのは役に立った。
- ・ レポートの書き方やプレゼンのやり方。
- ・ プレゼンのやり方がわかった。
- ・ レポート書き方について最初に学べたのでレポートを書く際にとっても役立った。
- ・ レポート、発表の基本が理解できた。
- ・ レポートの書き方。
- ・ レポートの書き方を学べた。
- ・ どういうことを注意すればいいかが明確化されたので良かった。
- ・ 参考文献の書き方。
- ・ グループワークによって課題に対する個々の意見を言う経験が今後の役に立ちそうだと思う。
- ・ レポートの書き方が全く分からない状態だったので少し役に立った気がします。プレゼンに関

しても十分な時間を与えていただったので課題についてじっくり考えることができ役立ちました。

- ・ 授業で発表する機会があったが、プレゼンテーションのレクチャーで覚えた視察の送り方などが役に立った。
- ・ 課題を発見する力があった。
- ・ 協働力の大切さを知れたことが良かった。
- ・ プレゼンテーションを経験していなかったもので、それが実行できたことが良かった。
- ・ メモの取り方を学べた。
- ・ プレゼンのポイントが理解できた。
- ・ 発表のやり方がわかった。
- ・ 人に説明したりする力があった。
- ・ スピーチをする能力が身についた。
- ・ レポートの書き方やプレゼンテーションの作り方を学び、実践したことが役に立った。
- ・ プレゼン資料の作り方やプレゼンの仕方。
- ・ 大学の授業の雰囲気があった。
- ・ 協働作業がしやすくなった。
- ・ プレゼン力と共同力の向上。
- ・ 発表など学校でする授業とは違う方面での知識を手に入れることができた事。
- ・ 仲良くできた。
- ・ 論文やレポートの書き方。
- ・ 周りと協力するという点。
- ・ 授業の必要性が理解できた。
- ・ レポートの書き方、ポスターを使っているの発表。
- ・ 他の人と協力して発表することを早めに大学で体験できた点。
- ・ 協力し合う点。
- ・ 論文の書き方。
- ・ 目標までの順序だてで勉強するのがスムーズになった。
- ・ プレゼンの仕方の基礎が学べた点。
- ・ 協同力をよりつけることができた。
- ・ 他者とのコミュニケーション能力。
- ・ コミュニケーション力。
- ・ KJ法やブレインストーミング。
- ・ 協働力。
- ・ 自身のコースでどのような研究を行うか、早めにわかかってよかった。
- ・ 時間のない中でどのようにまとめるかを学んだ。
- ・ 話し合えると友達ができた。
- ・ 人に考えを伝えることが大事なことが分かったのでその点が役立った。
- ・ プレゼンテーションの仕方を教えてもらったことが役に立ちました。
- ・ KJ法やブレインストーミングなどは、物事を決めるときにより手段と知り、活用できるようになった。
- ・ 特になし。

【理工学部・応用理数】

- ・ 教授との出会い。
- ・ 自分で勉強するより楽しく学べた。
- ・ 先生のアポの取り方。
- ・ プレゼンテーションのやり方、協働の大切さ。
- ・ 様々な研究室に行けて良かった。プレゼンの練習ができて良かった。
- ・ 将来の目標について考えるきっかけとなった。
- ・ 様々な分野に触れられた。
- ・ グループワークをするときの注意。

- ・ 研究室について少し学べた。
- ・ プレゼンテーション。
- ・ レポートの作成方法が分かった。メールが送れるようになった。
- ・ 協働力。
- ・ グループ活動の重要性を理解した。
- ・ 進路を考える上で役に立った。
- ・ いろんな研究があるが知ってよかった。
- ・ 宇宙物理。
- ・ プレゼンの難しさ。
- ・ 人前で発表する練習として役立った。
- ・ 聞き手にわかりやすく使えるために資料の作成や発表の仕方を工夫した。

【生物資源産業界学部】

- ・ 企自分でプログラムを選びたい。
- ・ 現状を知れた。
- ・ 徳島を知れた。
- ・ 徳島の文化を知ることができ、より好きになった。
- ・ どういった授業が行われるかがわかった。
- ・ レポートの書き方。
- ・ レポートの書き方を学べたこと。
- ・ 色々なことに興味を持つこと。
- ・ プレゼンやグループワークの基礎。
- ・ 自主的に考えて取り組む力がついた。
- ・ レポートの書き方が作文と違うことがわかった。
- ・ レポートのまとめ方や作成の過程を知ることができ、授業でのレポート作成に役に立った。
- ・ 人脈作りに役立った。
- ・ レポートの書き方。
- ・ 興味関心が以前よりも増した。
- ・ 他者の意見を聞き取り、それをまとめた発表をしたことは、講義の中でグループワークをするときに役立っている。
- ・ 大学での学修する意義を学べた。
- ・ SIH道場を終えた後に個人やグループでプレゼンをする点はよかったと思う。
- ・ 歴史などに触れることができてよかったと思う。
- ・ 生物資源産業界学部で学ぶ意欲が高まった。
- ・ 興味の幅が広がった点。
- ・ 自主性。
- ・ 興味が深まった。
- ・ 他者と協力することの大切さを学べた点。
- ・ レポートの書き方がとても役に立っている。
- ・ レポートの書き方等を知ることができた。
- ・ 文章力の向上に繋がった。
- ・ 協力して課題に取り組む姿勢。
- ・ プレゼンの制作にあたり知識が深まった点。
- ・ 農学を学ぶ者として、生物生産について学習できてよかった。
- ・ レポートの書き方。
- ・ レポートの書き方がわかった点。

②改善点

【総合科学部】

- ・ グループで課題について調べ、発表する機会がもう少しあればよかった。

- ・ プレゼンテーションの仕方を教えて貰った気がしないのもっと教えて欲しかった。
- ・ もっと、グループ活動をやる機会があればいいのではないかな。
- ・ 家が大学から遠いので、朝早くから夕方まで講義があったことが辛かった。
- ・ 話が長い点。
- ・ 入学式の前から学校に来なければならぬのは疲れました。入学後に一気にやるというパターンを経験してないのでどちらがいいとは言えませんが、まだ入学していない段階から授業を受けたいのは精神的な消耗が激しかったです。
- ・ 何の例もなく初回からレポートを書かされて困った。
- ・ 大学開始前に集められてきた時間の時間拘束を受けたのは少し辛かった。特にやけやホキホールで受けた分は身体がかなりきつかったもので改善して頂けるとありがたいです。
- ・ スケジュールが過密でしんどかった。
- ・ 社会的な視点で物事を見ることを体験できたこと。
- ・ もっと学生が活動できる授業を受ける。
- ・ 選挙に行くことの大切さを学んだ。
- ・ レジュメを出してくれるという良かったが、出されないことが多い点。
- ・ 授業後のレポート、それへの振り返り、コメント。
- ・ 入学式前から予定が詰め詰めだったので体力的に厳しかった。
- ・ ビデオバトルなどの実践的な授業では、事前に準備すべきことをもっと早く示してほしい。
- ・ プレゼンの仕方がわかりにくかった。
- ・ STH 道場はその一週間だけで終わらせるのではなくわけてやるべき。
- ・ 入学式前のオリエンテーションが長く疲れた。
- ・ 大学生活を充実したものにしてようと思えた。
- ・ プレゼンテーションのポイントなどをもっと教えて欲しい。
- ・ 入学式前の講義は総合科学部の趣旨とずれているものがあるように感じた。より一貫した講義をしてほしい。
- ・ 取り上げられるテーマのバリエーションが少い。
- ・ 情報リテラシーを特とうと思うことが出来て良かった。
- ・ もう少し少なくしてほしい。
- ・ 根拠のある意見がいかにも大切か。
- ・ 時々先生が熱弁しすぎて、話が授業内容から外れている。
- ・ 詰め込まれすぎて忙しかった。
- ・ グループワークがほとんどなかった点。
- ・ 授業内で学生たちが話し合う機会がありますが、もう少しあってもいいのではないかなと思います。
- ・ 空き時間の使い方を学べた。
- ・ 時間押しすぎです。
- ・ 入学式前の STH 道場が朝早くで大変なので、やはり前期の入門講座内に回した方がよいと思う。
- ・ 先生間で意見の違いがあったりしたので、そういうのは授業前や後に解決してほしいです。
- ・ 授業で各学問分野のおすすめの入門書を教えてくれる時間があるのもっと良い！
- ・ 期間が短いわりに情報量が多く付いて行くのに苦労した。
- ・ 長時間の拘束により、身体的不自由さを味わう。
- ・ 下宿生にとっては入学式前に集められるのは苦しかった。3月31日に部屋に入れて、翌日から集められたのって、引越しの片付けや手続きが終わらないまま授業が始まってしまっただけだった。
- ・ 1時間半聞くばかりの授業は正直きついときも多かった。
- ・ 講義形式であるが故に、一方的な授業になってしまいがち。
- ・ manaba で授業コメントから先生のコメントが上がるまでには時間がかかるため、授業コメントの内容が授業で取り上げられたこととかけ離れている場合、理解が遅れるから。）
- ・ 時間が長い。
- ・ プレゼンテーションについての授業がなかったこと。

- ・ 政治や外交問題について、もう少し基礎知識を補って、わかりやすく話してほしいかった。
- ・ 時間内に授業が終わらないことがしばしばあった点。
- ・ ずっと話を聞くことが多かったので、活動を増やしてもいいと思う。
- ・ 専門分野に対する興味・関心は高まらなかった。
- ・ 長い。
- ・ もう少し自分たちの活動の機会があればなと思います。
- ・ 初めから進むのが少し早かった。
- ・ 課題の内容が書きにくい点。
- ・ もっと多くの教授に参加して欲しかった。
- ・ 特になし。

【医学部医学科】

- ・ もっと機会を増やしてほしい。
- ・ 蔵本キャンパスの学生と関わりたいと思う。
- ・ 何を重点的に学ぶべきかわかった。
- ・ もう少し臨床体験実習を増やしてほしい。
- ・ 時間が長すぎる。
- ・ 病院見学において、見学する2つの診療科の内、内科系と外科系の両方に行くことを事前に言うて欲しかった。
- ・ STH 関連の連絡を manaba 経由でするのが効率的な気がする。
- ・ もう少し考える時間が欲しかった。
- ・ 班ごとに差がある。
- ・ 議論する内容をもっと具体的にしてほしいと思う。
- ・ 事前学習は読むだけでなく実際に取り組めるようなものが良いのではと思った。
- ・ 眠くなる時があった。
- ・ もう少しワークシヨップなどを増やして欲しい。
- ・ チュエーターによるサポートがもう少しあってほしいと感じた。
- ・ 回数を増やす。
- ・ 事前学習が分かりづらかった。
- ・ 早期臨床体験実習をもう少し増やして欲しい。
- ・ 人数配分。
- ・ 課題がいつも似ているので、もう少し違うものがあるのも良いかと思う。
- ・ タイムスケジュール。
- ・ チーム分けがいつも同じような人と同じになるのでそこを改善して欲しい。
- ・ やらされている感が強く、今後為になると思えない。
- ・ もっと他の学科とのワークシヨップを増やすべき。
- ・ 評定の基準がよく分からなかった。
- ・ もっと発表の機会増やしたい。
- ・ 他のやつはやらなくても良かったと思う。
- ・ 病院見学をした際に知識が不足しすぎてよくわからないことが多かったのもう少し学習が進んでから行きたかった。
- ・ 自身のアクティブラーニングへの取り組み方。
- ・ 初対面の人たちとワークシヨップをする際に自己紹介の時間もほしい。専門性が無い
- ・ め、抽象的なことしか書けなかった。
- ・ 拘束時間が少し長い。
- ・ 早期臨床体験実習において、訪問する科によってかかった時間や体験の内容に大きくばらつきがあった点。
- ・ バリエーションがない。一辺倒の学習なので学びは一切ない。
- ・ 回数を多くすべきだと思う。
- ・ このような機会をもっと増やすべきだと思う。
- ・ 今回の司会者を選ぶ方式を取るならば、リーダーは予め決めたいと思う。

- ・非常に役に立った。
- ・アイズブレイク的なことをもってして欲しい。
- ・コミュニケーション能力が分かった。
- ・流れがイマイチわからなかった。先生によって仕方が違う。先生が流れをりかいしていない。
- ・自主的な活動が難しかった。
- ・毎回のレポートの量が多い点
- ・他学科と意見交換できた。
- ・もっと生かせるようにしたかった

【医学部医学科栄養学科】

- ・テーマ。
- ・テーマで考えるのはとても良かったです。
- ・テーマが抽象的。
- ・あまりおもしろくない。
- ・自分の意見をもっと言えるようにしたい。
- ・仲間の意見をまとめる力が得られた。
- ・みんなと話し合い、自分も頑張ろうと思えた。
- ・長い。
- ・基礎知識の説明がもう少し欲しい。
- ・もう少し多くの班で共有した方がいいかなと思った。
- ・レポートの書き方をもっと詳しく知りたい。
- ・医療従事者になる身として必要なことを学んだ。
- ・医療についての理解。
- ・もっと他学科との交流を増やすべき。
- ・もっと最初から仲良くなる時間ほしい。
- ・同じ学科の人が1人はいって欲しい。
- ・もっと知識をつけてから行うべきだったと思う。
- ・体調不良で休んだら、レポートを提出しないといけない点。
- ・プレゼンテーションを学ぶ機会はなかったと思う。
- ・もっと積極的に、グループでの話し合いに参加できれば良かった。
- ・話し合いの時間が少なかった

【医学部保健学科（看護）】

- ・公演を聞けたこと。
- ・もう少し授業回数が多い方がいい。
- ・時間。
- ・もう少し楽しいことがしたい。
- ・講義があったり無かったりするのがわかりづらい。
- ・時期の設定。
- ・レポートの書き方がわかりました。
- ・他者の意見をいろんな方面の立場の人から聞くことができた。
- ・保健学科はとくに大変なイメージであった。他の学科のように、みんなが仲良くなれるような才
- ・リエンテーションがしたかった。
- ・まとめる時間が少ない。
- ・もっと話しやすい内容がいい。
- ・次はもっと積極的に話し合いたい。
- ・夏休みなど長期休みには開催して欲しい。
- ・雰囲気。
- ・講義が長い。
- ・時間が長い。

- ・相手に意見を上手く伝えられるようになった。
- ・ワークショップ以外にも他学科との交流があればいいと思う。
- ・コミュニケーション能力。
- ・プレゼンテーションの仕方。
- ・他学部の人との関わりを増やして欲しい。
- ・時期を見直して欲しい。
- ・部屋のエアコンが寒すぎる。ありえん。
- ・仲良くするためのレクリエーションとかしたほうがいいと思う
- ・もっと知識をつけてからやりたい。
- ・初対面の人とはコミュニケーションがとりにくく、ディスカッションがしにくい。
- ・グループの中にはいない学部がいて、関わる事ができなかった。
- ・もう少し話し合いの時間が欲しいかなと感じた。
- ・単発のグループだったが、何回かは継続して活動できるグループ活動もいいと思う。
- ・学ぶことが明確にする。
- ・機会が少ない。時間は短くていいので回数を増やして欲しい。
- ・ほとんどの学生とは初対面だから、簡単なゲームを試してみる。
- ・講義が少し長かった。
- ・授業を変なところに入れてほしい。後半謎の空きコマができてめんどうさかった
- ・学生主体にする
- ・強制ではなく選択できる方がいい。大学なのだから。

【医学部保健学科（放射）】

- ・長すぎる。
- ・回数が少ないので十分な交流が図れない。
- ・もう少し長期的なワークショップを行ってみても良いと思う。
- ・もっとこのような場を設けて欲しい。
- ・時間が長すぎる。
- ・指示が少ない。
- ・もっと他学科と接する機会を増やしたほうがいいと思った。
- ・入学式の前からSIHの授業があったのは良くなかった。
- ・何時間かかけて行きたい。
- ・それぞれがもう少し専門知識を持った上で他学科が集まるともう少し違った意見が出ると思います。
- ・もう少し充実させて欲しい。
- ・パワーポイントのスライドを作るとき工夫やポイントについて詳しく教えてくださっていたので、これからの大学生活の中で、是非生かしていこうと思った。

【医学部保健学科（検査）】

- ・レポート提出等の情報の詳細が分かりづらい点。
- ・見学だけでなく、体験もできるプログラムがあったらなお良かった。
- ・もう少し少ない人数でやった方が、一人一人が自分のこととして多く学べる。
- ・もっと回数を増やす。
- ・発言をもっとすること。

【歯学部】

- ・学生だけで考えるのは限界がある。
- ・大学全体の学習により役立つ方がいい。
- ・目的がわかりにくい点。
- ・なんの目的でやっているのかわからない時があったので、どういう目的でやっているのか毎回教えて欲しい。

- ・ 講義形式の授業を減らして、アクティブラーニング的な授業を増やして欲しい。
- ・ もっと簡潔に話できる人を呼んでほしい。
- ・ もう少し講義で学んだことを実践で身につけられるようなプログラムになればいいなと思います。
- ・ 意見をまとめる力。
- ・ 歯磨き。
- ・ みんなの前でプレゼンする力の習得。
- ・ 時間が短い点。
- ・ もっとチームの人数を増やしてほしい。
- ・ 感想を書く課題の量が多すぎる点。
- ・ いまいち、毎回の課題の意図が分からなかった。

【薬学部】

- ・ 講義とは違った形の学習ができた点。
- ・ つまらん。
- ・ もっと専門的なことがしたい。
- ・ プレゼンの仕方や準備についてもっと教えてほしい。
- ・ つまらん。
- ・ もっと考えさせる課題があるといいと思う。
- ・ 不必要なレポート。
- ・ 時間の調整。
- ・ コミュニケーション。
- ・ する日が良くない。
- ・ 事前学習として動画を視聴、とあったがそのページまでたどり着けなかった。もっと分かりやすくしてほしい。
- ・ 大量。
- ・ ある程度の専門知識が備わっていない点。
- ・ 他学部の方と共同作業をすることによって、コミュニケーションの必要性をしることができた。
- ・ もっと交流して、ディスカッションする時間が欲しかった。
- ・ 役割分担がなかなか決められなかったりしたので、予めグループ分けの時点で決められていた方がスムーズだと思う。
- ・ 学期中にやっていた。
- ・ 現場ではいろいろな職種の人と関わっていくのもう少し他学部の人と活動をする機会があればいいと思う。
- ・ 開催日を変えてほしい。
- ・ チーム医療の大事さについて役立った
- ・ 目的が曖昧。
- ・ 夏休み最終日に集合は面倒。
- ・ 積極性。
- ・ 緩和ケア実現の上で医療人に求められることとはという課題が難しかった。
- ・ 役に立っているのかわからない。
- ・ 目的がよくわからなかった。
- ・ 協調やプレゼンテーション力を養うには、活動が少なかつたように思う。もう少し増やせば、慣れてそういった能力を身に付けることができると思う。
- ・ 大人数の講義では、意識が分散し集中を欠くことが多いです。質疑応答を求めるのでなければ、テレビやスライドで少人数ずつでの講義の方が良いのではないかと思います。今回の講義もそうでしたが、寝てもいいとおっしゃられていたのが、スライドが選ければ見えにくく理解しづらいことも多分にあると思います。他の講義では自らで席を選ぶ形式であることが多いため支障をきたすようなことはないと思いますが、事前に席が決められているため、個々人の事情、例えば、眼鏡をかけているんだとか、コンタクトレンズにしているんだとか、耳の聞こえが良

- ・ くないだとかを無視してしまっているように思いました。
- ・ 何を目標しているのかわからない。
- ・ S1D道場の活動をする機会が少ないので、より時間を設けて活動することで、有意義なものになる。と考える。
- ・ 全体的に授業の時間が長い。もう少し短く時間をとってほしい。
- ・ 授業が入るタイミミングがよくわからない。
- ・ いまいちレポートの書き方が分からない。
- ・ レポート課題を、ネット提出にしてほしい
- ・ 目的がよくわからないです。
- ・ 前期の最初の授業の割には、ほかの大学の授業と比べても長いのでしんどく思うところがあった点。

【理工学部・社会基盤】

- ・ 時間が短い。前期後期通してやったらいいと思う。
- ・ もう少し期間が長いほうがよかった。
- ・ みんなと一緒に協力する力が良くなった。
- ・ 無駄な時間がすこしおおい。
- ・ 文章、レポートの書き方にはまだ自信が持てない。
- ・ 牟岐は田舎すぎたのもう少し便利なお店があった。
- ・ 自主的な学習。
- ・ 正直、測量方法の実習よりは、建設現場の見学や企業訪問の方がわくわくしたと思う。
- ・ ポスターの場所に明かりがなく暗くて見えないところがあった。もう少し場所の配慮をお願いしたいです。
- ・ 発表の時期。
- ・ 発表時間が短い。
- ・ もう少し学生の自主性を尊重する必要がある。
- ・ 僕達のグループの発表の位置が見づらく不公平だった。
- ・ 無駄な講義の時間、説明が多い。教員の怠慢が見られる。
- ・ 先生たちも協力してくれいい機会になった。
- ・ 班の発表が、全体の半分しか見ることができなかったのが少し残念。
- ・ 他人との話を詰めるような仲立ちをして欲しい。
- ・ 期間をもっと長くしてほしい。
- ・ もう少し大きい規模でもやってみたい。
- ・ 自分で行動できない場面があるところ。
- ・ 予襲復讐をもっと充実させる。
- ・ もっと見せる紙のレイアウトとか綺麗さを向上したい。
- ・ ラストの発表の部屋が暑すぎた。
- ・ 発表の時期を変えて欲しい。
- ・ もっとわかりやすく。
- ・ 発表の時の部屋の温度が違いすぎた自分たちは暑すぎた。
- ・ 自分たちのグループのポスターを貼る場所が暗かったこと。
- ・ 新たに手に入れた知識をもう一度学ぶまでに時間があるので、抜けてしまいかもいけないこと。
- ・ もっと時間を用意する。
- ・ 牟岐少年自然の家でなく淡路島にしてほしい。
- ・ 積極的に関わること。
- ・ 準備は万端にする必要がある。
- ・ 入学してすぐの日程だったので忙しく感じた点。
- ・ もう少し自主性が高いと思う。
- ・ 少し期間が短かった。
- ・ もう少しまわりの人と話せるようになつてからよかったです。
- ・ 楽しくする。

- ・ コミュニケーション不足。
- ・ コミュニケーション不足。
- ・ 特になし。

【理工学部・機械科学】

- ・ 大学の教授の方々ほどのように資料を集めるのを知りたかった。
- ・ たった1回だけでは効果が薄い。
- ・ デイレポートを行うのであればもう少し班員と情報共有する時間が事前に欲しかった。また、根拠を示す資料を調べたりする時間があまりに少なかつたのではないかと思う。
- ・ 特に無いが、強いて言うなら土曜日の授業は正直テンションが下がる。
- ・ 準備期間が少し短かつた。
- ・ 交流の範囲が狭い。
- ・ あまり回数が行われていない。
- ・ もっと準備する時間の方がいい。
- ・ 話し合いの時間を増やした方が良い。
- ・ 実際のところディスカッションと話を聞くのみであったし、一日しか初年次教育はしなかつたため、ためになるのもあったがほとんど身についていないもしくは、覚えてないのも事実。何日かに分けて行うことで学んだことを定着できるのではないかと思う。
- ・ より詳しく実例をもとに説明してほしい。
- ・ 目的がきちんと理解できていないかつた。
- ・ 忙しい時期に行われる為、調べる内容をもっと具体的に解を出しやすい内容にすること。
- ・ もっと期間が欲しい。
- ・ 予習。
- ・ デイレポートのテーマの偏り。
- ・ 専門的なことをあまりしない学部もある点。
- ・ 機械に関する実習をしてみたい点。
- ・ 座学が多い。
- ・ 目的が明確に周知されていない。
- ・ 回数が少なすぎる。
- ・ 自分で調べる時間がもう少しあればよかった。
- ・ 具体的でない部分があつた。
- ・ レポートの書き方。
- ・ 1日に詰め込みすぎ。
- ・ 授業回数が少ない。
- ・ 基本的に良かったと思う。
- ・ 授業が少ない。
- ・ 時間が長い。
- ・ 時間を短くして。
- ・ 名札ケースの回収するのを忘れていた部屋があつた。
- ・ もう少し継続的に行く方がいいと思う。
- ・ デイレポートを行ったが、各班で議題の検討を行う時間が無さすぎる。もっと前もって連絡し、より深い検討を学生に促すべきだと思う。
- ・ 交流できる人の範囲が狭い。
- ・ どれくらいデイレポートの準備をしたかかなりチーム差がでてしまう
- ・ 協力して解決すると効率が良かった。
- ・ 同じ話を3,4回聞いたこと。
- ・ 効果的な授業メモの取り方とか。
- ・ コミュニケーションが大事なのが分かつた。
- ・ もう少し大学生活に慣れてからする。
- ・ プレゼンのテーマを自分達でも決められるようになれたらいいと思った。

- ・ 特になし。

【理工学部・応用化学】

- ・ どのよりに受ければいいのか理解した。
- ・ 周りとの交流を増やして欲しい。
- ・ もっと研修の回数を増やす。
- ・ もっと他の人と交流をできるようにする。
- ・ 話してない人もいるから全員と話してみたい。
- ・ 授業について知ることができたこと。
- ・ さびびり動けなかつた。
- ・ もっと色々なことをしたい。
- ・ もうほとんど覚えてない。
- ・ 時間が長い。
- ・ プレゼンとかレポートについての話が無かつた。
- ・ もっとわかりやすくしてほしい。
- ・ 細すぎる。
- ・ レポートの書き方やプレゼンテーションのやり方が少し理解できた。
- ・ 学んだことがあまりない。
- ・ 事前に自由時間がどの程度あり、昨年度の先輩方は何をしていたのかなど、説明があればよい。
- ・ もっとコミュニケーション力をつけたい。
- ・ レポートの書き方などの説明がもっと欲しかった。
- ・ もう少し時間を長くすること。
- ・ 人とのコミュニケーション力。
- ・ 研修で大塚製菓などに行きたかつた。
- ・ 協調性。
- ・ 目的を明確に。
- ・ 水に入るなる着替えを持ってくるように連絡した方がよい。
- ・ もう少し日程をとって、比較的時間の余裕が欲しかった。
- ・ 土曜日だけ。
- ・ 改善する点はないと思います。
- ・ 研修の日程を伝えるのが遅かつた点。
- ・ もっと先生とお話してきける機会を設けてほしかった
- ・ 地引き網が一瞬すぎた。
- ・ もっと協力するものがあったも良いと思つた。
- ・ 自由時間が多すぎる。
- ・ もう少し詳しく教えてほしいかつた。
- ・ 履修登録についてもう少し説明が欲しかった点。
- ・ 日程の公表が遅かつた。
- ・ 先生はもっとゲームや活動を行なって皆さんの絆を深めた方がいい
- ・ 体験学習で必要な持ち物を示しておく。
- ・ グループワークの追加。
- ・ コース別ではなく、学部全体で行つた単位についての説明が難しかつた。
- ・ 特になし。

【理工学部・電気電子】

- ・ 協力的でコミュニケーション力について学べたと感じた。
- ・ 最後の発表で質問に上手く答えられなかつたのでそこが改善点。
- ・ あまり全員が質問時間が無くて、時間を合わせるのに苦労した。
- ・ 全員の前でプレゼンする方がより練習になる。
- ・ タイムスケジュール。
- ・ 発表がなんかグダグダ。

- ・ 一回一回の間が長すぎずからもう少し期間を狭めて欲しい。
- ・ 教授の研究内容なのでその分野に特に特化しているので理解できない内容があり発表の際に説明があまり出来なかった。
- ・ 一回目と二回目までの間を短くして二回三回目の準備期間を長くすべき。
- ・ 講義外で集まって、時間を取るのが大変だった。
- ・ ポスターの数を減らして欲しい。
- ・ 27班は多すぎる。
- ・ 野放し状態を作っては行けないと思う。
- ・ 自分から質問すべきだと思った。
- ・ 準備期間が少し短かった。
- ・ いきなり生徒に任せ過ぎて何をすればいいのか、わからない事があった。
- ・ 研究内容の先取り。
- ・ 期間が短い。
- ・ これから社会に出て必要なことなどで学べてよかった。
- ・ 回数が少ないような気がした。
- ・ プレゼンテーションでどんな研究をしているかわかり興味はわいた。
- ・ 事前学習をもっとすべきだった。
- ・ 資料の作成時間。
- ・ 改善点 発表時間の短さ。
- ・ 授業内容の説明が少し分かりにくい。
- ・ 大多数の前でのプレゼンテーション能力を鍛えたかった。
- ・ 学生内での関わりを増やして欲しい。
- ・ 手を抜く子がいるので多くの教授の監視した評価も必要である。
- ・ 日常のレポートや勉強の時間が削られすぎる。
- ・ 相手とのコミュニケーションをもっと多くすること。
- ・ 授業時間で話し合いをする時間をもう少し設けてもらいたい。
- ・ もう少し回数を増やす。
- ・ プレゼンの時間が少しくだぐだぐで、真剣に話を聞いたり発表したりしている人もいればずっと友達と話している人もいた。
- ・ 3分でローテーションするなどのルールを設けた方が良いと思う。
- ・ 特になし。

【理工学部・情報光】

- ・ レポートの記述方式を行って欲しい。
- ・ グループワークの仕方分かった。
- ・ プレゼンの力がつきました。
- ・ 汽車で大学に来るのですが遅延することも多く第1限では時間ギリギリになることも多かったので3限以降だと余裕ができて助かります。
- ・ パワーポイントが作れるようになった。
- ・ プログラムについての改善点は思いつかない。
- ・ このアンケートについての改善点は、「あればお書きください」と記されているにもかかわらず、必須の回答になっっている点。
- ・ 友達ができた。
- ・ 後ろの方だと発表が見にくい。
- ・ テーマが少し難しく、班でまとまった意見が他の班と被ることよくあった。もう少し多様な意見が出やすいテーマであればより効果的なものになると思った。
- ・ 一眼目にするのはしんどい。
- ・ 時間が足りない。
- ・ 一コマ目にあると身体に辛い。
- ・ 話が長い点。
- ・ 端的にまとめる方法を教えて欲しい。

- ・ 発表資料の作成時間を長くってほしい。
- ・ グループ発表の仕方がわかった。
- ・ 内容が自由に決めることができなかつた。
- ・ 長い。
- ・ 単位の取り方がわかった。
- ・ 専門的な内容。
- ・ 課題の内容が取っ付き難い。
- ・ 朝早すぎて眠たい。
- ・ もう少し効率良く授業を進めて欲しい。
- ・ ほかのコースに比べて大変だった。
- ・ 発表までの期間を有効に活用して、時間に余裕を持つべきだった。
- ・ 一限だったので早起きしなければならないのが辛かったです。また、プレゼン経験が少ない人が多数であると思われ1回生に大勢の前でプレゼンをし、質疑応答に答えなければいけないかつたことに関心がなりのプレゼンチャーだっただけではないかと思いました。
- ・ レポートの作成の際にヘッダーが必要かどうかなどもできればレクチャーして頂きたい。
- ・ プレゼンの仕方が未熟だったので、より練習が必要だと思った。
- ・ テーマを変えるべき。
- ・ 徳島を良くするためというテーマだと内容が偏り過ぎるから、主体性をもつ。
- ・ 大学の授業が始まる前にやっていたほうがいい。
- ・ グループ内で仕事量に偏りが出ること。
- ・ テスト期間とずらして欲しい。
- ・ レポートの書き方。
- ・ もっと優しく教えてほしい。
- ・ もう少し時間が欲しい。
- ・ もう少しグループの中での話をする時間を増やす。
- ・ 1限はやめたほうがいいと思う。
- ・ 課題がとつかかりづらかつた。
- ・ 何を目的としているのかがはっきりとわからなかつた。
- ・ 題材が難しかつた。
- ・ 時間の余裕を持れば良い。
- ・ もっとグループ活動を活発にできるようにしたい。
- ・ 目線など気をつけられればプレゼンテーション力をもっと少し身につけることが出来ると思う。
- ・ 準備期間の長さの違い。
- ・ 発表の課題がある程度自由にできたら楽しかつた。
- ・ 研究室で見たスライドのプリントが欲しかつた。
- ・ プレゼンの内容に対する条件が後々からボロボロ出てきたので最初からしっかりとした条件を提示してほしい。例えば、どこまで実理可能かなど。
- ・ 発表の内容が難しかつた。
- ・ プレゼンテーションする機会をもっと増やしたらいいと思った。
- ・ 特になし。

【理工学部・応用理数】

- ・ もっと積極的にみんなと話し合いをして助け合う。
- ・ 資料作成の時間がもう少し欲しかつた。
- ・ 見やすい資料を作る。
- ・ プレゼンにおいて、時間配分等がまだまだだなと思った。
- ・ 多くの研究室に多く行く。
- ・ 質問ができるように聞く。
- ・ プレゼンテーションの説明のとき、例（前年の先輩の資料など）をだしてほしかったです。
- ・ 積極性。

- ・ 事前に練習すること。
 - ・ わかっているところを質問する。
 - ・ プレゼンをよくする。
 - ・ 自分の調べた内容をもっといれるべきだった。
- 【生物資源産業学部】**
- ・ 良い経験になった。
 - ・ 今しなければいけないことを学んだ。
 - ・ もう少し時間が欲しい。
 - ・ 改善点は効率を良くすること。
 - ・ SIH 道場の活動前に学部内の人と話せるようにアイスブレイクの時間を取って欲しかった。
 - ・ レポートの書き方をもっと詳しく教えてほしい。
 - ・ 発表についての注意事項などを、事前に詳しく教えてほしかった。
 - ・ 生徒に話し合わせる時間をもっと欲しかった。
 - ・ なんのために SIH 道場を行なっているのかもっと分かりやすく詳しく学生にしましたほうがよい。
 - ・ どうすべきか指導がない場合、戸惑う。
 - ・ レポートの書き方をもっと丁寧に教えて頂きたかった点。
 - ・ 学習の流れをもっと少しかわりやすくしたいと思う。
 - ・ より学部にあったプログラムにした方がよいと思う。
 - ・ 話を聞くばかりでなく、グループワークをしたかった。
 - ・ 事前学習をどの程度行えばよいか、説明がもう少しあればよかった。
 - ・ 特になし。

令和元年度 SIH 道場 教員アンケート

3) SIH 道場教員アンケート結果概要

教員アンケートは、各学部・学科の SIH 道場終了後に実施している。教員は、到達目標に関連する、「1.SIH 道場の目標理解」「2～4.アクティブ・ラーニング型授業の意義理解・実施・導入」「5～7.反転授業の意義理解・実施・導入」「8～10.ルーブリックの意義理解・使用・導入」「11～13.学生の学修の振り返り」「14～16.自らの教育の振り返り」「17.SIH 道場の満足度」についての 17 設問に 4 件法（一部 5 件法）で回答した（回答率 27%）。

主だった項目について結果を確認すると、「1.SIH 道場の目標理解」については、「とても当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」を選択した教員が、最も高いプログラムでは 100%、最も低いプログラムにおいて 85%、大学全体では 96%となっており、多くのプログラムで、SIH 道場の意義や目標についての理解が進んでいる結果になった。過去 5 年間の継続的な取組によって、SIH 道場に対する意義理解は十分に浸透しているものと思われる。

「2～4.アクティブ・ラーニング型授業の意義理解・実施・導入」に関する大学全体の割合を見ていくと、「2-2.アクティブ・ラーニング型授業の意義を理解した」「2-3.アクティブ・ラーニング型授業を実施することができる」「2-4.アクティブ・ラーニング型授業を担当する他の授業で導入したい」の 3 つを実施プログラム全体でみると、「とても当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」を選択したそれぞれ、96%、80%、63%の結果になっており、それぞれの割合はいずれも平成 27 年度から高い割合を指名している。一方、反転授業や教員の教育経験の振り返りについては、「実施することができる」「他の授業でも実施したい」とする意見がいずれも比較的低い割合に留まっている。導入・実践に対する教員にとってのハードルの高さや、優先順位の低さが影響しているものと思われ、今後浸透を図るためには現場教員へのヒアリングを行うなど、ニーズ把握を適切に行う必要があるだろう。

教員による「17.SIH 道場の満足度」に関する設問については、実施プログラム全体でみると 71%が肯定的な回答をしており、例年に比べ満足度は低い割合となっている。プログラム別に結果を概観すると、満足度が 100%である学部学科は少なくない。今年度はアンケートの回収率も例年より低い結果となっていることから、個別の教員の意見が強く反映されていることも影響しているだろう。

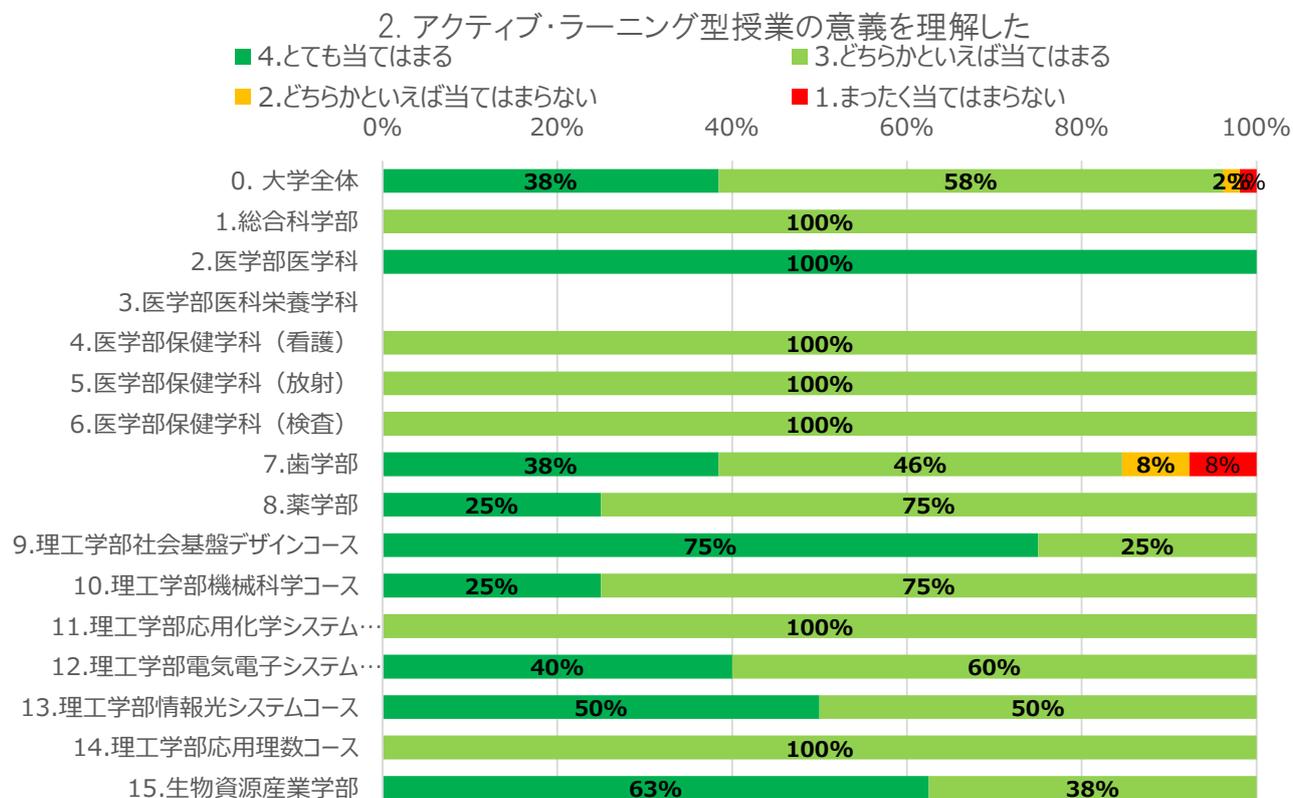
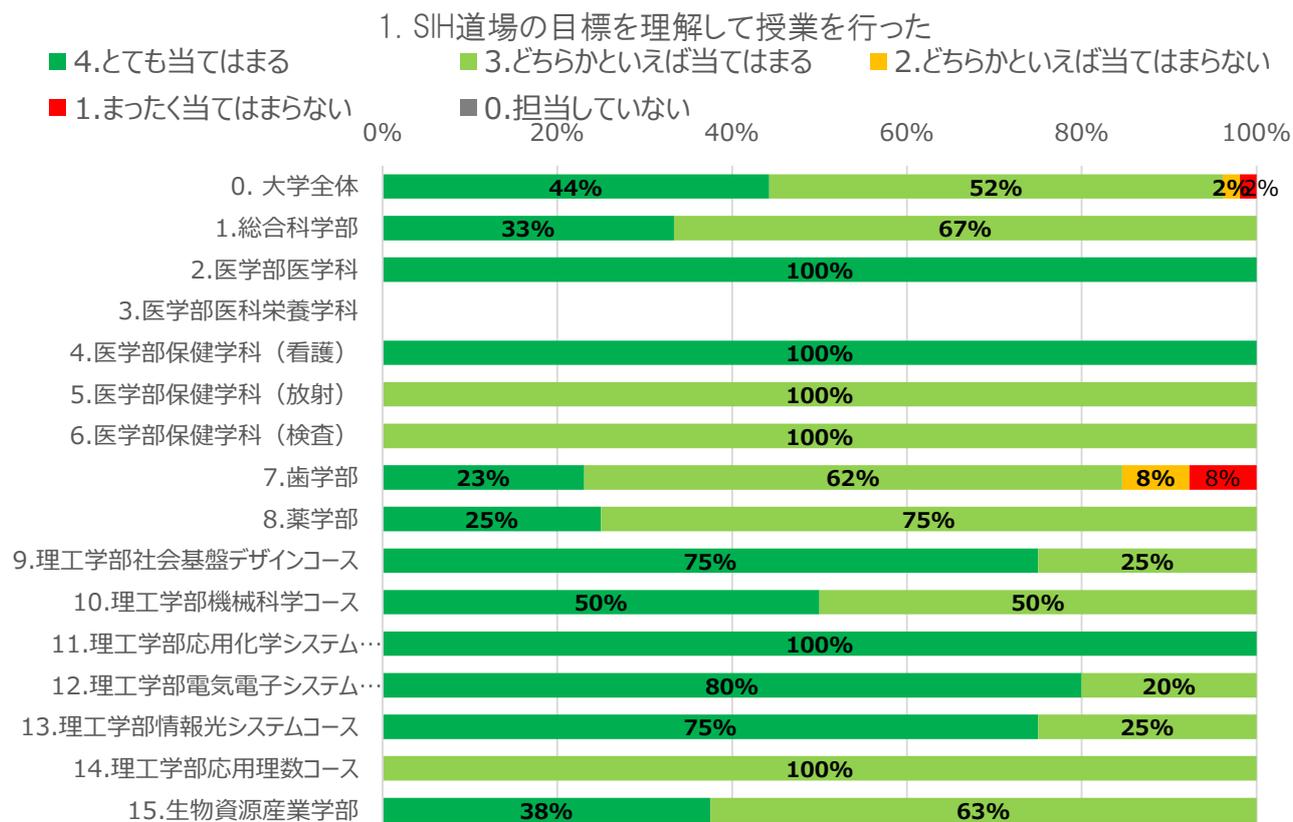
令和元年度 SIH 道場 授業担当者アンケート

問1. 回答者の所属

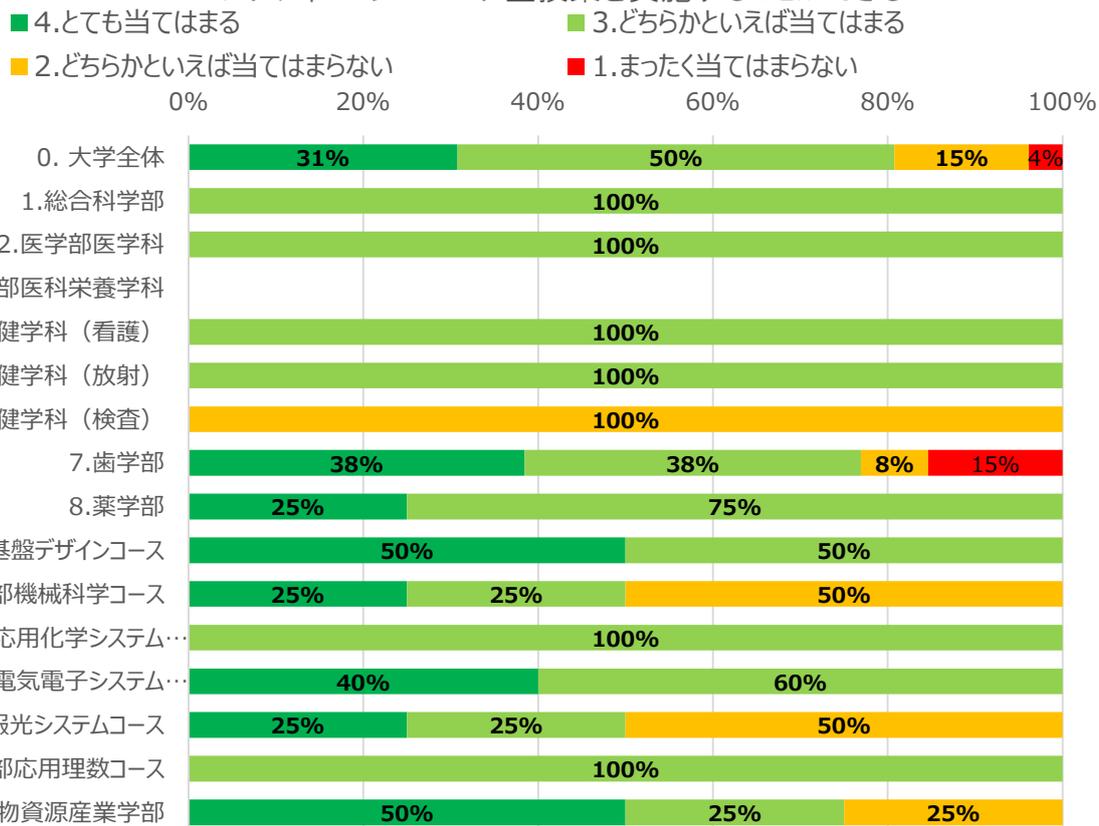
有効アンケートの状況<令和2年1月23日時点>

プログラム名	授業 担当者数	回答者数	回答率
総合科学部	26	3	12%
医学部医学科	6	1	17%
医学部医科栄養学科	7	0	0%
医学部保健学科看護学科専攻	9	1	11%
医学部保健学科放射技術専攻	4	1	25%
医学部保健学科検査技術科学専攻	3	1	33%
歯学部	55	12	22%
薬学部	17	2	12%
理工学部理工学科社会基盤デザインコース	4	4	100%
理工学部理工学科社会機械科学コース	13	4	31%
理工学部理工学科応用化学システムコース	4	1	25%
理工学部理工学科電気電子システムコース	5	5	100%
理工学部理工学科情報光システムコース	7	4	57%
理工学部理工学科応用理数コース	6	2	33%
生物資源産業学部生物資源産業学科	8	8	100%
合計	174	31	27%

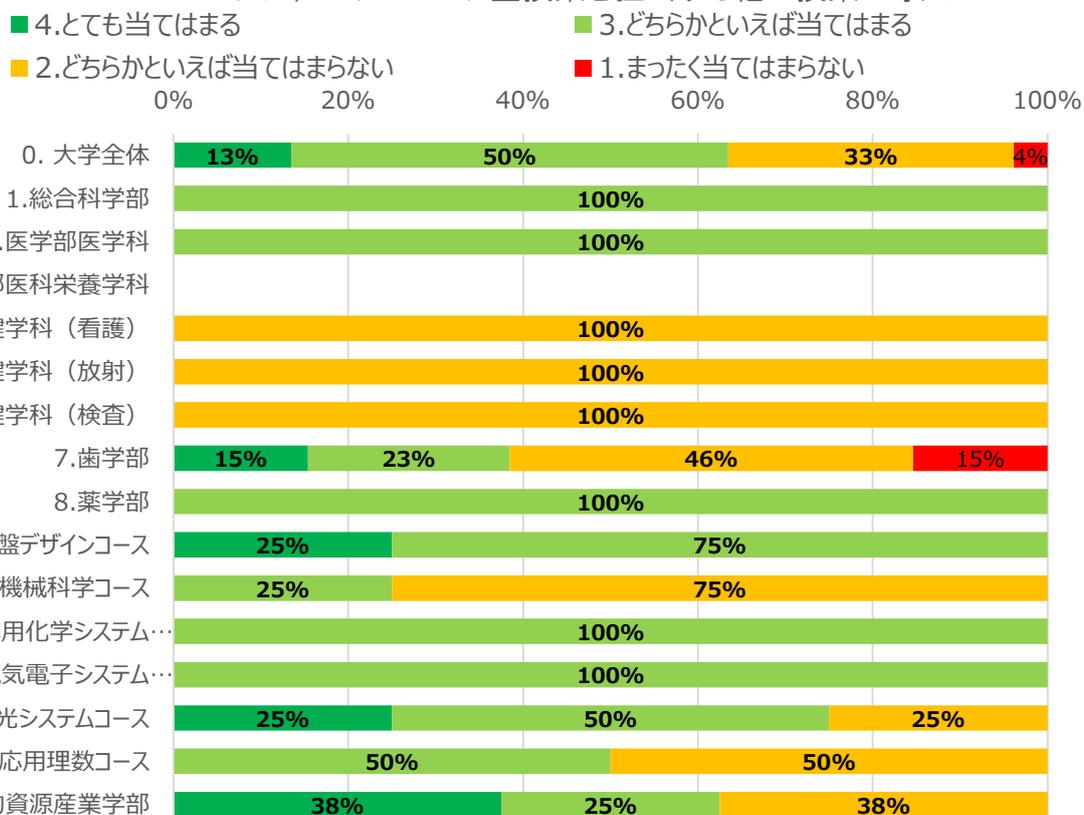
問2. SIH 道場のプログラム実施後として、以下の①～⑯までの各項目について、当てはまるものを1～4（4段階）のうちから1つ選んで下さい。

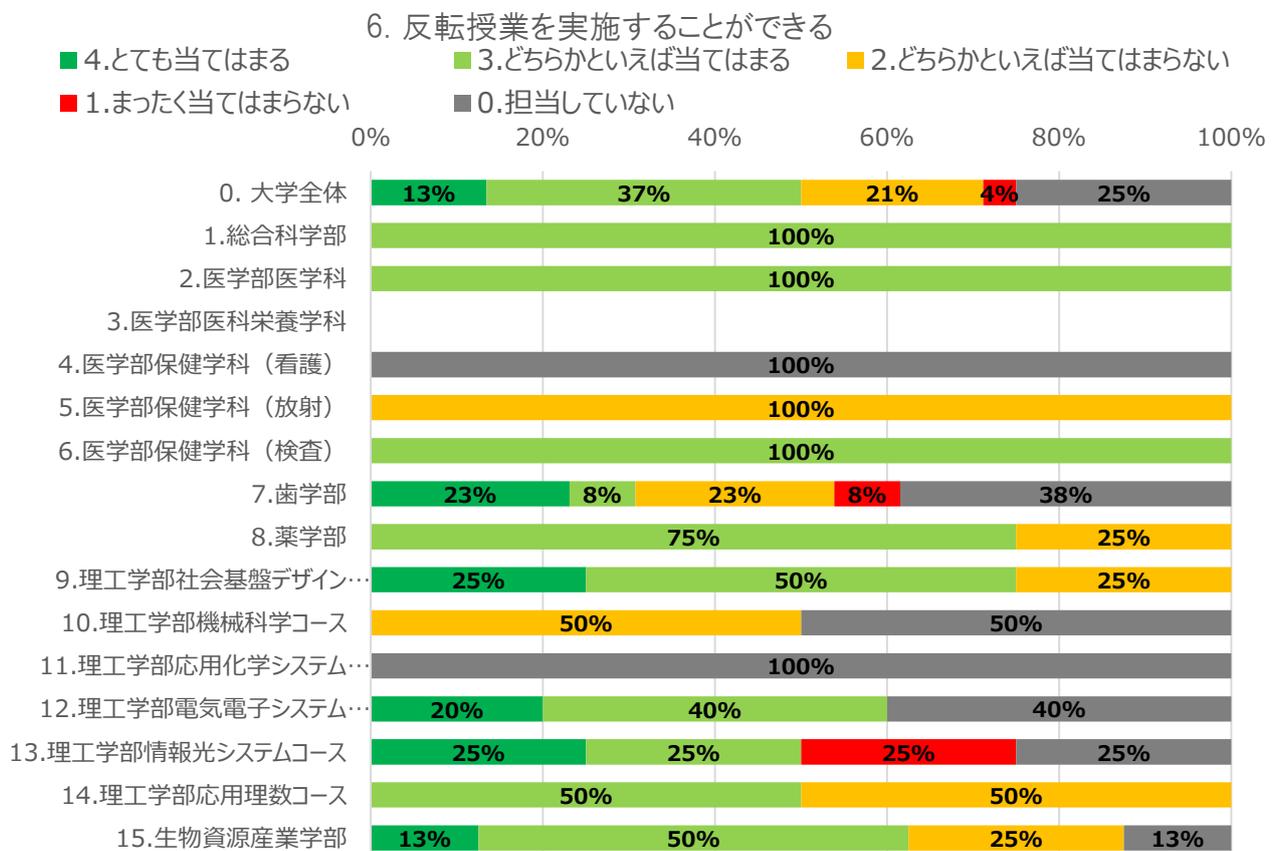
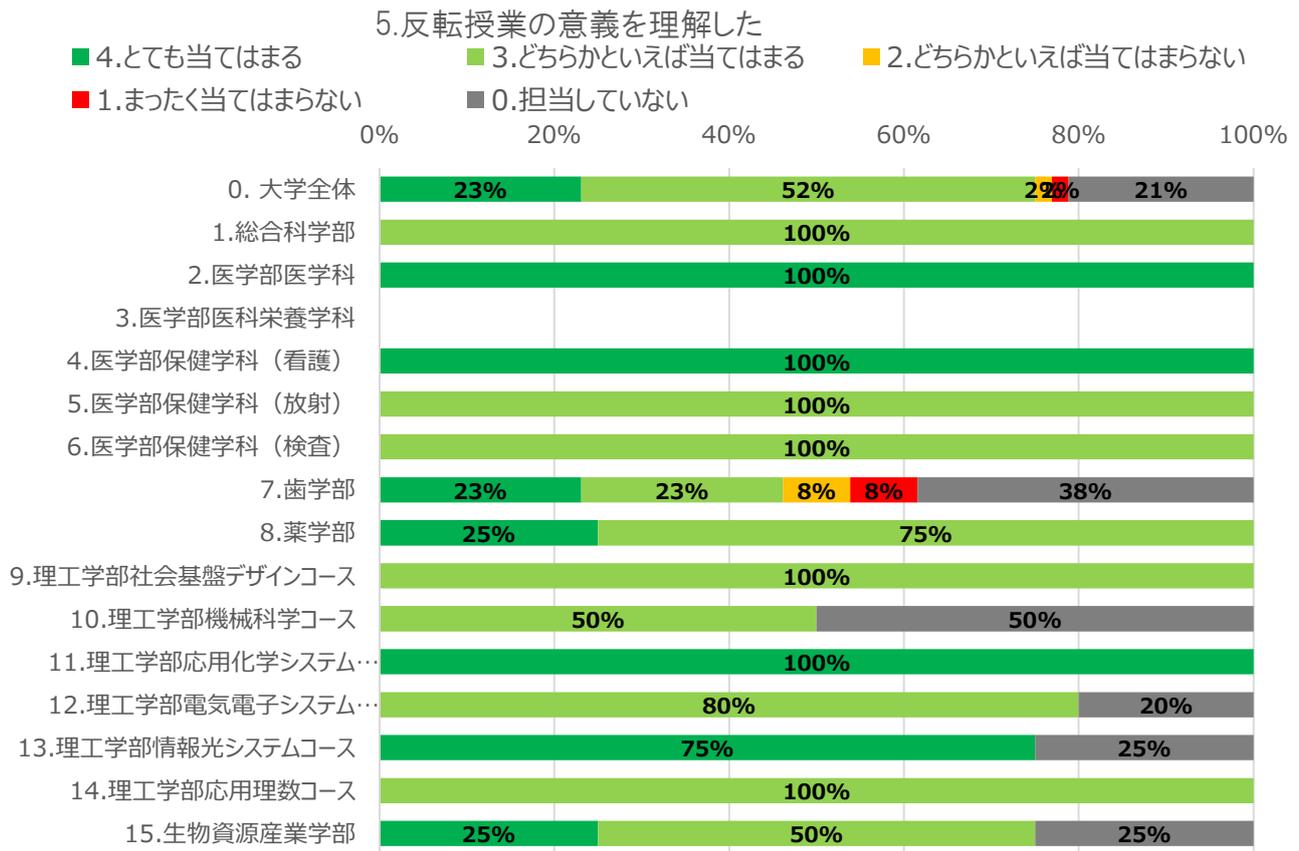


3. アクティブ・ラーニング型授業を実施することができる

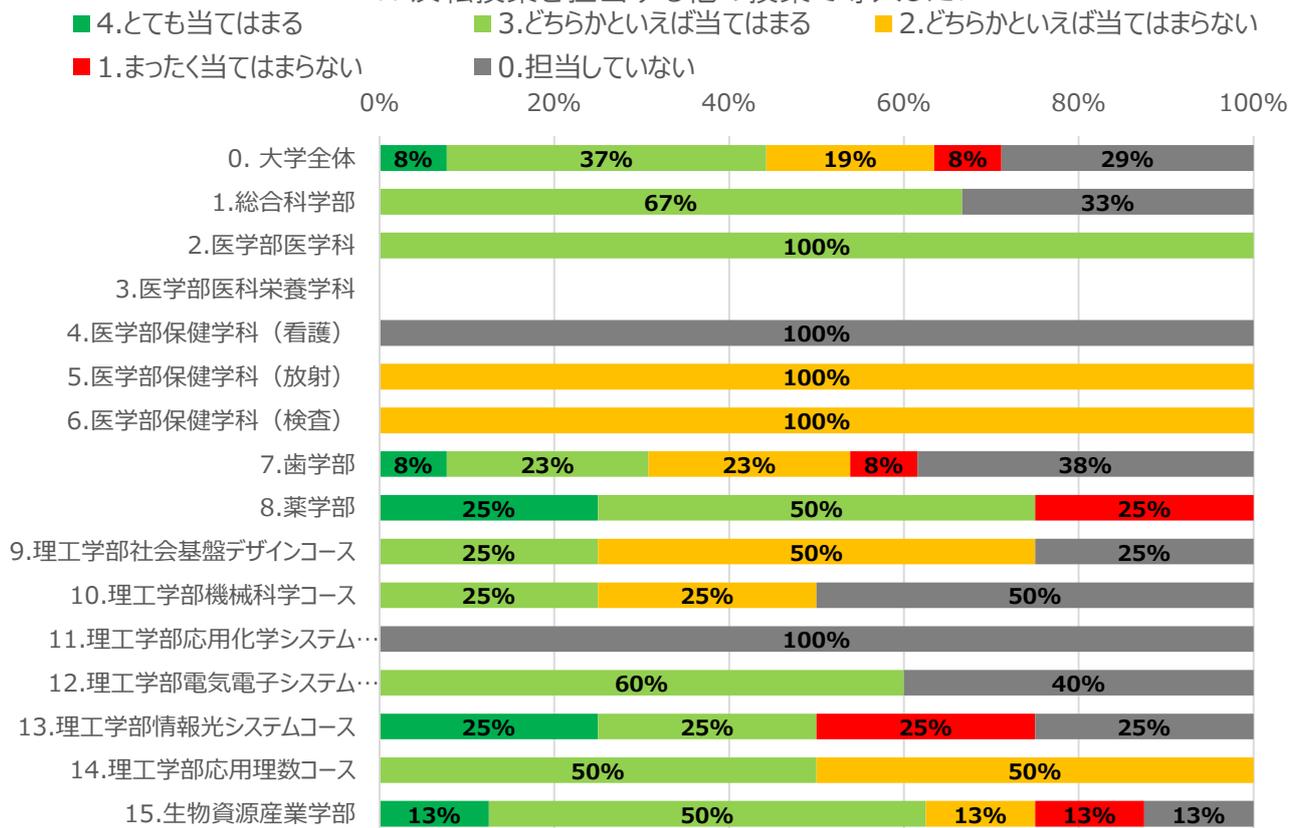


4. アクティブ・ラーニング型授業を担当する他の授業で導入したい

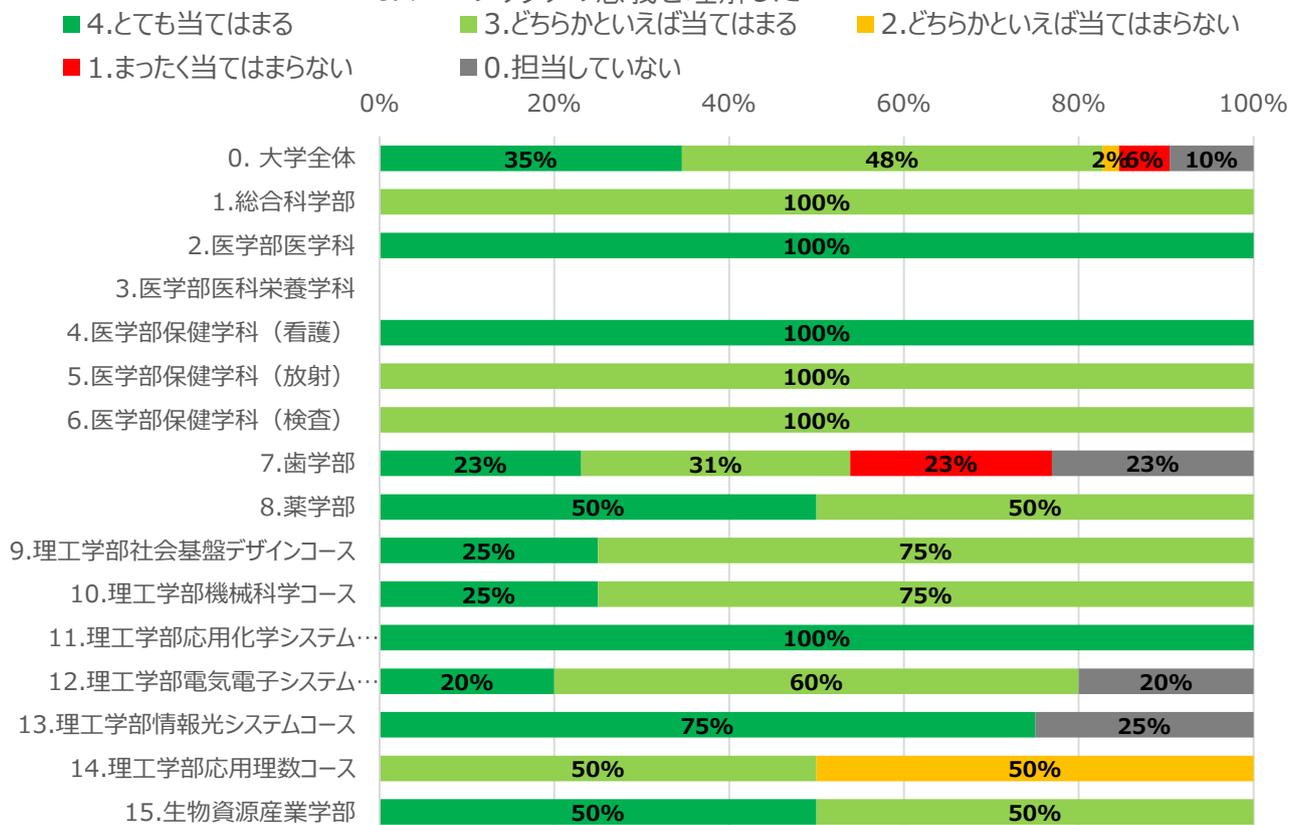




7. 反転授業を担当する他の授業で導入したい

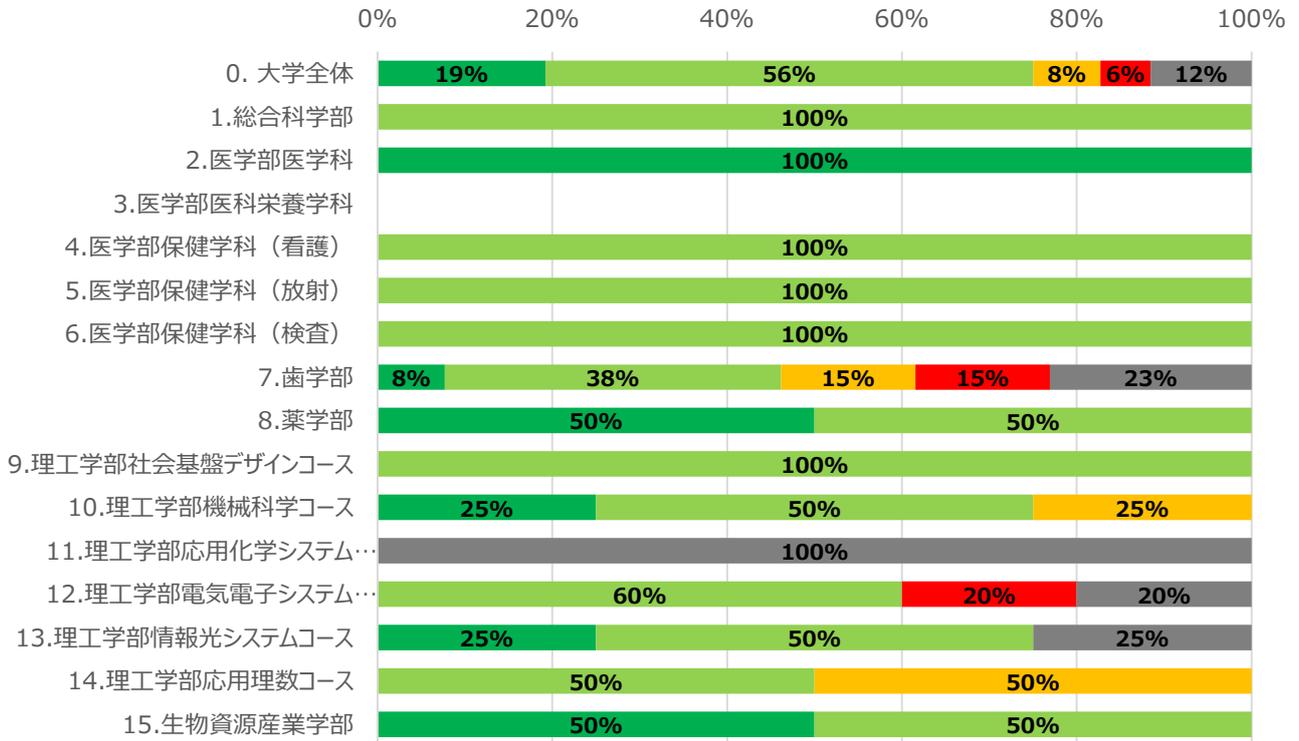


8. ルーブリックの意義を理解した



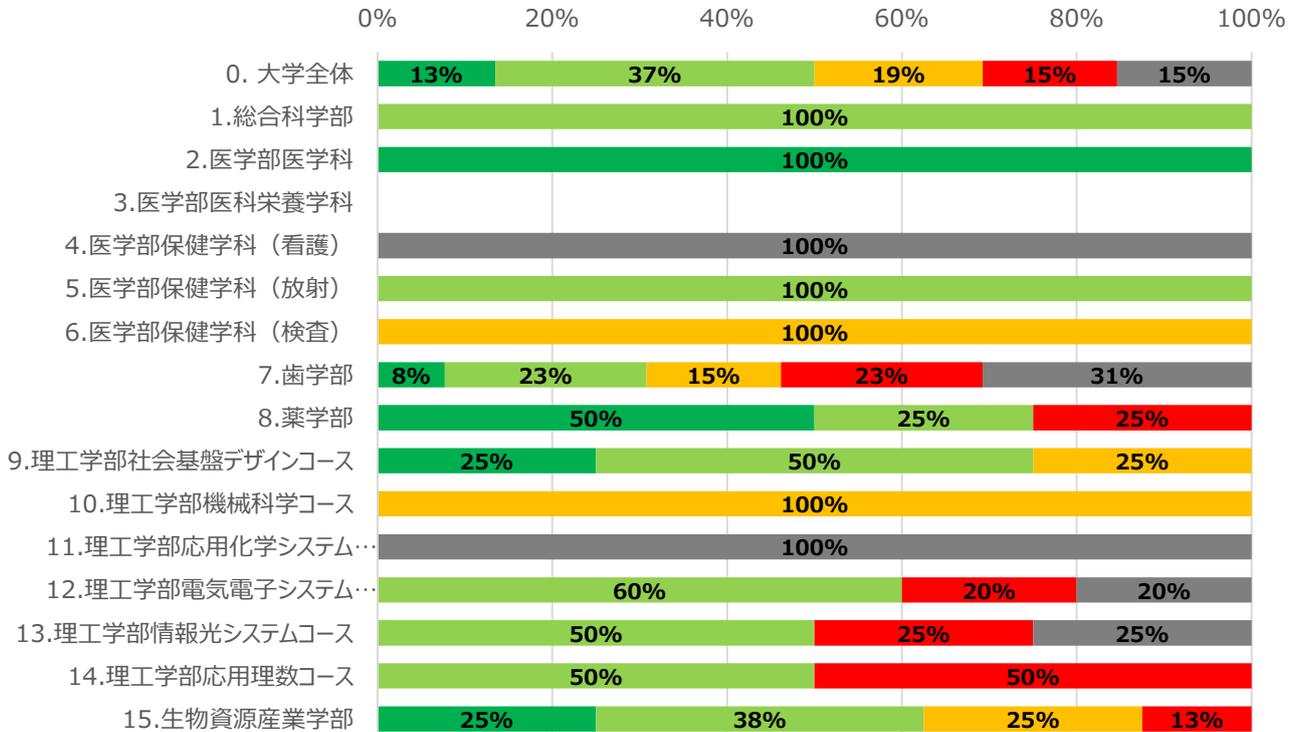
9. ルーブリックを用いて学生を評価することができる

- 4.とても当てはまる
- 3.どちらかといえば当てはまる
- 2.どちらかといえば当てはまらない
- 1.まったく当てはまらない
- 0.担当していない

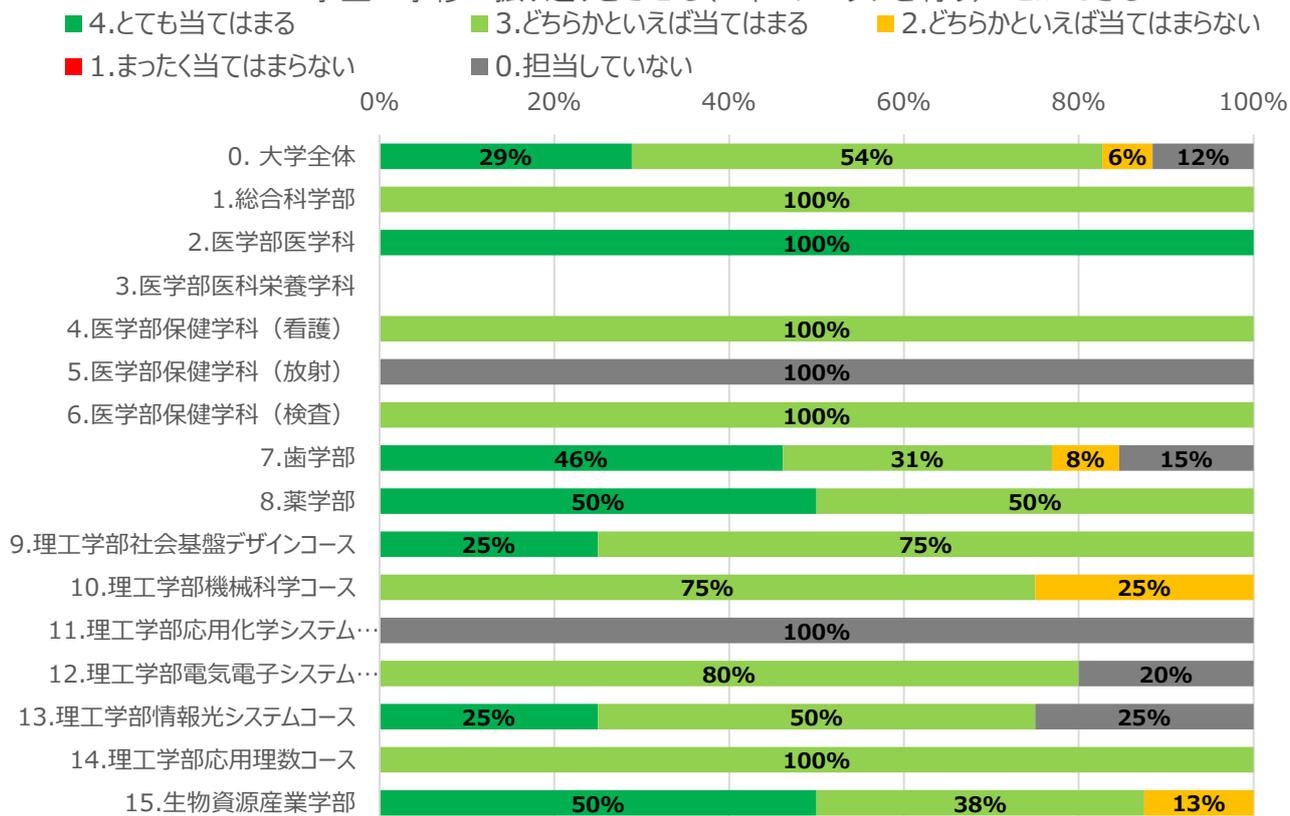


10. ルーブリックを担当する他の授業で導入したい

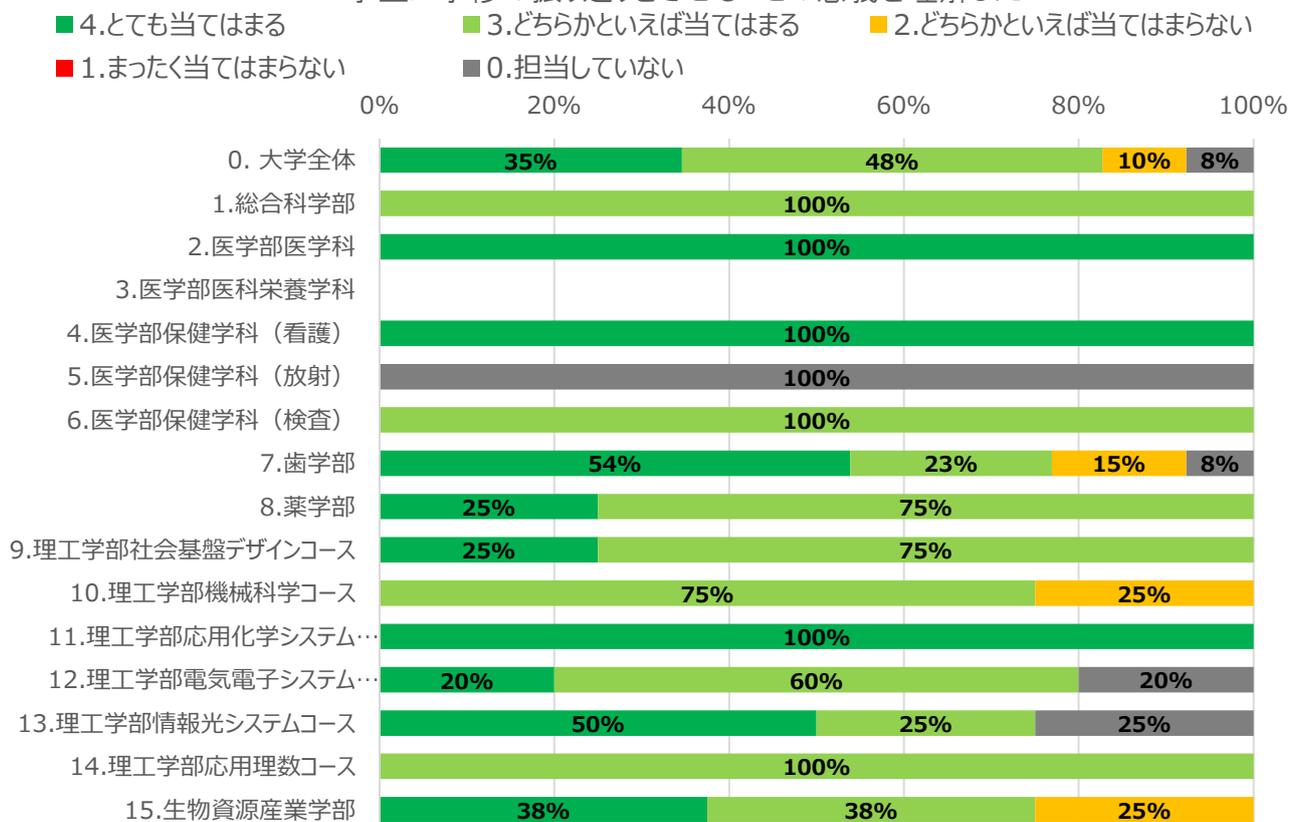
- 4.とても当てはまる
- 3.どちらかといえば当てはまる
- 2.どちらかといえば当てはまらない
- 1.まったく当てはまらない
- 0.担当していない

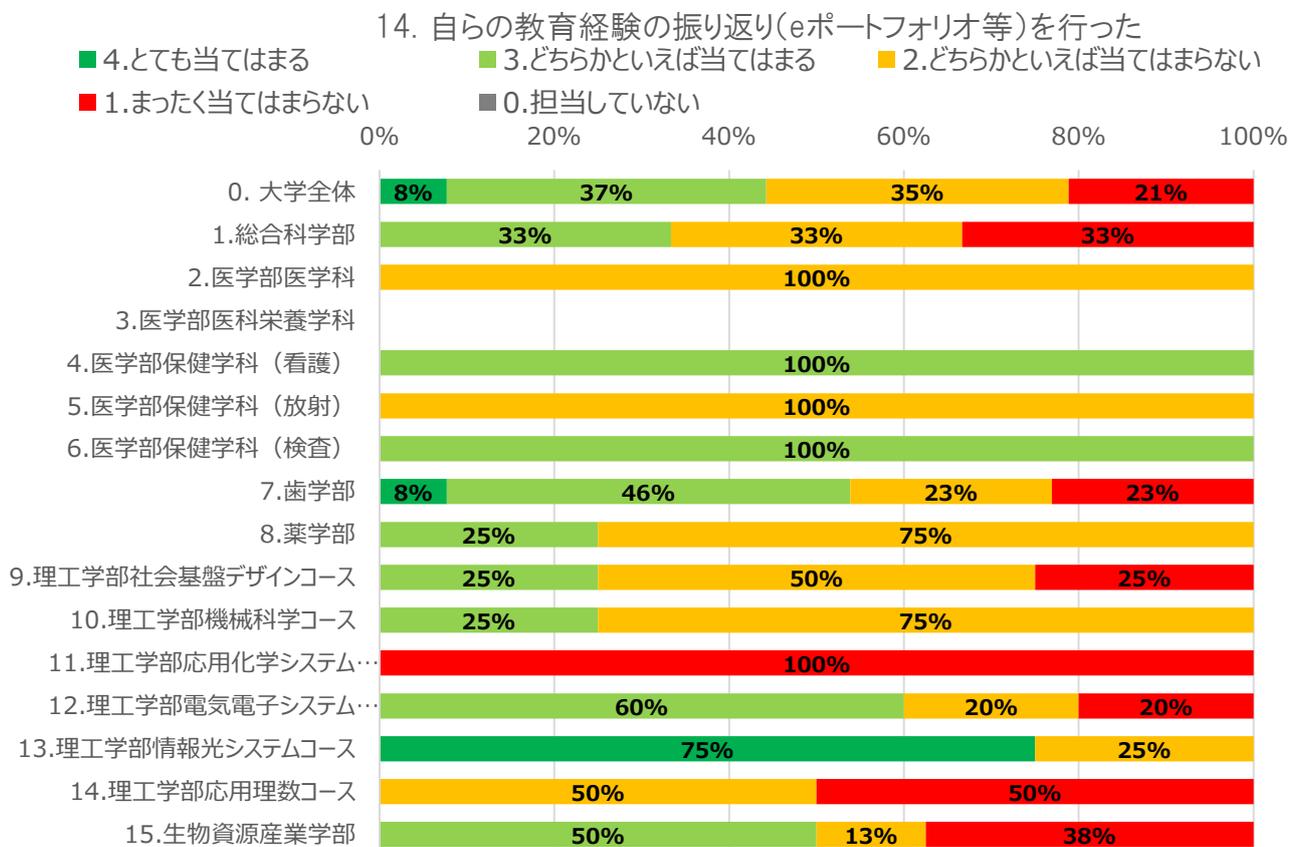
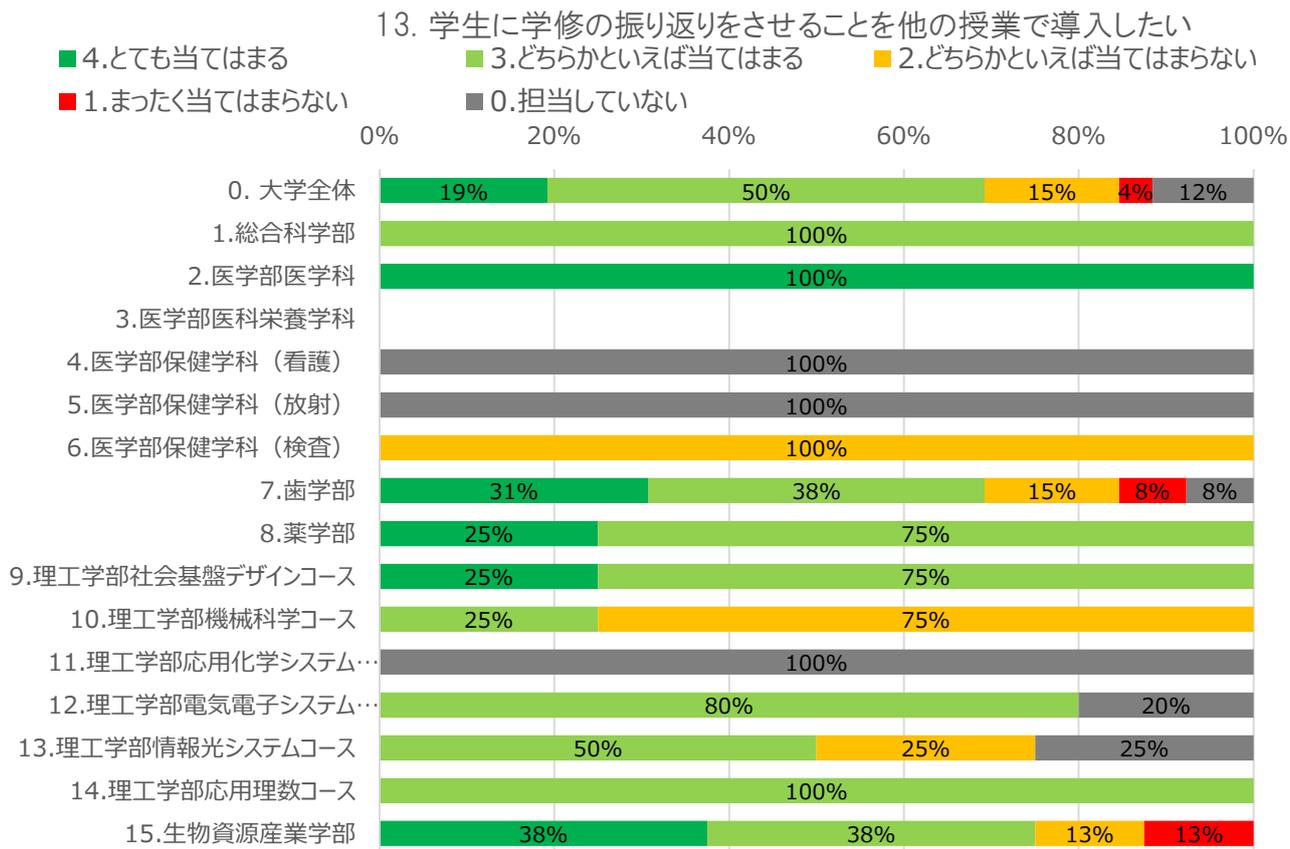


11. 学生の学修に振り返りをさせる(フィードバックを行う)ことができる

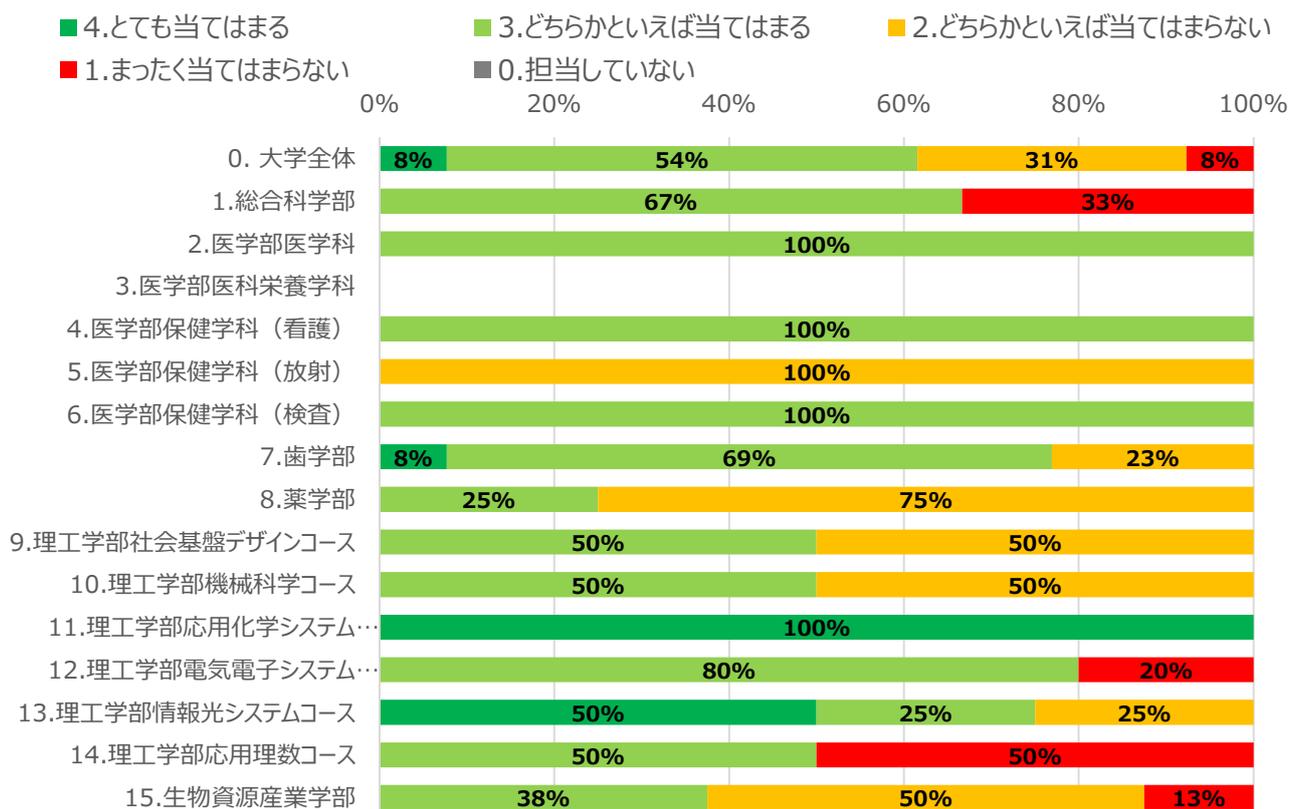


12. 学生に学修の振り返りをさせることの意義を理解した

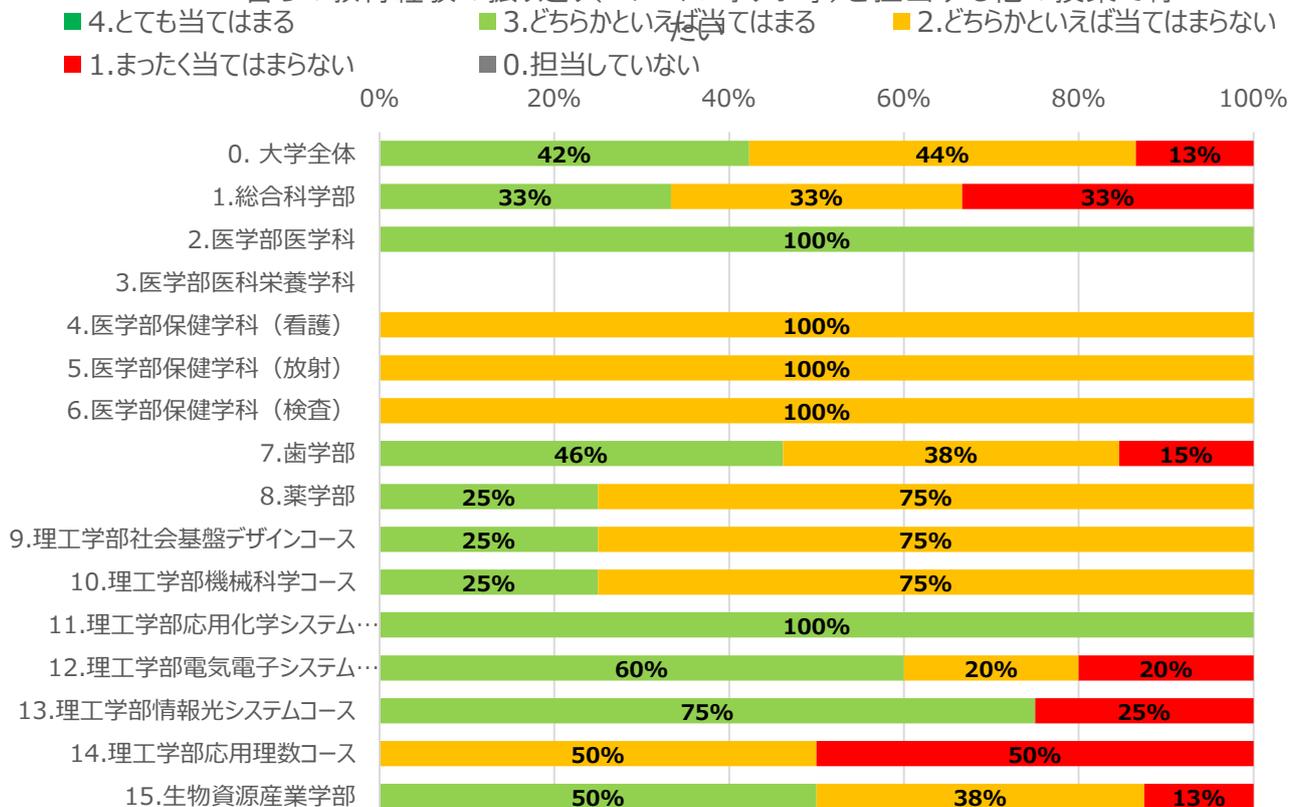




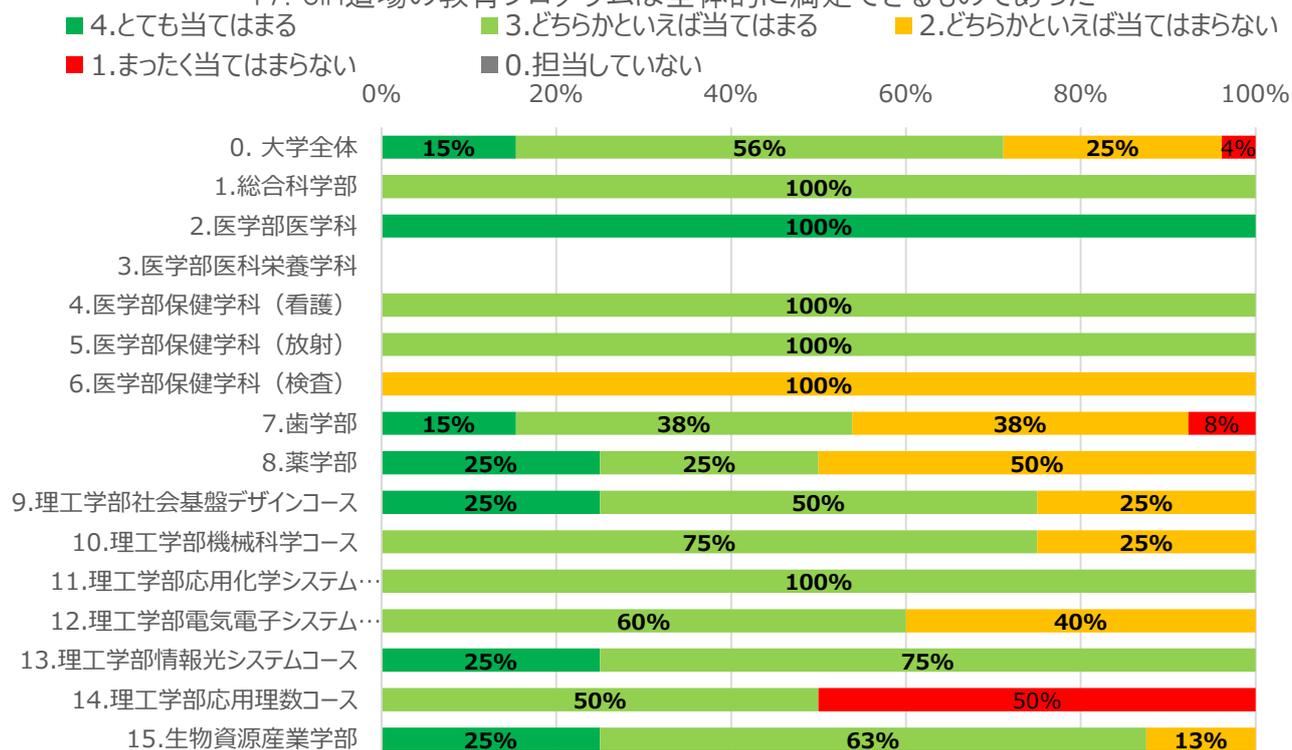
15. 自らの教育経験の振り返り(eポートフォリオ等)の意義を理解した



16. 自らの教育経験の振り返り(eポートフォリオ等)を担当する他の授業で行い



17. SIH道場の教育プログラムは全体的に満足できるものであった



⑱ ⑰の項目を選択した理由をご記入下さい。

◆ 「4. とても当てはまる」「3. どちらかといえば当てはまる」を選択した理由

- 今年だけというよりは、SIHが始まってから、学生のスキルがあがったとの評価を聞くことが多く、今年も例年と同様のプログラムを遂行できたため。
- コミュニケーションがいかに大切であるかをある程度は理解してもらえたと思う。
- 振り返りは必要だと思います
- 学生の振り返りレポートの内容から、主体的、意欲的、対話的な学びができていたと評価できたから。
- 運営者の一人として、能動的に準備・実施に携わることができたから。
- 概ね満足できたが、学生へのフィードバックが十分にできたとはいえないので。
- 自分の担当以外の内容は確認ができていないが、大学で学んで行くスキル獲得のための導入ができていると思うから。
- これまでの授業では経験したことのない内容であったから。
- SIH道場の試みは大学生としての第一歩の教育には良いと思った。一方で、徳島だと見学施設が限られることや、時間の制約上、学生の思考を十分に鍛錬できないこと、また学生が学習の目的を理解していない場合に奏功しないことが今後の課題だと感じる。
- 学生のコメントから、SIH道場に関するポジティブな意見が多く得られたので。
- 学生が学び方と評価の仕組みを体系立てて学修できたと思われる。また学生とともに担当教員もそのプロセスを体験できた。

- 大体の学生がプログラムに沿って学習体験できたから。
- 方法が分からないことと、時間がかかりそうで嫌です。
- 1年生の早い段階での実施に意味があると思ったため。
- チーム医療を進めるうえで多職種の方々とのコミュニケーションを図ることの重要性を感じています。
- eポートフォリオ等の重要性は理解できるが、すべての科目について実施するのは負担が大きい（年間の科目責任者としての担当科目：13科目）。
- 毎年実施するFDが有効
- 入学早期に診療現場での実習を経験させることが出来、学生も満足したと回答する者が多く、モチベーションも上がっている等の成果が得られているので。

◆ 「2. どちらかといえば当てはまらない」「1. まったく当てはまらない」を選択した理由

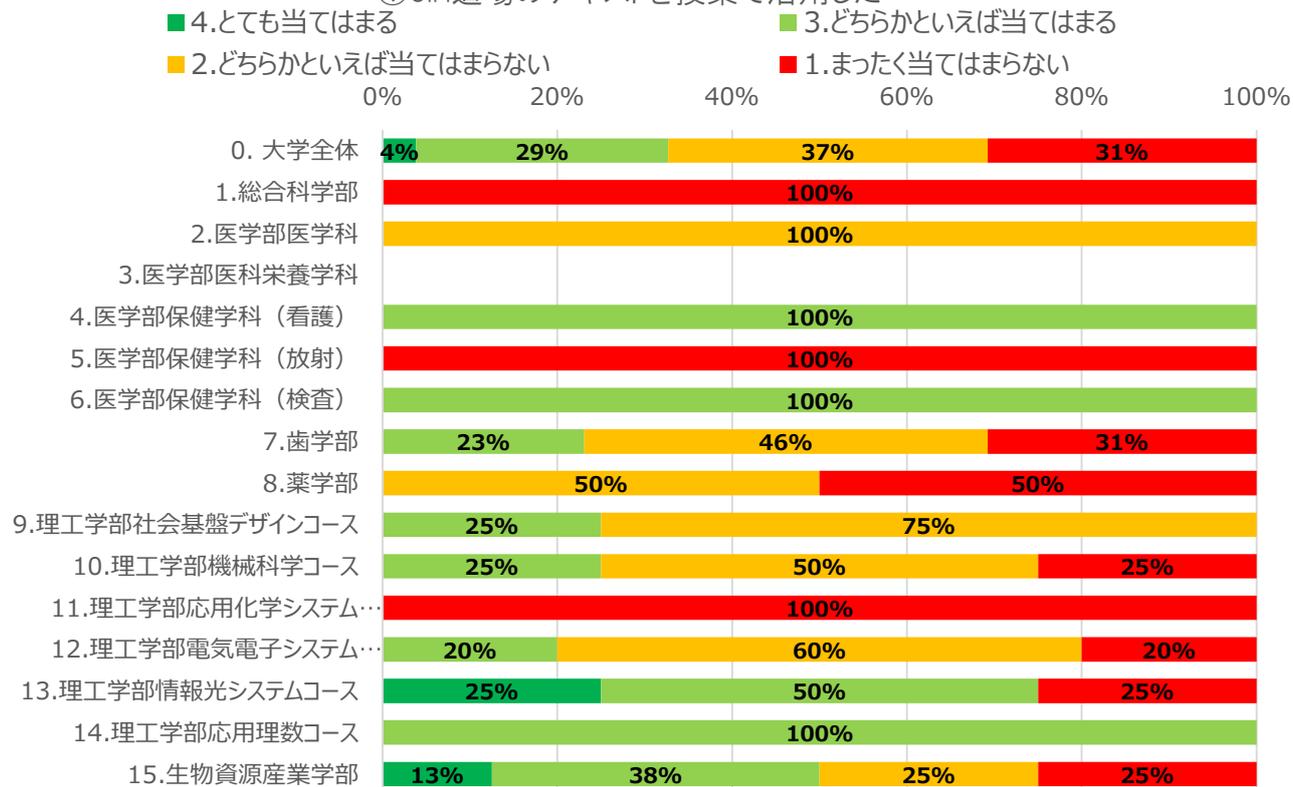
- もう少し実践してから評価したい
- STEM演習などとの差別化が難しく感じた
- 意味がない
- 大学での学習について説明することは非常に良いと思うが、お題を与えて何かやらせて評価するのは時期的に良くない

問3 アクティブ・ラーニング、反転授業、ルーブリック、学生・教員の振り返り等について、意見がありましたらお書きください。

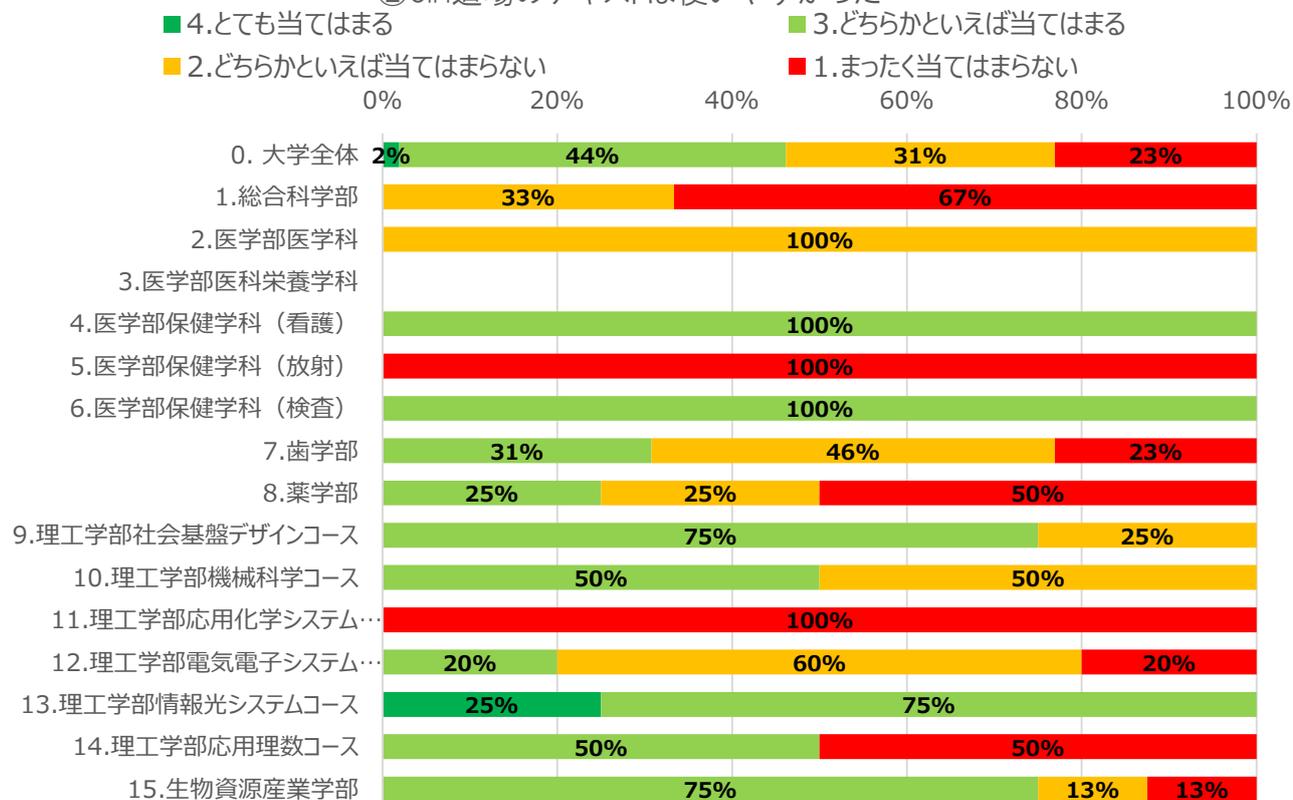
- ルーブリックの意図は理解できたが、実施が大変難しいと思っています。
- ルーブリックについてはもう少し定量的、客観的な評価ができるような仕組みにする必要があるように思えます。私の理解が至らないせいかもしれませんが、現状は個人ごとに異なる「自己満足」「主観」でしかないように見え、ルーブリックで自己評価を行うための知識、技術を学ぶ必要があるように思えます。
- やはりこれまでの形式の授業よりも授業準備の時間が多くなると感じています。ただ、初年度が一番大変で、あとはバージョンアップをしていけばよいのかな、とは思っています。
- 教育効果が高く、魅力出来である。ただし、学生と教員のそれぞれの力量が必要である。
- 全てではないが、SIH道場以外でも授業科目の特質に合わせ、これらの4つの要素・手法を部分的に組み合わせて取り入れてきているが、確かにポジティブな効果はあるようだ。
- ルーブリックは一見客観的な評価法に見えるが、選択肢の作り方を工夫しないと評価がばらけない
- いずれも、教育効果を強めるために有効であると思う。一方で、教員の力量がある程度ないと実施できないことも実感している。実践しても、振り返る、というところは22でも回答したように、時間がかかりそうで嫌だなと思ってしまう。
- 座学の系統授業に特に反転授業は導入しづらい。ルーブリック、学生・教員の振り返りは系統立てて行うことが必要と実感している。

問4 SIH道場の実施支援に関わる取組に関して、以下の①～⑦までの各項目にお答え下さい。

①SIH道場のテキストを授業で活用した



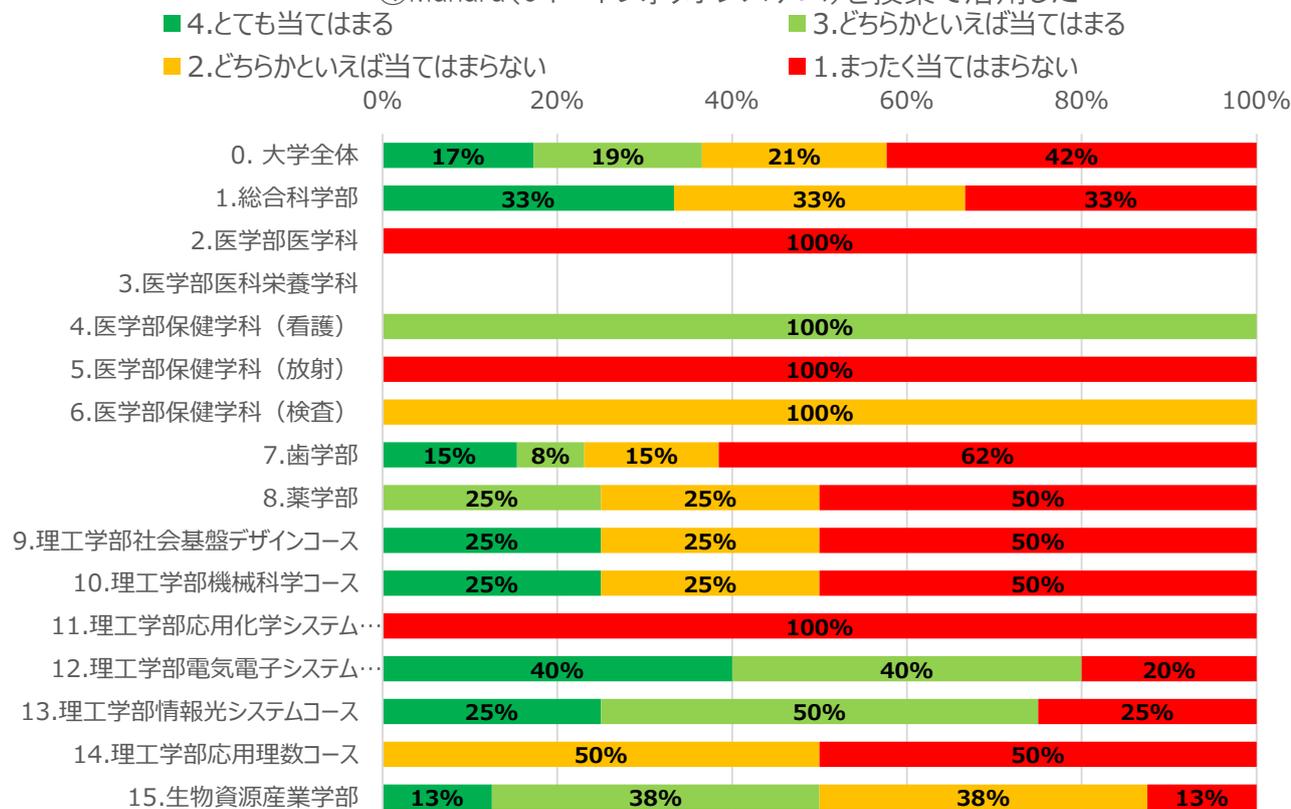
②SIH道場のテキストは使いやすかった



③ ②について、テキストが使いやすかった、または使いにくかった理由を、自由にお書きください。

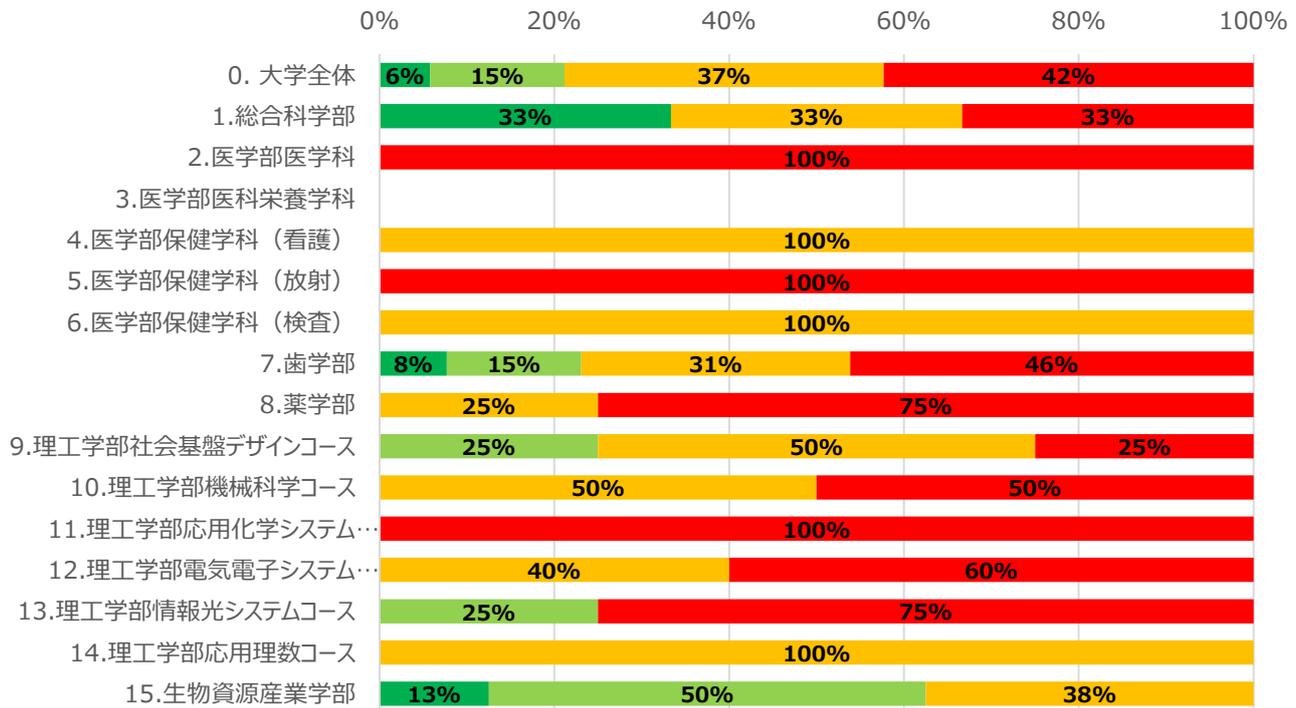
- 総合科学部では独自に教科書を使用している。
- 私は総括・コーディネーター担当であったためそのためのじょうほうが載っているわけではないため
- ビデオ教材が理解の役に立った。
- 初めて行ったので参考にした
- テキストをアクティブ・ラーニングできるように構成いただきたい。例えば、問いかけをするなど。
- 特にありません。
- シンプルで理解しやすかったと思います。
- 内容が分かりやすかったから。
- 意味が解らない
- 見やすくまとめられていた
- 研究室配属後に使うと、理解も深まるようだった。
- 見やすくまとめられているため。
- 使いやすいか使いにくいかを判断できるまで使わなかった
- 端的によくまとめられていた。

④Mahara(eポートフォリオシステム)を授業で活用した



⑤Mahara(eポートフォリオシステム)は使いやすかった

■ 4.とても当てはまる ■ 3.どちらかといえば当てはまる ■ 2.どちらかといえば当てはまらない ■ 1.まったく当てはまらない



⑥ ⑤について、Mahara が使いやすかった、または使いにくかった理由を自由にお書き下さい。

- これまでは紙にコメントを書いてもらい pdf 化していたが、受講生が多いと時間がかかり手間であったの。
- manaba を使用している。
- 未だ活用に至っていません。
- 普通の使えます
- 学生のレポートを一括 DL できるようにしていただきたい。出欠表と連動していただくと大変助かります。学生が「レポート提出したはずなんです」と言ってきます。
- 使わなかったの、使いやすいかどうかわかりません。
- インターネットが使えない条件（電波が届きにくい僻地での野外学習）では使えない。
- 学生の検索機能がなく、特定の学生を探すことが大変だった。
- 始め、作業の起点となるページがわからず戸惑った
- 見たい学生の情報にたどり着くのが困難である
- めんどくさい。学生が使い方を理解していない。
- 学生ごとにファイルを分ける必要があるの、受講者数が多いと大変。処理が途中で止まる、読み取りエラーなどのトラブルが起きる。システム停止になることもあり、ユーザー側では対応できないトラブルも生じたので。
- 飛ぶノートでレポート返却できる点はありがたかったのですが、使用時にエラーが多く、使い方に

コツがいるようでした。そこに慣れたらより使いやすいと感じると思います。また、レポート返却時にコメントしようとする、レポートに手書きする必要がありますが、システムのフォームからコメントできる機能があればより使いやすいと思います。

- 授業前に開こうとしたが開かなかった
- 使ったことがない
- 慣れていないため使いづらいと感じた。
- 自分自身が Mahara のシステムに十分慣れていないため。
- 単に慣れの問題であって、反復利用すれば十分使いやすいものと思う。
- 慣れの問題だと思う。システムはしっかりしていたので、使っていくたびにやりやすくなると思う。
- まだ使ったことがない(?) ので意見を述べるできません。
- 飛ぶノートにて、教員コメントを添えた学生からのレポートを Mahara を用いて送付したが、その内容に関する十分な学生からの評価までは得られていない。
- 習慣化しないと、たまに入るとインターフェースに馴染めないです。

⑦その他、SIH 道場の実施支援に関わる取組について、特に役に立った点と改善点があればお書き下さい。

- 教員の計画表へのフィードバックをしていただきたい。それがないとやりっぱなしになる。
- 各プログラム(学部、学科、コース)で作成・利用したSIH道場資料を収集・整理して、フィードバックする必要があると思います。
- 早期体験は、学生にとって学修のモチベーションを高める点において良かったと思います。
- 授業を担当するにあたり、ルーブリックの使い方等新しい方法を学べて良かったです。今後も、定期的に新しい教授法やアクティブ・ラーニングを知ることは、大学教員にとって必要だと感じました。
- 学生の取り組みについて理解できたことが良かった。学部の教員がそれぞれ、SIH道場を知って、体系だった教育にかつようであれば 便利なのではないかと思った。これまでに大学教員が教授法を勉強する機会がほとんどなかったが、徳島大学ではその取り組みも多くあり、うれしく思う。一方で、それらに時間を割くことに心理的抵抗があることも確か。今回のSIH道場も、やってみてよかった。とは思うが、やる前は、時間がとられて嫌だなと思う。
- 教育スキルの改善云々だけで、実際の学生の資質向上はどのような風に改善されたのでしょうか。あるいはどのような風にそれを評価するのでしょうか。
- 自分も含めて、教員のトレーニングがまず必要な感じがします。

令和元年度 SIH 道場評価・改善ワーキンググループの活動まとめ

(1) ワーキンググループ設置趣旨

SIH 道場は、本学の新生全員が受講する初年次教育プログラムで、アクティブ・ラーニングについて、学生、教員が共に基礎スキルを修得し、学士課程全般にわたり実践していくための基盤となる取り組みである。大学教育再生加速プログラム（以下、「AP 事業」という）を遂行する上でも SIH 道場ではさまざまな視点から評価・改善を行っていくことが重要である。その一つの取り組みとして、学生と教職員双方の視点からの評価・改善に関わる WG を設置し、SIH 道場の成果や課題等について意見交換や議論を行い改善に繋げる。

(2) 設置する組織

AP 事業の支援部門である総合教育センターには、「教育について考え提案する学生・教職員専門委員会（以下、「専門委員会」という。）」が設置されており、専門委員会の背景・趣旨は「学生の声を教育改革に取り入れるために、学生と教職員が、教育の現状・課題について意見交換を行い、具体的な提案等を行う組織」となっている。SIH 道場に関する評価・改善 WG 設置の趣旨と専門委員会の趣旨が似通っており、また、専門委員会との活動と連動するところもあるので、平成 27 年度、専門委員会の下に、SIH 道場に関する評価・改善 WG を設置し、SIH 道場の評価・改善に関する議論を行った。このワーキンググループを令和元年度も継続し、令和元年度入学生を学生委員として活動を行った。

(3) ワーキンググループの活動

SIH 道場の各プログラム実施単位（※）から令和元年度入学生 1 名以上を選出し、計 23 名の学生委員が活動を行った。なお、ワーキンググループは、専門委員会の教員委員が中心となり運営し、10 月の間に学生委員を対象に SIH 道場に関するインタビュー調査を行った。令和元年 11 月 15 日の SIH 道場振り返りシンポジウムにおいては、SIH 道場評価・改善ワーキンググループの学生委員が意見を報告し、学生委員 2 名がディスカッションのパネリストの一人として壇上で質疑応答を行った（※詳細については本報告書「SIH 道場振り返りシンポジウムの概要」を参照）。次に、インタビューで学生委員から提案された意見の要点と今後のポイントを記載したまとめを示す。

※プログラム実施単位とは、次の学部・学科・専攻の単位である。

- ①総合科学部（4 コース合同）、②医学部医学科、③医学部医科栄養学科、
- ④医学部保健学科看護学専攻、⑤医学部保健学科放射線技術科学専攻、
- ⑥医学部保健学科検査技術科学専攻、⑦歯学部（2 学科合同）、⑧薬学部、
- ⑨理工学部社会基盤デザインコース、⑩理工学部機械科学コース、
- ⑪理工学部応用化学システムコース、⑫理工学部電気電子システムコース、
- ⑬理工学部情報光システムコース、⑭理工学部応用理数コース、
- ⑮生物資源作業学部（3 コース合同）

(4) 学生委員の意見と今後のポイント

早期体験	【得られた意見】 <職業体験> <ul style="list-style-type: none">● 5・6月に病院見学をした。(保健学科検査)● 実験してレポートをしたが再提出で細かい指摘があった。(電気電子)● 早期臨床体験を行った。改善点として、集合場所がアバウトで混乱した点、希望する場所に行けなかった点、担当者との連絡が取れなかった点などが挙げられる。(医学部)● 「先輩の声」では専門職の方から講義をうけることができた。職業を意識した学びに繋がった。図書館ツアーもあったが、目的が不明であった。(保健学科看護)● 釣りと測量体験を行った。測量体験については基本を教わった。(社会基盤) <研究室訪問> <ul style="list-style-type: none">● 研究室見学でグループワークを行った。(保健学科放射)● 9月末に研究室訪問があったが、学籍・出席番号順で案内され希望が通りにくく、実施する時期が遅い。(医科栄養学科)● 4人程度のグループで研究室訪問がありポスターセッションがあったのは良かった。(電気電子)● 5～6人のグループで研究室訪問を行った。複数個所を回り、教員の専門についての個人発表を行った。入学してすぐは専門知識もなく、希望を決めにくいため、実施時期を遅くしてほしい。(応用理数) <その他> <ul style="list-style-type: none">● 調べ学習で教員による指導があった。(保健学科放射)● 大塚美術館で作品見学を行い、グループワークで共有した後、発表したが、発表時間の確保・共有が後日のほうが良い。(総合科学部)● 事前学習をしたあと藍染め体験をした。美術館にも行って個人学習し発表した後、グループで発表をした。総括は藍染めが多くて良かった。(生物資源)● 4月下旬に地引網体験を通じてコース内交流を図った。取組内容と専門との関連性が不明だった。(応用化学)● 卒業生からの講演では、今後の勉強の参考になり、目標が明確になった。(薬学部)
-------------	---

	<ul style="list-style-type: none"> ● STEM 概論が中心で印象が薄い。将来の仕事や専門へのモチベーションアップにつながるような取り組みがあると良い。(機械科学) ● 情報光システムセミナーを受けた。(情報光)
	<p>【今後に向けて】</p> <p>早期体験について、所属コースの専門性と直結する内容である、または取組内容に関する目的がきちんと共有されている場合は学生間の満足度も高い傾向にある。個別具体的な改善点が指摘されている部分もあるため、今後の実施計画の際に考慮・検討されることが望ましい。</p>
<p>ラーニングスキル (文章力)</p>	<p>【得られた意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● レポートの基礎についてパワーポイントで発表があり、取り組みについて個別で報告があつて添削、指導された。(保健学科放射) ● 指導はなかったので実施してほしい(医科栄養学科) ● 10月末にコース全体レポートがあつたが、基礎を教わりたかつた。(保健学科検査) ● 体験について、mahara を利用したポートフォリオがあり、ビデオを見た。文字よりは良いが疲れた。(生物資源) ● レポートの基礎として、パワーポイントのまとめと、添削指導があつたが、スライドの字が読めなかつたので改善してほしい。(電気電子) ● 4月に読書レポートがあり、6月に提出であつたが期間が短い。引用の仕方や情報の取り扱いなど厳しいコメントがあつた。基礎の指導を充実させてほしい。(総合科学部) ● 今後の大学生活についての説明はあつたが、文章力についての指導は行われなかつた。他コースのように指導を受ける機会が欲しい。(応用科学) ● レポートの書き方に関する講義があつた。SIH 道場の取組・振り返りについてレポートを提出し、フィードバックも得られた。Manaba での成績分布も見ることができた。(医学部) ● グループワークと発表を行った後、レポートを書いた。レポートの書き方に関する説明は口頭で行われた。レポートに

	<p>対するフィードバックがあると良い。(保健学科看護)</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 企画ごとの感想レポートを提出した。レポートの書き方に関する指導や、レポートの内容に対するフィードバックがあると良い。(薬学部) ● レポートの書き方に関するビデオ視聴を行ったが動画へのアクセスが難しいと感じた。(情報光) ● 研究室訪問後にレポートを書いた。フィードバックは特になかった。(情報光) ● SIH 道場の感想レポートを書いて、教員によるコメントを貰った。レポートの書き方について基礎を教わりたい。(応用理数) ● スライドで講義と個人でのビデオ視聴で学んだ。レポートの書き方に関する課題があると良い。(機械科学) <p>【今後に向けて】</p> <p>入学してまもない頃であるため、レポートの書き方の基礎を指導されたいという声が多くあがっている。指導の有無のレベルから指導内容に関するレベルまでコースによって状況は異なるが、学生の文章力を向上させるためには、実際に文章を書き、フィードバックを受ける必要があるだろう。SIH 道場のテキストや LMS 等、既存の教材をうまく活用しながら、添削体制の充実が望まれる。</p>
<p>ラーニングスキル (プレゼンテーション力)</p>	<p>【得られた意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● パワーポイントで発表があり、教員からコメントがあった。(保健学科放射) ● 高校時代の経験があった、同級生同士で役割分担した。(医科栄養学科) ● チーム医療入門で発表の機会があった。(保健学科放射) ● 研究室訪問でのポスター発表があったが、3 分間にまとめるのが難しく、各グループに批評や専門性の高い質問がされ厳しかった。(電気電子) ● 早期体験について個人発表、グループ発表があったが、グループ発表は 40 分以内の準備が大変であった。教員のコメントは易しいが具体的な指導をしてほしかった。(生物) ● 資源グループでビブリオバトルを実施したが、フィードバック

	<p>クが少なく改善してほしい。また、1教室15グループに対して教員が1人だった。(総合科学部)</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 4月初め、「大学生活を豊かにする為に」というテーマのもと、グループワークを行った。10人程度のグループワークだったが、内容ややり方について説明不足であった。(薬学部) ● プレゼンテーションに対する指導はなかった(応用化学) ● 早期体験でプレゼンの機会はあったが、プレゼン方法に関する指導やフィードバックはなかった。ポスター発表の質疑がもっと活性化すると良い。(医学部) ● チーム医療入門ではポスター発表を行い、内容に関するフィードバックが得られた。(医学部) ● 既存のプログラムで既に充実していると思う。発表方法についてのコメントがあると良い。(医学部) ● 看護学専攻のみの時はフィードバックがあった。保健学科単位では講義を受けた。チーム医療入門で発表の機会が得られたが、グループワークであったため、発表する機会が限られていた。(保健学科看護) ● 4月初め、「大学生活を豊かにする為に」というテーマのもと、グループワークを行った。10人程度のグループワークだったが、内容ややり方について説明不足であった。(薬学部) ● プレゼン方法について入学前から指導、実践があった。他科目でも役立っていると思う(薬学部) ● プレゼン方法に関する講義等はなかったが、プレゼンに対するフィードバックは得られた。(社会基盤) ● ディベートを通じて自分の意見を主張する方法を学んだ。教員からのコメントがあり、良かった。(機械科学) ● プレゼンに関する講義を受けた。実際にプレゼンを行うにあたって、テーマが難しく意見が偏りがちになったり、学生数が多く発表に時間がかかったりするなどの課題があった。(情報光) <p>【今後に向けて】</p> <p>ほとんどのコースでプレゼンテーションの機会が与えられているものの、発表者がグループの代表者のみであったり、パフォー</p>
--	--

	<p>マンスに対するフィードバックがなかったりと、指導を受ける機会が限られているようである。これらの課題について1単位の中で解決することは難しいため、SIH 道場パフォーマンス科目等専門科目を活用した指導が求められる。</p>
<p>ラーニングスキル (協働力)</p>	<p>【得られた意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 学部全体での SIH を行った。4 月に保健学科、9 月に医学部、歯学部、薬学部がテーマについてグループワークを行い、発表した。(保健学科検査) ● 4 月に AI 医療がありグループ発表をし、9 月に緩和ケアがあった。(保険学科検査) ● 研究室見学があった。(保健学科検査) ● メンバーで協力して、調べ学習をした。(保健学科検査) ● テーマ発表があり、皆で意見交換をした。(保健学科検査) ● チーム医療入力があり、いろんな意見をブレインストーミングで出し、まとめた。(医科栄養学科) ● 初対面でグループワークをして、リーダーシップをとる人がおり、役割分担が円滑だったのは良かった。発言を促す工夫や拙い言葉でも良いから発言するなど積極性や主体性が重要である。(電気電子) ● グループワークを通して協調性を身につけたが、緊張感があり、アイスブレイクの時間があると良い。(総合科学部) ● 顔見知りのメンバーで自然にリーダーが現れたのが良かった。(生物資源) ● チーム医療入門では他学科との交流ができ、将来の見通しをもつことができた点が良かった。(医学部) ● 地引網を通じて交流を行った。地引網ができる人が限定されていた。周囲に気を配ることが大切だと学んだ。(応用化学) ● グループワークの機会を得て、自分の意見を言うこと、他人の意見を聞くこと、受け入れることの重要性を学んだ。(医学部) ● 新しい環境で緊張があったが、グループワークを通じて同級生と交流することができた。他者との協力の重要性を学んだ。(保健学科看護) ● グループワークではテーマについて議論を行った。リアクション(質問・反応)をすることの重要性を学んだ。こうす

	<p>ることで話しやすい環境作りができる。(薬学部)</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 入学して間もない頃で知らない人と仲良くなれるなど、実施の時期が良かった。土曜日が潰れないようにしてほしい。(機械科学) <p>【今後に向けて】</p> <p>協働力に関する取組では、おおむね受講者の満足度は高く、取組を通じて友達作りのきっかけになったことが述べられている。新入生がスムーズに大学生活を始められるよう、今後とも継続的に協働力に関する取組・指導を行っていくべきである。</p>
<p>その他</p>	<p>【得られた意見】</p> <p><ビデオ・テキスト教材の活用></p> <ul style="list-style-type: none"> ● テキスト：要点がまとめられていた。記述の引用に利用した。紙媒体なのがよかった。持参したが使う機会が少なかった。 ● ビデオ：内容は良く、文字よりもわかりやすかった。映像で学べるのが良かった。クイズも勉強になった。 ● レポートの書き方に関するビデオ教材は案内があった。テキストは使っていない。(機械科学) ● テキスト・ビデオを利用していない。(生物資源) ● テキストの紹介はされた。ビデオ教材を見た。レポートの書き方やプレゼンの方法に関するイメージできた。(歯学部) <p><LMS の活用></p> <ul style="list-style-type: none"> ● Manaba：連絡や資料共有、提出物管理がなされていたので毎日使用した(医学部)(情報光) SIH 道場以外の科目で使用した(応用化学) 使用していない(保健学科看護)(薬学) ● Manaba などを使う科目が少なく、端末の活用ができない。 ● ポートフォリオを活用(生物資源) ● LMS の利用(生物資源)(総合科学部) ● Mahara を使用。使いやすかったが、Wi-Fi が弱いところがあった。(生物資源) ● SIH 道場で LMS は使用していないが、他科目では使用した(機械科学)(歯学部) <p>【今後に向けて】</p> <p>SIH 道場のテキストやビデオ教材の利用状況はコースによって様々だが、必要に応じた活用がなされていることが望ましい。例えば、SIH 道場の授業内でプレゼン方法やレポートの書き方に</p>

	<p>関する講義を設けることが難しいコースは、事前にビデオの視聴やテキストによる自習を推奨することで、講義に代えることができる。このような活用が実現するよう、授業担当者間への周知を徹底させたい。</p>
--	---

3-3. 「SIH 道場～アクティブ・ラーニング入門～」の取組と課題

—大学教育再生加速プログラム（AP）実施専門委員会委員による報告—

1) AP 実施専門委員会委員による報告の趣旨

SIH 道場授業設計コーディネーターは、SIH 道場の終了後に、次年度のプログラム改善に向けて、「プログラム設計評価シート」のフォーマットに基づき、次年度の改善に向けた振り返りを行う。各学部の大学教育再生加速プログラム実施専門委員会委員は、各学部学科の SIH 道場プログラムについて、授業設計コーディネーターが作成した「SIH 道場授業設計表」「SIH 道場授業詳細」や「SIH 道場プログラム設計評価シート」の記述を参照しながら、取組概要、成果（受講学生と担当教員が SIH 道場を通して身につけたこと）、今後の課題（プログラム設計・授業運営、その他について）を報告する。本報告は、次年度の SIH 道場授業設計コーディネーターがプログラム改善を行う際の資料となるだけでなく、大学教育再生加速プログラム事業全体の自己評価の資料の一つにもなる。

2) 各学部・学科の取組と報告者

<SIH 道場実施報告者（授業設計コーディネーター）>

総合科学部	総合科学部	教授	佐藤 裕
医学部	医学科	教授	西村 明儒
医学部	医科栄養学科	教授	二川 健
医学部	保健学科看護学専攻	教授	友竹 正人
医学部	保健学科放射線技術科学専攻	教授	芳賀 昭弘
医学部	保健学科検査技術科学専攻	准教授	濱野 修一
歯学部	歯学科	教授	吉村 弘
歯学部	口腔保健学科	教授	尾崎 和美
薬学部		教授	山田 健一
理工学部	社会基盤デザインコース	教授	上月 康則
理工学部	機械科学コース	准教授	大石 昌嗣
理工学部	応用化学システムコース	教授	安澤 幹人
理工学部	電気電子システムコース	助教	川上 烈生
理工学部	情報光システムコース	准教授	岡本 敏弘
理工学部	応用理数コース	教授	三好 徳和
生物資源産業学部		教授	長宗 秀明
医療教育開発センター		准教授	吾妻 雅彦

総合科学部 社会総合科学科
「SIH 道場～アクティブ・ラーニング入門～」の取組と課題

氏名：佐藤 裕

1. 取組概要

早期体験の取り組みに関して、西洋絵画の見方についての講義を受講し、それをふまえて大塚国際美術館を訪問し、事前に学んだ「デスクリプション」の方法によりひとつの作品を文章により記述する取り組みを、4月初旬のSIH 道場にて実施した。

文章力に関しては、レポートの書き方、メディア・リテラシーに関する内容を「SIH 道場」および「総合科学入門講座」を通じて学ぶ取り組みを実施した。具体的な取り組みは、授業内容のレポート、読書レポートなどの課題を通して、担当教員によるコメント、ルーブリックによる評価を行なうという内容であった。

なお、後期開講科目で現在実施中の「課題発見ゼミナール」また、その他の授業や、早期体験、総合科学入門講座の授業において、グループワークによる共同学習、発表準備、プレゼンの実施を通してプレゼン力、協働力を養っている。

2. 成果（受講学生と担当教員がSIH 道場を通して身につけたこと）

（学生）学生アンケートの結果から、文章力・プレゼン力・協働力が身についたことが伺え、特に95%の学生がSIH 道場で学修した「文章・レポートの書き方」は役に立っていると回答しており、教員からもSIH 道場の成果として学生の文章力向上が挙げられている。

（教員）eラーニングシステムやルーブリック評価の活用を新たに実施する教員が存在し、それらにより、客観的評価や学生への振り返りの促し等、教育的スキルの向上が成果として挙げられる。

3. 今後の課題（プログラム設計・授業運営、その他について）

早期体験をはじめ、4月1週目に集中講義として実施される内容の修得において、スケジュールがタイトであるため、学生の学修に影響している可能性がある。

また、各学修内容の評価方法について、複数の評価者がいる場合に客観性が保たれているか疑問であるため評価法を改善する必要性が示唆される。

4. 「SIH 道場振り返りシンポジウム」における議論を経た新たな気づきや今後の課題

他学部の取り組みを知ることができ、当学部の今後の取り組みに応用できる内容に関心をもった。特には、社会基盤デザインコースの宿泊研修による取り組みが興味深かった。また、学生の視点に立ったアクティブ・ラーニングの設計の重要性を感じた。

医学部医学科

「SIH 道場～アクティブ・ラーニング入門～」の取組と課題

氏名：西村 明儒

1. 取組概要

1年生において、新入生オリエンテーションで省察をテーマとしたワークショップを行い、ついで、早期臨床体験実習(5月)ならびに多職種連携ワークショップ(9月)を行った。省察をテーマとしたワークショップでは、これまでの人生、学修を振り返り、今後の学修へのモチベーションを高める。また、未来の自分へ向けて手紙を書き、2年生での省察をテーマとするワークショップの端緒の1つとして、活用し、省察を深める。早期臨床体験実習では、事前学習、診療現場見学およびワークショップ形式の振り返り学習によって、医師の役割・業務内容、必要とされる能力、それらと関連づけた大学での学習について学生が理解することを目指す。臨床現場見学は、早期体験として学修の動機付けをはかり、ワークショップでは、協働力およびプレゼンテーション力を伸ばし、振り返りレポート作成では、文章力の向上をはかる。さらにこれら一連の学習によって、学修振り返りの方法を学ぶ。多職種連携ワークショップでは、蔵本地区の3学部7学科3専攻で医療関係職種を目指す1年生に対して、緩和ケアを実践している講師による講義の後、緩和ケアをテーマとして、少人数グループでのワークショップを行った。講義による疑似体験をもとに、協働力およびプレゼンテーション力とともに課題発見能力の向上をはかる。

2. 成果（受講学生と担当教員がSIH道場を通して身につけたこと）

（学生）

- 1) 医師の役割・業務内容、必要とされる能力について説明できる。
- 2) 医学科における学習目標について説明できる。
- 3) 診療現場でのルールを理解し、遵守できる。
- 4) KJ法を用いたグループワークを行える。
- 5) グループで協働して意見をまとめ、プレゼンテーションできる。
- 6) 自らの学修経験に基づいて、自分の考えを文章にまとめることができる。
- 7) 学修経験に基づいて振り返りを行い、今後の学修計画を立てることができる。
- 8) 人生や生活を振り返り、自分にとって大切な価値観を認識することができる。

（教員）

- 1) 診療現場で学生に対し、早期体験を実施できる。
- 2) KJ法を用いたグループワークを実施できる。
- 3) 協働力、文章力およびプレゼンテーション力をルーブリック評価できる。
- 4) アクティブ・ラーニングの目的と方法について理解し、実践できる。

- 5) ティーチング・ポートフォリオの作成方法について理解し、作成できる。
- 6) 学生に振り返りの重要性を説明できる。

3. 今後の課題（プログラム設計・授業運営、その他について）

- 1) 臨床現場見学では、診療科による時間の長さや内容に差があるが、病名や診療手技が重要なのではなく、個々の症例から医師の役割や業務内容、必要とされる能力を一般化して理解することが重要であるなど、目的や意義を前もって担当の教員同士が共有しつつ調整する必要がある。
- 2) 文章力やプレゼンテーション力の向上をはかるため、ワークショップの機会を増やし、SIH 道場テキストを十分に活用する。
- 3) 協働力やプレゼンテーション力について、学生の理解を深めるために学生同士のピア評価の実施を検討する。
- 4) 学修振り返りについての理解が十分ではないため、新入生オリエンテーションで、省察をテーマとしたワークショップを新たに実施した。

4. 「SIH 道場振り返りシンポジウム」における議論を経た新たな気づきや今後の課題

SIH 道場と同時期に受講している教養科目のほとんどが、未だ旧態の座学・講義型であり、SIH 道場の活動が生かせていない。学生、個人個人においても、SIH 道場以外の科目で予習や振り返りなどの学修行動が有効に実行できていない。

※ 写真（授業の風景や学生の成果等）を適宜、貼り付けて頂いてもかまいません。

医学部医科栄養学科
「SIH 道場～アクティブ・ラーニング入門～」の取組と課題

氏名：二川 健

1. 取組概要

研究室早期体験により専門教育および研究活動への関心を高める。SIH道場を通じて、基本的な文章力、プレゼンテーション能力および医療現場で必要とされる協働力を学修する。また、学修における振り返りの重要性を知る。

2. 成果（受講学生と担当教員がSIH 道場を通して身につけたこと）

（学生）

SIH の名称のとおり、一年生のうちに専門の教員がつきっきりで指導すると、熱心に話を聞いてくれたり、興味を持ってくれたりする学生が増えることがわかった。自分たちが普段ふつうに行っている実験に学生が興味津々となりいろいろと質問してくれるのは、教員としても教え甲斐がでてくるので、相乗効果となって表れたのではないだろうか。

（教員）

教育に時間をかければ、学生はそれに応じてきちんと対応してくれるようになることは実感できた。しかし、現実には教育にかけられる時間はどんどん少なくなってきている。

3. 今後の課題（プログラム設計・授業運営、その他について）

準備状況も含めて教員の負担を可能な限り減らす企画運営が必要と考える。一つ新しいことをするのなら、一つ古いことを止めるというふうにししないと実際の教育に割けるスタッフの時間が益々少なくなる。来年度の入試制度の変革に合わせて、高校の教育方式も結果よりも課程を重視したものに変わるそうである。いずれ大学もそのような教育方式が主流となるだろう。その主旨はよくわかるのだが、この教育方式は学生一人にかかる時間がこれまで以上に必要である。教員数は減らされているのに、教育にかかる時間が増えるのだから、いずれどこかでパンクしてしまうのは目に見えていると思う。というようなことを、生物科学連合会主催の「高校の生物の授業をどうするか」というシンポジウムで、ある高校の先生が文科省の方に尋ねていました。そうすると文科省の方は「現場で工夫してください。」との返事でした。また、年配の70才くらいの元教師の方から、「そういうのは教師のやる気の問題です。」と堂々と精神論を述べられていました。行き着くところは精神論となると、このようなことをやる意味は無くなってしまいうように思いがっかりしたしだいです。

4. 「SIH 道場振り返りシンポジウム」における議論を経た新たな気づきや今後の課題

このプログラムに関する問題ではないが、独法化以降の問題点を端的に指摘しているある大学教員の提案書を添付します。日本の大学力（教育力、研究力）や学生の質が低下していることを現場の教員は肌で感じております。教育の質を上げないと学生の質も上がらないことは充分理解しています。しかし、学生とのコミュニケーションに割く時間がどんどん減っているのが現状です。それを根本的に解決できる施策が必要ではないのでしょうか。

※ 添付書類は次ページ。

学生とのコミュニケーション不足



工学博士 塚本 寛
九州工業大学大学院
生命体工学研究科 教授

地方国立大学で教育と研究をしている我々の研究室での話である。

ここ数年、大学院生でありながら研究室にこない学生が現れた。電話やメールで来るよう促しても来ない。止むを得ず、親に連絡を取り、取り敢えず、来させる。やっと現れるが、長くは続かない。こんなことを繰り返し、やがて大学を辞める。あるいは、やっとのことで修了する。研究に興味を湧かず、研究室に出掛ける意欲が欠けているのか。学生の気持ちを知りたい。

研究室の雰囲気がおかしい。学生達の間で気の合う仲間だけのグループが出来上がっている。派閥抗争と騒ぐほどではないが、グループに属さない学生との間が不透明である。何かと、グループで一塊になる。いきおい、グループ外の者は研究室から足が遠のく。グローバル化が叫ばれるときに、異文化集団を許容できないのか。学生たちと話し合いたい。

常日頃から、「ハウレンソウ（報告・連絡・相談）」と口を酸っぱくして言っている。しかし、定期的な連絡や相談はなく、トラブル発生とか期限間近とか土壇場になってからやって来るケースが多い。結局、時間切れで何事も中途半端に終わる。こんな状況では、とても、学生を当て込んだ産学連携の共同研究なんぞ企画できない。学生とのコミュニケーション不足は深刻である。

こんな状況に陥ってしまっ、反省させられる。学生たちに接する時間が足りないのだ。若い頃は学生と触れ合う機会も時間も多かったが、年と共に、学生との距離も開き、接する機会も時間も大幅に減ってしまった。研究科長など学内行政に係わっている間に学生と接する時

間が少なくなってしまったのが痛い。学生には、講義や試験に加え、教員による個人授業が重要であることは十分認識して、それに応えるのが、研究室における研究活動のはずであった。我々と学生の研究室での交流は、人材育成のみならず、研究成果の向上にもつながる。ところが、我々の方は、今や、それ処ではない。

大学の教育研究や管理運営に競争原理が導入され、大学設置基準の大綱化（＝規制緩和）、大学院重点化、国立大学の法人化、大学評価基準の実施など、大学をめぐる状況の変革が著しい。それらに対応した業務が加わり、我々教員は大変である。研究費の配分についても、以前の一律配分方式では、最低限の教育研究はできるという一定の安心感があった。今や、均等配分型の子算は縮小され、科研費などの競争資金の獲得に失敗すると直ちに研究に支障を来すようになって、研究室崩壊の危険に晒されている。研究費のある程度の集中投下は必要だが、研究費がゼロになって研究室そのものが崩壊してしまうのは問題である。かくして、各種予算獲得のために時間を割かざるを得ないこととなる。それだけ学生と接する時間が削られることとなる。人材育成には明らかにマイナスだ。

このような状況は地方国立大学で教育研究を行う我々の研究室だけの現象と思いたい。

英国のケンブリッジ大学は教育と研究のバランスが良いことで有名で、ケンブリッジ大学の強さの源泉は「教授と学生の近さ」にあると何かで読んだ。通常の講義や試験が行われるユニバーシティ(大学)とカレッジ(学寮)制度があり、カレッジでは教授による個人授業を柱にしていると言う。この制度によって優秀な人材が育つので、ここから優秀な人材や新しい技術の芽を得ようと、ケンブリッジ近隣に進出する企業がどんどん増えているそうだ。日本企業との産学連携も活発なのはご承知の通りである。

たとえ状況は厳しくとも、我々は、学生とのコミュニケーションに、極力、時間を割くべきであろう。自戒の意味をこめてこの小文を記す。

医学部保健学科看護学専攻 「SIH 道場～アクティブ・ラーニング入門～」の取組と課題

氏名：友竹 正人

1. 取組概要

看護学専攻の新生が、大学における学習について理解するとともに、自身の専門分野における先輩からの仕事や研究に関する講演を通して、興味関心を喚起し、徳島大学における学習・研究に対する動機づけを行う。また、学習の基本となる文章の書き方、プレゼンテーションの仕方、振り返りの仕方を学び、それらを自分自身で実践することで、大学における能動的な学習の基本となる知識、技能、態度を身につける。

2. 成果（受講学生と担当教員が SIH 道場を通して身につけたこと）

（学生）

（1）自身の専門分野における現場と大学における学習について、関連させて説明することができる。

（2）論理的文章の作成・レポートの作成において、注意すべき点について1つ以上説明することができる。効果的なプレゼンテーションを行うための基本的な手法・ツール等を1つ以上説明することができる。他者と協同して1つの課題に取り組むことができる。

（3）自身の学習活動を振り返る習慣を身につけることができる。

（教員）

（1）協働力、文章力、プレゼンテーション力のルーブリック評価を行うことができる。

（2）アクティブ・ラーニングの目的と方法について理解し、実践することができる。

3. 今後の課題（プログラム設計・授業運営、その他について）

学生から提出されたレポートの評価を教員間でどのように共有するかが今後の課題と考えられる。

4. 「SIH 道場振り返りシンポジウム」における議論を経た新たな気づきや今後の課題

アクティブ・ラーニングの重要性をより深く理解することができた。しかし、看護学専攻は卒業後に国家資格の取得を目指すことが最も重要な目標であるため、従来型の講義形式で基礎的な知識を学ぶことも必要であり、アクティブ・ラーニングを取り入れる科目を慎重に選択する必要があると思われる。

医学部保健学科放射線科学技術専攻 「SIH 道場～アクティブ・ラーニング入門～」の取組と課題

氏名：芳賀 昭弘

1. 取組概要

本学放射線技術科学専攻新入生が大学における学修について理解するとともに、自身の専門分野における先端研究の体験を通して、興味関心を喚起し、徳島大学におけるその後の学修・研究に対する動機づけを行った。また、学修の基本となる文章の書き方、プレゼンテーションの仕方、協働の仕方および質疑応答・議論の仕方について短期研究室体験を通して学ぶことで、大学における学修の基本となる知識、技能、態度の向上を図る取り組みを行った。



短期研究室体験報告会の風景

2. 成果（受講学生と担当教員がSIH 道場を通して身につけたこと）

（学生）

SIH 道場を通して、学問への取り組み方、文章の書き方、プレゼンテーションの仕方、協働の仕方および質疑応答・議論の仕方を学ぶことができた。

（教員）

授業設計の中で、自らが考えたり積極的に質疑応答をさせることを奨励することにより、学生が自発的・能動的に取り組む環境が生まれる。

3. 今後の課題（プログラム設計・授業運営、その他について）

短期研究室体験において、学生を小グループに分けることにより、短期研究室訪問の体験内容の差が生じている点は改善する必要がある。

4. 「SIH 道場振り返りシンポジウム」における議論を経た新たな気づきや今後の課題

短期研究室訪問の際の担当教員間の事前打ち合わせは今後検討すると良い。また、常に学生に立場にたって授業を運営していくことが重要であると思われる。

医学部保健学科検査技術科学専攻
「SIH 道場～アクティブラーニング入門～」の取組と課題

濱野修一

1. 取組概要

- ・大学院オープンキャンパスへの参加、先輩からのメッセージ、病院見学などの早期体験を実施
- ・保健学科全体でのグループワークなどで協働性を体験
- ・プレゼン力については自己紹介など基本だけを、応用は2年以降での指導計画としている。
- ・各学習についてのレポート作成で文章力を養った

2. 成果（受講学生と担当教員がSIH道場を通して身に着けたこと）

（学生）

大学院オープンキャンパスへの参加、病院見学などで自分の将来を考えるきっかけができた。レポート作成方法、グループワークで多くの知識を得ることができた。

（教員）

専門を教えるだけでなく、学生に考えさせることの重要性を知ることができた。

3. 今後の課題（プログラム設計・授業運営、その他について）

臨床現場へのアプローチ、先輩からのメッセージで、日々忙しい外部の方々へのボランティア依頼の難しさを感じた。

4. 「SIH道場振り返りシンポジウム」における議論を経た新たな気づきや今後の課題

毎年担当教員を変えることに意義があるように言っていたが、単発では成果が少ないと思った。今年の問題点が来年に続いていかない気がする。専任的に何年か担当した教員が、他の教員に教えていく方が成果が出る気がした。

また、2年生以降の学生の振り返りについての検討がされておらず、一番重要なところが抜けているように思われた。

歯学部 歯学科・口腔保健学科
「SIH 道場～アクティブ・ラーニング入門～」の取組と課題

氏名：吉村 弘・尾崎 和美

1. 取組概要

早期体験として「相互歯磨き学習」、「研究室体験」、「診療現場体験」を取り入れ、文章力・プレゼン力の向上を目標として「読書レポート」「PBL/TBL 入門」を実施した。協調力に関しては「新入生研修」を通して他者と協調して一つの課題に取り組んだ。これらのコンテンツを通して学びのモチベーションアップのきっかけとした。

2. 成果（受講学生と担当教員がSIH道場を通して身につけたこと）

（学生）「早期体験」では、基本的マナー、コミュニケーション力、ホスピタリティー、研究マインドの必要性を理解し、「アカデミック・ライティング入門」ではフィードバックを通して文章の論理性、文章構成力の向上に努めた。「PBL/TBL 入門」では問題点の抽出や設定での論議を体験した。「チーム医療入門」では、多方面の視点から結論に到達するプロセスを通して、一定程度その手法を身につけ、加えてそれを乗り越えた達成感も得られたようである。

（教員）歯学部では教員 45 名が SIH 道場に参加し、各作業（説明 FD や WS）に全員が参加できなかったものの、何らかの形で説明を受けており総じて SIH 道場の趣旨を理解してくれたと考えられる。また多くの講義で、振り返り時間と e-ポートフォリオ・レポート、もしくは独自のレポートを課し、それらに対するフィードバックを行うことで定着してきているようであった。

3. 今後の課題（プログラム設計・授業運営、その他について）

「コミュニケーション力」ではグループ間での情報共有が不十分な学生が散見された。SIH 道場で学んだことをどれだけ学生生活の中で実行できているかを評価するシステムも必要と感じる。総じて学生からは SIH 道場は好意的に受容されているものの、学生個人の「アクティブさ」に依存する部分が多い。また、教員側からのレスポンスが遅い、少ないなどの傾向があり、学務・教員側のさらなる努力の必要性を再認識した。なお、将来臨床現場に出る学生には、感染症対策の観点から抗体価のチェックやワクチン接種の意義を理解することも必要で、これを達成するプログラムを今後策定することを視野に入れる。

4. 「SIH 道場振り返りシンポジウム」における議論を経た新たな気づきや今後の課題

教員側が学生にアクティブ・ラーニングの課題を与えた瞬間にある程度の学生側からのアクティブさは失われる。今後、アクティブ・ラーニングのアクティブさのレベルを段階的に設定し、最終的に自らが問題を抽出し考え行動できるレベルに到達できるような課題を作成する必要がある。

薬学部（共通）

「SIH 道場～アクティブ・ラーニング入門～」の取組と課題

氏名：山田 健一

1. 取組概要

早期体験として薬学科は「薬局で働く」、創製薬科学科は「働くってなに？」と異なる講演を聴講した。また全国薬害被害者団体連絡協議会（薬被連）講師2名と弁護団による「薬害について」と「B型肝炎について」の講演および、映画「薬学の祖を学ぶ～ころざし～」を視聴した。これらを通して薬剤師や創薬研究者としての具体的なイメージや薬物の内包する「薬・毒」の両義性を理解した。またチーム医療入門として基調講演「緩和ケアの現場におけるチーム医療」を聴講した後に、医学部や歯学部学生とともにワークショップを行いその成果を発表した。さらに昨年度からは2年次の「薬理学実習」をパフォーマンス科目に当て、実習に関して振り返りを行ってもらった。

2. 成果（受講学生と担当教員がSIH 道場を通して身につけたこと）

（学生） 早期体験を通して薬剤師や創薬研究者としての具体的なイメージおよび、薬物の内包する「薬・毒」の両義性を理解した。またチーム医療入門ワークショップを通して自分自身に関する紹介やプロダクト作成中の発言や意見交換などを積極的に行った結果、文章力・プレゼンテーション能力・協働力についての到達目標をクリアーしたと考える。

（教員） 学生の振り返りレポートの評価作業を通して一連のSIH 道場授業全体の把握することができた。

3. 今後の課題（プログラム設計・授業運営、その他について）

薬学科の学生も製薬企業で働く可能性もあるため、「働くってなに？」に関しては創製薬科学科のみならず薬学科の希望者にも聞かせるのも良いかもしれない。創製薬科学科の学生は将来チーム医療の現場に直接かかわることはないものの、それらの学生もチーム医療入門ワークショップを有意義な経験とポジティブに捉えているようだった。しかし「専門分野の早期体験」に合致するか少々疑問を感じる。将来医療の現場に直接かかわることはない創製薬科学科の学生も積極的な意義を見だし参加できるような内容を盛り込めれば本プログラムの価値はさらに高まるのではないかと。

4. 「SIH 道場振り返りシンポジウム」における議論を経た新たな気づきや今後の課題

文章としては良く書けていたとしても、どうしても感想文の域を出ていないレポートも多い。例えば「良く書けている例」「悪い例」など具体例を事前に示して解説するなどの対応を検討したい。

理工学部理工学科機械科学コース
「SIH 道場～アクティブ・ラーニング入門～」の取組と課題

氏名：大石 昌嗣

1. 取組概要

学習の基本となる文章の書き方、プレゼンテーションの仕方および振り返りの仕方を学び、それらを実践することで大学における能動的な学習の基本となる知識、技能、態度を身につける。具体的なプログラムとして、大学入門講座集中研修においてディベートを行うことで論理的な思考能力とプレゼンテーション能力を養う。また、コース専門科目の機械科学実験（授業科目「機械科学実験1」）を通して機械工学分野のエンジニアとして必要な技術を早期に修得することを目指す。

2. 成果（受講学生と担当教員がSIH 道場を通して身につけたこと）

（学生）「機械科学実験1」を通して機械工学分野のエンジニアとして必要な技術を早期に修得することができた。さらに、「機械科学実験1」の実験テーマごとに課すレポート、大学入門講座を振り返るレポート、「レポートの書き方」で課した人生設計を考慮した学生生活に関するレポートと複数回のレポート作成を行うことで、自らが果たした役割、反省点などを客観的に振り返る文章を書くことができるようになった。大学入門講座集中研修で実施したディベートを体験することで、論理的な思考能力とプレゼンテーション能力を養うことができた。

（教員）ルーブリックを使った客観的な評価が可能になった。これにより、複数の教員の評価に対しても公平性を確保することができるようになった。数多くのレポートを厳密に採点、評価コメントを残すことで、レポート評価能力が格段に向上した。

3. 今後の課題（プログラム設計・授業運営、その他について）

大学入門講座で行う集中研修では、振り返り学習やコミュニケーション力、論理的な記述力などの重要性を認識する入門的な内容であったが、これを浸透させるには継続的な指導が必要である。実験のレポート採点時などが継続的な指導の機会となるので上記のような能力を高めるよう折に触れ指導することが必要である。

4. 「SIH 道場振り返りシンポジウム」における議論を経た新たな気づきや今後の課題

学生さんから、提出したレポートの評価結果を教えてくださいとのコメントがあった。今回、SIH 道場において提出されたレポートは、ルーブリックを使って評価を行ったので、その結果を学生さんに伝えて、今後のレポート作成のためにフィードバックする方法を検討すべきだと感じた。

理工学部理工学科応用化学システムコース
「SIH 道場～アクティブ・ラーニング入門～」の取組と課題

氏名：安澤 幹人

1. 取組概要

(1) 4月第1週に、導入教育として、教務委員およびSIH担当教員から、①大学での学修と心構え、②コースの教育理念、目標、教育課程、4年間のカリキュラムの流れ、③SIHプログラムに関するガイダンス、オリエンテーションを行った。

(2) 4月20日(土)に実施した日帰り校外学習において、会場の設営、片付けなどをクラス全員で行わせ、協働の訓練の一環とした。またこの校外学習を、入学直後のクラスメート達と慣れ親しむための手助けとした。

(3) 半年間の講義科目「STEM演習」の時間を用いて、学生3～4名の小グループによるグループ研究を行った。ここで各グループには1人の教員をアドバイザーとして配し、化学に関連するテーマを一つ自由に選定し、そのテーマに関する自由研究を行わせ、その結果について要旨を作成し、メンバー全員による15分間のプレゼンテーションを行った。その後、SIH担当教員から、理科系の作文技術、実験レポートなどのテクニカル文書の作成上の注意などに関する講義を行い、その内容を考慮して、再度自由研究の要旨を作成、提出させ、アドバイザー教員による採点、助言を行った。

いずれの取り組みにおいても、ルーブリック評価表を活用して自己評価を行った。

2. 成果（受講学生と担当教員がSIH道場を通して身につけたこと）

(学生) 入学式と同じ週という早い段階で、大学での学修と心構えに関して、高校とは全く異なるということを自覚できた。特に、高校の学習内容では既に答の分かっていることがほぼすべてを占めているのに対して、大学で扱う内容は答が分かっていることと分からないことの両方があり、前者は後者のための準備に過ぎないことを自覚できた。グループ学習では、協働作業の重要性の認識、文書作成とプレゼンテーションの訓練ができた。

(教員) 従来、学生から教員に一方的に内容を教える、伝える教育ではなく、学生の自主性を引き出しつつ、またフィードバックをかけつつ、学生の理解を深めていくプロセスを経験することができた。

3. 今後の課題（プログラム設計・授業運営、その他について）

特になし。来年度も同様の内容で行う予定である。

4. 「SIH道場振り返りシンポジウム」における議論を経た新たな気づきや今後の課題

シンポジウムでは、以上の内容についてポスター発表を行った。ポスターへの来訪者による質問や議論があったが、新たに得られた気づきや今後の課題などは特になかった。

理工学部理工学科電気電子システムコース
「SIH 道場～アクティブ・ラーニング入門～」の取組と課題

氏名：川上 烈生

1. 取組概要

当コースでは、STEM 演習と連携し、SIH 道場の第 1 回・第 2 回では、文章力、プレゼン力、協働力に関する講義を行い、早期体験、文章の書き方、プレゼンテーションの仕方、協働力、振り返りについて、自作スライドや SIH 道場テキストを用いて、学生の反応を見ながら授業を行った。授業外でも内容の理解を深めるため、SIH 道場のビデオ視聴を案内した。授業後には、e ポートフォリオの Mahara を使い学修の振り返りを行った。学修効果を高めるため、教員も Mahara 上にコメントを書くよう努めた。

早期体験（研究室見学）のための班分け（3-4 名からなる 1-27 班）を行い、特にプレゼンテーションと協働力等について班員間で議論を行いアクティブラーニングを実践した。研究室見学の報告を各班がポスター発表で行った。一方、すべての班のポスターを聴講し、他班の発表内容の評価も行い内容の理解を深めた。発表内容の評価も Mahara から提出させ、学修効果向上のため教員コメントを学生へフィードバックするよう努めた。

STEM 演習では、専門分野習得の基礎力として、物理実験に関する取り組み方やレポートの書き方に関して担当教員から毎週添削を受けることで、SIH 道場の文章力に関するスキルを身に付けている。

2. 成果（受講学生と担当教員が SIH 道場を通して身につけたこと）

（学生）アクティブ・ラーニングの基礎知識や実践方法が得られた。特に、文章力に関しては、STEM 演習を受講する前後で大きく成長していることが確認できた。プレゼン力と協働力は、第 3 回のプレゼン発表において確認できた。

（教員）アクティブ・ラーニングの基礎知識や実践方法が得られた。また、Mahara を使ったレポート提出により、LSM を使った e ラーニングシステムを利用することができた。

3. 今後の課題（プログラム設計・授業運営、その他について）

e-ポートフォリオである Mahara に対する学生の理解度（特にアクセスリストの理解）が悪く、提出況が決してよくなかった。Mahara 上で特定の学生を検索するツールがなく、107 名の学生の中から特定の学生を順次検索するのに時間を要した。検索性能が向上すれば、良い教育アプリになるのではないかと思う。

4. 「SIH 道場振り返りシンポジウム」における議論を経た新たな気づきや今後の課題

振り返りシンポジウムでは、教育の質を向上させるため、教員だけでなく学生からのポスター発表が欲しいと思った。



発表会の様子

徳島大学 Tokushima University				
クラッシュボード コンテンツ マイポートフォリオ グループ				
電気磁子SIH道場：プレゼン評価のコピー				
<p>1-5班</p> <p>11班 研究内容：半導体プロセスエレクトロニクス (河上先生) 観念① (A,B,C) : B 観念② (A,B,C) : A 観念③ (A,B,C) : A コメント：図の使い方が上手かった。最近まで具体的な図解が必要だったのでうまく図解の導入ができて良かった。 観念点 (A,B,C) : A</p> <p>2班 研究内容：デバイスと材料物性 (藤井先生) 観念① (A,B,C) : A 観念② (A,B,C) : A 観念③ (A,B,C) : A コメント：スライドには図解が添えていて内容を理解できていた。図解あける際の操作やアニメーションを引きつけるようにしたので良かった。 観念点 (A,B,C) : A</p> <p>3班 研究内容：物性デバイス (徳島大) 観念① (A,B,C) : B 観念② (A,B,C) : A 観念③ (A,B,C) : B コメント：スライドの背景と文字の色が揃って美しく見やすかった。図解は簡潔だった。</p> <p>4班 研究内容：ナノ構造による光電変換素子の製造とデバイス応用 (長岡先生) 観念① (A,B,C) : A 観念② (A,B,C) : A 観念③ (A,B,C) : B コメント：自分たちにとってこれから学ぶようなことが簡単にわかるように書けて、理解できていた。スライドが凝っていたのでよりわかりやすかった。 観念点 (A,B,C) : A</p> <p>5班 研究内容：半導体デバイス 観念① (A,B,C) : A 観念② (A,B,C) : A 観念③ (A,B,C) : A コメント：この図はしっかりと理解するスライドと図解に添えている。スライドをうまく使い分け、凝縮しながら書いていたのが良いと思った。 観念点 (A,B,C) : A</p>	<p>6-10班</p> <p>6班 研究内容：クラフフォン 観念① (A,B,C) : A 観念② (A,B,C) : A 観念③ (A,B,C) : A コメント：自分たちの図は漢字や点でグラフや図をわかりやすく、同じ資料でやったとは異なる。図解がよかったです。 観念点 (A,B,C) : A</p> <p>7班 研究内容：高分子材料の合成 観念① (A,B,C) : A 観念② (A,B,C) : A 観念③ (A,B,C) : A コメント：図と図解と文字の使い方がよくて、図解に添えていた。図解がよいと思った。 観念点 (A,B,C) : B</p> <p>8班 研究内容：半導体の物理特性 観念① (A,B,C) : B 観念② (A,B,C) : A 観念③ (A,B,C) : A コメント：図と図解と文字の使い方がよくて、図解に添えていた。図解がよいと思った。 観念点 (A,B,C) : B</p> <p>9班 研究内容： 観念① (A,B,C) : A 観念② (A,B,C) : A 観念③ (A,B,C) : A コメント：図と図解と文字の使い方がよくて、図解に添えていた。図解がよいと思った。 観念点 (A,B,C) : A</p> <p>10班 研究内容：液晶 観念① (A,B,C) : B 観念② (A,B,C) : A 観念③ (A,B,C) : A コメント：図と図解と文字の使い方がよくて、図解に添えていた。図解がよいと思った。 観念点 (A,B,C) : A</p>	<p>11-15班</p> <p>11班 研究内容：自動車運転 観念① (A,B,C) : A 観念② (A,B,C) : B 観念③ (A,B,C) : A コメント：シミュレーションがわかりやすく、図解に添えていた。図解がよいと思った。 観念点 (A,B,C) : A</p> <p>12班 研究内容：電気工学とエネルギー 観念① (A,B,C) : A 観念② (A,B,C) : A 観念③ (A,B,C) : A コメント：図と図解と文字の使い方がよくて、図解に添えていた。図解がよいと思った。 観念点 (A,B,C) : A</p> <p>13班 研究内容：美的形態 観念① (A,B,C) : B 観念② (A,B,C) : A 観念③ (A,B,C) : A コメント：図と図解と文字の使い方がよくて、図解に添えていた。図解がよいと思った。 観念点 (A,B,C) : A</p> <p>14班 研究内容：パルス回路 - 下村先生 観念① (A,B,C) : A 観念② (A,B,C) : B 観念③ (A,B,C) : A コメント：図と図解と文字の使い方がよくて、図解に添えていた。図解がよいと思った。 観念点 (A,B,C) : A</p> <p>15班 研究内容：半導体プロセスとその応用 観念① (A,B,C) : B 観念② (A,B,C) : A 観念③ (A,B,C) : A コメント：図と図解と文字の使い方がよくて、図解に添えていた。図解がよいと思った。 観念点 (A,B,C) : A</p>	<p>16-21班</p> <p>16班 研究内容：半導体工学について 観念① (A,B,C) : A 観念② (A,B,C) : B 観念③ (A,B,C) : A コメント：図解の図解に添えていた。図解がよいと思った。 観念点 (A,B,C) : A</p> <p>17班 研究内容：図解の図解に添えていた。図解がよいと思った。 観念① (A,B,C) : A 観念② (A,B,C) : A 観念③ (A,B,C) : A コメント：図解の図解に添えていた。図解がよいと思った。 観念点 (A,B,C) : A</p> <p>18班 研究内容：図解の図解に添えていた。図解がよいと思った。 観念① (A,B,C) : A 観念② (A,B,C) : A 観念③ (A,B,C) : A コメント：図解の図解に添えていた。図解がよいと思った。 観念点 (A,B,C) : A</p> <p>19班 研究内容：図解の図解に添えていた。図解がよいと思った。 観念① (A,B,C) : A 観念② (A,B,C) : A 観念③ (A,B,C) : A コメント：図解の図解に添えていた。図解がよいと思った。 観念点 (A,B,C) : A</p> <p>20班 研究内容：図解の図解に添えていた。図解がよいと思った。 観念① (A,B,C) : A 観念② (A,B,C) : A 観念③ (A,B,C) : A コメント：図解の図解に添えていた。図解がよいと思った。 観念点 (A,B,C) : A</p> <p>21班 研究内容：図解の図解に添えていた。図解がよいと思った。 観念① (A,B,C) : A 観念② (A,B,C) : A 観念③ (A,B,C) : A コメント：図解の図解に添えていた。図解がよいと思った。 観念点 (A,B,C) : A</p>	<p>22-27班</p> <p>22班 研究内容：図解の図解に添えていた。図解がよいと思った。 観念① (A,B,C) : A 観念② (A,B,C) : A 観念③ (A,B,C) : A コメント：図解の図解に添えていた。図解がよいと思った。 観念点 (A,B,C) : A</p> <p>23班 研究内容：図解の図解に添えていた。図解がよいと思った。 観念① (A,B,C) : A 観念② (A,B,C) : A 観念③ (A,B,C) : A コメント：図解の図解に添えていた。図解がよいと思った。 観念点 (A,B,C) : A</p> <p>24班 研究内容：図解の図解に添えていた。図解がよいと思った。 観念① (A,B,C) : A 観念② (A,B,C) : A 観念③ (A,B,C) : A コメント：図解の図解に添えていた。図解がよいと思った。 観念点 (A,B,C) : A</p> <p>25班 研究内容：図解の図解に添えていた。図解がよいと思った。 観念① (A,B,C) : A 観念② (A,B,C) : A 観念③ (A,B,C) : A コメント：図解の図解に添えていた。図解がよいと思った。 観念点 (A,B,C) : A</p> <p>26班 研究内容：図解の図解に添えていた。図解がよいと思った。 観念① (A,B,C) : A 観念② (A,B,C) : A 観念③ (A,B,C) : A コメント：図解の図解に添えていた。図解がよいと思った。 観念点 (A,B,C) : A</p> <p>27班 研究内容：図解の図解に添えていた。図解がよいと思った。 観念① (A,B,C) : A 観念② (A,B,C) : A 観念③ (A,B,C) : A コメント：図解の図解に添えていた。図解がよいと思った。 観念点 (A,B,C) : A</p>

プレゼン評価の一例

理工学部理工学科情報光システムコース 「SIH 道場～アクティブ・ラーニング入門～」の取組と課題

氏名：岡本 敏弘

1. 取組概要

大学における学修の基本となる文章力、プレゼン力、協働力を養うため、テクニカルライティング、プレゼンテーションスキル、グループワークに関する講義を行うとともに、実際にグループワークの実習を行った。実習において、学生は与えられたテーマに対する解決策についてブレインストーミングと KJ 法を用いた意見の掘り出しと集約を行い、次にその解決策について全履修者の前で発表した。発表会では、学生による相互評価を行う仕組みを取り入れ、聴講学生も参加できるようにした。

また、情報、光、知能工学分野における興味関心を喚起し、学修・研究に対する動機付けを目的とした早期体験も実施した。各研究室で取り組んでいる最先端の研究に触れ、各研究に関連した実習や、実際に自ら手を動かして学ぶもの作り体験などを行った。

2. 成果（受講学生と担当教員が SIH 道場を通して身につけたこと）

（学生）

本授業の取り組みにより、文章・レポートの書き方、プレゼンテーションスキル、協働作業や意見発掘・集約技術などについて、役に立ったと感じている学生が多く、身につけることができていると考えられる。また発表における学生間の相互評価で、プレゼンにおける注意点を意識したり、自分たちの発表に対する振り返を行ったりしたことで、多くの学生がアクティブ・ラーニングや振り返りの重要性を理解できたと感じている。

（教員）

レポートの出題・課題提出や学生へのフィードバックに、manaba や mahara 等の LMS の活用する方法について習得できた。

3. 今後の課題（プログラム設計・授業運営、その他について）

振り返りの効果を高めるため、教員から学生へのフィードバックを充実させることが挙げられる。また今回のグループワークでは、各グループの出す結論や発表内容が似たような話になる傾向があり発表会がややマンネリ化した。今後はグループ毎に異なるテーマを用意したり、同じテーマでもグループ毎に異なる視点で意見をまとめてもらったりして、発表内容に多様性が表れるような工夫が必要である。

4. 「SIH 道場振り返りシンポジウム」における議論を経た新たな気づきや今後の課題

自コース・系の専門性に合わせた大胆なプログラム編成も、学生の興味を促し、学修効果を上げる方法として有用だと気付かされた。

理工学部理工学科応用理数コース
「SIH 道場～アクティブ・ラーニング入門～」の取組と課題

氏名：三好 徳和

1. 取組概要

新入生に対して、大学における学習について理解させるとともに、自身の興味あるあるいは学びたい専門分野における先端研究の体験をさせることで興味関心を喚起し、徳島大学における学習・研究に対する動機づけを行う。また、学習の基本となる文章の書き方、プレゼンテーションの仕方、振り返りの仕方を学ばせ、それらを実践させることで、大学における能動的な学習の基本となる知識、技能、態度を身につけさせる。

2. 成果（受講学生と担当教員が SIH 道場を通して身につけたこと）

（学生）

研究室訪問で専門分野に触れることにより、大学における学習に対する意欲が増した。興味ある分野に加え、まったく知らない分野の研究室に行くことで、視野が広がった。協働作業の面白さと重要性を知ることができた。加えて、プレゼンテーションの重要性を認識した。

（教員）

ポートフォリオの意義と利用方法を理解することができた。また、研究室訪問と振り返りシートをチェックすることで、学生がどのようなことに興味を持っているのか、どのように感じながら授業に取り組んでいるのかを理解することができた。

3. 今後の課題（プログラム設計・授業運営、その他について）

細かい部分での改善点はあるが、プログラム設計や授業運営に関しては概ね良好であった。また、最後に行われるプレゼンテーションの環境の改善も考えるべき点の一つである。時間の組み方を工夫することで、学生が振り返りを行った後にお互いで話し合う時間を確保できれば良いと思われる。さらに、教員によるそのフィードバックを行えば、皿により取り組みになると考えられる。

4. 「SIH 道場振り返りシンポジウム」における議論を経た新たな気づきや今後の課題

学部・学科により様々な取り組みがあることが分かった。応用理数コースは、多くの分野が混在するコースであることから、何かに的を絞った取り組みは難しく、現在の取り組み方で十分であると改めて感じた。研究室訪問は、学生および教員共に良好な感想が得られているが、新入生であることより、年度に応じ異なる感性を持った学生であり、それらを加味した細かな助言の必要性も感じた。

生物資源産業学部生物資源産業学科 「SIH 道場～アクティブ・ラーニング入門～」の取組と課題

氏名：長宗 秀明

1. 取組概要

生物資源産業学部におけるSIH道場は、新入生オリエンテーション時に短期間集中型の導入教育として、応用生命/食料科学/生物生産システムの各コース2名の教員とコーディネーター教員が担当して新入生を均等に3班に分けて実施された。学外研修のための事前学習と学外研修（専門分野早期体験：「藍の館」における藍染め体験と見学，専門分野関連文化の学修：大塚国際美術館見学）を実施後、学外研修の振り返り学習（個人プレゼンテーションと小グループでのKJ法による協働作業の実践とポスター発表）を行うことで、入学後の専門分野への興味を高めて学習・研究に対する動機づけを行った。また、総合レポートも作成させることで、能動的学習の基盤となる学習スキルの修得を図った。

2. 成果（受講学生と担当教員がSIH道場を通して身につけたこと）

（学生）

事後アンケートに回答した大多数の学生から、学外研修により専門分野への関心が高まり、学修（体験）を振り返ることの重要性や自ら考え抜く能動的学修の重要性を理解したとの回答を得た。学習スキル修得の観点では、プレゼンテーション・スキルの基本を学ぶとともに、少人数制でのKJ法ポスター発表ではブレインストーミングのスキルを学び、その実践を通して新たなアイデアを創造する喜びを体験した。さらに学外研修とその振り返り学習に対する総合レポート作成では、論理的な文章をまとめる基礎能力を身につけた。またその際に電子ポートフォリオシステムを使う事で、基礎的な情報処理学習も体験した。

（教員）

SIH道場における振り返り学習の評価は、電子ポートフォリオ形式のシステム（Mahara）を用いてルーブリック評価表により実施した。その過程で、ルーブリック評価方法のノウハウの習得ができ、またネットを介した学習支援システムの活用にも習熟し、今後の講義・演習・実習における反転授業の積極的導入なども視野に入れたアクティブ・ラーニングの実装・展開のための動機付けも成された。

3. 今後の課題（プログラム設計・授業運営，その他について）

SIH道場は新入生オリエンテーションの中に組み込まれ実施されることから、日程に制限があること、また研修受入れ可能な専門分野関連の企業・組織が次第に減少していることから、今後さらに学外研修の設定が難しくなることが考えられる。しかし専門分野の早期体験を行う研修は新入生の専門分野への興味・関心を高めることに確実な効果があることから、学内実施あるいは学内施設の併用の可能性も含めて、研修プログラムの大幅な設計見直しを行い、より効率的で効果的になる改善を行う時期に来ていると考えられる。

4. 「SIH道場振り返りシンポジウム」における議論を経た新たな気づきや今後の課題

各学部独自の観点からの取り組み例を見て、また本学部の取り組みへの学生目線からの意見を頂いて議論した中で、現在より多くの時間をグループワークに割いて実施することが、能動的学習を促す観点からは望ましいことが伺えた。この点は次年度におけるプログラム改善の課題となるだろう。

4. SIH 道場の実施支援に関する取組

4-1. SIH 道場の授業設計および実施に係る支援

1) 概要

開講 5 年目となる、令和元年度の「SIH 道場～アクティブ・ラーニング入門～」の開始に向けて、各学部・学科・コース・専攻での授業（プログラム）設計および授業実施支援のため、高等教育研究センター教育改革推進部門を中心に、同センターの学修支援部門 EdTech 推進班、これら部門のメンバーを含む SIH 道場コンテンツ作成ワーキンググループが活動を行った。支援内容は、大きく次の 5 つである。①SIH 道場授業設計に関する支援、②授業で使用可能な教材コンテンツの作成、③授業計画・実施中の随時個別相談対応、④授業担当者に対する FD の実施、⑤授業改善に向けた評価の支援。これらの詳細について以下に述べる。

2) SIH 道場授業設計に関する支援

SIH 道場は、①専門分野の早期体験、②ラーニングスキル（文章力・プレゼンテーション力・協働力）の修得、③学修の振り返りの 3 つを必須要素とし、これらを組み込んだプログラム設計を各学部・学科・コース等の単位で行う（平成 30 年度は 15 プログラムが展開）。各学部・学科・コース等の SIH 道場の授業設計は、プログラム単位で 1 名以上選出された「授業設計コーディネーター」（以下、コーディネーター）が担っている。コーディネーターは、授業実施に向けて、アクティブ・ラーニング型授業の設計（目的・目標・スケジュール・教材・評価等、シラバスの作成）および授業担当者の選定などの準備を行い、実施後には次年度の改善に向けた振り返りとして、プログラム設計評価シートへの記入を行う。

コーディネーターは準備として、SIH 道場の 3 つの必須要素を組み込んだ授業の概要を「必須項目設計表」に記し、詳細な授業展開を「授業詳細」において明確にし、これらを担当する教員を記載した「担当者リスト」を提出する。教育改革推進部門は、これらの作成をスムーズに行えるよう、コーディネーターを参加対象とする「SIH 道場キックオフミーティング」を開催し、「必須項目設計表」と「授業詳細」のサンプルや実施方法のポイントを記した資料を配布し、SIH 道場の目的、三つの必須要素を説明した上で授業設計や授業方法のポイントを解説している。加えて、Moodle 上に、「令和元年度 SIH 道場コーディネーター準備コース」を作成し、「必須項目設計表」と「授業詳細」だけでなく、授業で使用可能な教材コンテンツ等も掲載している。さらに、昨年度の各プログラムの実施内容や実施後の振り返りを参照できるように、前年の平成 30 年度「SIH 道場」の 16 プログラムの「必須項目設計表」や「授業詳細」も Moodle 上に掲載している。

3) 授業で使用可能な教材コンテンツの作成

SIH 道場のプログラムをそれぞれの学部・学科・コースで実施するための支援として、学生用テキスト、反転授業用ビデオ教材、ルーブリック、e ポートフォリオ等に関する各種教材コンテンツを作成し提供している。これらの作成は、高等教育研究センター教育改革推進部門、同センターの学修支援部門 EdTech 推進班の教員に加えて、SIH 道場コンテンツ作成ワーキンググループのメンバーが担当している。これらの詳細について以下に述べる。

3.1 学生用テキスト教材

SIH 道場の学生用教材として、テキストを作成している。主な内容は、SIH 道場の概要と目的、大学での学修のポイント、早期体験、ラーニングスキル、学修の振り返りの要点と解説、ワークシートである。巻末に簡単なブックガイドを付すことで、学生が興味関心を広げられるようになっている。本テキストは、SIH 道場を受講する1年次生全員に配布すると共に、授業担当教員を含む全学の教員に配布している。

テキストの内容について見直しを行い、平成30年度の改訂版となるテキストを作成した。令和2年度以降も活用できるよう調整を行っている。

3.2 反転授業のビデオ教材の提供

反転授業用のビデオ教材として、SIH 道場の概要および三つのラーニングスキル（「文章力」「プレゼンテーション力」「協働力」）について、事前学修・事後学修で使用可能なビデオ教材を Moodle 上で提供している。ビデオ視聴後のクイズ（確認テスト）、参考文献リストも掲載しており、コーディネーター、授業担当教員は、これらのビデオ教材を用いた授業設計を行うことができる。学生は、Moodle 上の学生用コースから、テキスト、ループリック、反転授業用ビデオを観て、事前学習・事後学習に役立てられるようにしている。なお、Moodle の使用法等に関する相談については、eラーニングサポート室が受けつけている。

3-1. SIH道場<文章力> 反転授業コンテンツサンプル

※サンプルコンテンツは、自由にご使用ください。
ループリックは適宜修正・加筆してください。ビデオコンテンツは観点ごとに使用できます。学生配布用のサンプル教材も作成を行います。

★ループリック評価表

 SIH道場<文章力>ループリックサンプル_2015.2.11

★ビデオコンテンツ（事前学習） ビデオコンテンツはループリック表の観点と対応しています。

-  主張の根拠付け
-  構成の明快さ
-  文章表現の適切さ
-  出典表示など

★クイズ（ビデオ視聴後の確認テスト）

-  主張の根拠づけ
-  構成の明快さ
-  文章表現
-  出典表示など

★参考文献リスト（学生の学習を促進するために）

 文章力についてさらに学修するための参考文献リスト

3.3 ループリック評価表

ループリックは評価の観点と基準を示した表であり、SIH 道場においては、学生の学修成果を評価する際に、ループリックを使用することを推奨している。ループリックは、教員が学生のラーニングスキルを評価したり、学生同士でピア評価をさせたり、学生が自己評価する際に用いることができる。現在は、サンプルループリックとして、ラーニングスキルの3つ（「文章力」「プレゼンテーション力」「協働力」）を作成し、SIH 道場テキストに収録し学生に示している他、反

転授業のビデオ教材と共に Moodle 上に掲載している (3 つのラーニングスキルに関する反転ビデオは、それぞれのスキルの観点に沿った内容となっている)。教員は、サンプルルブリックの電子ファイルをダウンロードし、適宜修正や加筆の上使用することができる。サンプルルブリックについては、SIH 道場コンテンツ作成ワーキンググループにおいて、年度ごとに内容を見直し修正を行っている。

3.4 eポートフォリオ上での教員の振り返り

SIH 道場は、アクティブ・ラーニングを用いた授業を実践しながら教員が手法を学ぶという OJT 型 FD の場でもある。授業を担当した教員は、SIH 道場終了後に eポートフォリオ (Mahara) 上で、授業で実践した方法を記述しながら、今後も継続したいこと、改善したいこと等を振り返ることで今後の目標につなげることができる。そのため、昨年度と同じ形式のテンプレートと記入例を提供した。

徳島大学
Tokushima University

ダッシュボード コンテンツ マイポートフォリオ グループ

テンプレート テンプレートをコピーしてページを作成する 戻る

★は必須、◆はオプションの入力項目です。青字は補足説明ですので、適宜削除してください。

0. 授業概要

★授業名:
◆担当教員数(複数で授業を担当している場合):
★対象者(学部・学科・年次・人数):
★授業概要:
◆シラバス(PDFファイル等をアップロード):

1. 授業の方法

★授業の方法(毎回の授業で行ったこと、授業で特に工夫したこと、それはなぜか等を入力してください。添付のアクティブ・ラーニングレポート集を参照し、アクティブ・ラーニングを実施できたかにも触れてください。)

2. 授業の評価

★授業の評価(どのような評価を行ったか、学生の学習成果の観点から効果があったと考えられることは何か、それはなぜか等を入力してください)

◆学生の成果物(レポートとして、代表的な学生の成果物などをアップロードしてください)

3. 授業の振り返り

★この授業を振り返って取捨したいことと改善したいことを入力してください。
※次年度担当しない場合は、担当する教員へのアドバイスを想定して記入して下さい。

取捨したいこと:
改善したいこと:

4. 今後のアクションプラン

★この授業の実践を踏まえた、自身の専門科目の授業や教育活動全体に関わるアクションプランを入力してください。

すぐに(1か月以内)に実施すること:
今年度中(おおむね1年以内)に実施すること:
3年以上に実施すること:

5. その他の参考資料

◆授業で使った資料やワークシート等(何でもファイル等をアップロード)

4) 授業計画・実施中の随時個別相談対応

コーディネーターが、SIH 道場の 3 つの必須要素を組み込んだ「必須項目設計表」、「授業詳細」を作成する際には、教育改革推進部門が窓口となり相談を随時受け付けている。令和元年度は、SIH 道場の実施 5 年目ではあるが、コーディネーターは入れ替わっているため、SIH 道場の趣旨や学生の到達目標、目標に到達できるような授業設計をどのように行うか等について詳細な説明が必要となった。また、実施前の準備期間だけでなく、実施中においても、学生の学修の振り返りに使用する eポートフォリオの使用方法など、授業を行う上で寄せられた疑問点について回答を行った。なお、eポートフォリオシステムの使用方法的詳細については、eラーニングサポート室が個別の相談に応じる等の支援を行った。

5) 授業担当者に対するFDの実施

5.1 概要

目的：

SIH 道場授業担当者が大学教育再生加速プログラムの概要、当該学科の SIH 道場の詳細について理解し、SIH 道場の授業を担当するために必要な知識と技能を習得する。また、OJT 型の FD として、授業実施から振り返りまでのプロセスを理解し、実践できるようになる。

対象者： SIH 道場授業設計コーディネーター、SIH 道場授業担当者等

開催日時・場所：

※ 参加対象者は計4回のうちいずれか1回参加する

	常三島キャンパス 地域創生・国際交流会館共用室 301	蔵本キャンパス 総合研究棟 2 階スキルスラボ 8A-8D
第 1 回	3 月 5 日 (火) 17:00-18:40	3 月 6 日 (水) 15:00-16:40
第 2 回	3 月 7 日 (木) 15:00-16:40	3 月 8 日 (金) 17:00-18:40

プログラム：

時間	内容	詳細項目	担当者
20分	SIH道場の概要	①目的・概要 ②スケジュール（設計→実施→振り返り）	塩川奈々美
25分	eポートフォリオシステム	①システムの概要 ②学生の利用の仕方 ③教員の利用の仕方	金西計英 高橋暁子
55分	アクティブ・ラーニングと学びを促す評価	①アクティブ・ラーニングとは ②アクティブ・ラーニングの実践 ③学びを促す評価方法	上田勇仁 川野卓二

主催：大学教育再生加速プログラム実施専門委員会

5.2 詳細

「SIH 道場の概要」では、SIH 道場の目標、内容、実施体制、授業設計の必須項目、教育改革推進部門および SIH 道場コンテンツ作成 WG の提供する教材について説明を行った。さらに、SIH 道場の改善に向けた評価として、学生および教員アンケートの実施やコーディネーターが行うプログラム設計評価シートによる振り返り等について説明を行った。

「eポートフォリオシステム」では、学生および教員が授業で学んだ内容や授業実践について振り返りを行うための学生のツールである eポートフォリオの使用法について説明を行った。

「アクティブ・ラーニングと学びを促す評価」では、アクティブ・ラーニングの定義や学修効果、ルーブリックによる評価法について説明を行った。選択式ワークとして、参加者が日頃の授業実践を振り返りながら行うことのできるワーク（アクティブ・ラーニング事例カード作成あるいはルーブリック「改造」の検討）を実施した。

6) 授業改善に向けた評価の支援

SIH 道場の授業改善、プログラム改善に向けて、大学教育再生加速プログラム（AP）実施専門委員会で策定された評価指標に基づき、学生と教員の目標到達度を把握するためのアンケートを作成し、実施結果の集計およびとりまとめを行っている。平成 30 年度からは、手続きの簡便化と授業設計コーディネーターの負担軽減のため、学生アンケートを Web 上で実施するよう変更を行った。また、授業設計コーディネーターが、学生の学修成果やアンケートの集計結果を参照し、設計したプログラムが学生の学修や研究への意欲を高めるものだったか、ラーニングスキルが修得できるものであったか、学修の振り返りができるものであったかを振り返りための「プログラム設計評価シート」を作成している。さらに、AP 実施専門委員会主催の「SIH 道場振り返りシンポジウム」の企画および運営を行い、令和元年度の各学部・学科の SIH 道場の内容や課題を全学的に共有する機会を設定している。その他、SIH 道場に関する評価・改善ワーキンググループの学生委員へのインタビュー調査を行い、令和元年度の SIH 道場の良い点・改善点のとりまとめを行い、SIH 道場のプログラム改善や AP 事業の自己評価の資料として提供している。

4-2. eポートフォリオシステムの構築

1. 概要

1.1 システム概要

2015年4月よりeポートフォリオシステム「Mahara (マハラ) ⁽¹⁾」の運用を開始した。図 1.1 にトップページを示す。Mahara は世界中で利用されているオープンソースのeポートフォリオシステムである。本学用のカスタマイズとして、後述する「飛ぶノート」システムとの連携機能、「テンプレート機能」を追加したが、この2点以外の仕様変更はなく、標準的な Mahara となっている。徳島大学の全学生および全教職員は、統合認証経由でいつでも Mahara にアクセス可能である。

Mahara は様々な使い方が出来る汎用的なeポートフォリオシステムであるが、成果物の蓄積、活動の振り返りレポートの作成、外部への自己PRページの作成を得意とする。2019年度は、前年度と同様に、学生は主にSIH道場のレポート等の成果物の蓄積、SIH道場担当教員は主に授業実践の振り返りレポートの作成を行うことを狙った。



図 1.1 Mahara トップページ (ログイン後)

1.2 飛ぶノート

飛ぶノートは、スキャナなどでPDFファイルに変換した手書きファイルをMaharaサーバの各学生ページや教員が作成したグループページに転送するツールである。飛ぶノートとMaharaサーバの図 1.2.1 のような連携をする。教員は担当授業で学生に課したマークシート付き手書きレポートを集め、必要に応じてコメントを書いた後、紙ファイルをスキャナでPDFファイルに変換する。その後、PCのブラウザソフトを起動して「飛ぶノート」(図 1.2.2)へアクセスし、

PDF ファイルをアップロードする。あとは飛ぶノートシステムがレポート上部のマークシートから学籍番号を読み取り、Mahara サーバの学生ごとのファイル保存領域へファイルを自動保存する。学生は各自で Mahara へアクセスし、教員から返却されたレポートを確認する（図 1.2.3）。

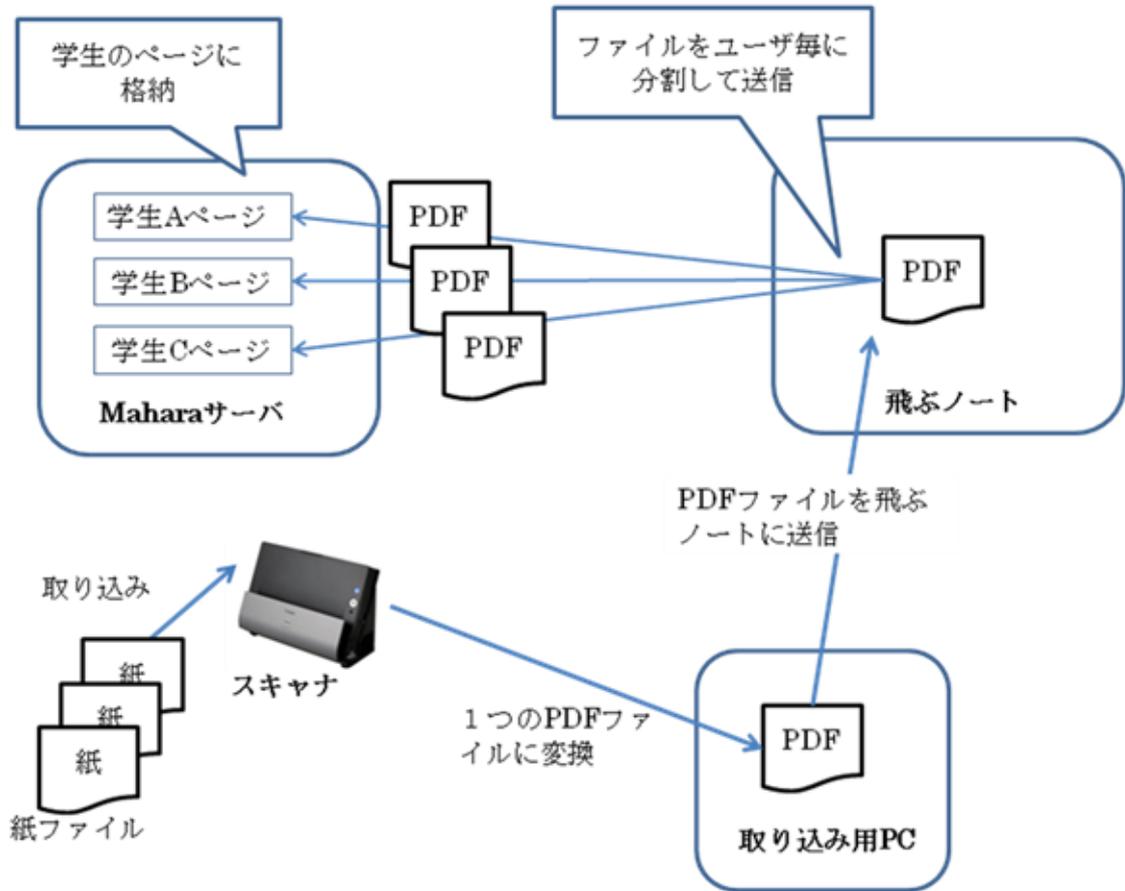


図 1.2.1 飛ぶノート-Mahara 連携図 (飛ぶノート利用マニュアル⁽²⁾ p.2)

1.3 テンプレート

Mahara は、標準機能として蓄積した学習成果を整理し、振り返りや他者へ PR するページを作成することができる。しかし、振り返りの観点を指定したい場合などは、教員があらかじめ見本となるページを作成し、学生が見本をコピーして一部を書き換えるほうが効果的・効率的である。Mahara の標準機能でもページのコピーは可能であるが、その方法が複雑であるため、本学では「テンプレート機能」を追加した。テンプレート例を図 1.2.3 に示す。

一方で、これまでテンプレート機能は広く利用されてこなかった。これはテンプレート機能の仕様として、テンプレートを作成できるのは Mahara の管理者のみであったためだと推察される。そこで 2016 年度からは、Mahara の標準機能を用いて、テンプレートとなるページを簡便にコピー・共有する設定方法を推奨し、教員へ案内した。

図 1.2.3 テンプレート例

2. 利用状況

2.1 全体

本稿執筆時点（2020年1月15日13:00）において、登録ユーザ数は13272人、グループ数は166である。表2.1.1および図2.1.1に示すとおり、毎年度ユーザ数は増えている。

表 2.1.1. 年度別ユーザ数

	2015年度 (2016年3月31日時点)	2016年度 (2017年3月31日時点)	2017年度 (2018年3月31日時点)	2018年度 (2019年3月31日時点)	2019年度 (2020年1月5日時点)
登録ユーザ数	2463人	4202人	8999人	11143人	13272人

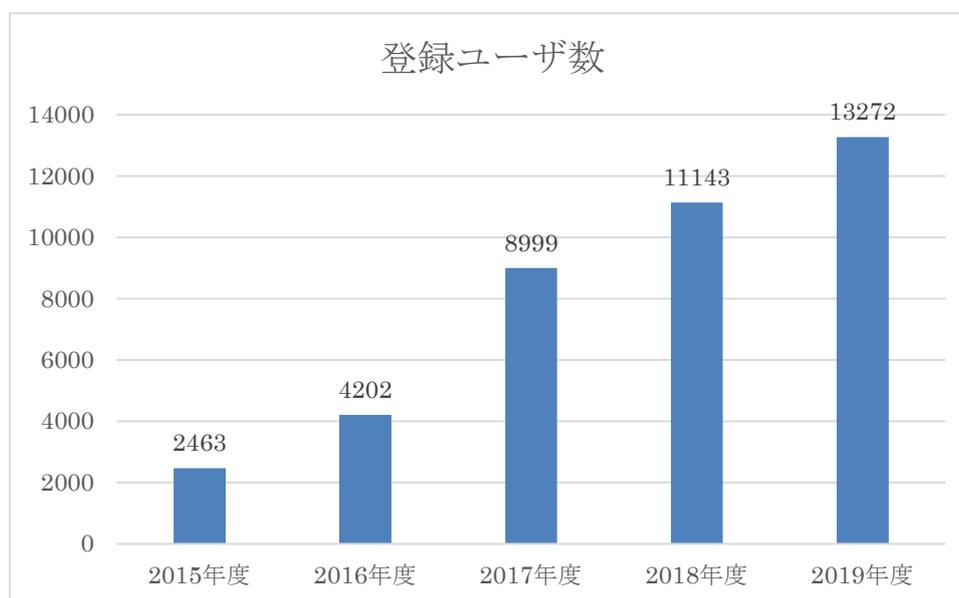


図 2.1.1. 年度別ユーザ数の推移

もっとも利用されているのはファイルのアップロード機能である。四半期ごとのファイル更新数を表 2.1.2 および図 2.1.2 に示す。2019 年度は、前年度より 4-6 期のアップロード数が多いが、7-9 月期および 10-12 月期の利用は落ち込んでいる。

表 2.1.2. ファイル更新数

	2015 年度	2016 年度	2017 年度	2018 年度	2019 年度
4-6 月期	1019	1297	2423	1527	2011
7-9 月期	1195	924	1707	1543	428
10-12 月期	709	1267	1498	1336	543
1-3 月期	156	1456	1239	1298	—
総計	3079	4944	6867	5704	2982

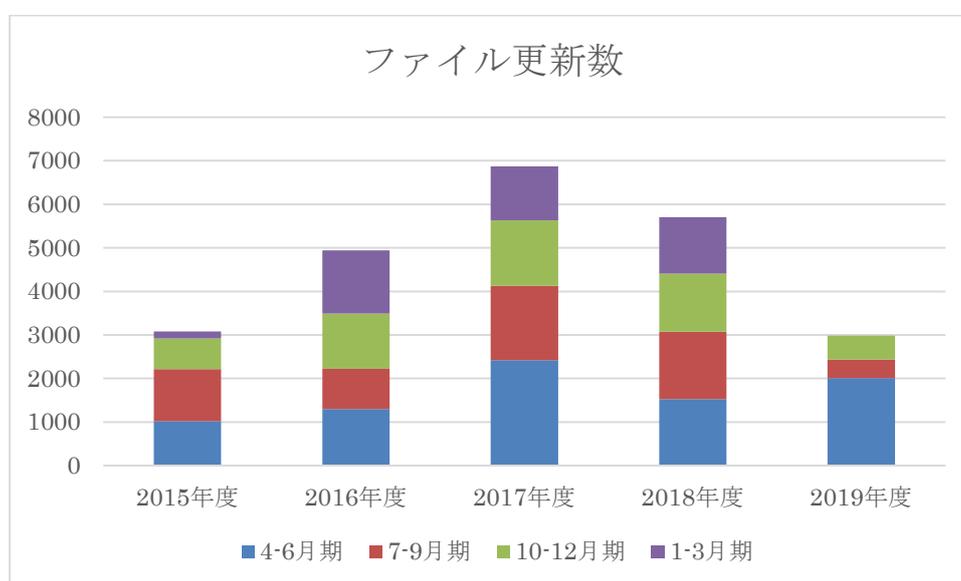


図 2.1.2. 年度別ファイル更新数

なお、アップロードされたファイルのうち、「飛ぶノート」を活用した手書きレポートについて、四半期ごとのファイル数を表 2.1.3.に示す。2019 年度は 843 ファイルであった。図 2.1.3 に示すようにアップロードされたファイルのうち、2015 年度は 80.0%、2016 年度は 85.3%、2017 年度は 52.6%、2018 年度は 78.7%が、2019 年度は 28.3%が飛ぶノートを利用してアップロードされた手書きレポートだと考えられる。2019 年度は、これまでの年度と比較して飛ぶノートの利用割合が著しく低かった。

表 2.1.3. 飛ぶノートを利用したファイル更新数

	2015 年度	2016 年度	2017 年度	2018 年度	2019 年度
4-6 月期	902	1617	1420	1438	505
7-9 月期	966	416	964	1006	211
10-12 月期	517	943	1228	1022	127
1-3 月期	65	1248	1195	1223	—
総計	2450	4224	3612	4689	843

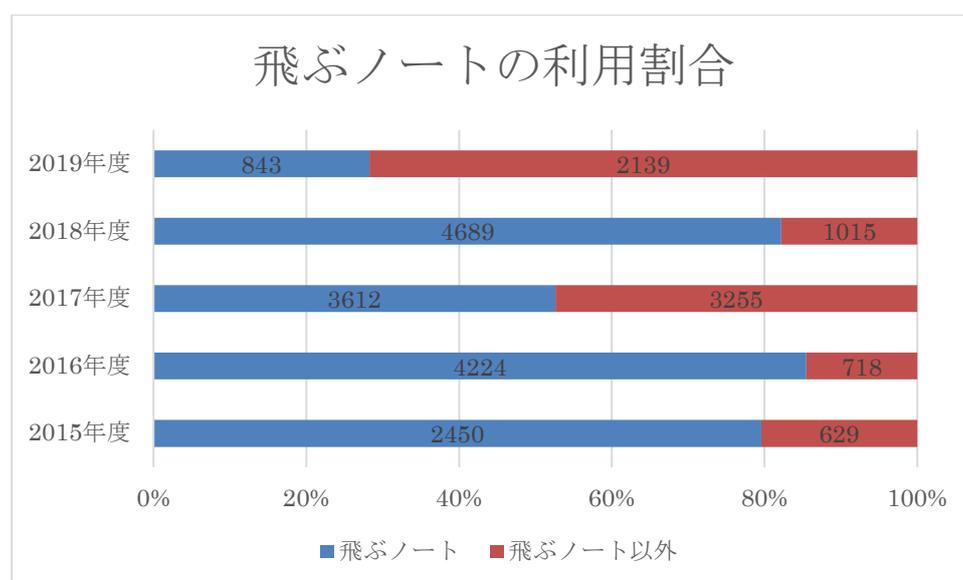


図 2.1.3. 飛ぶノートと飛ぶノート以外のファイル更新割合

また、プロフィールページ（自己紹介ページ）やグループページ等を除いた、個人が独自に作成したページについて、四半期ごとのページ更新数を表 2.1.4 および図 2.1.4 に示す。2016 年度のページ更新数は総計 1195 であり、前年度の 3 倍に迫っている。その後、2017 年度は 958、2018 年度 1112、2019 年度は 1146 と、横ばい状態である。また、2016 年度～2019 年度は、4-6 月期に多くのページ更新がある。

表 2.1.4. ページ更新数

	2015 年度	2016 年度	2017 年度	2018 年度	2019 年度
4-6 月期	130	827	725	767	861
7-9 月期	181	131	15	211	209
10-12 月期	112	178	100	99	76
1-3 月期	3	59	118	35	—
総計	426	1195	958	1112	1146

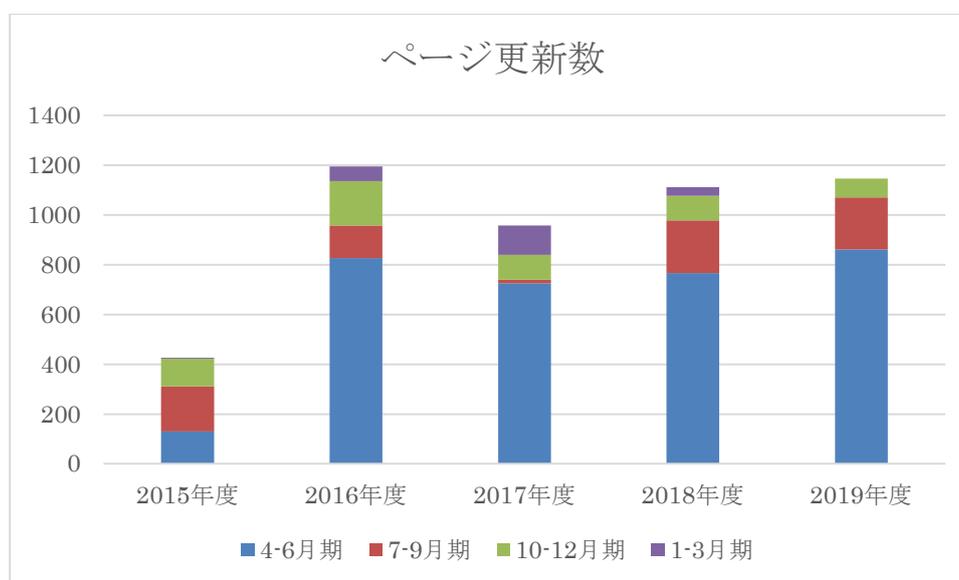


図 2.1.4. 年度別ページ更新数

さらに、Mahara では個人が作ったページなどを他者へ公開設定をすることで閲覧者からコメントをもらうことが可能となる。四半期ごとのコメント数を表 2.1.5 および図 2.1.5 に示す。2019 年度前期のコメント数は 1217 で、2016 年度に次いで活発な意見交換がなされていることが示された。

表 2.1.5. コメント数

	2015 年度	2016 年度	2017 年度	2018 年度	2019 年度
4-6 月期	16	446	422	571	754
7-9 月期	140	169	0	120	463
10-12 月期	242	531	366	24	0
1-3 月期	289	489	150	2	—
総計	687	1635	938	717	1217

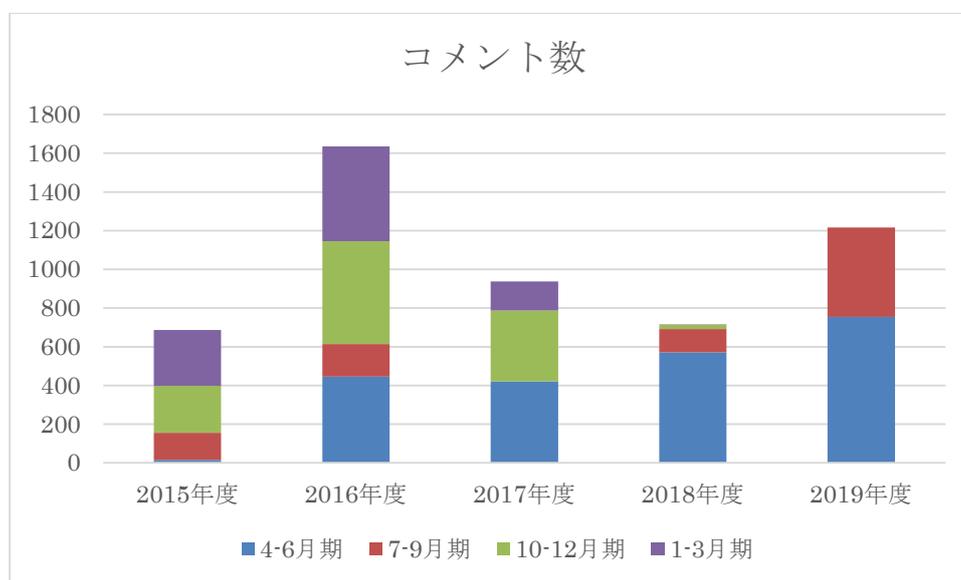


図 2.1.5. 年度別コメント更新数

2.2 学生による利用状況

学生が作成した成果物として、Mahara とともに導入した「飛ぶノート」を用いた手書きレポート（図 1.2.3）、PDF ファイル、PowerPoint ファイルなどが Mahara へアップロードされていた。

また、前年度に引き続き、SIH 道場の振り返りページを確認することができた。Mahara 上に教員がグループを作成して振り返りフォーマットを用意し（図 2.2.1）、学生はコピーして振り返りページを作成し、教員がコメントを返信する形での振り返り活動（図 2.2.2）が行われたと思われる。

The screenshot shows a Mahara group page for '2019生物資源産業学部 SIH道場 2班'. The page includes a navigation menu with 'ダッシュボード', 'コンテンツ', 'マイポートフォリオ', and 'グループ'. The main content area features a group overview with statistics: 41 members, 5 pages, 4 files, 5 folders, 1 forum, 0 topics, and 0 posts. Below this is a section for '最新のフォーラム投稿' which is currently empty. The 'グループページ' section lists four items for copying: '1. 体験学習の振り返り', '2. 体験学習プレゼンテーション', '3. 体験学習ポスター発表', and '4. 体験学習個人レポート'. Each item has a 'ページをコピーする' button. A sidebar on the right lists 'マイグループ' and '2019生物資源産業学部 SIH道場 2班' with its sub-items.

図 2.2.1 振り返りレポートのフォーマット例

2. 体験学習プレゼンテーション

体験学習プレゼンテーション

1. 本日の目標 (1) 体験学習プレゼンテーション (プレゼンカ) の目標

画の館と大塚国際美術館それぞれの事前学習と学外研修での実体験を踏まえて、簡潔に自分の意見をまとめ、プレゼンテーションをする。

1. 本日の目標 (2) 自分なりの目標

実際に体験したことだけではなく、事前学習で自分が何を学んで体験学習に臨んだのかを明確にしながプレゼンテーションをする。1~2分の間に相手にしっかり伝わるような内容にする。

2. 本日の振り返り (1) 本日の努力度

事前学習と学外研修での体験を踏まえて、1~2分のプレゼンテーションを行った。
自分が事前学習として藍が酸化の機会によって、染まり方が違うということを探っていて、その事を藍染めの実体験で確かめることができた。その内容をプレゼンテーションで簡潔に発表することを頑張った。2班のみんなに自分の言いたいことが伝わるように頑張った。
また、大塚国際美術館では印象に残っている「イーゼンハイムの祭壇画」という絵画を鑑賞して思ったことについて発表した。その絵画には麻痺薬品のフインが登場し、そのフインが当時の疫病患者に与えられていたことを発表した。そこでその当時はフインを利用した薬品のようなものがあつたのではないかと自分の考えを述べる事ができた。印象に残った絵画を具体的に発表し、感じたことを伝えることを頑張った。

2. 本日の振り返り (2) 本日の達成度

プレゼンの経験から、自分の伝えたいことを相手にわかってもらうために、学んだことを簡潔にまとめ、そして発表するプレゼンカを学ぶことができた。私は藍染めの藍液から出して染る過程に着目した。そこで酸化の機会によって染まり方が違うことを確認することができた。その事をより詳しく伝えることに苦勞したが同じ作品がなく個性があつて良いものに仕上がったことや最後に藍のこれからの可能性についても発表できたのでよかった。また、大塚国際美術館での体験は印象に残った作品を理由も踏まえて発表することができた。

2. 本日の振り返り (3) よかった点、改善点、今後の目標など

良かった点は、研修で自分が学んだことや感じたことなどをまとめ、限られた時間の中で相手に伝えるということをプレゼンテーションを通して経験することができたこと。

また、自分が言いたかったことを簡潔に発表することができたことがよかった。

改善点は、事前学習で、藍染めでの酸化の仕組みの詳しい内容(物質名など)を探っていたけれど発表することはできなかったもので、そのような詳しい内容も踏まえてプレゼンすればよかったということ。

今後の目標は、今回学ぶことができたプレゼンカをこれからの授業などでより一層極めていきたいということ。

フィードバック

2019年 04月 16日 11:50

短い発表時間の中で多くのご意見を説明するのは難しいです。言いたかったことを簡潔に発表できたことは良かったです。

1 コメント

フィードバックを投稿する 好ましくない内容を報告する プリント ウォッチリストにページを追加する

担当教員によるコメント

図 2.2.2 学生が作成した振り返りページの例

2.3 教員による利用状況

2018年度は、前年度に引き続き、SIH 道場担当教員を対象に、授業の振り返りを行うためのテンプレートを用意した（図 2.3.1）。教員は担当授業終了後、部局毎に用意したテンプレートをコピーして、記入のヒントなどを参考に授業を振り返るページを作成してもらったこととした。作成例を図 2.3.2 に示す。教員の振り返りレポートは、「2019SIH 道場担当教員」というグループ内で公開し、授業担当教員同士で閲覧可能とした。なお、2019年度も前年に引き続き、振り返りレポートの共有が自動的に行われるように設定した。

The screenshot shows a web interface for Tokushima University. At the top, there is a navigation bar with the university logo and name, and a user profile for Takahashi Akiko. Below the navigation bar, there are tabs for 'ダッシュボード', 'コンテンツ', 'マイポートフォリオ', 'グループ', and '管理'. The main content area is titled 'テンプレート' (Template) and includes buttons for 'テンプレートを編集する', 'テンプレートをコピーする', and '戻る'. The template content is organized into sections: 0. 授業概要 (Lesson Overview), 1. 授業の方法 (Lesson Method), 2. 授業の評価 (Lesson Evaluation), 3. 授業の振り返り (Lesson Reflection), 4. 今後のアクションプラン (Future Action Plan), and 5. その他の参考資料 (Other Reference Materials). Each section contains specific instructions and prompts for teachers to complete.

徳島大学
Tokushima University

高橋 暁子 TAKAHASHI AKIKO | 設定 | 102 | ログアウト
ユーザを検索する Go

ダッシュボード コンテンツ マイポートフォリオ グループ 管理

テンプレート
テンプレートを編集する テンプレートをコピーする 戻る

★は必須、◆はオプションの入力項目です。赤字は補足説明ですので、適宜削除してください。

0. 授業概要

★授業名:
◆担当教員数(複数で授業を担当している場合):
★対象者(学部・学科・年次・人数):
★授業概要:
◆シラバス(PDFファイル等をアップロード):

1. 授業の方法

★授業の方法(毎回の授業で行ったこと、授業で特に工夫したこと、それほなぜか等を入力してください。添付のアクティブラーニングヒント集を参照し、アクティブ・ラーニングを実践できたか)も載れてください。

> 添付ファイル 1

2. 授業の評価

★授業の評価(どのような評価を行ったか、学生の学習成果の観点から効果があったと考えられることは何か、それほなぜか等を入力してください)

◆学生の成果物(エビデンスとして、代表的な学生の成果物などをアップロードしてください)

3. 授業の振り返り

★この授業を振り返って「続けたこと」と「改善したいこと」を入力してください。
※次年度担当しない場合は、担当する教員へのアドバイスを想定して記入して下さい。

続けたこと:
改善したいこと:

4. 今後のアクションプラン

★この授業の実践を踏まえた、自身の専門科目の授業や教育活動全体に関わるアクションプランを入力してください。

すぐに(1か月以内)に実施すること:
今年度中(おおむね1年以内)に実施すること:
3年以内に実施すること:

5. その他の参考資料

◆授業で使用した資料やワークシート等(何でもファイル等をアップロード)

図 2.3.1 教員用テンプレート

2019SIH道場（研究室体験）振り返り

0. 授業概要

★は必須、◆はオプションの入力項目です。青字は補足説明ですので、適宜削除してください。

★授業名：研究室体験

◆担当教員数（複数で授業を担当している場合）：2名

★対象者（学部・学科・年次・人数）：歯学部・歯学科・1年次・4名

★授業概要：研究室紹介

◆シラバス（PDFファイル等をアップロード）：

1. 授業の方法

★授業の方法

※各学生の履修は1回のみ。

1) 講義形式で、パワーポイントプレゼンテーションによる研究室紹介（研究の一端を紹介）ののち、質疑応答を行なった。

2) 研究室の中をツアー形式で案内し、実験機器等を紹介した。

2. 授業の評価

★授業の評価（どのような評価を行ったか、学生の学修成果の観点から効果があったと考えられることは何か、それはなぜか等を入力してください。）

評価は特に行わなかった。また、学生からもレポートにコメントを書くよう求められなかった。

◆学生の成果物（エビデンスとして、代表的な学生の成果物などをアップロードしてください。）

特になし

3. 授業の振り返り

★この授業を振り返って『続けたいこと』と『改善したいこと』を入力してください。

※次年度担当しない場合は、担当する教員へのアドバイスを想定して記入して下さい。

続けたいこと：

新入生との交流、研究に対する動機付け(ハードルを下げること)

改善したいこと：

学生と一緒に参加して仕上げるような部分があった方が良いかもしれない。

4. 今後のアクションプラン

★この授業の実践を踏まえ、自身の専門科目の授業や教育活動全体に関わるアクションプランを入力してください。

すぐに（1か月以内に）実施すること：

今年度中（おおむね1年以内）に実施すること：

3年以内に実施すること：

5. その他の参考資料

◆授業で使用した資料やワークシート等（何でも可、参考資料となるファイルをアップロードしてください。）

フィードバック

フィードバック

0 コメント

フィードバックを投稿する

好ましくない内容を報告する

プリント

ウォッチリストにページを追加する

図 2.3.2 教員の振り返りレポート例

2.4 その他の利用

Mahara には SIH 道場以外にも、授業のページがいくつか作成されていた (図 2.4.1)。2.1 で示したように、SIH 道場実施期間以外にも Mahara の利用が活発になっており、様々な教育場面で Mahara が活用されつつあると考えられる。

The screenshot shows a Mahara lecture page for Tokushima University. The page header includes the university logo and name, along with navigation links: 'ダッシュボード', 'コンテンツ', 'マイポートフォリオ', and 'グループ'. The main content consists of two hand-drawn chalkboard images labeled 'No.1' and 'No.2'. 'No.1' covers topics like magnetic induction, Ampere's law, and coil calculations. 'No.2' covers Faraday's law, inductance, and LR circuits. The page also includes a search bar and a 'このページを編集する' button.

No.1

回路 電磁誘導
CR アンペールの法則
L コイル (ガウスの法則)

* 自己誘導 (参考 p275~)
コイル (N 巻) $I(t)$
全長 L のとき $n = \frac{N}{L}$

$B = \mu_0 n I$
 n : 単位長当たりのコイルの巻数
 A : コイルの断面積

磁束 $\Phi_B = BA = \mu_0 n I A$
 $\Phi_B(t) = \mu_0 n A I(t)$

* 誘起起電力 (電圧)
 $V_i = -N \frac{d\Phi_B}{dt}$
全体 N 巻き

No.2

実は一般に $V_i = -L \frac{dI(t)}{dt}$
(前例を以て $L = N \mu_0 n A$)
重ね合わせの原理

(C, R と同様の比例定数) [単位]
L: インダクタンス
 $[H] = \left[\frac{V \cdot s}{A} \right]$
例 $\frac{V}{A}$

* LR 回路 (参考 p276)
仮に定常電流が流れた場合 $V = R I_{定常}$

Diagram of an LR circuit with a battery V, a resistor R, and an inductor L. Current I(t) is shown flowing through the circuit.

図 2.4.1 授業ページ例 (基礎物理学)

3. まとめと今後の課題

2019年度において、Mahara 登録ユーザ数は1万3千人を超えた。2019年度はファイル更新数が減り、さらにこれまでの年度と比較して飛ぶノートの利用割合が著しく低かった。その一方で、ページ更新数やコメント数は横ばい状態であったことから、Mahara の利用形態が単なるファイルの蓄積から一歩進み、学習履歴を用いた振り返り活動などに変わってきている可能性が考えられる。少なくともページを作成・更新したり、それに対して相互コメントをしたりといったeポートフォリオシステムならではの機能の利用が確認されたことは、本プロジェクトにおいてMahara 導入の意義があったと言える。

具体的に学生や教員が Mahara をどのように活用しているのかは、今後、投稿内容などの詳細な調査が必要である。その上で、今後も引き続き、Mahara を用いた振り返り活動の事例の紹介や、ICT が苦手な教職員に対する個別相談会の実施などによって、まだeポートフォリオシステムを利用したことがないユーザへの普及につなげていきたい。

参考文献

- (1) Mahara, <https://mahara.org/>
- (2) 飛ぶノート利用マニュアル 3.0 版 (2015) ,
<https://moo2.chi.tokushima-u.ac.jp/course/view.php?id=227> (教職員限定ページで公開)